

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

現代日本語におけるジェンダー表現研究

—「女性標示語」を中心に—

徐微潔

2013年度

## 目次

---

第 1 章 本論文の研究背景と位置付け	1
1.1 研究の背景と研究課題	1
1.1.1 ジェンダー表現研究の中での位置付け	3
1.1.2 「女性標示語」の研究背景と研究課題	8
1.1.2.1 寿岳章子 (1979)	9
1.1.2.2 田中和子 (1984)	11
1.1.2.3 佐竹秀雄 (2001)	12
1.1.2.4 田中和子・女性と新聞メディア研究会 (2006,2009a,2011)	15
1.2 各形式についての概観	19
1.2.1 表記上の問題	23
1.2.2 「女性～」	23
1.2.3 「女子～」	24
1.2.4 「婦人～」	26
1.2.5 「女(ジョ)～」	28
1.2.6 「女流～」	29
1.2.7 「女(オンナ)～」	31
1.2.8 「男性標示語」	32
1.3 研究方法	34
1.3.1 データの概要	35
1.3.1.1 『朝日新聞』の「聞蔵IIビジュアル」	35
1.3.1.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「中納言」	35
1.3.2 データの収集	35
1.3.3 分析の手法	36
1.4 本論文の構成及び各章の概要	38

<b>第 2 章 「女性～」</b> .....	<b>41</b>
2.1 はじめに .....	41
2.2 調査の概要 .....	41
2.3 分析 .....	42
2.3.1 田中他 (2011) の調査結果 .....	42
2.3.2 「女性～」の使用実態と接続制約 .....	43
2.3.3 「女性～」の使われ方 .....	48
2.4 考察 .....	50
2.4.1 「女性～」の形態的特徴と「女性」の意味 .....	51
2.5 第 2 章のまとめ .....	56
<b>第 3 章 「女子～」</b> .....	<b>57</b>
3.1 はじめに .....	57
3.2 調査の概要 .....	57
3.3 結果と分析 .....	58
3.3.1 「女子～」の出現記事数 .....	59
3.3.2 「女子～」のトークン比 (TTR) と造語力 .....	61
3.3.3 「女子～」の使われ方 .....	64
3.4 考察 .....	67
3.5 第 3 章のまとめ .....	75
<b>第 4 章 「婦人～」</b> .....	<b>76</b>
4.1 はじめに .....	76
4.2 調査の概要 .....	76
4.3 「婦人～」の年別出現頻度 .....	77
4.3.1 戦後～昭和末期 (1945～1985) .....	79
4.3.2 平成元年～現在 (1989～2009) .....	80

4.4 「婦人～」と結合した語	82
4.4.1 「婦人～」が漢語と結合した語	83
4.4.2 「婦人～」が外来語と結合した語	85
4.4.3 「女性～」との比較	86
4.5 推移を引き起こす要因	89
4.5.1 字形、語義、語感	89
4.5.2 対語を持たない非対称性	92
4.5.3 その他	93
4.6 第4章のまとめ	93
<b>第5章 「女(ジョ)～」</b>	<b>95</b>
5.1 問題提起	95
5.2 データの概要	97
5.3 結果と分析	97
5.3.1 田中他(2011)の調査結果	97
5.3.2 「女～」の女性標示語体系内での位置付け	101
5.4 「女(ジョ)～」の使われ方	104
5.5 「女(ジョ)～」の接続制約及び使用変化の要因	106
5.5.1 「女」の持つ性的ニュアンス	107
5.5.2 「女(ジョ)～」の形態的特徴	110
5.6 第5章のまとめ	111
<b>第6章 「女流～」</b>	<b>112</b>
6.1 問題提起	112
6.2 調査の概要	112
6.3 結果と分析	113
6.3.1 田中他(2011)の調査結果	113
6.3.2 「女流～」の延べ語数	114

6.3.3	「女流～」のトークン比 (TTR) と造語力	117
6.3.4	「女流～」の使われ方	119
6.4	考察	124
6.4.1	なぜ「女流～」の使用が減少するのか	124
6.4.2	なぜ「女流～」が生き延びているのか	125
6.5	第 6 章のまとめ	127
<b>第 7 章</b>	<b>「女 (オンナ) ～」</b>	<b>129</b>
7.1	第 5 章で明らかにされたこととその課題	129
7.2	データの概要	130
7.3	調査結果と分析	130
7.3.1	「女 (オンナ) ～」の使用実態と接続制約	130
7.3.2	「女 (オンナ) ～」の使用変化	137
7.3.2.1	田中他 (2011) の調査結果	137
7.3.2.2	「女 (オンナ) ～」の使用変化	138
7.4	「女 (オンナ) ～」の接続制約及び使用変化の要因	140
7.4.1	「女 (オンナ) ～」の形態的特徴	140
7.4.2	フェミニズム運動が「女 (オンナ) ～」の使用に与えた影響	142
7.5	第 7 章のまとめ	145
<b>第 8 章</b>	<b>「男性標示語」</b>	<b>146</b>
8.1	はじめに	146
8.2	先行研究と問題点	147
8.2.1	先行研究	147
8.2.2	問題点	147
8.3	調査方法	148
8.3.1	対象	148
8.3.2	手順	148

8.4 集計と分析	149
8.4.1 戦後～昭和末期（1945～1985）	149
8.4.2 平成元年～現在（1989～2009）	151
8.4.3 「男性標示語」の使われ方	153
8.5 考察	157
8.6 第8章のまとめ	162
<b>第9章 まとめと今後の課題</b>	<b>163</b>
9.1 まとめ	163
9.2 今後の課題	170
<b>参考文献</b>	<b>173</b>
<b>各章と既発表論文との関連</b>	<b>186</b>
<b>付表</b>	<b>188</b>
<b>アンケート用紙</b>	<b>219</b>

## 第1章 本論文の研究背景と位置付け

---

### 1.1 研究の背景と研究課題

本論文は、現代日本語のジェンダー表現を研究対象とする。ジェンダー表現とは、ある言語においてジェンダーがどのように表わされているのかということである。本論文は、具体的に、女性というジェンダーを表現する言語形式としての「女性標示語」を中心に上げる。

本論文で言う「女性標示語<sup>1</sup>」とは、人間の女性を表わす合成語の前項要素で、積極的に「女性」であることを明示する言語形式である。例えば、「女性科学者」「女子アナウンサー」「女社長」「婦人警察官」などにおける「女性～」「女子～」「女～」「婦人～」がこれに該当する。

本論文が、このような定義を採用するのは、女性というジェンダーがどのように表現されているのかを見るためである。したがって、「女性雑誌」「女子大学」「女目線」「婦人用品」など全体で人間を表わさない語は対象外とする。

日本語の「女性標示語」には、以下のような語がある。

「女性～」「女子～」「婦人～」「女流～」「女～」「ママさん～」「美人～」「主婦～」「美女～」「美少女～」「少女～」「ママ～」「おばさん～」「マドンナ～」

- (1) 宝石を一つもつけない質素な黒い服で、晩餐会に列席している女性科学者というめずらしいものを、おどろきの目で見つめた。(エレノア、ドーリー作／榊原晃三訳『キュリー夫人』)
- (2) 多くの女子アナウンサーが輩出し、女子アナの登竜門と言われることもある

---

<sup>1</sup> 同ような表現を田中和子(1984:195)では、「女性を“男性＝人間”から区別するための徴づけとしての“女○○”、“女子○○”、“女性○○”、“女流○○”といった語法を、かりに「女性冠詞」と呼んでおこう」と述べている。しかし、「冠詞」という語は言語学において、具体的な意味を持たない機能的な語の範疇である“article”を指す。日本語はその意味での冠詞を持たない言語であるため、この用語を用いるのは適切であるとは言えない。そこで、本論文は、従来用いられてきた「女性冠詞」という用語に替えて、「女性標示語」という語を用いる。

慶応義塾大学の学園祭・三田祭の「ミス慶応コンテスト」。今年、2年ぶりに開催された。(朝日 2011/12/8)

- (3) また、婦人警察官、婦人交通巡視員、婦人補導員等の婦人職員は、交通安全教育、駐車違反の取締り、少年補導、要人警護、犯罪捜査等多方面の業務に従事している。(警察庁『警察白書』)
- (4) マリー・ローランサンは二十世紀に活躍したフランスの女流画家で、パステルカラーの透明感のある優美な女性像を描き、日本でも人気が高い。(横田宏近・高橋彩『CAR and DRIVER』)
- (5) 麻子が規範とする女社長なんかには、大企業の庇護にしがみついた僕など旧石器時代の原始人に見えるに違いない。(鱧余夢紋『メガネをかけた犬』)
- (6) ママさん飛行士と呼ばないで——シャトルで宇宙へ旅立った山崎直子さんは以前、そう語っていた。パパさん飛行士とは言わないのだから、それも当然。(朝日 2010/4/6)
- (7) 何万ドルや何千万円もの賭けゴルフをする美人ゴルファーがどんな顔の持ち主なのか、まるで見当もつかなかった。(川上健一『虹の彼方に』)
- (8) 従来のスタイルだけでなく、ばら売りや、量り売りといった工夫が必要になっており、優秀な主婦パートの活用が、売り上げを左右する(イトーヨーカ堂)との声も上がっている。(読売新聞 2003)
- (9) 「せ」は「千本の桜が迎える夏井川」、「ゆ」は小野小町伝説の町らしく「ゆかしさよ小野小町は美女歌人」——といった具合で、参加した子どもたちは読み上げられるたびに絵札に駆け寄っていた。(朝日 2009/1/11)
- (10) 01年、高校2年で世界選手権に初出場し、「美少女スイマー」として注目を集めた。アテネ五輪は200メートル8位。(朝日 2009/4/18)
- (11) 少女漫画家という一風変わった人種をよく観察できたのも収穫だった。(久保象『大麻所持逮捕の全記録』)
- (12) 小児科や産婦人科などで医師不足が広がる中、出産などを機に現場を離れたママ医師の復帰を助ける「女性医師バンク」の取り組みが各地で進んでいる。(朝日 2006/9/1)
- (13) パーソナリティーがおじさんや若者でも、私たちおばさんリスナーを大切にしてくれる番組であれば、誰が出演しても構わないと思います。(朝日

2010/3/10)

- (14) 社民党を離れて民主党から出た千葉氏は、現職の知名度を生かして、民主、旧社会支持層や無党派層に食い込むことができた。女性候補が乱立する中でも、「マドンナ議員」の知名度で中高年女性を中心に支持を集めた。(朝日 1998/7/13)

その中で、本研究の考察対象とするのは、日本語の主要な「女性標示語」である「女性～」「女子～」「婦人～」「女流～」「女～」という五つの形式である<sup>2</sup>。

### 1.1.1 ジェンダー表現研究の中での位置付け

ジェンダー (gender) ということばは元来、フランス語やドイツ語などにおける男性名詞と女性名詞を区別する文法上の用語であった。しかし、フェミニズム運動<sup>3</sup>の隆盛に伴い、ジェンダーということばは単なる文法用語を超え、「社会的・文化的・歴史的につくられた性別」という意味で使われるようになり、現在では一般にこの意味で使われることが多い。

「ことばとジェンダー」の関係を中心課題とする一連の研究は「言語の性差研究」「性差別と言語研究」「フェミニズム言語学」など様々な名称で呼ばれてきたが、近年、「言語とジェンダー研究」(language and gender studies) という名称が定着してきた。これは構築主義による転換が取り入れられた結果だとも言える。構築主義は本質主義<sup>4</sup>に対するアンチテーゼとして生み出されたもので、近年の社会科学・人

<sup>2</sup> 「ママさん～」「美人～」「主婦～」「美女～」「美少女～」「少女～」「ママ～」「おばさん～」「マドンナ～」は出現頻度が低く、用例数が少ないため、本論文ではこれらの女性標示語を考察の対象としない。

<sup>3</sup> フェミニズムは女性の差別を根拠として、政治的・経済的・社会的、またはその他あらゆる形態の男性との差別や不平等に対し、その過程や実態を分析しその撤廃を求めて異議申し立てを行う実践的な思想である(諸橋 1996:75)。フェミニズム運動がそれ以前の女性解放運動と異なる点は、女性解放運動が女性の参政権や相続権など法的地位の向上を目指したのに対して、フェミニズム運動は、女性(と男性)の意識改革が運動の中心となっている点であるとされる。

<sup>4</sup> 本質主義とは、ジェンダーをはじめとして、人種・階級・年齢など、人を規定している要素をその人に内在している特質の一つ(属性)と捉える考え方を指す。本質主義のジェンダー観は、①ジェンダーは二項対立である、②ジェンダーは属性である、③ジェンダーは言語以前に存在するという三つの特徴を持っている。それに対して、構築主義のジェンダー観は、①ジェンダーは多様である、②ジェンダーは変化する、③ジェンダーは主体に内在している本質ではなく、主体が「行う」行為である、④よって、言語行動とジェンダーの関係は逆転するという四つの考え方に特徴付けられる。詳しくは、(中村 2002a)を参照されたい。

文科学諸分野において大きな潮流をなす認識論・方法論である。

このような研究の流れに従い、本論文では「言語とジェンダー研究」という名称を使う。

「言語とジェンダー」の問題は、社会学・人類学・精神分析・記号論・言語学など、様々な分野で取り上げられてきた。言語学における研究に絞ると、これまでの研究を二つの流れに分けることができる。

一つは女性や男性を表現することばに焦点を当てた研究である。主に取り上げられてきたのは、女性を指すのに使われることばにどのようなものがあるのか、それは男性を指すことばとどのように異なっているのか、それらのことばはどのように女性を表わしているのか、その異なり方は体系的にどのように捉えられるのか、なぜそのような異なったことばが使われるようになったのか、などの問題である。本論文で取り上げている問題も、この流れに含まれている。

この分野は、特に英語圏ではフェミニズムの言語改革運動との結び付きが強い点に特徴があり、「言語のフェミニズム運動そのものと言ってもよい」（阿部 2005:20）と言える。英語圏では、この分野の研究の萌芽は Jespersen (1922) に見られ、1960年代に研究が本格的に始まり、1970年代に入って活発化し、社会における女性の地位の向上を目指して、差別語撤廃という社会制度改革として結実した。主な研究としては Jespersen (1922)、Lakoff (1973,1975)、Thorne & Henley (1975)、Spender (1980)、Cameron (1985,1990) 等が挙げられる。

一方、日本語とジェンダーの関係に言及した特筆すべき研究には寿岳 (1979) がある。寿岳 (1979) は男女の話し方、書き方を対立的に描くことは不可能であるという二項対立<sup>5</sup>的な「言語的性差」をはっきり否定し、言語規範と言語実践の多様な関係を指摘しており、「日本語の中の女性のことばと、女性の生き方とを結び付けて書かれた最初の本」（遠藤 2005:18）であると言える。寿岳 (1979) 以降、フェミニズムの視点による性差研究が一般化し、辞書やメディアのことばを対象にした研究が行われてきた（遠藤 1981,1982,1987,1992,1997b,1998,2001、ことばと女を考える会 1985、メディアの中の差別を考える会 1991a、上野・メディアの中の性差別を

---

<sup>5</sup> 二項対立とは、ジェンダーには「女」と「男」の二種類しかなく、両者はあらゆる点で対極にあるという考え方を指す（中村 2002a:25）。この考え方に従えば、男女間の話し方の違いは女同士・男同士の違いよりはるかに大きいことが前提となるため、従来は「女と男はどのように異なる言葉づかいをするのか」が研究されてきた。詳しくは、中村 (2002a) を参照されたい。

考える会 1996 等)。

遠藤 (1981) は、国語辞書自体が非常に差別的な構成になっていることを批判している。例えば、妻については「悪妻」や「良妻」と言うが、「悪夫」「良夫」ということばはない。遠藤織枝氏はその後も「主人」という呼称など日本語の差別表現に関する包括的な研究を行っている。ことばと女を考える会 (1985) は、辞書の定義や用例の中の性差別を指摘している。そして、新聞における女性と男性の取り上げ方の問題点を分析したメディアの中の差別を考える会 (1991a) の研究は、上野・メディアの中の性差別を考える会 (1996) を経て、日本の新聞報道に関するジェンダー的公正報道の五原則 (①性別情報不問 (ジェンダー・フリー)、②ジェンダー的公正 (ジェンダー・フェア)、③ (両性の) 対称な取扱い (パラレル・トリートメント)、④包括的な表現 (インクルーシブネス)、⑤脱・固定概念 (バイアス・フリー)) の提案という形で実った。

もう一つの流れは、言葉づかいの性差に関わる研究である。これまで社会言語学、語用論、会話分析など様々な領域で言語使用の性差をめぐる実証的研究が積み重ねられてきた。初期の研究では、男性と女性の言語使用はどのように異なるのかという問題意識のもとに「言語的性差」の検証が目指されたが、研究の進展とともに、言語的性差は一般的・固定的に捉えられるようなものではないことが明らかになってきている。すなわち、話し手の生まれつきの生物学的な性 (sex difference) という要因は他の「年齢・人種・職業・社会的地位・居住地域」など様々な社会的要因と複合して言語使用に影響を与えており、言語使用のあり方を単純に性によって二分することはできないということである。

英語圏では、ジェンダーとの相関において、男性と女性の使用する言語の差異を音韻 (Labov 1972a, 1972b, Trudgill 1972 等)、語彙・表現 (Edelsky 1977 等)、発話行為 (Hymes 1972, Kuhn 1982, Tannen 1990 等)、コミュニケーション (Blakar & Pedersen 1980) などの角度から明らかにしようとする研究が行われてきた。

日本語の言葉づかいの性差に関する研究は 20 世紀前半から行われていたが、文化イデオロギーとその権力作用を見ない「女性語研究」が長らく主流を占めてきた。女性語というものに早くから注目していたのは国語学者の菊沢季生氏であった。菊沢 (1929) は、女房詞を上品で優美とし、時代背景や女性の社会的地位の考察抜きに「一般的な女性のことば」に関連付けた。また、菊沢 (1933) は物理学の位相 (phase)

6という概念を日本語研究に導入して位相論を展開し、社会的属性差と文体差の側面から日本語の中の変異を総合的に考察することを提唱している。位相論は、ことばは一人一人違う、状況ごとに違うという観察を出発点とし、そうしたことばの違いの中に、何らかの要因と結びつく一定の傾向性を見出そうとするものである。これは、現在の社会言語学の方法論に通じるものである。位相語という概念は、「日本語における性差研究の端緒を開くとともに、その後の日本語における女性語研究分野を確立する上で大きな役割」（阿部 2005:32）を果たした。以後、丁寧な敬語を「女性語」の特徴とし、「女らしさ」というイデオロギーと結び付ける言語研究者によって様々な研究成果が出された（井出祥子 1979,1993,1997、遠藤 1997a、中村 2001,2007a,2007b、現代日本語研究会 1997,2002,2011 等）。

井出祥子（1979）は、英語と日本語について言及して、アメリカにおける言語と性差研究を詳しく紹介し、現実の女性の話し方を分析しようと試みている。井出祥子（1979）は、女性の話すことば、女性の書くことば、女性を指すのに使われる語彙を「女のことば」として捉え、女性の話し方や書き方に見られる特徴が、「日本の女性の現実のあり方を映し出している」（同:64）と主張している。井出祥子（1997）は、女性語研究のあり方として、それぞれの社会・文化における男女の地位、役割がどう異なるかを踏まえたうえで、男性と女性がどのような異なった言語表現を用いているかを観察・記述することの必要性を説き、女性語の特徴として、①言語表現の柔らかさ、②ぞんざいな表現や下品な表現、規範からの逸脱形、礼儀を欠いた表現を回避すること、などを挙げている。

遠藤（1997a）は、古代から20世紀末にわたって唱えられてきた女性の言葉づかいについての言説を分析し、女性とことばの関わりを論じている。女性ことばは潜在期（古代）から、顕在期（鎌倉・室町時代）、制約の強化（江戸時代）、定着（明治時代）、解消（昭和）を経て変化し、現在（20世紀末）では女性がことばを作る時代であると指摘している。

近年、「言語とジェンダー」研究の関心は、人が言語的相互行為を通じてどのよう

---

6 菊沢（1933）は、話し手の性・年齢・職業などの属性や、場面の相違に応じてことばの違いが表れる現象を広く位相（phase）とし、そこで使われる語を位相語（group language）と呼んでいる。位相語は集団語とも呼ばれ、女房詞、遊里語といった女性だけの位相語から、武士ことば、職人ことばなど男性を表わす位相語まで多岐にわたる。

な「ジェンダー・アイデンティティ<sup>7)</sup>」を作り上げるか、特定の歴史・政治的状况において「ジェンダー・イデオロギー<sup>8)</sup>」がどのようなものとして作られてきたのかという問題に向けられている。中村(2001)では、英語圏のこうした研究が紹介されている。中村(2007a)は従来の研究と異なり、「女ことば」をイデオロギー(言語的ジェンダー・イデオロギー)として捉え、構築主義の方法論を用いて「女ことば」の歴史的形成過程を論じている。同書は、「資料の扱い方には慎重さに欠ける点があるが、ことばとジェンダーやことばと支配の問題などの問題について考えるうえで参考になる重要な知見が含まれている」(佐竹久仁子 2009:85)と評価されている。また、中村(2007b)は、「言語資源<sup>9)</sup>」という新しい視点やセクシュアリティの視点で、ことばとアイデンティティの関わりに切り込み、自由に豊かな日本語の姿を描き出そうとしている。

現代日本語研究会は、東京女性財団の助成を受けた研究成果として、1997年に『女性のことば・職場編』、2002年に『男性のことば・職場編』、2011年に両冊の合本を出版した。この三冊で、「女性のことばには敬語が多く使われ、男性より丁寧である、という従来国語学者たちが主張してきたことが必ずしも現在の職場で一般的ではない」ことや「女性も男性も、それぞれ女性専用語・男性専用語とされることばをほとんど使っていない」ことなどが明らかになった。それに、現代日本語研究会は、調査と研究を通じて得た生の談話資料を言語コーパスとして精製・公開していることにも大きな意義があると言える。

上に記した言語とジェンダーに関する二つの流れについて、中村(1995)は、前者を「ジェンダー表現研究」、後者を「言語使用とジェンダー研究」と名付け、前者をさらに二分している。これは、「ジェンダー表現研究」は、「女性を表現すること

<sup>7)</sup> 人間はことばを使って互いに関わり合う中で能動的にアイデンティティを構築していくという考え方に基づいた「構築主義」のジェンダー観によれば、ジェンダーは人種・年齢・職業・経済階級などと共にアイデンティティを構成している必要な要素だという。中村(2001)は、これをジェンダー・アイデンティティと名付け、「女らしさ・男らしさ」のような二項対立の名称に替えて、「女性性・男性性」と表わしている。

<sup>8)</sup> 「ジェンダー・イデオロギー」はジェンダー規範とも呼ばれ、「ジェンダーに関して語られたディスコースの累積により、特定の社会において歴史的に作り上げられてきた様々な女性性、男性性、両性性(ジェンダー・アイデンティティ)が体系付けられたイデオロギー」(中村 2001:115)である。「ジェンダー・イデオロギー」という概念は、ジェンダーに関わる思いこみを生物学的差異から引き離し、ディスコース分析によって歴史的に解明することを可能にする(中村 2001:117)。

<sup>9)</sup> 私たちがコミュニケーションを行う時には、特定の言葉づかいが特定の集団のアイデンティティと結び付いている。「言語資源」とは、このような結びつきを、私たちが様々な人物を造形する時に利用する「ことば」の知識、材料、資源とみなす視点を指す(中村 2007b:14-15)。

ば」の研究と、「男性を表現することば」の研究に分けられるということである。本論文は、中村（1995）の用語に従う。なお、前述したように、言語使用のあり方を単純に性によって二分することはできないが、ここでは「ジェンダー表現研究」と対照するために、「言語使用とジェンダー研究」を「女性が使用することば」と「男性が使用することば」に二分する。

上記の二つの流れを図示すると図 1-1 のとおりである。

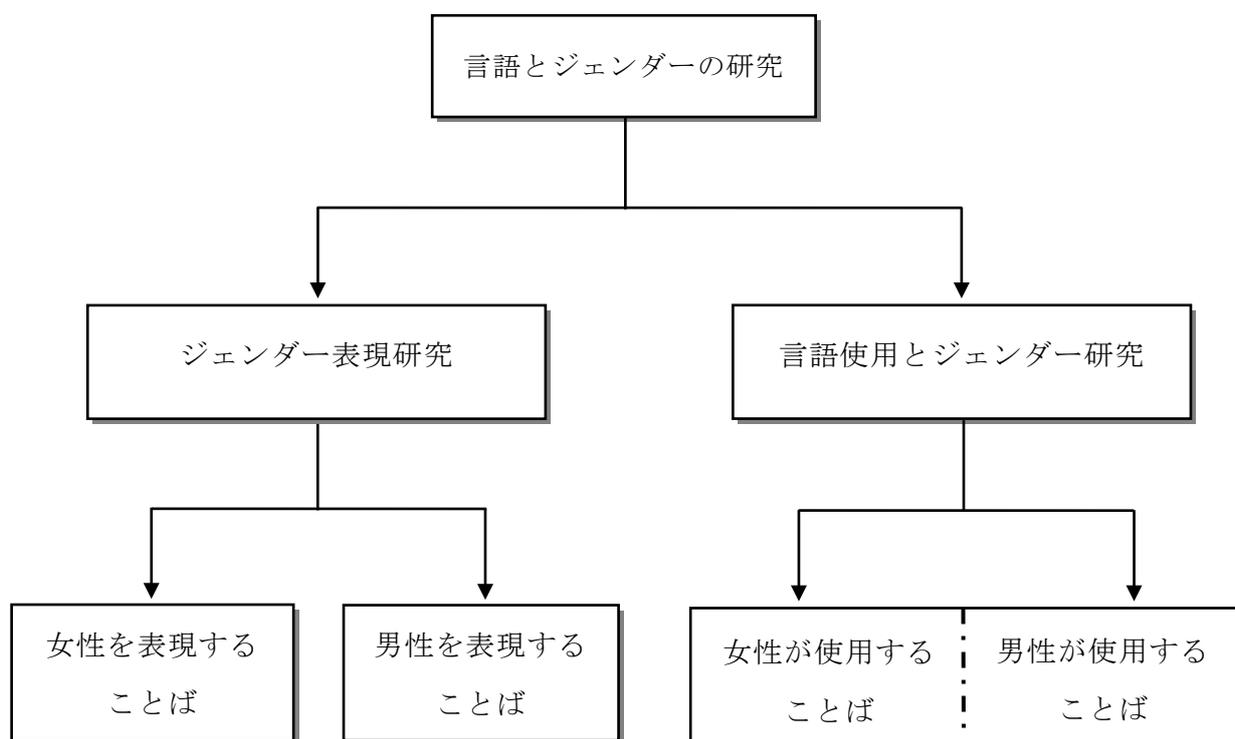


図 1-1 言語とジェンダー研究の流れ

### 1.1.2 「女性標示語」の研究背景と研究課題

日本語の「女性標示語」は 1970 年代から注目され始めた問題である。「女性標示語」に関する研究蓄積はそう多くないが、そのほとんどが性差別の観点からの研究である。代表的な研究として、寿岳（1979）、田中和子（1984）、佐竹秀雄（2001）、田中・女性と新聞メディア研究会（2006,2009a,2011）等が挙げられる。

「女性標示語」に関する研究史について概観すると、まず 1970 年代に言語現象と

して初めて指摘され、1980年代に「女性冠詞」と命名された。それ以降はマスメディアなどにおける使用の実態調査が行われるという研究の流れが見られる。その研究の流れを表 1-1 にまとめておく。

表 1-1 「女性標示語」に関する先行研究の流れ

時 期	先行研究	研究内容
70 年代	寿岳（1979）	初めて指摘、問題にしている
80 年代	田中和子（1984）	「女性冠詞」と命名、問題となる言語現象を性差別表現として体系的に捉えようとした
80 年代以降	田中・諸橋（1996）、佐竹秀雄（2001）、田中・女性と新聞メディア研究会（2006,2009a,2011）等	先行研究の概観、マスメディアにおける使用の実態調査

以下では、「女性標示語」に関する先行研究の主なものについて年代順に概観し、そこに見出される問題点について考えてみたい。

#### 1.1.2.1 寿岳章子（1979）

寿岳（1979）は、国語学の流れと当時新たに紹介された社会言語学の枠組みの中で、社会と言語の関係から、社会のあり方が言語に反映され、言語は人間のあり方に影響すると考えている。寿岳（1979）は、日本語に焦点を絞って実際の女性たちの発言を豊富に取り上げ、社会における女性の低い地位とことば及びジェンダー・イデオロギーの三つが深く関わっていることに着目し、その関係を俯瞰している。同書は「1979年という早い時期に、欧米の研究が20年かかって到達した言語とジェンダーの関係に関する知見のほとんどを指摘」（中村 2001:10）しており、今日でも学ぶところが多い著書である。Yukawa & Saito（2004:26）は、論文の書き出しで寿岳（1979）について次のように述べ、日本語とジェンダー研究の嚆矢であると捉えている。

In Nihongo to onna 'The Japanese Language and women', Jugaku single-handedly provided a comprehensive theoretical framework for the study of language and gender.

(『日本語と女』(寿岳 1979; 筆者注)で、寿岳氏は単独で言語とジェンダー研究に包括的な理論的枠組みを提供した。)(日本語訳は筆者)

「女性標示語」に関して、寿岳(1979)は、特別な名称は使っていない。寿岳(1979:138-141)は、「女○○」「女性○○」「女流○○」などの表現について次のように述べる。

「女○○」には、男からの優者によるからかいのようなものが濃厚に見られ、とりわけ男の目がはっきり感じられ、女性側にとっては不快な感情がこもる。女でよくがんばっていますという賞賛の気持がある時は女性○○、あるいはもっと奉って、女流○○ということばを与え、でしゃばってせんでもいいことをするというひんしゅくの気持があるときは、女○○という。そこで、一つの便法として「女○○を使わないようにする」という考えもありうるが、そうではない。婦人何とやら、女性何とやら、さらに女流何とやらに心地よいすみかを見つけるのではなく、女何とやらでたたかい、ひとりでも理解する人を見つける方が、女の世界に光を当てることにならないだろうか。要するに男ではない人間が、男のすることをしているという目をもたないようにしてゆく作業のほうのことばを大切にすることではなかろうか。(下線は筆者)

つまり、「女～」「女性～」「女流～」などは多少ニュアンスが違って、女性を差別する表現であり、女性に対する偏見を持たないようにするには、ことばの言い換えではなく、現実の意識を変えるべきだと主張している。

寿岳(1979)では、「女性標示語」という言語現象に目を向け、「女～」「女性～」「女流～」などの使い分けに言及し、その使用に関する立場が明確にされている。しかし、「女性標示語」の使用状況、出現環境などについては触れておらず、「女～」「女性～」「女流～」のほかに、どのような「女性標示語」があるのか、それらの表現はどう使い分けているのかについては、不明な点が多く、考察の余地を残してい

る。

### 1.1.2.2 田中和子 (1984)

田中和子 (1984) は、新聞に現れる性差別表現を性差別語、還元主義的性差別表現、文脈的不適切の三形態に分けており、「女～」「女子～」「女性～」「女流～」などを性差別語の一種に位置付け、「男が基準」ゆえの頻用であると述べている。田中和子 (1984) は「女性が有徴化される現象に、“男性＝人間”、“主役は男性”という想念が潜在している」(同:196) と指摘し、「これらは構造化されたものであり、単に“筆がすべった”と片付けられるようなものではない」(同:199) と主張している。

また、田中和子 (1984) は、寿岳 (1979) で指摘された現象を「女性冠詞」という用語で命名し、以下のように述べている。

女性を“男性＝人間”から区別するための徴づけとしての、“女○○”、“女子○○”、“女性○○”、“女流○○”といった語法を、かりに「女性冠詞」と呼んでおこう。  
(同 1984:195)

1979 年に指摘された現象が五年後に命名され、「女性冠詞」という語が誕生したのである。問題となる表現を体系を持つものであると捉えたことは、言語研究上のターニングポイントだと言えよう。

ところで、「冠詞」という語は言語学において、具体的な意味を持たない機能的な語の範疇である“article”を指す。日本語はその意味での冠詞を持たない言語であるため、この用語を用いるのは適切であるとは言えない。

また、女性が有標 (marked)、男性が無標 (unmarked) というのは、田中和子 (1984) で挙げられた下記の (15) ～ (17) のような新聞記事の表現から指摘できるが、そこに「男性＝人間」、「主役が男性」の発想が潜んでいるという記述には、少なくとも、これを言語学的に主張するための根拠が必要である。

- (15) a. 「不正貸し付け 9 億円 農協幹部を背任で逮捕」(朝日 1982/10/29)
- b. 「一億五千万使い込む 山梨県の西島農協元女子職員を逮捕へ」(朝日

1982/10/28)

- (16) a. 「体罰教諭に罰金 20 万円」(毎日 1983/3/30)
- b. 「女教師が体罰 6 針ぬうけが」(朝日 1983/3/13)
- (17) a. 「中学生が中学生脅かす」(読売 1982/12/28)
- b. 「女子中学生切られけが」(毎日 1983/2/22)

((15) ~ (17) は田中和子 (1984:193-194) の用例)

さらに、田中和子 (1984) の「女性が有徴化される現象に、“男性=人間”、“主役は男性”という想念が潜在している」(同:196) といった指摘に従えば、「男性標示語」の使用には女性が基準になり、男性が逸脱した存在で、そこに「女性=人間」、「主役が女性」の発想が見られるはずである。しかし、下記の (18) ~ (20) の用例を見る限り、そのような発想が見られない。したがって、田中和子 (1984:196) の指摘は必ずしも正確であるとは言えない。

- (18) 20 分の間に 3 組の客が来た。男客が財布の飾り金具「100 万円」を手に取り「いくら?」。「20 万円。ぎりぎりです」と社長。値札は「一応の目安」とか。(朝日 2003/6/17)
- (19) 男子生徒の間では連続誘拐暴行事件は知られていなかったらしい。健太は啞然としていたが、十文字耀一郎が主謀者かも知れないというくだりに至っては、ことの重大さに顔色を変えた。(甲斐透『かりん増血記』)
- (20) 女性や仕事帰りの男性会社員まで客層は幅広く、店主の卯之原 (うのはら) 栄寿さん (二十六) は「癒やしを求めて訪れる人が多い」。(Yahoo!ブログ 2008)

なお、「男性標示語」については、本論文の第 8 章で考察する。

### 1.1.2.3 佐竹秀雄 (2001)

佐竹秀雄 (2001) は、これまでの「女性冠詞」に関する主な研究を概観し、個人的言語生活の場での「女性冠詞」の使用と意識についても言及し、以下の五点を指

摘している。

- \* 「女〇〇」を「女性〇〇」などに言い換えることは根本的な解決にならない。
- \* 「女〇〇」「女性〇〇」にある偏見問題は、女性冠詞の研究として発展した。
- \* この20年間に「女〇〇」は減って「女性〇〇」が増えた。
- \* 実際に使われる「女性〇〇」の多くは、新しさ、珍しさを意味している。
- \* 偏見の根本問題の解決はなく、ことばのすり替えが行われている。

(佐竹秀雄 2001:73)

また、佐竹秀雄(2001:78)は「女」と「女性」のイメージのよしあしには差があり、軽んじることのできるものには「女」が、まともな職業には「女性」がつくと指摘している。

「女性冠詞」に偏見問題があるか否かはさておき、「女～」が「女性～」にとって替わられているという指摘は事実であり、本論文も支持するところである。これに関しては、第5章と第7章で詳しく論じる。

- (21) a. 小学校高学年のある朝、学校の渡り廊下の柱に掛けられた竹筒に、真っ赤なリンゴの実をつけた小枝が一本挿してあった。女教師が信州から持ち帰ってきたものだった。(朝日 2002/10/2)
- b. 中学校の女性教師は3年前、勤務校の女子生徒が塾仲間をネットの掲示板で中傷していることを生徒に聞いて知った。(朝日 2009/11/26)
- (22) a. 彼らは、女患者の失踪事件の捜査にやって来たのだが、テディには、なにか別の目的があるようだ。(朝日 2010/4/2)
- b. 中津川市は22日、中津川市民病院で市内の女性患者(当時86)への手術で医療過誤があったと発表した。(朝日 2012/11/23)
- (23) 出産や育児を機に職場を離れた女性医師の復職を支援しようと、県と日本女医会埼玉支部が1日、さいたま市大宮区に「県女性医師支援センター」を開設した。(朝日 2009/10/4)

しかしながら、「女性～」の多くは、新しさ、珍しさを意味している点や、軽んじ

ることのできるものには「女」が、まともな職業には「女性」がつく点など、再考を要する部分がある。

- (24) サッチャー (1925～) →イギリス初の女性首相。在任 1979～90 年。イギリス経済の回復と小さな政府を公約して首相就任。(中山勝・千葉仁志『構造改革のすべてがよくわかる本』)
- (25) 韓国で初の女性大統領が誕生する。日本を含め戦後の北東アジアで女性がトップになるのは初めてだ。(朝日 2012/12/26)
- (26) 長谷川町子さんは日本初の女性漫画家でもある。3 巻までを読んだ。実に面白い。心の底から笑える。(朝日 2012/12/14)

確かに、上記の (24) ～ (26) が示したように、「女性～」には新しさ、珍しさを感じられる使用例が少なくない。

しかし、現代日本語における「女性～」は汎用性が高く、女性の性を表わす代表的なことばになっているため、「女性客」「女性店員」「女性アルバイト」「女性患者」「女性保育士」など、ごく普通の職業や身分にも使われるケースが多く、「女性～」の使用が必ずしも新しさ、珍しさを意味するとは限らない (= (27) ～ (30))。これに関しては、本論文の第2章で詳述する。

- (27) まだ十七だし、男にしては小柄なほうなので、女性へのリードが難しいのだ。もしかして、女性パートのほうに向いているのか？(榎田尤利『無作法な紳士』)
- (28) 店に彩りを添えるのが、ピンクやオレンジ、ローズレッドのミニスカートとエプロン姿のウエートレスの存在だ。女性アルバイトの多くが、この制服目当てで応募しているという。(朝日 2012/11/9)
- (29) 黄色い制服の若い女性店員が前に立ち、身ぶり手ぶりをまじえて、しきりに声をかけていたが、おばあさんは返事もせず、ただ両手で自分の体を抱いているだけ。(殊能将之『子どもの王様』)
- (30) 料理を作ったのは長崎での生活が長い女性留学生たち。日本にはない特別な調味料を使うこだわりで、現地の味を再現した。(朝日 2005/3/7)

佐竹秀雄（2001:76）は、「女優」「女王」における「女」の使い方は「課長」や「閣僚」につくのと少し事情が違う。接頭語的な「女」ではなく、単語（派生語ではなく、複合語）を構成する要素としての「女」である」と述べ、「女～」には二つのパターンがあることを指摘している。しかし、佐竹秀雄（2001）は「女～」には二つのパターンがあることに触れているだけで、議論の中では分けて考察していない。

「女～」には自由形態素の「オンナ」と拘束形態素の「ジョ・ニョ・メ」があるため、両者を区別せず、一概に「軽んじることのできるものには「女」がつく」と断定するのは適切だとは言えない。この点については、本論文の第7章で詳しく考察する。

下記の（31）～（34）に示した「将軍」「弁護士」「医」「王」「神」などは「軽んじることのできるもの」であるとは言いにくい。「軽んじる」どころか、「尊敬される」存在である。

（31）瀋陽故宮の近くにある写真館「喜春戯劇撮影」は、本格的な京劇の舞台装束で写真を撮ってもらえることで人気。李さんは京劇「楊家将」の主人公の女将軍、穆桂英を選んだ。専門に学んだ化粧師が1時間半もかけてメイクアップ。（朝日 2010/7/31）

（32）新聞のテレビ欄を見ていると、「女医〇〇」とか「女弁護士〇〇」といったタイトルが目につく。（佐々木瑞枝『日本語ってどんな言葉？』）

（33）英国のエリザベス女王（86）が18日、ロンドンの首相官邸での閣議にオブザーバーとして初めて出席した。（朝日 2012/12/19）

（34）もういちど、高く自由の女神のうえを飛んだ。それから、つばさをつけたオットはいつてしまった。（近藤尚子『ぼくの屋上にカンガルーがやってきた』）

#### 1.1.2.4 田中和子・女性と新聞メディア研究会（2006,2009a,2011）

田中和子氏は1984年に行った研究に続き、マスメディアなどにおける「女性冠詞」の用法の実態を調査し、問題点を指摘している。

田中和子・女性と新聞メディア研究会（以下田中他と略す）は三大全国紙である朝日・読売・毎日の朝刊・夕刊（半月分）を対象に、1980年代半ばより五年おきに新聞紙面調査を五回行い、新聞紙面に現れたジェンダー表現・性差別表現の主要形態を洗い出す作業を行ってきた。

田中他（2011:134）は、「女性冠詞」について次のように指摘している。

頭に性をあらわす「冠詞」がわざわざつけられることによって、本来性別とは無関係なはずの職業や地位、役割などの属性に、女性であることが強く結びつけられて、あたかもそれが報道された事件や事故と不可分であるかのような印象を、人びとに与えてしまうおそれがある。

また、「女性冠詞」の使用については次のように提言している。

女性のみを有徴化する片面的なことばは、すでに時代遅れとなっている。通常は性別を表示しないニュートラルな語のみで表現し、どうしても性別を表示しなければいけない場合には「女の〇〇」とあらわすことばでこれまでの片面性は解決していけるのではないだろうか。（田中他 2011:143）

田中他（2006,2009a,2011）は「女性冠詞」が実際どの程度使用されているのか、さらには、「女性冠詞」と「男性冠詞」の使用に非対称性があることなどを数量的に明らかにした点で有意義であると思われる。また、継続的に20年間のデータを取って、「女性冠詞」と「男性冠詞」の推移を見ること自体は意義のあることであり、「通常性別を表示しないニュートラルな語のみで表現する」という提案も注目に値する。

しかし、数値的な議論がどれほど有効性を持つのか、数値の非対称性から「女性冠詞」の使用が差別的だと断定することが妥当かどうかについては疑問が残る。これらの「女性冠詞」はどのような言語環境、またはどういった状況下で使われているのか、なぜ使われているのか、なぜ使用変化が見られたのかについてはさらなる考察を行う必要がある。これらの点に関しては、次章以降において改めて考察したい。

以上、「女性標示語」について、先行研究の主なものを概観したが、このほかにも

中村 (1995,2007b)、田中・諸橋 (1996)、れいのるず=秋葉 (1998)、佐竹久仁子 (2001a) 等の研究がある。これらについては、次章以降の考察の中で取り上げていきたい。

上述したように、「ジェンダー表現」の一種である「女性標示語」は、性別に関しては非対称的で、後続の名詞句を表わす集合を成す各構成員が、基本的には、男性が無標、女性が有標であるという思想を背景にしている。そこから、先行研究において、「男=人間」「女性は亜流」の発想が見られるなどの指摘が行われた。

しかし、実際の言語生活において「女性標示語」の使用には必ずしも性差別的ではなく、下記の(35)～(38)のような性別情報が必要な場合の使用など性差別だけでは説明できない現象や見過ごされている部分も少なくない。したがって、これまでの性差別に主眼を置いた分析から離れて、データから得られた事実をもとに「女性標示語」を分析しなければならない。

- (35) 着物ショーでは、赤や水色などあでやかな振袖、舞妓姿の女子児童と羽織はかまなど和服姿の男子児童が次々に登場。(京都新聞 2005)
- (36) 現在、公明党の女性議員の割合は、国会議員で 13.0%、全体では 21.7%となっています。人口の約半分は女性です。国民の皆様の意見を広く反映させるため、女性議員の割合を高めていく必要があると考えています。(著者不明『がんばれ！女性議員』)
- (37) お見合いなどの世話をする人が少なくなったことが背景にあるのではないか。昔は近所の人や会社の上司が相手を紹介してくれたが、公私ともに親密な付き合いを避ける人が増えた。女子社員に「結婚、考えている？」と聞けば、セクハラと受け取られかねない。だから自力で相手を探す作業が必要になった。(朝日 2009/10/14)
- (38) さらに、今回の調査では女性医師の勤務状況についても公表されている。女性医師は結婚、出産、育児により継続的勤務が困難であるため、必然的に非常勤や短時間正規雇用となる割合が男性医師に比べて多い。(朝日 2010/12/22)

(35) の「女子児童」を「児童」に置き換えると、意味が不明になり、(36) の「女

性議員」の「女性」を取ると、文の意図が伝わらない。同様に、(37)の「女子社員」を「社員」に置き換えると、文法上適格な文であっても、意味上適格度が落ちる不自然な文になる。(38)の冒頭の「女性医師」を無標の「医師」に置換しても、単独の文としては成立するが、後続の文を合わせて考えると、文章として成立しにくくなり、また、(38)の二番目の「女性医師」は「男性医師」と比較しているため、性別情報が必要となる。

本論文は、以上で述べた研究背景と先行研究の問題点を踏まえて、主として次の三点を研究課題とする。

- (39) a. 基本的には新聞のデータを用いて、主要な「女性標示語」の使用実態を明らかにする。
- b. その使用実態と各「女性標示語」の意味、社会的背景との関連について考察する。
- c. 現代日本語の「女性標示語」の意味特徴による分布を考察する。

使用実態を明らかにするのは、現代日本語で女性というジェンダーはどのように表現されているのかを見るためである。女性標示語の中核を成す表現形式がどのような使用実態になっているのか、各表現形式が言語生活で均等に使われているのか、どのような状況下で使用されているのか、性別情報が必要な場合での使用かどうか、そのような使用に変化が起こったのかどうかなどを明らかにする必要がある。これらについては新聞のデータを通して、実証的に分析する。

新聞のデータで明らかになった使用実態については、まず各表現形式の意味（知的な側面と情意的な側面）といった言語的側面から、なぜそのような使用実態をなすのかを考察する。次に、言語的側面から考察しきれない部分について社会的側面から考察を加える。言語と社会という二側面から各表現形式を考察するのは、女性標示語は社会言語学の研究領域に含まれている重要な研究課題の一つのためである。

使用実態を明らかにすること及びそのような使用実態になっている要因を究明することを通して、現代日本語の「女性標示語」の意味特徴による分布を考察する。女性標示語は、体系を持つものであると捉えられたものの、未だ記述されたとは言いがたい。女性標示語の意味特徴による使用分布を記述・分析することで、女性標示

語の持つ規則性と特性をより明確化することができれば、女性標示語研究史上、大きな一歩になると思われる。

ここで、改めて本研究の意義を大きく以下の二点にまとめておく。

まず、語彙研究レベルの意義である。「女性～」「女子～」「婦人～」「女～」「女流～」などの女性標示語は女性というジェンダーを表現する言語形式である。そして、それぞれが類義関係にあるこれら女性標示語の後項要素、接続制約、使われ方などに関する研究は、類義語群の使い分けを明らかにすることに寄与する。難解である類義語の特性と使い分けを明確化することは、語彙研究のみではなく、日本語教育にも貢献するものと思われる。

次に、言語とジェンダー研究レベルの意義である。本論文は、先行研究で欠けている言語研究としての側面から女性というジェンダーを表現する言語形式としての女性標示語を研究する。客観的なデータに基づいて、女性標示語の使用実態をつぶさに調査し、実証的に考察を進めていくことにより、客観性が保たれている。言語的側面からジェンダー表現を研究することは言語とジェンダー研究に新たな光を差し、言語とジェンダー研究のターニングポイントにもなると考える。

## 1.2 各形式についての概観

本論文では、「女性～」「女子～」「婦人～」「女～」「女流～」という五つの形式を取り上げる。そして、これらのことばが男性を指すことばとどのように異なっているのかを見るため、「男性標示語」も研究対象として取り上げる。また、「ママさん～」「美人～」「主婦～」「美女～」「美少女～」などの「女性標示語」は、出現頻度が低く、用例数が少ないため、本論文ではこれらを取り上げないことにする。

各女性標示語の使用状況と割合を把握するため、2013年4月に『朝日新聞』一年分の記事（2010年1月1日から12月31日まで）を調査した。

調査の結果、『朝日新聞』から女性標示語「女性～」「女子～」「婦人～」「女～」「女流～」など、計12種、727の語例が抽出された。各女性標示語の使用頻度と割合は表1-2と図1-2のとおりである。

表 1-2 各女性標示語の異なり語数と延べ語数

女性標示語	異なり語数	延べ語数
女性～	458	5823
女子～	128	6456
婦人～	10	52
女～	48	5959
女流～	39	653
その他	44	92
計	727	19035

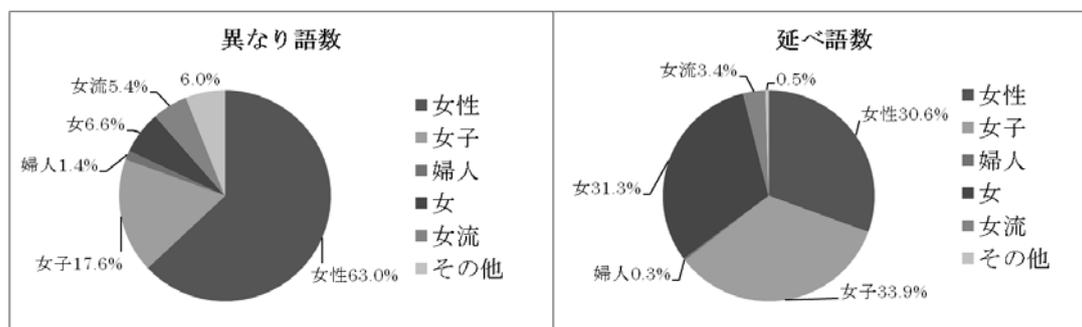


図 1-2 各女性標示語の使用頻度と割合

「異なり語数 (type, different words)」と「延べ語数 (token, running words)」は計量語彙論 (quantitative theory of vocabulary) <sup>10</sup>の基本概念であり、単語の数え方に関わる概念である。伊藤雅光 (2002 : 24) によれば、「異なり語数」とは、違う単語の種類によって、数えた単語の総数であり、「延べ語数」とは、個々の自立語が同じ単語かどうかにかかわらず、どの単語も同じように一つ二つと数えた単語の総数をいう。計量語彙論では、「異なり語数」を語彙の多さを示す指標として、「延べ語数」と合わせて表示することが多い。

表 1-2 と図 1-2 から分かるように、異なり語数では「女性～」は第一位で全体の

<sup>10</sup> 計量語彙論という術語は、1950年代の半ばごろ水谷静夫氏が『計量国語学』誌で使ったのが最初だと言われている。水谷 (1983 : 3) は、計量語彙論を「一つの言語に関する語の何らかのクラスという意味での語彙の構造的な特色を統計的方法で追求することを主目的とするのが、計量語彙論である。」と定義し、「その出現によって初めて語彙論に実質が与えられたとさえ言える。研究史上これは偶然とは思えない。」と指摘している。詳しくは、水谷 (1983) を参照されたい。

63.0%を占め、「女子～」は第二位で17.6%を占めている。「女～」は第三位、「女流～」は第四位で、それぞれ6.6%と5.4%、「婦人～」は第五位で、全体の1.4%にすぎない。

延べ語数では、「女子～」は第一位、「女～」は第二位、「女性～」は第三位であるが、占める割合はあまり変わらず、全て三割以上である。「女流～」は第四位で、3.4%であるが、「婦人～」は第五位で全体のわずか0.3%にすぎない。

そして、今回の調査でヒットした用例から分かるように、各表現形式は互換性を持ち、それぞれ置換できる。例えば、「女性作家⇔女作家⇔女流作家」「女性歌人⇔女流歌人」「女性教師⇔女教師」「女子アナウンサー⇔女性アナウンサー」「女子従業員⇔女性従業員」「女子店員⇔女性店員⇔女店員」「婦人相談員⇔女性相談員」「婦人職員⇔女性職員⇔女子職員」などのようなものである。

- (40) a. 2008年に82歳で他界した、韓国を代表する女性作家朴景利（パクキョンリ）の遺稿詩集。（朝日 2010/11/22）
- b. だから女作家も水割りのグラスを持って、こちらに来た。女作家は私の隣の隣に座ったことになる。（岩井志麻子『薄暗い花園』）
- c. この街には女流作家の蕭紅（千九百十一～千九百四十二）の故居がある。（立松和平『アジア偏愛日記』）
- (41) a. 慶応のミスコンは、女子アナウンサーへの登竜門とも言われたが、主催サークルの不祥事で今年は中止となった。（朝日 2010/11/9）
- b. NCCの女性アナウンサーにKBC九州朝日放送の番組「ドォーモ」のリポーターらが加わって、クイズに答えながら各地を回った。（朝日 2010/10/6）
- (42) a. 接客は女子店員やメーカーの派遣社員の仕事である。（浅田次郎『椿山課長の七日間』）
- b. サオリとショウタは女性店員の背後に近づいた。（殊能将之『子どもの王様』）
- c. レジスターのカウンターでは、女店員が帰りの客の勘定を受け取り、レジの音を響かせている。（森詠『砂の時刻』）
- (43) a. また、婦人警察官、婦人交通巡視員、婦人補導員等の婦人職員は、交通

安全教育、駐車違反の取締り、少年補導、要人警護、犯罪捜査等多方面の業務に従事している。(警察庁『警察白書』(再掲= (3))

- b. 会員や澤口輝禅住職(70)、お初の出家姿に扮した「おばま観光局」女性職員ら約15人が参加。(朝日 2010/12/22)
- c. 朝倉町長は、庁舎玄関に出迎えた町職員の拍手の中、女子職員からの花束を受け取った。(朝日 2010/2/2)

ただし、各表現形式は互換性を持つと言っても、下記(44)～(47)のような一部置換できないものもある。つまり、各形式は女性標示語の体系内で異なる位置付けを有し、その後項要素の接続に何らかの制約が働いていると考えられる。なお、「\*」は言い換えができないことを示し、「?」は言い換えは可能であるが、当該のコンテキストでは不自然になることを示している。第1章以降の用例に現れる「\*」「?」も同様である。

- (44) a. 「柔道は男子のものであり、あくまで『女子柔道』という扱いだっただ。女は出産をする弱きものとして扱われ、先生方も練習で気を使っているようだった」。創生期の日本女子柔道界をリードし、「女三四郎」(\*女性三四郎/\*女子三四郎/\*婦人三四郎/\*女流三四郎)と呼ばれた山口香(45)は振り返る。(朝日 2010/8/31)
- b. 女主人 (\*女性主人/\*女子主人/\*婦人主人/\*女流主人)は、もともとはサラリーマンの家庭に育った、と自分について説明した。(藤堂志津子『恋人よ』)
- (45) 女帝 (\*女性帝/\*女子帝/\*婦人帝/\*女流帝)と新羅の女王 (\*女性王/\*女子王/\*婦人王/\*女流王) 古代における「朝鮮の女王」がどのような歴史的背景をになって姿を現わすのか、それは興味あるテーマに違いない。(木下礼仁『日本の古代』)
- (46) a. ある日2～3人の女子児童 (\*女性児童/\*女児童/\*婦人児童/\*女流児童)が日記帳に「A子さんが、口をきく時少しきついです」と書いていた。(朝日 2010/12/7)
- b. 私どもは、その若さで亡くなった女子小学生 (\*女性小学生/\*女小学

生／\*婦人小学生／\*女流小学生)の悲劇的な死というものに関して、  
貴校での悲しみを理解します。(猪股清喜『六年二組倉屋佳世子』)

- (47) ともに向井千瑛を挑戦者に迎えた防衛戦では、3月に女流名人(\*女性名人／\*女子名人／\*婦人名人／\*女名人)3連覇(2勝0敗)、10月に女流本因坊(\*女性本因坊／\*女子本因坊／\*婦人本因坊／\*女本因坊)4連覇(3勝0敗)を達成<sup>11</sup>。(朝日 2010/12/16)

なお、各表現形式の置き換えの可否や相違などについては、次章以降で検討することとする。

### 1.2.1 表記上の問題

「女性標示語」について、先行研究では、“女性”“女子”“女”、“女性〇〇”“女子〇〇”“女〇〇”、“女性+〇〇”“女子+〇〇”“女+〇〇”、“女性—”“女子—”“女—”などのような異なった表記をしてきた。

本論文では、先行研究からの引用を除き、単独用法の「女性・女子・女」「男性・男子・男」などと区別し、「女性標示語」を「女～」「女子～」「女性～」「女流～」「婦人～」の形で表記し、「男性標示語」を「男～」「男子～」「男性～」「男流～」の形で表記する。

### 1.2.2 「女性～」

女性標示語の中で、「女性～」は最も汎用性が高い表現形式である。

「女性」は、現在では女の一般呼称として定着している。「女性」は「婦人」ほどにはかしこまってもいないし、「女」ほどに性的で生々しさももたない。非性的ではないが、ちょっぴりとりすましたスマートさ(漆田 1993:135)がある。また、鹿野(1989)は、女性たちの公式的な呼び方が近代から現代にかけて、自称・他称を含めて「婦人」から「女性」へと推移してきたことを指摘している。

---

<sup>11</sup> 日本語には「女性名人」ということばは存在するが、「女流名人」と意味が異なるため、置換できないと見なす。

『朝日新聞』2010年一年分の調査で抽出された458の語例が「女性～」の後項要素の豊富さを示しているが、「女性～」に接続制約がないわけではない。「女性～」は成人女性を表わし、未成年女性には使われないのが一般的である。また、ほかの女性標示語と異なり、「女性～」の後項要素にはある一定の特徴が見られない。

つまり、「女性～」は汎用性が高く、「女性～」のつく語には、ほかの女性標示語の「女優」「女王」「女兒」「女子選手」「女子児童」「女子生徒」「女流棋士」「女流作家」などのような固定化している語はほとんど見られない。あえて指摘するならば、「女性職員」「女性会社員」「女性客」「女性店員」などがよく見られる。

「女性～」の実際の用例として、次のようなものがある。

- (48) 足立区は28日、区立せきや保育園（千住関屋町）の50歳代の女性職員が、1歳児クラス全員15人分の氏名、生年月日などが記録されたUSBメモリーなどを盗まれたと発表した。（朝日 2012/12/29）
- (49) 発表によると、ヘイスト兵長は11月2日午前0時50分ごろ、酒に酔って女性会社員宅に押し入り、息子の中学生の顔を殴って1週間のけがを負わせ、テレビを蹴って壊した。（朝日 2012/12/6）
- (50) 実際、男性客は正樹以外一人か二人で、それも中年の女性客の連れ合いを思わせる初老の紳士たちだった。（高山路爛『わが愛はやまず』）
- (51) 同署によると、女性店員（38）が一人で閉店準備をしている際、店内に侵入した男が刃物をちらつかせながら「金を出せ、早くしろ」と脅して金庫を開けさせ金を奪った。（朝日 2009/12/25）

「女性～」の使用実態や「女性～」の汎用性が高い要因などについては、第2章で詳しく分析する。

### 1.2.3 「女子～」

「女子～」は「女性～」に次いで汎用性の高い表現形式である。

「女子～」は「おんなのこ、むすめ」と「おんな、婦人、女性」との二通りの意味があり（『精選版 日本国語大辞典』）、「生徒」「児童」「学生」など「教育関連」の

ことばや「選手」など「スポーツ関連」のことばとよく結合する。例えば、次のようなものである。

(52) 舞台は、東京から転校してきたという想定の下女子生徒（\*女性生徒）の登場で始まる。（朝日 2010/12/21）

(53) 11日午前9時ごろ、上三川町上三川のあけぼし保育園で、女子園児 (3)（\*女性園児）が同園の看護師沢口弘子さん（56）が運転するワゴン車にひかれ、右足の骨が折れるけがをした。（朝日 2010/11/12）

(54) 第61回全国高校駅伝競走大会で準優勝した世羅の男子選手と、力走した女子選手（女性選手）たちが27日、世羅町の母校で報告会に臨んだ。（朝日 2010/12/28）

「女子～」はまた、「社員」「職員」「アナウンサー」など「職業関連」のことばの前にも現れる。

(55) 女子アナ（女性アナ）の年収がいいことは、わかっていたのですが、これほどとは。悔しかったら、おまえも女子アナ（女性アナ）になれということですか？（Yahoo!知恵袋 2005）

(56) 僕も、三上部長も、女子店員（女性店員/女店員）たちも派遣の販売員も、メーカーの担当者たちもみんな、椿山課長が大好きだったんだ。（浅田次郎『椿山課長の七日間』）

ただし、「職業関連」のことばと言っても、職業全般ではない。結合する職業の専門性の高低によって許容度が異なる。下記(57)と(58)の「女性総理」「女性研究者」「女性教授」などのような専門性の高い職業には使われない。

(57) 外相になる前は、日本に女性総理（\*女子総理）が誕生するとすれば田中眞紀子だと思ってた人が多いと思うけど、ここ何か月か見てきて、僕はそれはもうないなと。それは政治家としての資質の問題。（小林ゆうこ・鳥越俊太郎『Domani』）

(58) 目標は、同大の女性研究者（\*女子研究者）の割合を全体の2割にまで増やすこと。3年以内に自然科学系分野の女性教授（\*女子教授）を1人以上にするほか、同分野の博士課程の女子学生の割合を20～25%に増やす。  
（朝日 2008/5/24）

そして、「職業関連」のことばと結合する語はそもそも多くないが、現在では減少傾向を見せている。「女子社員」「女子店員」「女子職員」など固定的に使われてきたものでも、「女性社員」「女性店員」「女性職員」などで表現される傾向が見られる。

なぜ「女子～」は「教育関連」と「スポーツ関連」のことばとよく結合し、「職業関連」のことばとも結合するのか。また、なぜ「職業関連」の場合は、「職業全般」ではなく、相対的に専門性の低い職業だけに使われているのか。さらに、なぜ置き換えが起きているのか。それらについては、第3章で詳述する。

#### 1.2.4 「婦人～」

「婦人～」はかつては汎用性が高かったが現在では使用が減少している表現形式である。

「婦人」という語は古来、近世に至るまで、成人女性・既婚女性を指して使われてきており、とくに既婚女性に対して用いられることが多い言葉であった（菊池 1995:112）。「婦人」は「おんな」と同じか、やや、尊敬される「おんな」である（遠藤 1983:9）。

女性標示語「婦人～」は、漢語と結合するのが一般的である。「婦人～」は外来語と結合する語例もあったが、現在ではほとんど見られなくなった。「婦人～」が外来語と結合しにくいのは、「婦人」の古い語感と外来語との間でイメージの「ずれ」があるからだと考えられる。

次の(59)～(62)は「婦人～」の使用例である。

(59) まさか、あの娘が婦人警官とか、サラ金の取り立て屋というわけはあるまい。（赤川次郎『愛情物語』）

(60) みどりさんはいかにも有能で切れ者の婦人記者であったが、気性のさっく

りした、暖かな、大阪っ子らしい肌ざわりの人であった。(山野博史『発掘司馬遼太郎』)

(61) 「DV被害者からの相談には命がかかっている。経験と知識のある相談員が窓口にいないと十分な支援ができない」。東京都女性相談センターで、非常勤職員として働くベテラン 婦人相談員 (59) は顔を曇らせる。(朝日 2010/4/21)

(62) 所得税と住民税の負担を調整し、教育費の増大、婦人パートの急増、単身赴任者の経済負担に対応して、一兆五百億円の減税要求にこたえるべきだ。(朝日 1985/1/29)

「婦人～」が結合できる語は限られているが、1980年代から、「婦人～」が「女性～」に置き換えられるようになった。新聞で以下の(63)と(64)のような記事が見受けられる。

(63) 使いなれた「婦人」という名称を「女性」に改める動きが、お役所の世界で少しずつ広がっている。「赤ちゃんからおばあさんまで幅広く取り込みたい」「イメージもいい」などが、その理由。京都府庁には、都道府県では初めて「女性」の2字を織り込んだ課が近く発足する。「肝心なのは名前より内容」との声もあるが、看板ぬりかえは、婦人行政の長期プランや各種施設にまで及んでいる。(朝日 1989/4/8)

(64) 警視庁は六月一日から、「婦人警察官」の呼び方を廃止し「女性警察官」、あるいは男女を区別せず「警察官」と呼ぶことにした。(中略)。すでに全国二十六府県の警察本部が「婦人警察官」を廃止している。警視庁企画課によると、機動隊や捜査部門も含め、ほぼ全職場に女性が進出しているという。(朝日 1999/5/24)

「婦人～」が現在どのような使用実態になっているのか、「婦人～」がどのような推移を経てきたのか、どのような要因で現在のような使用状況を成しているのか。それらの点については、第4章で考察する。

## 1.2.5 「女(ジョ)～」

「女～」には拘束形態素の「女(ジョ)～」と自由形態素の「女(オンナ)～」がある<sup>12</sup>。

「女～」は「冠につくことばが最も多いが、種類、量ともに約二割減となった」(田中・諸橋 1996:47)、「スパイ・詐欺師・泥棒のような軽んじることのできるものには「女」がつく」(佐竹秀雄 2001:78)と言われている。

しかし、先行研究では拘束形態素の「女(ジョ)～」と自由形態素の「女(オンナ)～」を区別していない。両者を区別せずに、一概に種類、量ともに減少する、軽んじることのできるものに「女」がつくという指摘は適切だとは言えない。

そこで、本論文では、「女～」を拘束形態素の「女(ジョ)～」と自由形態素の「女(オンナ)～」に分けて議論を進めていく。

まず、「女(ジョ)～」の接続についてであるが、「女(ジョ)」は「児」「優」「王」「帝」「中」などといった「音読み漢字」の前につくのが一般的である。「女(ジョ)～」のつく語は単語として定着度が高く、「女優」「女兒」「女王」などの語例が大半である。例えば、次のようなものである。

- (65) 「ちょっと待ってね」梨乃は、ハンドバッグから、いつも持って歩いている小さな時刻表を出した。ロケの多い女優にとって、時刻表は必携品である。  
(山村美紗『失恋地帯』)
- (66) 「七五三」とは、3歳の男女児・5歳の男児・7歳の女兒がその年齢(数え年あるいは満)に達した十一月十五日に神社にお参りして成長を感謝し、将来の幸せを祈るお祝いの行事である。(分担不明『冠婚葬祭実用辞典』)
- (67) 女帝と新羅の女王 古代における「朝鮮の女王」がどのような歴史的背景をになって姿を現わすのか、それは興味あるテーマに違いない。(木下礼仁『日本の古代』)(再掲=(45))

次に、「女(ジョ)～」のつく語は安定性があり、明確な増減は見られないが、「女医」「女中」「女工」「女高生」など出現頻度の低いことばは置き換えが起きている。

<sup>12</sup> 「拘束形態素」と「自由形態素」については、第2章の議論の中で詳しく説明する。

(68) ～ (70) で示す。

(68) 「女中」は「お手伝いさん」と言い換えがされている。「お手伝いさん」といくら呼んでも、「女中、女中」とこき使っていた時と実態が変わらなければ、何にもならない。(朝日 1985/2/4)

(69) 工場長に八木幸吉さんという方が来られました。「みなさんを女工さんではなく、女子従業員さんと呼ばせていただきます」。これが第一声でした。(朝日 2009/3/22)

(70) 女の医師を女医と呼ぶなら、男の医師は男医と呼ぶとか、でなければ、すべて医師で統一するとか、根っこのところから男女平等を実現してほしいと思う。(朝日 1994/9/4)

拘束形態素の「女(ジョ)～」がこのような使用実態と使用変化を見せているのはなぜか。その背後にどのような要因が働いているのか。それらについては、第5章で詳しく検討することとする。

### 1.2.6 「女流～」

「女流～」も、「婦人～」同様、現在では減少しつつあり、あまり使われなくなってきた表現形式である。

「女流～」は「現代では多く女性の芸術家・技術家にいう」(『精選版 日本国語大辞典』)、「現代語では「女流作家」「女流ピアニスト」など、専門的職業を表わす語と結合した一個の人物を示す複合語を作るもの」(遠藤 1983:19)である。

「女流～」は「棋聖」「王将」「作家」「書家」など「囲碁・将棋のタイトルと段位」や「芸術・技芸」など特定分野の職業や身分を表わす語とよく結合する。例えば、次のようなものである。

(71) 梅沢由香里女流棋聖に挑んだ1月の三番勝負は、21日の第1局で快勝、28日の第2局で逆転勝ちして2連勝でタイトルを奪取した。(朝日 2010/2/10)

(72) 大学に入って、それがスウェーデンの女流作家の作品であり、私とその翻

訳というより語りかえの物語を読んでいた頃、作者は遠く海をいくつもへだてて亡くなっていたセルマ・ラーゲルレーヴという人だった、と知った時には、かえってとまどったほどでした。(大江健三郎『あいまいな日本の私』)

- (73) これは無邪気な酒のこぼれ話だが、パリで藤田が売り出した頃、有名な女流詩人ド・ノワイユ伯爵夫人が新進画家フジタをそのサロンに招待した。  
(薩摩治郎八『洋酒天国』)

「芸術・技芸」では、「女流作家」「女流歌人」「女流俳人」の使用例のうち、女流作家樋口一葉、女流歌人和泉式部、女流俳人田上菊舎など歴史的人物を指すケースが大半である。

- (74) 「一葉忌」は明治の女流作家、樋口一葉の忌日(11月23日)。彼女は当時、雑誌『都の花』に『うもれ木』を発表。(朝日 2008/12/2)

- (75) 平安時代の女流歌人、和泉式部が立ち寄り、近くの薬師堂にこもったとの伝承も残る。(朝日 2007/8/26)

「囲碁・将棋のタイトルと段位」のことばと結合する「女流～」は固有の称号であるため安定しているが、「芸術・技芸」のことばと結合する「女流～」は「女性～」に置き換えられている。

- (76) 10月2日に山田、劉の両男性棋士が、同3日に万波、李の両女性棋士がそれぞれ朝鮮通信使ゆかりの地、同市鞆の浦を舞台に対戦する。(朝日 2010/8/12)

- (77) 「木はえらいわね、じっとしている」これは去年の三月二十五日に、下見に同行してきた女性編集者が、やはり同行の女性画家に洩らした感想である。  
(阪田寛夫『菜の花さくら』)

「女流～」がなぜ「囲碁・将棋のタイトルと段位」と「芸術・技芸」のことばによくつくのか。なぜ、その使用が減少し、置き換えが起きているのか。それらにつ

いては、第6章で詳述する。

### 1.2.7 「女（オンナ）～」

自由形態素の「女（オンナ）～」に後続する要素には年齢制限が見られ、成人女性を表わす要素に前接するのが一般的である。例えば、次のようなものである。

(78) 「どうぞ」女主人の合図で一斉に立ちあがる。やはりフォアグラとトリフのあたりに群がる。人をかき分けて取らなければなるまい。(阿刀田高『Vの悲劇』)

(79) ある女芸人の楽屋を舞台に、彼女が芸一筋にしか生きられなかった不器用さや2度の結婚と離婚、薬物中毒など悲喜こもごもの人生を語り、演じてみせる物語だ。(朝日 2010/3/5)

「軽んじることのできるものには「女」が、まともな職業には「女性」がつく」(佐竹秀雄 2001:78)と指摘されているが、実際、(80)～(82)の「教師」「社長」「弁護士」のような一概にそうとは言えない職業や役職につく場合も少なくない。

(80) 「その女のことで、なにか耳にした話はありませんか」後輩の女教師に対して、いつか敬語を使っていた。(小林久三『心霊写真殺人事件』)

(81) エージェントの女社長に、ニューヨークへ行くように言われた。仕事ではなかった。トップモデルが一堂に会する撮影があつて、それを見てこいと言われたのだ。(鎌田敏夫『Body & money』)

(82) そればかりか、いきなり目の前に現れた女弁護士とその姪とが、彼に思いもよらなかった別の人生を与えたのである。(小池真理子『CLASSY.』)

「女（オンナ）～」は減少傾向を見せ、次の(83)と(84)のような固定的に使われたことばや固有名詞につく特別な場合を除き、「女性～」に言い換えられるようになっている。

- (83) a. 菊舎は諸国を巡って俳句を作り「女芭蕉」(\*女性芭蕉)と評された。長門国田耕村(今の同町田耕)の生まれで、実家は長府藩士。夫と死別後に俳人として頭角を現し、おおらかで開放的な作風が特徴という。(朝日 2010/5/29)
- b. 「柔道は男子のものであり、あくまで『女子柔道』という扱いだっただ。女は出産をする弱きものとして扱われ、先生方も練習で気を使っているようだった」。創生期の日本女子柔道界をリードし、「女三四郎」(\*女性三四郎)と呼ばれた山口香(45)は振り返る。(朝日 2010/8/31) (再掲=(44a))
- (84) 「どうぞ」女主人(\*女性主人)の合図で一斉に立ちあがる。やはりフォアグラとトリフのあたりに群がる。人をかき分けて取らなければなるまい。(阿刀田高『Vの悲劇』)(再掲=(78))

自由形態素の「女(オンナ)～」がなぜこのような使用実態、接続制約及び使用変化をなしているのか。言語使用者は「女(オンナ)～」にどのようなニュアンスや語感を持っているのか。「女(オンナ)～」には、先行研究が指摘している「からかい、やっかみと偏見」が感じられるのか。それらについては、用例分析やアンケート調査などを通して第7章で詳しく考察する。

### 1.2.8 「男性標示語」

以上、1.2.2～1.2.7において、本論文の第2章以降で検討する主要な女性標示語である「女性～」「女子～」「婦人～」「女(ジョ)～」「女流～」「女(オンナ)～」の六形式それぞれの使用と接続を概観してきた。ここで女性標示語と対照するために取り上げる「男性標示語」について概観する。

遠藤(1997b:97)は「「女性議員」「女性エコノミスト」と紹介された女性はいるが、男性の登場人物の中で、「男性議員」「男性エコノミスト」と紹介された人物はいない。「男性冠詞」はないのである」と述べている。しかし、「男性冠詞」はないのではなく、「女性冠詞」に比べて少ないのである。

新聞の記事表現において暗黙裏に“標準”であるとされる男性が、職業に「男性

冠詞」をかぶせられ「男性であること」をことさら述べたてられるケースは、女性に比べ、非常に少ない（田中・諸橋 1996:50）。しかし、「男性標示語」の使用頻度は直線的な増加傾向を示し、特に「男性」のつくことばの増加が激しい（田中他 2011:136-152）。

男性標示語には主に「男～」「男子～」「男性～」の三形式がある<sup>13</sup>。「男～」は冠されることばが限られ、「男子～」は「学生」の身分を表わす語に冠するのが一般的である。「男性～」は「学生、高校生、生徒」などの未成年者を表わすことばを除いては、後項要素が多種多様で、制限があまり見られない。

上野・メディアの中の性差別を考える会（1996:154）は、「家庭内や社会においてこれまで「女性向け、女性の世界」とされてきた分野に男性が入ったときには、少数派である男性に「男性○○」と冠をつけ、「男性の世界」と思われてきた分野に女性が入った場合、その世界で少数派である女性に「女性冠」をつけている。」と述べている。例えば、次のようなものである。

- (85) 移送や訪問入浴なんかは居ると思うんですが、単独で身体介護や生活支援でお宅に入る男性ヘルパーって少ないのかなあ…。(Yahoo!ブログ 2008)
- (86) 最近では、女性でも看護婦とは言わずに看護師という呼び方が定着してきましたが、看護師という呼び方に変わるのには何かきっかけがあったのでしょうか？余談かも知れませんが保育園の保母さんも今は保育士さんと呼んでいます。また女性の職場だった保育園も場所によっては男性保育士さんも働いています。この背景はやはり男女同権の時代になってきたと言う事ではないのでしょうか？(Yahoo!知恵袋 2005)
- (87) 峡東地区の看護師でつくる山梨厚生会 516 人のうち男性看護師は 30 人。山梨南中の卒業生で、講師を務めた山下修看護師長は「男性もぜひなってほしい」と呼びかけた。(朝日 2012/6/2)

<sup>13</sup> ほかには、「少年～」「イケメン～」という「男性標示語」があるが、出現頻度が低く、用例数が少ないため、本論文ではこれらの「男性標示語」を考察の対象としない。

(1) 今夏、「中学ナンバー1」に輝いた津市の少年ゴルファーが、世界ゴルフの4大メジャートーナメントの一つ「マスターズの舞台に立ちたい」と、夢への挑戦を続ける。(朝日 2011/9/29)

(2) イケメン評論家で作家の内藤みかさんは、武将隊人気は東日本大震災後に加速したとみる。混乱の世を生き抜くことができる強い男子を求める女子が増えたのだという。(朝日 2012/12/23)

しかし、実際の用例を見てみると、必ずしもそういった状況だけではない。男性標示語の性標示語の中でのウェートは高くなっており、「男性向け、男性の世界」とされてきた分野の職業における男性標示語の使用も珍しくない。例えば、(88)～(91)の「男性議員」「男性警察官」「男性医師」「男性職員」などである。

(88) 稲田氏は男性議員に元気がないことを理由に挙げる。「野党になって権力争いが減ったからなんでしょう。男性の元気がないから女性が目立つのかもしれません」。(朝日 2010/12/3)

(89) 「ええ。あなたは、警視庁に在籍する複数の男性警察官と、お付き合いがあるそうね」かりほは一度目を伏せ、すくい上げるように美希を見直した。(逢坂剛『[ノスリ]の巣』)

(90) このほか、鳥取市内の書店で漫画本 10 冊を万引きしたとして、東部県税事務所の男性主事 (32) を停職 6 カ月、時速 55 キロの速度超過をした中部療育園の非常勤職員の 男性医師 (65) を戒告の懲戒処分にした。(朝日 2013/7/9)

(91) 歯科衛生士では押さえきれない時は、施設の男性職員や男性歯科技工士に協力してもらう。(瀬畑宏『これから始める障害者歯科』)

男性標示語はどのような推移を経て現在の使用実態になっているのか、その背後にどのような要素が絡んでいるのか。それらについては、第 8 章で詳述する。

### 1.3 研究方法

本論文は、基本的には情報を網羅的に検索できる新聞のデータをもとに主要な「女性標示語」の「女性～」「婦人～」「女子～」「女～」「女流～」を中心に、その使用実態、使用の要因及び社会との関わりに注目し議論を進めていくが、「女性標示語」と対照するために「男性標示語」も考察の対象に加える。

また、データの多様性を考慮し、新聞以外のジャンルでの使用を見るために、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) を併用する。

さらに、必要に応じて、日本語母語話者を対象とするアンケート調査も実施する。

### 1.3.1 データの概要

#### 1.3.1.1 『朝日新聞』の「聞蔵Ⅱビジュアル」

本論文では、日本で発行部数が第二位で、購読率の高い全国紙である『朝日新聞』を利用する。検索対象は『朝日新聞』の朝夕刊とし、記事検索には朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を用いる。

「聞蔵Ⅱビジュアル」は朝日新聞社が提供する公共図書館、大学図書館向けの高速度記事検索データベースであり、全地域面を収録（沖縄を除く）し、全国各地の出来事に関する記事が検索可能である。「聞蔵Ⅱビジュアル」は紙面イメージや切り抜きイメージなどの「ビジュアル的要素」を搭載、明治12年の創刊号から今日までの130年を超える紙面から記事・広告約1300万件が検索・閲覧することができる日本国内最大級の記事データベースである。

#### 1.3.1.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「中納言」

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）は、国立国語研究所で開発された現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築されたコーパスである。書籍全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律など、ジャンルを超えた1億430万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している均衡コーパスである。本論文では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』登録制オンライン版の「中納言」を利用する。

「中納言」は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のオンラインツールである。短単位・長単位・文字列の三つの方法、さらにコーパスに付与された形態論情報を組み合わせた高度な検索を行うことができるWebアプリケーションである。

### 1.3.2 データの収集

本論文では、必要に応じて、『朝日新聞』のデータベースから五年おき65年分の調査や、一年間の用例の調査、五年連続で各年の用例を抽出するなど、様々な調査を行う。1985年から今日までの記事を検索する場合は、対象紙誌名を朝日新聞（ア

エラと週刊朝日を除く)とし、キーワードを各表現形式とした。1879年から1984年までの記事を検索する場合は、朝日新聞縮刷版を利用し、発行社を東京と大阪、朝夕刊を朝刊と夕刊、キーワードを各表現形式にする。

検索でヒットした複数の用例の中から、まず、「女性雑誌」「女性財団」「女流陶芸祭」「婦人用品」など、男性標示語の中からは「男装」「男子更衣室」「男子研修」「男性団体」「男性支配」など、全体で人間を表わしていない用例を除外した。そして、さらに、全体で人間を表わしている用例の中から、「女子大教授」(女子大学の教授)、「女性史研究家」(女性史の研究家)、「女子監督」(女子チームの監督)、「男子監督」(男子チームの監督)など性別が判断しにくい用例や「女婿」(娘婿)など男性を表わす用例を考察対象から除外した。

こうして得られたデータを再度『朝日新聞』のデータベースでその出現記事数と延べ語数を精査し、各表現形式の延べ語数に基づき表を作成した。

また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「中納言」では、文字列検索で各表現形式をキーワードに用例を検索する。「中納言」では、検索した結果から最大500件しか表示できないため、各表現形式に関する用例は「中納言」からは収集するが、それぞれの使用頻度と割合などに関する調査については「中納言」は利用しない。

### 1.3.3 分析の手法

具体的な表現形式の議論に入る前に、ここで、まず各表現形式に共通する本論文の分析手法について述べる。

分析手法を説明するのに先立って、本論文における研究の視点を述べておく。1.1.2節で取り上げた先行研究から分かるように、性差別的な視点から女性標示語を研究する先行研究がほとんどである。それに対し、本論文はニュートラルな視点に立ち、データから得られた事実をもとに女性標示語を分析する。本論文で言うニュートラルな視点とは、先行研究の分析結果や「女性標示語」に対するステレオタイプに影響・左右されず、実際の言語データにしっかりと向き合っ客観的、かつ正確に言語現象を分析することである。

そして、本論文の分析手法は以下のようにまとめることができる。

第一に、新聞のデータベースと書き言葉のコーパスを利用する。従来の研究は、

言語現象の指摘にとどまり、具体的なデータを見ないものが多い（寿岳 1979、中村 1995、れいのるず=秋葉 1998、佐竹秀雄 2001 等）。また、一方で、新聞のデータは大量に調査するが、数値の議論に偏り、女性標示語に関する詳細な考察が不足している研究も多くある（田中和子 1984、田中他 2006,2009a,2011 等）。本論文は、データの多様性を念頭に、新聞のデータベースと書き言葉のコーパスを併用する。新聞のデータベースでは各表現形式の使用実態、使用変化、使用頻度などを、書き言葉のコーパスでは新聞以外のジャンルでの使用状況を見る。

第二に、各表現形式の使用実態を把握するためには、その使用環境と使われ方を分析することが重要である。先行研究では、実際の用例に対する考察がほとんど行われていないため、女性標示語の使用は差別的だという指摘が適切だと断言できない。本論文は、女性標示語がどのような言語環境で使われているのか、どのような使われ方なのかに着目し、データから得られた事実をもとに女性標示語を分析する。

第三に、ある言語現象を分析するには、その言語現象の意味、構造などの言語的要素を分析するのが当然なことである。しかしながら、女性標示語は言語現象として指摘され研究されてきたものの、言語そのものを分析対象としないフェミニズム理論の立場からの研究がほとんどである。無論、フェミニズム理論の立場から言語現象を研究することに意義がないわけではないが、言語学的側面を全て捨象して、数値の非対称性などから、それは差別的だと断定するのは妥当であるとは言いにくい。本論文は、各表現形式の使用実態と使用変化をまず意味、語構成、形態的特徴などの言語学的側面から考察する。そして、言語学的側面だけで説明できない場合は、フェミニズム理論などの社会的要素を考慮し、考察を行う。言語学的側面のほかに社会的側面を考慮する理由は二つある。一つは、女性標示語は社会言語学の研究領域に含まれている重要な研究課題の一つであるためである。もう一つは、これまでの先行研究の成果を踏まえ、さらなる進展を目指すならば、先行研究と関連する記述が必要と考えるためである。

以上で述べてきた本論文の研究対象、研究課題、研究手法及び研究視点を簡単に図示すると、図 1-3 になる。

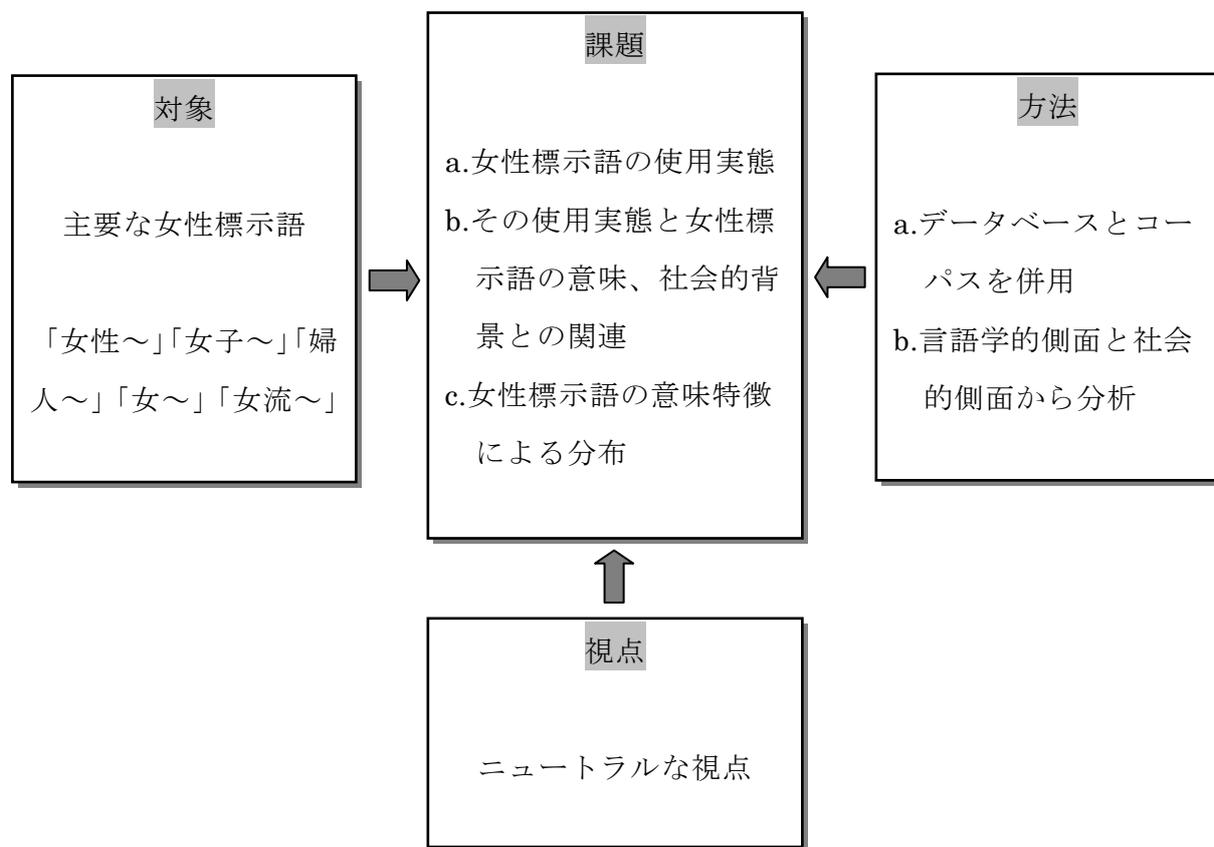


図 1-3 本論文の対象、課題、方法と視点

#### 1.4 本論文の構成及び各章の概要

本論文は、主要な「女性標示語」の「女性～」「女子～」「婦人～」「女流～」「女～」を中心に、その使用方法、使用の要因及び社会的背景との関連に注目し議論を進めていくが、「女性標示語」との対照で「男性標示語」も考察対象とする。以下で、本論文の構成及び各章の概要を簡単に述べる。

第1章「本論文の研究背景と位置付け」は総論に当たり、第2章「女性～」、第3章「女子～」、第4章「婦人～」、第5章「女（ジョ）～」、第6章「女流～」及び第7章「女（オンナ）～」は各形式についての具体的な考察を行う内容である。第8章は第2章から第7章まで見た「女性標示語」との対照としての「男性標示語」に関する考察である。それは、女性を指すことばが男性を指すことばとどのように異

なっているのかなど、女性標示語をより客観的に把握するためである。第9章「まとめと今後の課題」は終章であり、本論文全体からの結論をまとめ、今後の課題について述べる。

以下では、各章の概要を述べる。

第1章である本章では、研究背景と研究課題を述べ、本論文の位置付けを説明した。そして、本論文で取り上げる形式の使用状況を概観した後、本論文の研究方法、構成及び概要について述べた。

第2章では、「女性標示語」の中で最も汎用性の高い「女性～」を取り上げる。先行研究の考察結果を踏まえながら、「女性～」の過去と現在を分析し、優位を占めている要因を考察する。

第3章では、「女性～」に次いで汎用性の高い「女子～」を取り上げ、「女子～」は「教育関連」と「スポーツ関連」のことばの前によくつき、「職業関連」のことばの前にも現れることを主張する。そして、「女子～」が、「教育関連」と「スポーツ関連」のことばの前によくつき、「職業関連」のことばが置き換えられるようになった原因としては、「女子の語義」や「フェミニズム運動の影響」などが考えられることを指摘する。

第4章では、かつては汎用性が高かったが現在では使用が減少している「婦人～」を取り上げ、「婦人～」の使用実態と使用変化を見る。と同時に、その使用変化を引き起こすのは「婦」の字形、「婦人」の語義、語感と対語がないといった言語的要因やフェミニズム運動がもたらした言語の性差別への批判と変革など社会的要因が関与していると考えられることを主張する。

女性標示語「女～」には拘束形態素の「ジョ・ニョ・メ」と自由形態素の「オンナ」がある。本論文では、前者を「女（ジョ）～」、後者を「女（オンナ）～」として、分けて分析する。第5章では、まず拘束形態素の「女（ジョ）～」を取り上げる。分析の結果、次のような結論を導き出した。「女（ジョ）～」は後続する要素が限られ、「音読み漢字」と結合するのが一般的であり、「女（ジョ）～」と結合する語は定着度が高く、定番化している語例が大半である。そして、「女（ジョ）～」と結合する語には明確な増減は見られないが、「女医」「女中」「女高生」など、出現頻度の低いことばでは置き換えが起きている。このような結果が得られたのは、「女（ジョ）～」が持つ「性別の一つ」という意味と拘束形態素という形態的特徴に深く関

わっている。

第6章では、減少傾向を見せる「女流～」を取り上げる。五年間のデータを用いて、新聞記事に現れている「女流～」の使用と接続制約を見る。そして、先行研究の結果を踏まえて、「女流～」の使用が減少する要因と、その一方で依然として一定量の使用が見られる要因について考察する。「女流～」の使用が減少する要因には、①「言語上の非対称性」、②「フェミニズム運動の影響」、③「新聞社のガイドラインの実施」の三つが、依然として使用されている要因には、①「社会・文化的要素」、②「改革時間の不足」、③「プラス価値の語につく」、④「固有の称号の特性」、⑤「新聞固有の事情」の五つがあることを指摘する。

第7章では、意味が特化された自由形態素の「女（オンナ）～」を取り上げる。「女（オンナ）～」の使用実態、接続制約と使用変化を観察し、それらを引き起こす要因について考察する。そして、第5章で残された課題である拘束形態素の「女（ジョ）～」に置き換えが生じた理由と「女～」が女性標示語の体系内で特別な位置付けになっている理由についても検討する。「女（オンナ）～」に後続する要素には年齢制限があり、後続できる要素が限られている。「女（オンナ）～」は接続制約が厳しく、その使用の減少には意味的特徴、形態的特徴及びフェミニズム運動が深く関わっている。すなわち、日本語の女性標示語「女（オンナ）～」は単独用法の「女」の影響で性的ニュアンスを担うようになり、女性標示語の体系内において特別な意味を担うようになったことで特化されている。そして、フェミニズム運動の影響を受け、その主張を取り入れた各種「表現ガイドライン」の実施も「女（オンナ～）」と「女（ジョ）～」の置き換えを引き起こした要因として捉えられる。

第8章では、「女性標示語」との対照で「男性標示語」を取り上げる。「男性標示語」の推移を分析し、男性というジェンダーがどのように表現されているのかを考察する。戦後新聞紙面における「男性標示語」の出現頻度は高くなり、各「男性標示語」も年を追って変化している。「男～」と「男子～」の割合は低下したのに対し、「男性～」の割合が上昇したが、「男流～」は皆無である。

第9章では、本論文全体における結論と共に、課題となる今後の研究の方向について述べる。

## 第2章 「女性～」

---

### 2.1 はじめに

女性標示語の中で、「女性～」は最も汎用性が高い表現形式である。

「女性」は現在では女の一般呼称として定着しているが、もともとは仏教的な女性観から発生したことばであり、「「によしょう」から「じよせい」へ移ってきたことば」（遠藤 1983:6）である。

「全般的に女性冠詞はその数を減じてきているように思われ、つくとすれば“女性”に収斂していつている」（田中・諸橋 1996:52）、「最近は「女性」の冠詞がふつうとなった」（れいのるず＝秋葉 1998:229）、「この20年間に「女○○」は減って「女性○○」が増えた」（佐竹秀雄 2001:73）など、「女性～」の使用変化について指摘している先行研究が少なくない。

しかし、先行研究では「女性～」がなぜ増えたのか、なぜふつうとなったのか、なぜほかの女性標示語ではなく「女性～」に収斂しているのかに関してはほとんど言及されていない。唯一、田中他（2011）が、新聞のデータに基づき、「女性～」の使用の増加傾向と後項要素の特徴について簡単に触れているが、詳細な分析を行ってはいない。

本章では、まず、主に新聞のデータを用いて、「女性～」の使用実態を明らかにする。そして、「女性～」の接続制約、使用変化及びその汎用性の高さを「女性～」の形態的特徴と単独用法の「女性」の意味（知的な側面と情意的な側面）から考察する。

### 2.2 調査の概要

本章では、『朝日新聞』一年分の記事の朝夕刊（2010年1月1日から12月31日まで）を調査し、「女性～」の用例を収集した。

検索でヒットした用例のうち、「女性財団」「女性問題」「女性ロボット」「女性コース」など全体で女性を表わしていないものや「女性団体職員」「女性団体役員」

「女性連盟会長」「女性史研究者」「女性被害犯罪捜査官」など性別が判断しにくい用例は除外した<sup>1</sup>。

本調査で、「女性職員」「女性客」「女性社員」「女性店員」「女性教諭」「女性従業員」などの使用例が得られた。次節以降では、得られたデータを2.3節の表2-2と図2-1に示し、分析する。

## 2.3 分析

本節では、まず、増加傾向を指摘している田中他（2011）の調査結果を紹介する<sup>2</sup>。そして、本章の調査結果に基づき、「女性～」の使用実態と接続制約を分析する。

### 2.3.1 田中他（2011）の調査結果

田中他（2011）は、1985年から五年おきに五回行った新聞紙面調査のデータをもとに、「女性冠詞」、「性を含み込んだ職業語」と「他者との関係で女男があらわされることば」の経年分析をしている。

下記の表2-1は田中他（2011）による「女性～」のつく語の推移を示したものである。

---

<sup>1</sup> 「女性団体職員」「女性団体役員」「女性連盟会長」「女性史研究者」はそれぞれ「女性団体の職員」「女性団体の役員」「女性連盟の会長」「女性史の研究者」の意味であるため、指す人物も必ずしも女性だとは限らない。同様に、「女性被害犯罪捜査官」も「女性被害犯罪の捜査官」を意味しており、指す人物が男性でも女性でも可能である。例えば、次のような用例である。

- (1) a. 女性史研究者の高群逸枝については、病気で亡くなる前、研究を支えてきた夫に言った言葉が紹介されている。「私がいかにあなたが好きだったか、ほんとうに私たちは一体になりました」（朝日 2010/1/26）
- b. 支援者もほっとした表情。一審で大江さん側の証人に立った沖縄女性史研究者の宮城晴美さんは「勝手な都合で証言をすり替えようとする動きへの歯止めとなった」。（朝日 2008/11/1）
- (2) 同課刑事指導官兼同課犯罪捜査支援室長（捜査一課広域捜査官兼同課女性被害犯罪捜査官）坪川央人（朝日 2010/3/17）

<sup>2</sup> 「女性～」の使用変化について、第2章以降の女性標示語の各論に当たる章でも触れるが、本章では、田中他（2011）の調査結果を援用し、「女性～」の変化を見る。

表 2-1 「女性～」の推移（延べ語数、三紙合計、半月分、上位 8 語）<sup>3</sup>

1985 年		1991 年		1996 年		2001 年		2006 年	
語 例		語 例		語 例		語 例		語 例	
女性秘書	5	女性作家	9	女性候補	19	女性記者	23	女性会社員	14
女性議長	3	女性職員	7	女性議員	17	女性職員	17	女性医師	14
女性国会議員	3	女性大使	6	女性詩人	11	女性社員	14	女性記者	10
女性政治家	3	女性議員	5	女性会社員	8	女性作家	13	女性作家	7
女性留学生	3	女性市長	5	女性監督	7	女性従業員	8	女性教諭	6
女性記者	2	女性ファン	4	女性技術者	7	女性監督	7	女性天皇	6
女性職員	2	女性労働者	4	女性作家	6	女性店員	5	女性社員	5
女性社員	2	女性監督	3	女性職員	6	女性検事	5	女性ジャーナリスト	5
その他	75	その他	85	その他	97	その他	91	その他	98
計	98	128	178	183	165				

（田中他（2011:208-213）のデータをもとに作成）

表 2-1 から分かるように、「女性～」は、2006 年はやや減少したが、1985 年から 2001 年までは増加傾向を見せている。

### 2.3.2 「女性～」の使用実態と接続制約

『朝日新聞』2010 年一年分の記事を調査した結果、『朝日新聞』から「女性～」の語例が 458 例抽出された。本調査で抽出した「女性～」のデータをまとめると、表 2-2 のとおりである。また、「女性～」が女性標示語の中でどの程度の割合を占めるのかを見るため、図 2-1 を作成した。

<sup>3</sup> 田中他（2011）は朝日・毎日・読売の三紙の半月分のデータを取っているため、本章における調査期間とは異なっているが、データとして参考になる。延べ語数 4 までの語例を数えると、1985 年～2006 年までそれぞれ、1 語、7 語、13 語、10 語、8 語で、年間平均 7.8 語である。そこで、1985 年～2006 年の出現頻度上位 8 語をリストアップし、表 2-1 にまとめた。

表 2-2 「女性～」の語例<sup>4</sup>（延べ語数、2010年一年分）

語 例		語 例		語 例	
女性職員	496	女性警察官	79	女性アイドル	38
女性客	394	女性議員	78	女性運転士	38
女性会社員	318	女性候補	73	女性被告	37
女性店員	305	女性作家	73	女性教員	35
女性教諭	234	女性経営者	69	女性監督	34
女性裁判員	233	女性社長	63	女性会員	33
女性従業員	188	女性スタッフ	61	女性局員	32
女性患者	150	女性歌手	56	女性市長	32
女性社員	119	女性研究者	54	女性記者	31
女性医師	107	女性部長	47	女性役員	31
女性看護師	106	女性教師	47	女性騎手	30
女性管理職	94	女性ファン	44	その他	1964
計	5823				

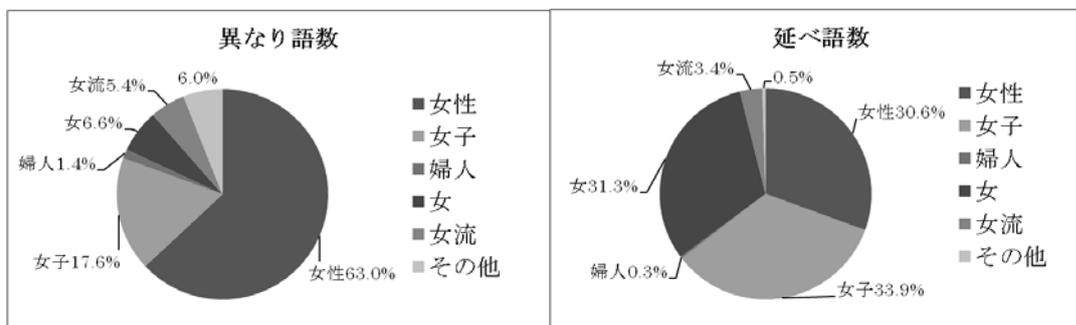


図 2-1 「女性～」の割合（再掲 p. 20）

表 2-2 と図 2-1 から次のことが言える。まず、「女性～」のつく語は多く、その中で新聞においてよく用いられるのは「女性職員」「女性客」「女性会社員」「女性店員」である。次に、2010年一年間の新聞記事に現れた「女性～」の語例は一位で全体の63.0%を占めている。最後に、延べ語数では第一位の「女子～」と第二位の「女～」

<sup>4</sup> 表 2-2 は、「女性～」の延べ語数 30 までの語例を挙げる。その他の語例は付表 1 に示す。

とさほど変わらず、全体の 30.6%という高い割合を占めている。

表 2-1 と表 2-2 の語例から分かるように、「女性～」に後続することばは多種多様であるが、後項要素には「女子～」、「女流～」と「女～」に見られるようなはっきりした特徴が見られない。あえて言えば、「女性職員」「女性記者」「女性社員」などがよく見られる。(1)～(3)で示す。

なお、「女性～」のつく語の豊富さと造語力については、第3章でタイプ・トークン比 (TTR)<sup>5</sup>を算出し、「女子～」と比較して検討する。

- (1) JAいしのまきは 21 日、旧桃生支店で金融を担当していた女性職員 (54) が現金約 1 千万円を着服していたと発表した。(朝日 2010/1/22)
- (2) この記事は、看護婦に変装した同誌の女性記者が港区の大学病院に潜入し、こっそり竹下の健在ぶりを覗き見たレポートであった。(岩瀬達哉『われ万死に値す』)
- (3) 開発にあたっては女性社員の意見を全面的に反映。10 サンプルを 20 人が試し、「ベスト」と太鼓判を押されたものを商品化したという。(朝日 2010/12/4)

「女性～」は様々な語に前接し、接続制約がないように見える。しかし、(4) と (5) のような用例があるものの、「女性～」は「児童」「学生」「生徒」など低年齢を表わす教育関連のことばと結合しないのが一般的である (= (6)～(8))。

- (4) 料理を作ったのは長崎での生活が長い女性留学生たち。日本にはない特別な調味料を使うこだわりで、現地の味を再現した。長崎大で海洋学を学ぶアイダ・サーティンブルさん (36) は「両親が死んだ子どもたちが多いと聞いている。きょう集まったお金は、子どもたちの将来のために使ってほしい」と話した。(朝日 2005/3/7)
- (5) この本は、女子生徒に向けて現役女性研究者たちが発信する、科学研究者の世界への招待状である。6 人の女性科学研究者と 4 人の女性大学院生が、自らの進路選択や研究者生活を語る。(朝日 2008/8/3)

<sup>5</sup> タイプ・トークン比 (TTR) は、延べ語数に対する異なり語数の比率 (Type-Token Ratio) で、トークン比とも呼ばれ、ある内容を表現する際に使われた語彙を対象にするものである。

- (6) 平成十六年六月一日、長崎県佐世保市の小学校で小学六年の女子児童（\*女性児童）が同級生の女子児童（\*女性児童）を斬り殺すという事件が起こった。（渡部昇一『歴史の真実・日本の教訓』）
- (7) 打ち合わせにやって来たのは、就職活動中の女子学生（\*女性学生）を思わせるような紺のスーツ姿の若い女性編集者だった。（中上紀『すばる』）
- (8) 手のひらよりも少し大きな手帳を開くと、写真が1枚はさんであつた。にいなさんと同級生だった高校3年の女子生徒（\*女性生徒）（18）は、今もこの写真を大切に持ち歩いている。（朝日 2010/12/26）

そして、以下の（9）と（10）に示したように、「女性～」はふつう「囲碁・将棋のタイトルと段位」を表わすことばにもつかない。これは、囲碁・将棋は専門分野で、囲碁・将棋のタイトルと段位は固有の称号であるため、「女流～」の使用が定着しているためだと考えられる。

- (9) 元女流棋聖の吉原由香里五段と元女流本因坊の知念かおり四段の公開対局も。（朝日 2012/5/25）
- (10) 女流棋戦では、里見香奈女流四冠（女流名人、女流王位、女流王将、倉敷藤花）が誕生。（朝日 2012/12/25）

また、佐竹秀雄（2001:78）は、「スパイ・詐欺師・泥棒のような軽んじることのできるものには「女」が、社長・講釈師のようなまともな職業には「女性」がつく」と、「女性標示語」としての「女性～」の接続について指摘している。

確かに、「女性社長」「女性講釈師」「女性研究員」「女性市長」「女性弁護士」など、「女性～」がいわゆるまともな職業と結合する語例は少なくない。例えば、次の（11）～（14）である。

- (11) ただ、「私がこの一輪挿しをすごく気に入ったのを見て、その工房の女性社長がプレゼントしてくれたんです」。自宅では、リビングの棚の上に置いている。花束をもらったりすると、そこから気に入った花を選んで挿す。（読売新聞 2004）

- (12) いま三十歳、若い女性弁護士の成長の記録である—と、本書を紹介したら、本人は不服かもしれない。ここで憤りを込めて描かれているのは、外国人に対する日本社会の排他性である。(吉岡忍・細谷正充『河北新報』)
- (13) 市長選で新人が当選すれば史上七人目の女性市長となる。市議選では前回初めて女性当選者が千人の大台に乗った。今回も記録を更新しそうだ。(読売新聞 2003)
- (14) この本は、女子生徒に向けて現役女性研究者たちが発信する、科学研究者の世界への招待状である。6人の女性科学研究者と4人の女性大学院生が、自らの進路選択や研究者生活を語る。(朝日 2008/8/3) (再掲= (5))

しかし、一方で、(15)～(18)で示すように、「女性スパイ」「女性詐欺師」「女性スリ」「女性殺人犯」などの語例も見られる。

- (15) 「第二に、われわれはふたりの女性スパイを湧谷の家に送りこみ、湧谷のゴルフゆきの日程を掌握し、作戦司令部に通報しております。あの通報なしには、有能なコロンブスといえども、誘拐の作戦行動を起し得なかったであります」なにあってやがる、と水田はまた腹を立てた。(深田祐介『暗闇商人』)
- (16) 『逆転の借金経済学』などの著書がある借金コンサルタントの中島寿一さんは、女性詐欺師の横行について、こう分析する。(朝日 1999/4/26)
- (17) 東京・池袋の東武百貨店で6日午後、買い物客から財布を抜き取ろうとした72歳の女性スリが、警視庁捜査3課にスリ未遂の現行犯で逮捕された。(朝日 1985/12/7)
- (18) 二〇年代のシカゴを舞台に、悪徳弁護士のメディア操作で無罪となり、スターになっていく女性殺人犯たちを乾いた笑いで描いている。(朝日 1998/10/15)

したがって、佐竹秀雄(2001)の指摘は必ずしも適切だとは言えない。この点については、第1章でも簡単に触れているが、第7章で改めて詳しく議論する。

## 2.3.3 「女性～」の使われ方

2.3.2 節では「女性～」の使用実態と接続制約を見た。本節では、用例を通して「女性～」の使われ方について検討する。

寿岳（1979:141）は、「女でよくがんばっていますという賞賛の気持ちがある時は女性○○、あるいはもっと奉って、女流○○ということばを与え、でしゃばってせんでもいいことをするというひんしゅくの気持ちがあるときは、女○○」と述べ、「女～」 「女性～」 「女流～」 の使い分けを指摘している。

「女性～」は「史上初」「世界初」「日本初」などのような「～初」や「唯一」などのことばと共に共起した際は、「女性～」に珍しさ、新しさと賞賛の気持ちを感じられる場合がある（＝（19）～（22））。しかし、単独の「女性～」には賞賛の気持ちもひんしゅくの気持ちも感じられず、プラスイメージもマイナスイメージも読み取れないのがふつうである（＝（23）～（26））。

- (19) 荻野は約 150 年前、今の熊谷市に生まれ、34 歳で日本初の女性医師になった。その後は、女性の地位向上や衛生知識の普及に力を尽くしたんだ。（朝日 2008/3/1）
- (20) サッチャー（Margaret Hilda Thatcher 千九百二十五～）→イギリス初の女性首相。在任千九百七十九～九十年。（中山勝・千葉仁志『構造改革のすべてがよくわかる本』）
- (21) バチレ氏はチリ初の女性大統領で、今年 3 月に任期満了で退任。女性の地位や生活環境の向上を図ったことでも知られる。（朝日 2010/9/16）
- (22) シンポジウムを主催したお茶の水女子大の郷通子学長は目下、日本の国立大学で唯一の女性学長である。「出るくいを育て、日本を変えたい」と、女性リーダー育成への意欲を語った。（朝日 2008/8/4）
- (23) それほど大きい店ではなく、女将さんとアルバイトの女の子が一人いるだけですが、彼目当てに通ってくる女性客も何人かいるようです。（山形千佳『素人投稿』）
- (24) たまたまこの夏、パリでアメリカの女性作家の Eさんと知り合った。年齢は七十歳を何年か超えている。（海老坂武『女と男の未来形』）

- (25) 落ち目の女性歌手に、あのプレイボーイが、本気で惚れていたとは思えないのです。一方、彼女は、自分の欲しいものは、どんなことをしてでも手に入れる主義の女ですからね。(西村京太郎『山陰路殺人事件』)
- (26) 開発にあたっては女性社員の意見を全面的に反映。10 サンプルを 20 人が試し、「ベスト」と太鼓判を押されたものを商品化したという。(朝日 2010/12/4) (再掲 = (3))

また、「女性～」は以下の (27) ～ (29) のような性別情報が必要な場合に多用され、(30) ～ (32) が示すような男性標示語がついた「平衡表現<sup>6</sup>」も少なくない。

- (27) 危険、きつい、汚い。3k職場と言われた土木業界で、現場に出る女性社員が少しずつ増えている。宿舎に泊まり込み、職人相手に作業を取り仕切る。大学の土木系学科で学ぶ女子たちは「どぼじょ」と呼ばれ、人の命や生活を守るインフラづくりへの夢を追いかける。(朝日 2010/12/15)
- (28) 現在、公明党の女性議員の割合は、国会議員で 13.0%、全体では 21.7% となっています。人口の約半分は女性です。国民の皆様の意見を広く反映させるため、女性議員の割合を高めていく必要があると考えています。(著者不明『がんばれ！女性議員』)
- (29) 市長選に十七人、市議選に千四百九十四人と女性候補はともに過去最多。市長選で新人が当選すれば史上七人目の女性市長となる。市議選では前回初めて女性当選者が千人の大台に乗った。今回も記録を更新しそうだ。(読売新聞 2003)
- (30) 府では昨年度、制度の対象となる女性職員48 人全員が育児休業を取得した一方、男性職員で育休を取得したのは対象となる 100 人中 1 人だけだった

---

<sup>6</sup> 「平衡表現」とは、ジェンダーに関する情報が不可欠な場合に用いられる「女優」と「男優」、「女子選手」と「男子選手」、「女性作家」と「男性作家」などのような均衡的な表現のことである。田中・諸橋 (1996:54) では、同じような表現を「平行表現」と名付けているが、はっきりした定義が見られない。また、「平行表現」は会話分析においてパラレリズム (parallelism) のことを指して用いられており、「表現やフレーズの繰り返しや韻を踏む音節、文章のつながりを指し、1 人の発話内でも生じれば、2 人以上のやりとりで相手の発話形態を自分の発話に取り込む形で生じることもある (井出里咲子 2008:183)」。例えば、店員: 「no milk this morning ↑.」客: 「no milk this morning ↓. I'll pass on it for right now.」のような発話形態である。田中・諸橋 (1996) の定義の曖昧さと会話分析における用語との混乱を避けるため、本論文では、ジェンダー研究において従来用いられてきた「平行表現」という用語に替えて、「平衡表現」という語を用いる。

という。(朝日 2010/12/17)

- (31) 県教委は 21 日、化粧品などを万引きした川西市立の中学校の女性教諭 (34) と、酒気帯び運転で物損事故を起こした伊丹市の県立高校の男性教諭 (37) の 2 人を、ともに停職 6 カ月の懲戒処分にした。(朝日 2010/12/22)
- (32) 翌月から毎月 1 回の女性警察官の「トレーニング日」に教室を開いたところ、署内で評判に。男性警察官の参加も徐々に増えた。(朝日 2010/7/20)

上記の (27) は土木業界の作業現場で増えている女性のことに関する記事内容である。下線の「女性社員」を無標の「社員」に変えると、文の意味が「土木業界では、現場に出る社員が少なかったが、現在では少しずつ増えている」になる。そうすると、「土木業界では社員は作業現場で作業する」という常識と事実と反し、文法上適格文であっても、意味上非文となる。(28) の「女性議員」の「女性」を取ると、文の意図が伝わらない。(27)、(28) と同様に、(29) の「女性候補」「女性市長」「女性当選者」も性別情報が必要な場合での使用例である。

## 2.4 考察

2.3 節では、「女性～」の使用実態、接続制約と使用変化を分析した。その結果、「女性～」は接続制約が緩く、後項要素が豊富であり、その使用は増加傾向を見ていることが明らかになった。本節では、なぜこのような使用実態と使用変化になっているのかを考察したい。

「女性～」の接続制約が緩く、後項要素が広範にわたり、使用が増加する傾向を見せている要因について、田中他 (2011:144) は、「記者、作家といった職業への女性の進出、また、職員、会社員、社員として企業で働く女性の増加を反映して、“女性” がかんむりにつけられて表記される機会が増えているように見受けられる。」と述べている。

女性の社会進出に従い、女性標示語をつけてそれらの女性を表現するようになったため、「女性～」の使用も増加する。したがって、田中他 (2011) の指摘はある程度正確だと考えられる。しかし、「女子～」「女～」「女流～」「婦人～」ではなく、なぜ「女性～」であったのだろう。田中他 (2011) の指摘以外に言語学的な要因が

働いているように思われる。

そこで本節では、「女性～」の形態的特徴と単独用法の「女性」の意味からその要因を分析する。

#### 2.4.1 「女性～」の形態的特徴と「女性」の意味

「女性～」の接続制約が緩く、後項要素が広範にわたり、使用が増加する傾向を見せている要因を議論するのに先立って、関係する概念を説明しておく。

第1章で、「自由形態素」と「拘束形態素」という用語に触れたが、詳しく説明していない。形態素 (morpheme) は形態論 (morphology)<sup>7</sup> の基本概念であり、意味を持つ最小の単位である。形態素には、「単独で現れることができるもの」と「単独で現れず、他の形式と一緒にのみ現れることができるもの」がある。前者は自由形態素 (free morpheme) あるいは自由形 (free form) と呼ばれて、後者は拘束形態素 (bound morpheme) あるいは拘束形 (bound form) と呼ばれている。ここで、第5章の議論で触れる「異形態」という概念についても述べておく。異形態 (allomorph) とは、「同一の形態素のいくつかの変種」のことである。

日本語の「女性」は、自由形態素である。よって、名詞として単独でも使われる。単独用法の「女性」は「男性」の対語として、女性というジェンダーを表わす。例えば、次のような用例である。

- (33) 以前、他の実験をしたところ、女性は好意をもっている男性に対するほどパーソナル・スペースを大きくとることが分かった。(渋谷昌三『仕事がかまくいく心理学』)
- (34) これも、日本人女性の白人男性に対する憧れの強さという「神話」をもとにした広告で、この広告によりその「神話」は現実のものとして肯定される効果を与えてしまう。(津田幸男『侵略する英語反撃する日本語』)
- (35) 社会的ネットワークが疎である者の死亡の危険度は男性では 2.3 倍、女性

<sup>7</sup> 形態論 (morphology) というのは、言語学において、要素がどのように組み合されて容認可能な語となるのかを扱う部門である。形態論は、派生形態論 (derivational morphology) と屈折形態論 (inflectional morphology) とからなり、どのような要素がどのように組み合わせられて語を作り出しているのかということ扱う (大石 1989: 1)。

では 2.8 倍になった。このような研究は、人にとってまわりの人々の支えがいかに必要かを示している。(高橋恵子『生涯発達心理学』)

「女性」は大人の間人を意味し、一般的に使われる語であるため、使用範囲は「女子」「婦人」「女流」より広い。

例えば、以下の(36)の「お茶くみの女性」と(37)の「受付の女性」のような職業関係の用法や、(38)の「中高年女性」のように、年齢を表わすことばと共起する用法、(39)の「離婚女性」のように婚姻関係のことばに後続する用法が見られる。

(36) 官邸には内閣参事官と、お茶くみの女性が数人いるだけ。これで果たして本当に新政権は無事船出できるのだろうかと不安に思ったものでした。

(大須賀瑞夫『首相官邸』)

(37) 航空会社の社長と、親しい間柄？当然、嘘。社長どころか、受付の女性と話したことさえない。ハッピーツーリストのような弱小企業は、航空会社に相手にされない。(新堂冬樹『カリスマ』)

(38) 日焼けしないからかどっと中高年女性が増え、五十人くらいが水中ウォークするためプールはいっぱいになる。水泳の先生は二十歳代の女性で、ピチピチの赤い水着であったり、セパレーツであったり、そして毎週交替するので、今週はどんな先生かわくわくする。(杉山英一『幸せな新老人』)

(39) ほとんどの離婚女性は、結婚前に働いた経験がないし、あったとしてもごくわずかなので、給料の安いスーパーのレジ、デパートの店員、ウエートレスなどしか、仕事口がない。(ジェーン、コンドン著／石井清子訳『半歩さがって』)

また、「女性」には、(40)の「…女性らしい」、(41)の「女性らしい優しさ」と(42)の「素晴らしい女性」のような、女性の容姿や性格を言う用法もある。

(40) そのフェリペのお相手は、均整のとれた素晴らしい姿をしており、髪は長く赤みがかかった金髪、白い肌にそばかすが点々と魅力的に散らばっている女性らしい。身分もわきまえず、大公の恋人である、ということ自慢し

て歩いているという。(西川和子『狂女王フアナ』)

- (41) a. 時子は、女性らしい優しさと大局を見渡せる賢明さを兼ね備えていたと思われる。(大平智也『平知盛』)
- b. 近々お会いできる方へは、文例のように結ぶと女性らしい優しさがでます。(実著者不明『あいさつ・スピーチと手紙の事典』)
- (42) 裕美ちゃんの肌の美しさは天下一品です。スベスベしてハリがあって色白で、赤ちゃんの肌がそのまま続いているのです。(中略)。裕美ちゃんは十代の頃から芸能界に入っているにもかかわらず、たいへん地味で堅実で、心のある素晴らしい女性です。(うつみ宮土理『うつみ宮土理のカチンカチン体操』)

語の意味には知的な側面と情意的な側面があり、前者は意味で、後者は語感である。語の意味を考察するには、知的な側面としての意味のほかに、情意的な側面の語感も検討すべきだと思われる。

「女性」の語感について言及した先行研究はいくつかある。本論文では、国立国語研究所(以下国研と略称する)(1965)、京極(1998)と山本(2006)の研究結果を援用しながら、「女性」の語感を検討したい。

国研(1965)は、首都圏の大学に通っている112名の大学生(男性60名、女性52名)を対象に「つや／光沢」「直す／修理する」「女性／婦人」「要求／要望」という四組の類義語の語感についてアンケート調査を実施している<sup>8</sup>。国研(1965)によれば、「どちらの方が、より新しい感じのことばですか。」という質問項目に対して、男においても女においても80%以上が、「女性」を、より新しい感じのことばだと答えたという。「女性向けの雑誌」と「婦人向けの雑誌」、どちらの方が、より若い年齢層をねらっている雑誌だという感じがしますか。」という質問項目に対して、112人中1人を除いて、みな「女性向けの雑誌」のほうが、より若い年齢層をねらっている感じがすると答えたそうである。また、「どちらの方が、内容がより高級そうな感じがしますか。」という質問では、8割以上の方が「婦人向けの雑誌」のほうが内容がより高級そうな感じがすると答えたという。調査結果は下記表2-3のとおりである。

<sup>8</sup> 調査協力者の属性と質問項目の詳細などは、国立国語研究所(1965)を参照されたい。

表 2-3 「女性」と「婦人」の語感

問題		問題文	種別		A	B	?	DK	T	傾向	
A B 女 婦 性 人 向 向 け け の の 雑 雑 誌 誌	ア	どちらの方が、 より新しい感じ のことばです か。	大 学 生	男	f	51	8	0	1	60	A
					%	85.0	13.3	0	1.7		
				女	f	42	8	2	0	52	A
					%	80.8	15.4	3.8	0		
		全	f	93	16	2	1	112	A		
		%	83.0	14.3	1.8	0.9					
	イ	どちらの方が、 より若い年齢層 をねらっている 雑誌だという感 じがしますか。	大 学 生	男	f	60	0	0	0	60	A
					%	100	0	0	0		
				女	f	51	1	0	0	52	A
					%	98.1	1.9	0	0		
		全	f	111	1	0	0	112	A		
		%	99.1	0.9	0	0					
ウ	どちらの方が、 内容がより高級 そうな感じがし ますか。	大 学 生	男	f	3	54	2	1	60	B	
				%	5.0	90.0	3.3	1.7			
			女	f	9	39	2	2	52	B	
				%	17.3	75.0	3.8	3.8			
	全	f	12	93	4	3	112	B			
	%	10.7	83.0	3.6	2.7						

(国研(1965:314-315)一部改)

国研(1965)の調査では、「女性」の語感はある程度分かった。しかし、情意的な側面である語感には主観的要因が著しく働くため、時代とともに変化する可能性が十分考えられる。50年前の調査結果は、現在の人々の語感を如実に反映しているか否かは疑問である。

山本(2006)は、戦前から現代まで刊行が続いている『週刊朝日』、『主婦之友』と『婦人之友』の三誌を資料に「女性」「婦人」「女子」「女」といった四語が時代とともにどのように変化してきたのかを調査している。調査結果は以下の表 2-4 のようである。

表 2-4 「女性」と「婦人」の評価と使用状況<sup>9</sup>

	女性	婦人	女子	女
大正・昭和初期		○	●	●
戦時中	○	○		●
終戦前後	○	○	○（若年者）	●
昭和中期	○	○（年長者）		○（性別強調）
昭和後期	○	（○）（複合名詞）		○（性別強調）
平成	○	（○）（富裕層）		○（性別強調）

(山本 (2006:132-133) より引用)

表 2-4 の「女性」と「婦人」に注目すると、女性は一般女性を表わすことばとして使用され、比較的新しい表現であるが、「婦人」は「女性」より古い。評価から見てみると、両者ともにマイナス評価ではなく、中立である。また、年齢から言えば、「婦人」より「女性」のほうが若い。

また、「女性」の語感について、京極 (1998:296) は、「上品ではあるが古い感じの「婦人」、一般的ではあるが卑俗な感じを伴う「女」に比べて、より新しく、より改まった感じの「女性」…」と述べている。

上述したことから分かるとおり、時代が異なっても「女性」の語感に変化は見られない。すなわち、「女性」に対して、微細な点で違いがあるにしても、日本語母語話者は共通する語感を持っていると言える。

女性標示語の「女性～」は単独用法の「女性」の影響を受けて、「女性というジェンダー」という知的な側面の意味と「新しい、中立、改まった」という情意的な側面の意味（語感）を担っているのだと考えられる。「女性たちの公式的な呼び方が近代から現代にかけて、自称・他称を含めて「婦人」から「女性」へと推移してきた」（鹿野 1989:10）、「近年、公的な機関や活動の呼称の中の用語「婦人」を、「女性」に改める動きが顕著である」（京極 1998:296）という単独用法の「女性」の使用変化も女性標示語「女性～」に影響をもたらしたと思われる。

<sup>9</sup> 山本 (2006) によれば、「○」は中立に一般の女性を表わすことばとして使用されていることを、「●」はマイナス評価をともなって使用されていることを示し、空欄は調査した記事の中に現れなかったことを示すという。

## 2.5 第2章のまとめ

本章では、女性標示語の中で汎用性が最も高い表現形式である「女性～」の使用実態、接続制約と使用変化を観察し、その要因を考察した。考察の結果、「女性～」は接続制約が緩く、「女性～」に後続する要素が多種多様であり、後項要素に「女～」 「女子～」 「女流～」 などのようなはっきりした特徴が見られないことが明らかになった。

このような結果は「女性～」の自由形態素という形態的特徴と関連を持つ。そして、単独用法の「女性」の「女性というジェンダー」といった意味と「新しい、中立、改まった」といった語感に深く関わっていることを指摘した。

## 第3章 「女子～」

---

### 3.1 はじめに

「女子～」は「女性～」に次いで、汎用性の高い表現形式である。

女性標示語「女子～」については、「結合するのは、教育に関する語が多」（遠藤1983）く、「女子」は生徒や学生に対して使われる場合が多いが、「女子アナ」「女子工員」など、職業人に「女子」がつけられるケースもある」（田中他 2006,2009a）、また「女子～」は会社員関連が減り、生徒・学生関連は常駐・増加の傾向がある」（田中他 2011）などの後項要素の特徴と使用の変化が指摘されている。そのほか、ごく少数ではあるが、「女子～」に潜むジェンダー・イデオロギー<sup>1</sup>に触れた研究（田中他 2009a、原田 2010）も見られる。

また、田中他（2006,2009a,2011）のように、1980年代半ばより定期的に行った新聞紙面調査で取ったデータをもとに、「女子～」などを分析している研究も見られるが、詳細な考察を加えておらず、2006年以降の使用状況も不明である。「女子～」の使用実態、接続制約及びその要因など十分に解明されているとは言いがたい。

本章では、新聞のデータベースを用いて、ここ五年間（2006年～2010年）の新聞記事に現れている「女子～」の使用実態を観察する。ついで、なぜそのような使用実態になっているのかを分析する。

### 3.2 調査の概要

本章の調査では、『朝日新聞』を調査対象とした。検索期間は2006年から2010年までの五年間としたが、膨大なデータ量を考慮して各年二ヶ月分（4月と10月<sup>2</sup>）を対象とする。検索でヒットした用例のうち、まず、人間を表わしていない「女子ゴルフツアー」「女子オープン」「女子大学」などを除外した。次に、「女子監督」「女

---

<sup>1</sup> ジェンダー・イデオロギーについては、本論文第1章脚注8を参照されたい。

<sup>2</sup> 田中他（2011）は、調査年の10月のデータを取っている。本章では先行研究との比較の可能性を考慮し、同じく10月にしたうえで、半年ごとにという目安で、調査期間を4月と10月とした。

子委員長」など性別の判定がしにくい疑似用例は除外した<sup>3</sup>。

こうして得られたデータは、「女子生徒」「女子学生」「女子選手」「女子職員」「女子社員」など、使用例が実に豊富である。本章では、これらを前項要素の「女子」が「女性」に置き換えられるかどうかによって二分した。「女性」に置き換えられるものをA類、「女性」に置き換えられないものをB類として、分析する<sup>4</sup>。

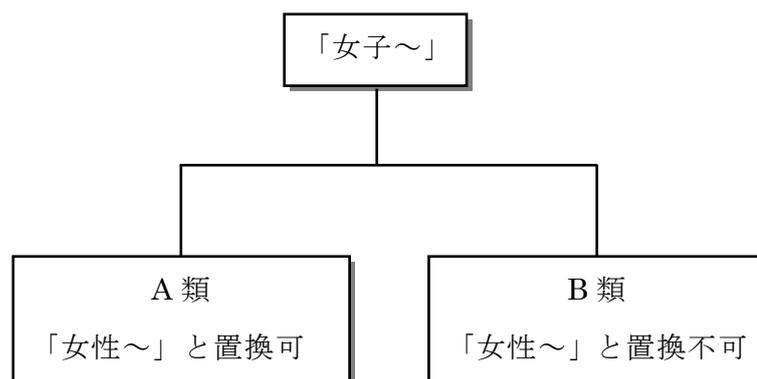


図 3-1 「女子～」の分類

### 3.3 結果と分析

本節では、調査結果に基づき、「女子～」の出現記事数、タイプ・トークン比 (TTR)

<sup>3</sup> 「女子監督」「女子委員長」などは人間を表わしているが、表わす人間が男性か女性か判断しにくい  
ため、対象外とする。例えば、下記 (1) の「女子監督」は「日本女子サッカーなでしこジャパンの監督」  
(佐々木則夫氏) の意味であり、(2) の「女子委員長」は「日本サッカー協会の女子サッカーの委員  
長」を意味しているため、二例とも疑似用例である。

(1) 日本女子サッカー界は、9月の17歳以下W杯で準優勝、A代表の佐々木監督が女子監督の世  
界最優秀賞候補にノミネートと、来年の女子W杯(ドイツ)に向けてレベルアップを示す話  
題が続く。(朝日 2010/10/29)

(2) 同協会の上田栄治女子委員長は力説する。「子どもを産んでも、力があれば代表でプレーでき  
るといのは少女たちにとっていい目標になる」。(朝日 2007/10/20)

<sup>4</sup> B類の場合では、「女性大学院生」「女性大学生」「女性留学生」などのことばもあるが、極少数のた  
め、本章では、B類を「女性」に置き換えられないものとして取り扱う。

(3) 同法人理事長の北浜榮子・大阪大教授(理学博士)は「理工系の女性教員は増えておらず、身  
近にロールモデルが少ない」と指摘。1泊2日の日程で、女子高生と女性大学院生らとの交流  
の場も設ける予定でいる。(朝日 2006/10/30)

(4) 現在の支援の対象は、日本から留学する女性に加え、日本の大学院に在籍する外国の女性留  
学生、視覚障害者へと広がり、毎年約10人が1人あたり200万～300万円の奨学金を受けてい  
る。(朝日 2010/10/12)

<sup>5</sup>を示し、「女子～」の使われ方を分析する。

### 3.3.1 「女子～」の出現記事数

2006年から2010年までの各年の「女子～」の出現記事数とA類とB類の割合は表3-1のとおりである。

表3-1 「女子～」の出現記事数（出現頻度上位5語）<sup>6</sup>

（ ）内はA類とB類の割合

種類	2006年		2007年		2008年		2009年		2010年		
	語例		語例		語例		語例		語例		
A類	A1	女子選手	10	女子選手	6	女子選手	10	女子選手	8	女子マネージャー	82
		女子プロ	2	女子ゴルフ	2	女子プロレスラー	3	女子ゴルフ	1	女子選手	18
		女子主将	2	女子プロ選手	1	女子ボクサー	2	女子ボクサー	1	女子マラソン選手	2
		女子水泳選手	1	女子プロレスラー	1	女子マネージャー	2	女子レスラー	1	女子プロレスラー	1
		女子コーチ	1			女子プロボクサー	1	女子プロ選手	1	女子野球選手	1
		その他	2	その他	0	その他	0	その他	5	その他	4
	計	18 (3.0%)	10 (1.8%)	18 (3.4%)	17 (3.4%)	108 (15.4%)					
	女子職員	2	女子アナ	7	女子職員	2	女子アナ	6	女子社員	2	

<sup>5</sup> タイプ・トークン比（TTR）は、延べ語数に対する異なり語数の比率（Type-Token Ration）で、トークン比とも呼ばれ、ある内容を表現する際に使われた語彙を対象にするものである。本章では、言語形式に共通性のある語彙を対象にするため、TTRの本質から多少外れた使い方ではあるが、語の豊富さと多様性を分析するのに有効だと考える。

<sup>6</sup> B類の中、出現記事数50以上の語例を数えると、2006年～2010年までそれぞれ5語、6語、5語、3語、5語で、年間平均5語である。そこで、A類とB類の出現頻度上位5語をリストアップし、表3-1にまとめた。その他の語例は付表2に示す。また、2010年「女子マネージャー」が82件に急増したのは、同年岩崎夏海氏の「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」という本がベストセラーになったことと密接に関わっていると思われる。

A	2	女子店員	2	女子職員	2	女子工員	1	女子職員	4	女子アナ	2
		女子社員	2	女子刑事	2	女子アナ	1	女子行員	3	女子職員	1
		女子アナ	2	女子社員	1	女子読者	1	女子社員	1	女子従業員	1
		女子行員	1	女子従業員	1			女子従業員	1		
		その他	2	その他	1	その他	0	その他	2	その他	0
計		11 (1.8%)	14 (2.6%)	5 (1.0%)			17 (3.4%)	6 (0.9%)			
小計		29 (4.8%)	24 (4.4%)	23 (4.4%)			34 (6.8%)	114 (16.3%)			
B	類	女子生徒	206	女子生徒	151	女子生徒	147	女子生徒	124	女子生徒	166
		女子高生	97	女子高生	82	女子高生	77	女子高生	81	女子高生	80
		女子高校生	68	女子高校生	72	女子中学生	57	女子学生	70	女子高校生	76
		女子学生	53	女子学生	65	女子高校生	56	女子高校生	49	女子学生	73
		女子中学生	52	女子大生	52	女子学生	52	女子大生	44	女子中学生	69
		その他	100	その他	103	その他	115	その他	104	その他	125
小計		576 (95.2%)	525 (95.6%)	504 (95.6%)			472 (93.2%)	589 (83.7%)			
合計		605	549	527			506	703			

A類とB類の語例を見てみると、A類の後項要素は主にスポーツや職業に関することば、B類は教育に関することばであることが分かった。そこで、A類をさらに「A-1」類と「A-2」類に分けて、A-1を「スポーツ関連」、A-2を「職業関連」、B類を「教育関連」と名付ける<sup>7</sup>。

表3-1に示したように、「女子～」のつく語が現れた記事数は五年間であまり大き

<sup>7</sup> 調査期間内、「女子軍属」「女子挺身隊員」「女子孤児」の語例が4件ヒットしたが、「女子孤児」以外はほぼ死語になっているため、本章では、分析の便宜上、これらを考察対象から除外した。なお、A-2「職業関連」は田中他（2011）の「会社員関連」に相当する。

(5) 沖縄での集団自決のことを聞いていて私のことを思い出した。

44年9月、中国・山西省陽泉という町に駐留していた部隊の女子軍属に採用されました。（朝日2007/10/22）

く変化していない。種類別に見ると、B類「教育関連」が圧倒的に多く、全体の約9割以上を占めており、A類「スポーツ・職業関連」は1割以下にすぎない。

### 3.3.2 「女子～」のトークン比（TTR）と造語力

「女子」のつく語の豊富さと多様性を見るために、本章では、A類とB類のトークン比（TTR）を算出し、表3-2に示した。

表3-2 「女子～」のトークン比

年		トークン比		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	全体
		延べ語数	異なり語数						
A類	A1	延べ語数		20	11	21	18	115	185
		異なり語数		7	4	5	10	9	21
		トークン比		0.350	0.364	0.238	0.556	0.078	0.114
	A2	延べ語数		12	21	5	22	8	68
		異なり語数		7	6	4	7	4	11
		トークン比		0.583	0.286	0.800	0.318	0.500	0.162
B類	延べ語数		890	757	775	649	840	3911	
	異なり語数		16	18	20	19	18	28	
	トークン比		0.018	0.024	0.026	0.029	0.021	0.007	
総延べ語数			922	789	801	689	963	4164	
総異なり語数			30	28	29	36	31	60	
総トークン比			0.033	0.036	0.036	0.052	0.032	0.014	

表3-2に示したように、A類「スポーツ・職業関連」はB類「教育関連」よりトークン比の値が高いが、延べ語数も異なり語数も少なく、語の使用度数が低い。B類は異なり語数はA類とあまり変わらないが、延べ語数ははるかに多い。また、総トークン比で見ると、全ての調査年が0.1以下で、特に全体の総トークン比が非常に低く、限られた語が反復して用いられていることが分かる。

次に、「女子～」の造語力を種類別に見てみる。

表 3-2 の異なり語数を見ると、A 類「スポーツ・職業関連」が 32 (A-1 類 21、A-2 類 11)、B 類「教育関連」が 28 であり、B 類より A 類のほうが多少大きく見える。しかしながら、それは、B 類は学生という身分に関する名称で、自由に造語するわけにはいかないのだから、当然の結果だと言えよう。一方、A 類もスポーツを含め、職業全般を表わすことばであるため、必ずしも A 類の造語力が高いとは言えない。そして、A 類の A-2「職業関連」の「女子社員」「女子店員」「女子職員」など固定的に使われてきたものでも、今では「女性社員」「女性店員」「女性職員」のほうが出現記事数が多く、優勢を占めている。表 3-3 で示す。

表 3-3 は付表 2 の語例の前項要素「女子」を「女性」に入れ替えて調査した後、表 3-2 の「女子～」の調査結果との比較がしやすいように並べたものである。「女性プロレスラー」「女性主将」「女性ボクサー」などは調査期間内では用例が得られなかったが、ことばとしては存在する。(1)～(4)で示す。

- (1) 竹中氏の途中退場により、女性プロレスラーが繰り上げ当選になる。竹中氏、そして改革を支持した有権者は、自分の 1 票の行方に戸惑うのではないか<sup>8</sup>。(朝日 2006/9/29)
- (2) 選手団の主将を務める岡崎選手は 4 大会連続の出場。女性主将は 94 年リレハンメル大会の橋本聖子選手以来 2 人目。(朝日 2006/1/16)
- (3) JBCが女子プロ制をしく前に、後楽園ホールで女性ボクサーのスパーリングを見た。どう見ても階級の異なる子同士だった。(Yahoo!ブログ 2008)
- (4) ゴルフ界は、女性ゴルファーの活躍と華やかさが定着し、男女ともに国内はもとより海外での活躍が期待されます。(村上昇鴻・清水咲芳・田口二州『九星運勢占い』)

<sup>8</sup> 本章で挙げる日本語の例文は『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の実例で、便宜上『朝日新聞』からの実例については、朝日と日付を記し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの実例は出典を明記する。中国語の例文は『人民日報』と『北京大学中国言語学研究センターCCLコーパス』からの実例である。なお、用例の日本語訳と下線は筆者による。

表 3-3 「女性～」の出現記事数 ( ) 内は割合

種類		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
		語例		語例		語例		語例		語例	
A類	A1	女性選手	5	女性選手	1	女性選手	1	女性選手	1	女性マネージャー	0
		女性プロ	0	女性ゴルフ	0	女性プロレスラー	0	女性ゴルフ	0	女性選手	2
		女性主将	0	女性プロ選手	0	女性ボクサー	1	女性ボクサー	0	女性マラソン選手	0
		女性水泳選手	0	女性プロレスラー	0	女性マネージャー	1	女性レスラー	0	女性プロレスラー	0
		女性コーチ	2			女性プロボクサー	0	女性プロ選手	1	女性野球選手	0
		その他	0	その他	0	その他	0	その他	0	その他	0
	計	7 (4.5%)		1 (0.7%)		3 (4.5%)		2 (1.9%)		2 (1.5%)	
	A2	女性職員	64	女性アナ	0	女性職員	63	女性アナ	0	女性社員	20
		女性店員	26	女性職員	70	女性工員	0	女性職員	48	女性アナ	1
		女性社員	18	女性刑事	4	女性アナ	0	女性行員	4	女性職員	69
		女性アナ	2	女性社員	22	女性読者	0	女性社員	16	女性従業員	40
女性行員		9	女性従業員	35			女性従業員	30			
その他		30	その他	2	その他	0	その他	3	その他	0	
計	149 (95.5%)		133 (99.3%)		63 (95.5%)		101 (98.1%)		130 (98.5%)		
小計		156		134		66		103		132	

さらに、「女子～」の造語力をより客観的に見るため、2006年～2010年（4月と10月）の新聞記事に出た女性標示語「女子～」を調べた。「女子会社員」「女子店員」など性質の異なる「女子同士」「女子相手」や、性別が判断しにくい「女子史研究者」などの用例を除外し、集計したデータに基づき、「女子～」のトークン比を算出した

(表 3-4 参照)。

表 3-4 「女性～」のトークン比

年 トークン比	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	全体
延べ語数	1131	1320	933	1055	1191	5630
異なり語数	271	236	236	219	234	630
トークン比	0.240	0.179	0.253	0.208	0.197	0.112

表 3-4 から分かるように、「女子～」より「女性～」のほうが延べ語数も異なり語数も多く、特に異なり語数で大きな差が見られる。つまり、「女性～」のほうが後項要素が豊富であり、たくさんの語と結合できるのである。

### 3.3.3 「女子～」の使われ方

3.3.1 節の表 3-1 に挙げた語例から分かるように、「女子～」は「生徒」「高生」「高校生」「学生」「選手」など B 類「教育関連」や A-1「スポーツ関連」などの分野の職業や身分を表わす語の前によくつく。(5)～(8)で示す。

- (5) 27 日、築上町湊の会社員林覚之容疑者 (37) を暴行容疑で逮捕し、発表した。14 日午後 5 時 45 分ごろ、築上郡内の路上で中学 1 年の女子生徒 (13) の背後から生徒の口を手でふさいだ疑い。(朝日 2010/12/28)
- (6) つぎに、五十七歳の女性 (主婦) が現代の女子高生の姿を伝えようとして、新聞に投稿した文章をあげてみよう。(川村邦光『オトメの行方』)
- (7) 11 日午前 9 時ごろ、上三川町上三川のあけぼし保育園で、女子園児 (3) が同園の看護師沢口弘子さん (56) が運転するワゴン車にひかれ、右足の骨が折れるけがをした。(朝日 2010/11/12)
- (8) 「恵まれない練習環境にいる女子選手たちが、野球に専念できる場をつくらう」。女子プロ野球リーグは、そんな思いが発端となって誕生した。(朝日 2010/4/23)

下記の(9)～(12)が示すように、「女子～」は「職員」「アナ」「社員」など「職業関連」のことばの前にもつくが、語例が少なく、出現記事数も多くない。

- (9) これは何とかしなければ、と思いながら、朝倉は女子職員に、所長室へお茶を持って行くように指示をし、安原に、竹田部長の要求した車の手配をたのんだ。(小松左京『首都消失』)
- (10) 同ホテルに勤務する20代の女子社員は「お客様からも心配されたこともあったが、混乱が収まって一安心した」と話した。(朝日 2006/4/2)
- (11) 集会では生徒からの質問の時間も設けられた<sup>ママ</sup>。「結婚相手は女子アナですか」「契約金はいくら？」と遠慮ない問いかけに、2人は苦笑。(朝日 2010/10/30)
- (12) 僕も、三上部長も、女子店員たちも派遣の販売員も、メーカーの担当者たちもみんな、椿山課長が大好きだったんだ。だから、課長が命をかけたこの予算を、どうしても達成したいんだ。(浅田次郎『椿山課長の七日間』)

女性標示語は性別に関して非対称的で、「女性標示語には<人=男>のイデオロギーがある」(佐竹久仁子 2001a) としばしば批判されている。「女子～」の使用には、(13)～(15)のように男性は無標、女性は有標という傾向が見られる。しかし、<人=男>というイデオロギーがあるとは断定できない。この点に関しては、第1章で簡単に触れているが、第8章で詳述する。

- (13) 上山署は19日、上山市金生東2丁目、会社員A容疑者(64)を有価証券偽造・同行使と詐欺の疑いで逮捕した。(中略)、上山市南町のスーパー宝くじ売り場で女子店員に当たり券として提示し、2等の当選金1万円をだまし取った疑い。(朝日 2006/10/20)
- (14) 調べでは、経営者の内田心さん(33)と女子従業員1人が部屋におり、鍵のかかっていない玄関から目出し帽をかぶった男2人が催涙スプレーを噴射しながら侵入、「金を出せ」と脅し、金属バットで内田さんを殴り、財布を奪ったという。(朝日 2006/10/23)
- (15) プロ野球ロッテの西岡剛(23)との交際が一部で報じられた女子プロゴル

ファー古閑美保 (25) が 11 日、スタジオアリス女子オープンに出場。(朝日 2008/4/12)

また、「女子～」を付加することが、必ずしも、先行研究が指摘したように女性を差別するとは限らない。(16) と (17) のように「女子～」は性別を明示する必要のあるときに多用されているし、(18) ～ (20) が示すように男性標示語がついた「平衡表現<sup>9)</sup>」も多く現れている。つまり、新聞上ではパラレル・トリートメント(両性の対称な扱い)がされている場合が少なくないのである。

(16) 10 年ぶりに変更された女子行員の制服は「信頼感」をテーマにデザインしたといい、新入行員代表の今田悠さん (23) は「地域の経済・社会の安定が何より大切で、それをもたらすのは人と人との信頼関係」と述べた。(朝日 2009/4/2)

(17) お見合いなどの世話をする人が少なくなったことが背景にあるのではないか。昔は近所の人や会社の上司が相手を紹介してくれたが、公私ともに親密な付き合いを避ける人が増えた。女子社員に「結婚、考えている？」と聞けば、セクハラと受け取られかねない。だから自力で相手を探す作業が必要になった。(朝日 2009/10/14)

(18) ある女子生徒は「国語では、自分の考えをまとめて書く問題が、普段のテストにはなく大変だった」。男子生徒も「国語の記述問題が難しかった。あまり心配しないで受けたが、塾の勉強というより、学校の勉強をしていれば解ける感じだった」と振り返った。(朝日 2007/4/25)

(19) 式では女子学生にキャップ、男子学生にはコサージュが着けられた。(朝日 2008/10/3)

(20) 市によると、男性職員は昨年 5 月 28 日、別の部の事務室内で、電算事務処理について 40 歳代の女子職員と机のそばで話をしている際、女子職員の下半身を触ったという。(朝日 2010/10/7)

(16) と (17) は性別情報が必要な場合で、(16) の冒頭部分は「女子行員」と

<sup>9)</sup> 平衡表現については、本論文第 2 章脚注 6 を参照されたい。

いうことばを使ってジェンダー情報を明示するが、それ以降の文脈ではジェンダー・フリーの「行員」が使われている。(17)の「女子社員」を「社員」に置き換えると、文法上適格な文であっても、意味上適格度が落ちる不自然な文になる。また、(18)～(20)はそれぞれ「女子生徒」「女子学生」「女子職員」の平衡表現が使用されている。(20)の「男性職員」と「女子職員」は完全には対応していないが、均衡的な表現と見なす。

### 3.4 考察

3.3節の分析で「女子～」の使用実態が明らかになった。本節では、なぜ「女子～」がそのような使用実態をなしているのかを検討したい。

「女子～」を含め、女性標示語が使われるのは、以下の条件が考えられよう。

- ①男性のものとされる世界に女性が進出してきた場合。
- ②その力が男性に比べて弱く、男性とは一線を画した存在として扱いたいという思いが明確な場合。

「スポーツ関連」のA-1類は①と②の場合に相当し、「職業関連」のA-2類と「教育関連」のB類は①の場合に相当すると思われる。

スポーツはもともと男子を中心とした貴族社会の文化として発生したものである。女性がスポーツと関わり出したのは、歴史的にはごく最近になってからであり、実際、女性がスポーツを本格的に行うようになったと認められるのは、20世紀に入ってからのことである(岡野進 2010:88)。オリンピックにおいて、女性の参加が正式に許されたのは1904年のセントルイス大会でのアーチェリーであり、次の1908年のロンドン大会でも三種目しかなく、参加した女性の割合は、全体の2%前後でしかなかった。日本では、1926年4月1日に日本初の女性スポーツ組織、日本女子スポーツ連盟(JWSF)が設立され、1954年8月5日に日本女子体育連盟が結成された。

このような状況の中で、女性の選手はそれまでにあった男性の世界とは別物、選手の亜流という意味で「女子選手」などと名付けられたのではないかと考えられる。

ポール、ワイス（1985:232-233）では、女性を不完全な男性として観ること、女性を半端な男として取り扱うことは、スポーツの世界ではしばしば見受けられることであつたと指摘されている。

教育界では、終戦までは、共学の主張が時折行われていたが、共学は極一部の特種学校で実施されていたのみで、一般的には認められておらず、また実施されていなかった。戦後1947年3月31日の『教育基本法』の公布で、学校における男女共学が規定され、これにより、男女別学の多くの学校が共学に移行した。男女共学の普及にともない、男子が圧倒的に多かった世界に女子が入ってきた。そのような女子を表現するため性別を明示する必要性が生じてくる。

職業関連では、現在になっても多くの職業は依然として、男性が主流である。専門的な職業においてこの傾向は著しい。「王」「医師」「警官」「棋士」「職員」「社員」は男性を意味し、女性の場合には「女王」「女医」「女性警官」「女流棋士」「女子職員」「女子社員」など女性標示語を付加した用語上の習慣もその実態を示している。

では、なぜ「女性～」「女～」「婦人～」「女流～」ではなく、「女子～」であつたのだろうか。それは、単独用法の「女子」の持っている意味合いと関わっているからだと思われる。

ここでは、日常の言語生活でよく使われている辞書の記述に基づき、「女子」の意味合いを分析する。

表3-5 使用辞書一覧

出版年	辞書名	編者	出版社	略称
2006	精選版 日本国語大辞典	小学館国語辞典編集部	小学館	精選
1988	学研国語大辞典 第二版	金田一春彦・池田弥三郎	学習研究社	学研
1995	新潮国語辞典—現代語・古語 第二版	山田俊雄・築島裕他	新潮社	新潮
1989	日本語大辞典 講談社カラー版	梅棹忠夫・金田一春彦他	講談社	講談
2008	広辞苑 第六版	新村出	岩波書店	広辞
1995	大辞林 第二版	松村明	三省堂	大辞

表 3-6 辞書における「女子」の記述

辞書	記述
精選	①おんなのこ。むすめ。によし。②おんな。婦人。婦女。女性。 p.662
学研	①女の子。むすめ。④類 子女。女兒。②おんな。女性。④類 婦人。④対 男子。 p.957
新潮	①女の子。娘。によし。②女。婦人。 p.1064
講談	④対義 男子。①おんな。女性。婦人。woman ②むすめ。女の子。girl p.973
広辞	①おんなのこ。娘。②おんな。女性。婦人。↔男子 p.1411
大辞	①おんなの子。むすめ。②おんな。女性。婦人。↔男子 p.1266

表 3-6 の記述から、単独用法の「女子」は、①おんなのこ。むすめ。と、②おんな。婦人。女性、との二通りの意味があることが分かる。「女子～」は単独用法の「女子」の影響を受け、「女子」と同じ意味合いを表わしていると考えられる。

「女子」は「①おんなのこ。むすめ。」という未成年者を意味するため、教育を受ける年齢層が低い段階で、よく使用されることが予想できる。つまり、「女の子」を表わす語はほかにないので、この語の作る複合語は学校・教育に関するものが(遠藤 1983:26) 多い。今回の調査で「教育関連」の B 類が「女子～」の 9 割以上を占めているのもこれが一因であろう。もちろん、「女学生」や「女生徒」のことばもあるが、「女学校の生徒」という意味合いが強い。

また、「女子選手」「女子ボクサー」「女子プロゴルファー」などスポーツ関連のことばにおける「女子」は英語「woman」の訳語だと思われる。「スポーツ関連」は比較的年齢層が低く、若さ、いきいきしているという意味合いが読み取れるため、「woman」を日本語に翻訳する際、「婦人」「女流」ではなく、「女子」に訳されているのであろう。

第 1 章で述べたように、日本語には多くの女性標示語がある。日本語と同様に、中国語にも“女 (nv) ～”、“女子 (nvzi) ～”、“女性 (nvxing) ～”、“妇女 (funv) ～” (婦人～)、“美女 (meinv) ～”、“妈妈 (mama) ～” (ママさん～) などの女性標示語が見られる。例えば、次の (21) ～ (25) のようなものである。

- (21) 突然之间，我不再是教授，而是女教授；不再是作家，而是女作家；不再是博士，而是女博士，总而言之，被人发现正身之后，我就不再是个“人”，而是个“女人”。变成“女教授”、“女作家”、“女学者”，换句话说，“女人”之后，访问的内容突然活泼生动起来：你结婚了吗？（龙应台《自白》）  
（突然、私は教授ではなく女性教授、作家ではなく女性作家、博士ではなく女性博士になった。つまり、性別が知られた後は、私はもう「人」ではなくなり、「女の人」になってしまったのだ。「女性教授」「女性作家」「女性学者」になり、言い換えれば、「女の人」になったのだ。インタビューの内容も「結婚なさいましたか」のように突然いきいきとしたものになってきた。）
- (22) 台北跨年晚会首次邀请香港“四大天王”之一的郭富城助阵，其他艺人包括庾澄庆、信、A-Lin、谢金燕等，女主持人则是昔日的“台湾第一美女主播”侯佩岑。（人民 2012/12/31）  
（台北の年越しパーティーに庾澄慶さん、信さん、A-Linさん、謝金燕さんなどの芸能人のほかに、香港の「四大天王」の郭富城さんも初めて招かれた。女性司会者は昔「台湾一の美人アナウンサー」と言われた侯佩岑さんだ。）
- (23) 此外，42岁的女性议员莲舫成为新内阁的一大亮点，标志着华裔首次成为日本的内阁大臣。（人民 2010/6/9）  
（そのほか、42歳の女性議員蓮舫さんが新内閣の注目株となり、中国系日本人初の内閣の大臣となった。）
- (24) 他主办上海平民女校，使之成为党培养妇女干部的摇篮。（人民 2010/10/5）  
（彼は上海平民女学校を創設し、これを党の婦人幹部養成の拠点とさせている。）
- (25) 武汉招收高学历城管，以期通过提高城管人员素质，来改变以往城管的形象。和之前的“美女城管”、“妈妈城管”一样，固然都是有益的尝试，但恐怕都是治标不治本。（人民 2010/4/22）  
（武漢市は高学歴の「城管」（都市管理局の職員）を招聘することで、「城管」たちの質を向上し、「城管」たちのイメージを変えようとしている。しかし、

前の「美女「城管」」と「ママさん「城管」」と同じような場当たりのな処置で、根本的な解決にならない。）

そして、日本語の女性標示語と同じように、中国語の各女性標示語は使用頻度、使われ方と接続制約などの面においても違いが見られる。徐微潔・房極哲（2010：91）は、日中の女性標示語の違いについて、「中国語のほうは“女（nv）～”に集中し、“女（nv）～”が全体の90%をしているが、日本語の場合は「女～」「女性～」「女子～」など、その分布が多様であることが注目される」と指摘している。

中国語の“女（nv）～”の高い汎用性に対し、“女子（nvzi）～”は女性標示語の中で特別な位置付けになっており、スポーツ種目やスポーツをやっている女性に使われている。例えば、(26)～(28)で示されるように“女子选手（女子選手）”“女子运动员（女子アスリート）”などである。

(26) 来自北京的王秀兰是女子选手中年齡最大的，今年已经 68 岁了。（人民 2010/9/15）

（北京から来た王秀蘭さんは女子選手の中で最年長で、今年 68 歳になった。）

(27) 而在 2004 年雅典奥运会上，女子选手还不能参加拳击比赛。（CCLコーパス）  
（しかし、2004 年のアテネオリンピックでは、ボクシング競技の女子選手の参加がまだ認められていない。）

(28) 新中国成立以来我国体育健儿共获得了 1000 多个世界冠军，其中女子运动员获得的数量占了一半以上，为国家争得了巨大的荣誉。（CCLコーパス）  
（新中国成立以来、わが国のアスリートたちは 1000 以上の金メダルを獲得、その内半数以上は女子アスリートが獲得し、国にとって大きな榮譽となった。）

A-1 類はスポーツを表わす固有の用法であるため、スポーツ選手などが新聞に登場する場合には、必然的にスポーツ名に「女子～」がしばしば用いられることとなるのである。

(29) ～ (32) の「アラサー女子」「肉食女子」「スマホ女子」「女子会」などの用例から分かるとおり、「女子」は「①おんなのこ」のほかに「②おんな。婦人。女性」も意味する。

- (29) 「草食系男子」にかわるモテ男に「デブ男子」も人気上昇中 (BAILA) 感性が繊細で優しく、おしゃれで話しやすい男子として、一部アラサー女子からもてはやされている「草食系男子」に、新たなライバルが登場していることが判明した。(Yahoo!ブログ 2008)
- (30) 粋な決めぜりふ満載の古色ゆかしい明治の文体に、フリーターも非リア充もチャラ男も肉食女子も、色鮮やかに踊っている。(朝日 2011/11/20)
- (31) 増えよ！スマホ女子 小さい手や長い爪OK、新機種続々 (見出し) シャープは「大人女子」をうたう新機種を 22 日に発売。新たにスマホに参入するパナソニックも、新商品は女性にターゲットを定めた。(朝日 2011/7/21)
- (32) 今日は待ちに待った女子会。黄色のカラーパンツをはき、ちょっと若作り。鏡とにらめっこしていると、友人が車で迎えに来てくれた。(中略) (名古屋市北区 高橋絵里 パート 49 歳) (朝日 2013/9/4)

「女子」は「②おんな。婦人。女性」も意味するため、A-2 類「職業関連」のように成人女性にも使われている。しかし、今回の調査では A-2 類は「女子～」の約 1.9%にすぎなく、田中他 (2011) でも、「会社員関連が減る」と指摘している (表 3-7 参照)。

表 3-7 A-2 類「職業関連」の推移（三紙合計、半月分、延べ語数）

1985 年		1991 年		1996 年		2001 年		2006 年	
語 例		語 例		語 例		語 例		語 例	
女子社員	3	女子職員	4	女子社員	2	女子アナ	3	女子教員	2
女子職員	3	女子社員	2			女子工員	1	女子コーチ	1
女子アナウンサー	2	女子行員	3						
女子行員	1	女子労働者	3						
女子従業員	1	女子従業員	1						
女子工員	1	女子会社員	1						
女子店員	1								
女子公務員	1								
女子会社員	1								
女子パートタイマー	1								
女子書記局員	1								
計	16	14		2		4		3	

（田中他（2011:214-215）のデータをもとに作成）

では、「職業関連」の占める割合が低く、減少傾向を見せるのはなぜだろう。

Nakamura（1990）では、女性の一般呼称としての「女」「女子」「女性」「婦人」の差異を分析している。Nakamura（1990）は「女子」は「女」のようなネガティブな性的意味合いはないが、ポジティブなことばでもない指摘し、以下のように述べている。

The emphasis in *zyosi* on “childishness” implies negative meanings of clumsiness, immaturity, irresponsibility, or incapability. Thus, only superiors or associates would use *zyosi* to an adult woman. Therefore, *zyosi* co-occurs only with socially lower vocational terms such as

\_\_-syain'employee,' \_\_-zyuugyooin'clerk', \_\_-paato'part-time worker,'  
\_\_-roodoosya'worker'. (Nakamura 1990:156)

(「女子」の含意する「Childishness」は、「不器用」「未熟」「無責任」或いは「無能力」などネガティブな意味合いをほのめかしている。したがって、上司や同僚しかこの言葉を成人女性に使わない。つまり、「女子」は「社員」「従業員」「パート」「労働者」など相対的に社会的地位の低い職業にしか使われないのである。)(日本語訳は筆者)

単独用法の「女子」が Nakamura (1990) の指摘している「不器用」「無責任」「無能力」の意味合いを含意するかどうかは再考の余地があるが、「社員」「従業員」「パート」などの職業に使われるのは否めない。「女子～」は「首相」「議員」「大臣」「教授」など相対的に専門性の高い職業に使われず、「社員」「行員」「店員」「従業員」など相対的に専門性の低い職業の使用例がよく見られるのは、やはり「女子～」の「低年齢」「若さ」が強くきいているためであろう。

A-2 類「職業関連」の異なり語数が少なく、全体の割合が低く、「女子職員」「女子社員」などが「女性職員」「女性社員」で表わされるようになっているのも単独用法の「女子」の「女の子」の語義と深く関わっていると考えられる。

では、男性には普通無標の職業名で表わすのに、「平衡表現」のような両性の対称な扱いを取っている例が少ないのはなぜだろうか。それは社会的要因に関係すると思われる。

1960年代以降欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動<sup>10</sup>が1970年代に日本に波及し、1980年代から日本語の差別表現に関する包括的な研究が行われてきた。

女性標示語の使用には「男＝規範、女＝逸脱」、つまり、男が人間の基準であり女はその基準からはずれた存在だという考え方や、「人間＝男観」のイデオロギーが潜んでいて、女性に対するある種の偏見と差別だと指摘され、これに対する改革、改善が要求されていた。例えば、上野・メディアの中の差別を考える会(1996)では、ジェンダー的公正報道の五原則(性別情報不問、ジェンダー的公正、(両性の)対称的な取り扱い、包括的な表現、脱・固定概念)を提案している。新聞界では、記者

<sup>10</sup> フェミニズム運動に関しては第1章脚注3を参照されたい。

用のハンドブックや用字用語集が性差別的表現を批判するフェミニズム運動の高まりを受けて、その主張が一部取り入れられ改定されてきた。そして、新聞の送り手側と受け手側がジェンダーへの関心が高まり、女性が新聞業界に参入することにより、新聞業界の組織におけるジェンダー的構造の変化を引き起こした<sup>11</sup>。

つまり、平衡表現の例が少なくないのは、「フェミニズム運動の影響」、「メディア側のガイドラインの公布」と「新聞の送り手側と受け手側に起きた変化」との三要因が考えられよう。

### 3.5 第3章のまとめ

本章では、「女子～」の使用実態、後項要素の特徴とそのような使用実態をなしている要因について分析した。分析の結果、以下のことが明らかになった。

第一に、「女子～」は「B類 教育関連」、「A-1 スポーツ関連」のことばの前によくつくが、「A-2 職業関連」のことばの前にも現れる。B類とA類の比率はおよそ9:1である。

第二に、出現頻度から見ると、「B類 教育関連」>「A-1 スポーツ関連」>「A-2 職業関連」の順になっている。また、「女性～」と比較して言えば「女子～」の造語力はそう高くなく、語のバラエティにも乏しい。

第三に、現代になっても「女子～」の使用には男性は無標、女性は有標という傾向が見られるが、「女子～」を付加することは必ずしも先行研究が指摘するような女性に対する差別につながるとは限らない。平衡表現のような両性の対称的な扱いを取っている例も少なくない。

第四に、「女子～」が以上のような使用実態をなしているのは、「女子の語義」のような言語学的要因と「フェミニズム運動の影響」、「メディア側のガイドラインの公布」と「新聞の送り手側と受け手側に起きた変化」のような社会的要因が考えられる。

---

<sup>11</sup> 新聞の送り手側と受け手側に起きた変化について、詳しくは、本論文第8章第5節を参照されたい。

## 第4章 「婦人～」

---

### 4.1 はじめに

「婦人～」はかつては汎用性が高かったが、現在では使用が減少している表現形式である。

「婦人」という語は古来、近世に至るまで、成人女性・既婚女性を指して使われてきており、とくに既婚女性に対して用いられることが多い言葉であった（菊池 1995:112）。「婦人」は大人の女性へのある種の敬称であり、「おんな」と同じか、やや、尊敬される「おんな」（遠藤 1983:9）である。

「婦人」は「もともと近代化のなかで、女が男の玩弄物視されている通念に抗して、彼女らも、人間的尊厳を持った存在との認識をこめて、しだいにひろく用いられ」（鹿野 1989:10）ていった。しかし、現在では、「婦人」ということばはあまり使われなくなり、「女性標示語」としても新聞記事などから姿を消しつつあるように感じられる。

本章では、『朝日新聞』のデータベースを利用し、「婦人～」に関する量的調査を行い、戦後新聞紙面における「婦人～」の推移と使用状況を分析、考察することを通して、言語と社会の関わりを考えたい。

### 4.2 調査の概要

本章では、『朝日新聞』を調査対象とした。検索期間は 1945 年から 2009 年までの 65 年間とし、1945 年から 1984 年までは『朝日新聞』縮刷版を対象にした。

なお、対象期間は 65 年としたが、新聞記事の膨大な量を考慮して、1945 年から 1985 年までと 1989 から 2009 年までを 5 年ごとに区切り、該当する年の記事一年分を調査した。65 年間で 1945 年から 1985 年までと 1989 年から 2009 年までに二分するのは、昭和期と平成期の新聞記事における「婦人～」の使用状況を見るためである。

検索でヒットした用例のうち、まず人間を表わしていない「婦人教室」「婦人団体」

「婦人用品」「婦人画報」などを除外した。次に「婦人少年局長」「婦人労働課長」「婦人室長」「婦人啓蒙家」「婦人研修館長」など性別の判定がしにくい疑似用例は除外した<sup>1</sup>。

こうして得られたデータを精査し、年別にその出現記事数と延べ語数をカウントした。

### 4.3 「婦人～」の年別出現頻度

過去 65 年間の『朝日新聞』における女性標示語「婦人～」の年別出現頻度を表 4-1 と図 4-1 にまとめた。

表 4-1 「婦人～」の年別出現頻度<sup>2</sup>

	年別	異なり語数	延べ語数
戦後 昭和 末期	1945	3	3
	1950	4	7
	1955	7	17
	1960	12	34
	1965	15	24
	1970	7	12
	1975	15	21

<sup>1</sup> 「婦人少年局長」「婦人少年労働課長」「婦人室長」はそれぞれ「婦人少年局の局長」「婦人少年労働課の課長」「婦人室の室長」の意味であり、指す人物も必ずしも女性だとは限らない。例えば、次のような用例である。

- (1) 労働省人事で、創設以来女性 8 代続いた婦人局長に初めて男性が就任しました。これに先立ち野党の女性国会議員が憤慨、抗議したとのことですが、私はむしろ、やっと男性が就けるところまで来た、と大歓迎です。（朝日 1990/7/16）
- (2) 戦前、戦後を通して女性運動の理論的指導者として活躍、労働省の初代婦人少年局長もつとめた山川菊栄さん（昭和 55 年、90 歳で死去）を記念する文庫が、江の島の県立婦人総合センターに 4 日から開設される。（朝日 1988/11/3）
- (3) 村井弘斎とは、幕末に生まれ昭和の初めに死んだ超売れっ子の新聞小説家であり、婦人啓蒙家であり、印税収入で湘南は平塚に大邸宅を構えると、今度は断食や木食の研究・実践に励み、山中で穴居生活を送り、奇人変人と名指しされたりもした面妖な人物である。（朝日 2004/7/25）
- (4) a. 県立嬉野台生涯教育センター所長兼県立婦人研修館長 日野博彦（朝日 2004/3/30）  
b. 県立嬉野台生涯教育センター所長兼県立婦人研修館長（丹波県民局長）酒居淑子（朝日 2004/3/30）

<sup>2</sup> 1945 年～1984 年までは『朝日新聞縮刷版』しか使えないため、1989 年～2009 年までに比べ、新聞紙面の分量が随分違う。

	1980	8	14
	1985	24	112
	小計	56	244
平成元年～現在	1989	45	410
	1994	28	368
	1999	28	308
	2004	11	80
	2009	10	43
	小計	70	1209
	合計	102	1453

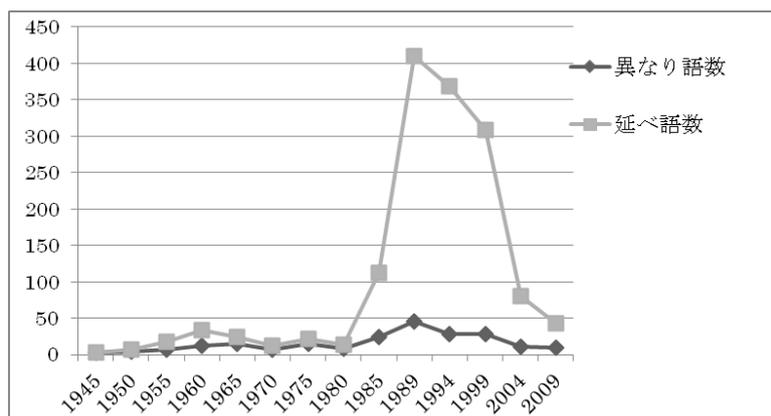


図 4-1 「婦人～」の年度別出現頻度

上掲の表 4-1 と図 4-1 が示すように、女性標示語「婦人～」は、終戦の 1945 年に 3 語、5 年後の 50 年に 4 語、55 年に 7 語、85 年までは多少の増減を繰り返したが、徐々に増加する傾向が見られる。そして、平成元年の 1989 年に 45 語の 410 回の使用頻度でピークを迎えたが、その後、次第に減少していく。

以下では、戦後～昭和末期（1945～1985）と平成元年～現在（1989～2009）に二分し、用例を通して「婦人～」の推移と使用状況を検討したい<sup>3</sup>。

<sup>3</sup> 厳密に言えば、戦後は 1945 年 8 月 15 日以降で、1989 年の年始からの 7 日間は昭和 64 年で、1989 年 1 月 8 日以降の 358 日が平成元年だが、本章では、便宜上、1945 年 1 月 1 日からの戦後とし、1989 年 1 月 1 日からの 365 日を平成元年とする。

## 4.3.1 戦後～昭和末期（1945～1985）

「婦人～」は1945年の『朝日新聞』の記事に「婦人連絡員」、「婦人記者」と「婦人部隊長」の3語が現れたが、いずれも戦争と関わっている。下記（1）と（2）を見られたい。

- （1）食糧増産に婦人連絡員（見出し）（朝日 1945/4/11）
- （2）進駐軍と共に本土に上陸した数多くの新聞記者の中に二人の婦人記者がまじってゐる。（朝日 1945/9/8）

1950年代に入ってから、「婦人～」の後項要素が豊富になってきた。女性が参政権を獲得<sup>4</sup>し、選挙に参加することによって、女性が主婦の役に満足できなくなり、かつて男性に独占されたあらゆる政策決定部門に進出したためである。「婦人議員」「婦人大臣」「婦人自衛官」「婦人刑事」などのような新しいことばも時運に応じて現れた。次の（3）～（5）で示す。

- （3）婦人議員が地方議会で受持ってきた活動は教育、社会福祉、厚生、婦人の地位の向上といったものが多かった。（朝日 1955/4/1）
- （4）全国初の婦人刑事が警視庁に生まれ、犯罪捜査の第一線についてからちょうど一年。（朝日 1960/8/9）
- （5）現在、陸上自衛隊には約三百八十人の婦人自衛官がおり、全員看護婦として自衛隊中央病院（東京・世田谷）に配属されている。（朝日 1965/6/30）

「婦人～」の出現頻度は、1980年は微減したが、85年は112に急増した。それは、新聞のページ数の増加や国際婦人年10周年に当たる1985年に成立した『男女雇用機会均等法案』と『女子差別撤廃条約』が、これまで当然視されてきた「男は仕事、女は家庭」という伝統的な役割分担意識をさらにゆらがせたからであろう。

1985年2月24日の『朝日新聞』に「婦人」改め「女子」に差別撤廃条約の呼

<sup>4</sup> 日本の女性が参政権を獲得したのは、戦後の1945年12月に制定された新選挙法によってである。翌1946年4月に総選挙が行われ、39人の女性国会議員が初めて誕生した。

び方、政府が変更」と題する記事が載り、「婦人」を「女子」に改める動きが見え始めた。

(6) 二十三日の衆院予算委員会で、社会党の井上一成氏が唯一の女性閣僚、石本環境庁長官に「女子と婦人と女性の違いを教えてほしい」と迫った。

ことの起こりは、政府が今国会から急に「婦人差別撤廃条約」の呼び方を「女子差別撤廃条約」に改めたこと。これまでは「婦人」で通し、外務省条約局に昨年二月設置された準備室も「婦人」を冠していたのに、一月二十五日の政府四演説から「女子」に変え、準備室も二月五日付で「女子」に切りかえた。……（後略）（朝日 1985/2/24）

このように、1985年の新聞記事に「婦人」を「女子」などに改める動きは見られるが、すぐに定着したわけではないようである。次の(7)を見られたい。

(7) 「女子と婦人と女性はどう違うのか」。衆院予算委員会で先週末、用語問答があった。

……（中略）

いま、婦人と女子と女性の表現は、あちこちで入り乱れて使われている。ことし最終年を迎えた「国連婦人の十年」の場合は、どうするのか。用語の変更ひとつにも、その国の現状を垣間見る思いだ。……（後略）

（朝日社説 1985/2/27）

以上の用例と新聞記事の報道から分かるとおり、戦後から昭和末期までは、女性標示語「婦人～」の使用頻度は高くはないが、増加傾向を見せている。そして、社会の変化が「婦人～」の使用に影響を与え、「婦人」から「女子」へ改める動きがあった。

#### 4.3.2 平成元年～現在（1989～2009）

平成元年（1989）は「婦人～」の出現頻度が調査期間内で最も高く、410回使わ

れている。「婦人～」の後項要素も45種と豊富である。

- (8) 高里さんは那覇市で、婦人相談員として11年間、さまざまな問題をかかえる女性たちの力になってきた。(朝日 1989/8/3)
- (9) もろさわさんは、「丸子文化学院という工場内学校の名前も、生徒の投票で決め、私たちは新しい婦人労働者の文化をつくるのだ、と燃えていた」と語る。(朝日 1989/7/11)
- (10) 話の受け止め方はさまざまだが、目標を持って勉強し、女性が持っている能力を社会でもっと発揮する。政治への関心を高め、政治の質をよくすることが大切で、能力のある婦人政治家の育成も重要なことなどを知った。(朝日 1989/2/7)

しかし、1980年代の半ばに起きた「婦人」を「女子」や「女性」に変更する動向が、80年代末になっても変わらず、役所の世界まで少しずつ広がっていった。『朝日新聞』1989年4月8日に「役所の課や政策の名前、「婦人」から女性へ 看板ぬりかえ急ピッチ」との見出しでこの動きを伝えている。次の(11)を見られたい。

- (11) 使いなれた「婦人」という名称を「女性」に改める動きが、お役所の世界で少しずつ広がっている。「赤ちゃんからおばあさんまで幅広く取り込みたい」「イメージもいい」などが、その理由。京都府庁には、都道府県では初めて「女性」の2字を織り込んだ課が近く発足する。「肝心なのは名前より内容」との声もあるが、看板ぬりかえは、婦人行政の長期プランや各種施設にまで及んでいる。(朝日 1989/4/8)

1990年代に「婦人～」の出現頻度が減少しつつあり、2000年代に入り、出現頻度が二桁に激減した。これは、90年代になって、「婦人」を「女性」に改める動向が一層強まり、「婦人」から「女性」への流れがほぼ定着するようになったのも一因であろう。

- (12) 既婚者というイメージもある「婦人」よりも、「女性」を使うことが定着し

てきている。労働省が婦人局を女性局に改めたのが一九九七年。警視庁も六月から、婦人警官を女性警官と呼ぶことになった。(朝日 1999/6/4)

- (13) 県警本部は四月一日から、県内各署で働く婦人警察官や婦人補導官の名称を変えることとなった。従来、採用試験などで「婦人警察官」と使われてきた呼称を「女性警察官」や「警察官」に、また「婦人補導官」を「少年補導官」に改めるという。

(中略)

全国的に見ると二十五の自治体が、婦人警察官などの呼称を改めているという。同課では「社会の流れの中で、より適切な対応をとった」と話している。(朝日 1999/3/9)

- (14) 少年からの電話相談などに乗る「婦人補導員」も、「少年補導職員」と呼ぶことにしている。また、特に性別が必要な場合には「女性警察官」などとするという。(朝日 1999/3/4)

- (15) 日本婦人科学者の会（現・日本女性科学者の会）の初代会長を務めた。

(朝日 2009/10/14)

戦後から昭和末期までに比べ、平成元年から現在までは「婦人～」の出現頻度が高い。しかし、戦後から昭和末期までは「婦人～」の使用が増加してきたのに対し、平成元年から現在までは減少してきている。そして、80年代の半ばに生じ、平成期まで続く「婦人」を「女子」「女性」に改める動向が、「婦人～」の使用減少に影響を与えていると思われる。

#### 4.4 「婦人～」と結合した語

4.3 節では、戦後～昭和末期（1945～1985）と平成元年～現在（1989～2009）に二分し、用例を通して「婦人～」の推移と使用状況を見た。本節では、「婦人～」の後項要素に着目し、その接続制約を分析する。

## 4.4.1 「婦人～」が漢語と結合した語

ここでは、「婦人～」が漢語と結合した複合語のうち、出現頻度上位 20 語を拾い上げ、下記表 4-2 に整理してみる<sup>5</sup>。

表 4-2 「婦人～」が漢語と結合した語<sup>6</sup>（全調査年、延べ語数上位 20 語）

語 例		語 例	
婦人部長	236	婦人記者	22
婦人警官	202	婦人交通指導員	21
婦人会長	189	婦人相談員	19
婦人有権者	183	婦人部員	18
婦人警察官	143	婦人教職員	14
婦人会員	52	婦人発明家	14
婦人議員	50	婦人委員	13
婦人補導員	26	婦人候補	11
婦人代表	25	婦人防火クラブ員	11
婦人自衛官	22	婦人労働者	9
その他			154
計			1434

「婦人～」は漢語と結合するのが一般的で、本章の調査では、漢語と結合した語の異なり語数は 95、延べ語数は 1434 であり、それぞれ全体の 93.1%と 98.7%を占めている。

本論文の第 3 章では、「女子～」は「教育関連」、「スポーツ関連」のことばの前によくつき、「職業関連」のことばの前にもつく」ことを、また、第 6 章では、「女流～」は特定の分野で使われ、「芸術・技芸」と「囲碁・将棋」に従事する女性によく使われている」ことを指摘し、その後項要素の特徴について言及している。それ

<sup>5</sup> 表 4-2 は、「婦人～」の出現頻度上位 20 語の語例を挙げる。その他の語例は付表 3-1 と付表 3-2 に示す。

<sup>6</sup> 厳密に言えば、「婦人防火クラブ員」は混種語であるが、本論文は、便宜上「婦人防火クラブ員」を漢語として分析する。

らの例を(16)～(19)で示す。

- (16) 女子学生のうちの三人は、島京子をはじめ、それぞれ喫茶店やレストランで働いていたが、男のほうの働き口がなかなか見つからないのである。(五木寛之『青春の門』)
- (17) 確かに見かけはカッコいいかもしれませんが、女子選手のユニフォームがあまり華美になることはいかがかなあと思います。(Yahoo!ブログ 2008)
- (18) 山口女王は、万葉集の女流歌人で、大伴家持の愛人として知られているが、経歴は詳らかでない。(滝川ちかこ『奥の細道とみちのく文学の旅』)
- (19) 塩入先生は二十分粘ったが、女流棋士の方がシンが強い。(中山典之『完本実録囲碁講談』)

表4-2に示したように、「婦人～」はふつう教育関連の「生徒」「学生」「児童」とも、スポーツ関連の「選手」「ボクサー」「プロゴルファー」や芸術・技芸関連の「歌人」「俳人」「義太夫」、囲碁・将棋関連の「棋聖」「本因坊」「王将」などとも結合しない。

表4-2に示した「婦人部長」「婦人警官」「婦人議員」「婦人自衛官」などから分かるように、「婦人～」は成人を表わすことばと結合するのが一般的である。

- (20) あの議事録をしてみますと、自民党の婦人議員の方々も率先してそういう討論、質問を展開されているわけでもあります。(『特定目的・国会会議録』1981)
- (21) みどりさんはいかにも有能で切れ者の婦人記者であったが、気性のさっくりした、暖かな、大阪っ子らしい肌ざわりの人であった。(山野博史『発掘司馬遼太郎』)
- (22) 参院議員となつての初仕事は、出産する婦人教師が授業の心配もなく休める、いわゆる産休法の立法だ。「それまでの学校はひどかった。女教師は結婚すると昇給ストップ。妊娠、出産は犯罪者扱い。昭和8年の次男の出産の時は、校長に『腹がパンクするまで出てくれ』と言われて、出産当日まで登校した。苦しくて雪道に倒れて、涙がポタポタ落ちて。産休を保証す

る産休法が通ったのは、22年後。国会で泣きました」。(朝日 1985/11/2)

(23) 四月半ばの平日の昼、中高年の婦人客らがバーゲンに殺到していた。(朝日 1999/4/24)

#### 4.4.2 「婦人～」が外来語と結合した語

「婦人～」が外来語と結合した複合語は少なく、65年間(14年)でわずか7種の語例しか抽出できなかつた。異なり語数と延べ語数は、それぞれ全体の約6.9%と1.3%にすぎない。抽出した語例をまとめると表4-3のとおりである。「婦人～」が外来語と結合した語の延べ語数を年別に図示すると図4-2になる。

表4-3 「婦人～」が外来語と結合した語(全調査年、延べ語数)

語例		語例	
婦人ボランティア	12	婦人ピアニスト	1
婦人パート	2	婦人パートタイマー	1
婦人リーダー	1	婦人ハイカー	1
婦人アナ	1	その他	0
計			19

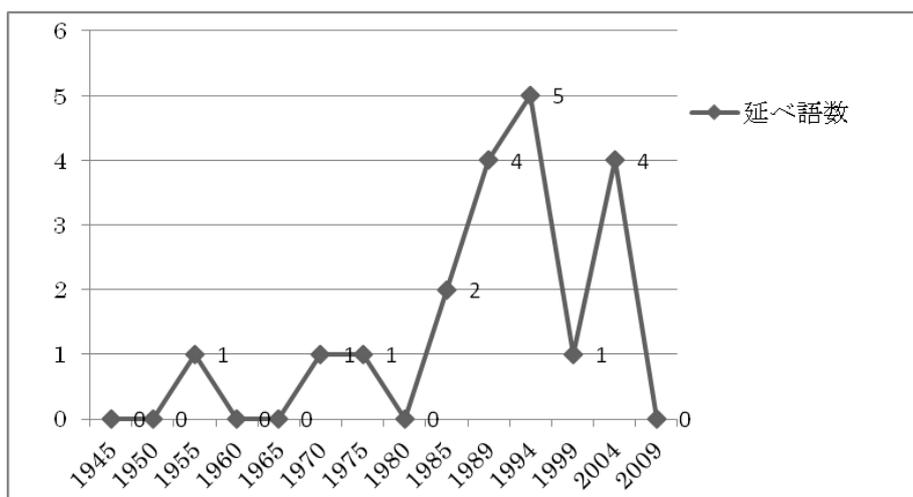


図4-2 「婦人～」が外来語と結合した語の年別出現数

漢語と結合した複合語に比べ、「婦人～」が外来語と結合した複合語は数が少ない。これは、4.5節で述べる「婦人」の「古めかしい」語感に関わっていると思われる。つまり、「婦人」の持っている「古めかしい」といった語感と外来語の「新しい、ファッション」といった語感との間にイメージの「ずれ」があるからだと思われる。次の(24)～(26)は使用例である。

- (24) いま八王子の婦人ボランティアのメンバーは約四百人です。こんなものでは施設ボランティアでさえ満足にできません。(指田志恵子『この光る心を見よ』)
- (25) 所得税と住民税の負担を調整し、教育費の増大、婦人パートの急増、単身赴任者の経済負担に対応して、一兆五百億円の減税要求にこたえるべきだ。(朝日 1985/1/29)
- (26) 生協の原点は組織です。協同精神に燃えて地域活動の核になってくれる婦人リーダーを育てられるかどうかがかギです。(朝日 1985/6/11)

#### 4.4.3 「女性～」との比較

「婦人～」の推移をより明らかにするため、本節では、女性標示語として優位を占めつつある「女性～」との比較を行う。現在では「婦人～」より「女性～」のほうが出現頻度が高く、女性標示語として優勢を占めている。表4-4と表4-5で示す。

表4-4は表4-2の、表4-5は表4-3の語例の前項要素「婦人」を「女性」に入れ替えて調査した後、表4-2と表4-3の「婦人～」の調査結果との比較がしやすいように並べたものである。

表 4-4 「女性～」が漢語と結合した語（延べ語数）

語 例		語 例	
女性部長	204	女性記者	295
女性警官	54	女性交通指導員	0
女性会長	36	女性相談員	34
女性有権者	67	女性部員	46
女性警察官	224	女性教職員	41
女性会員	153	女性発明家	1
女性議員	1013	女性委員	219
女性補導員	1	女性候補	909
女性代表	45	女性防火クラブ員	2
女性自衛官	25	女性労働者	118
計			3487

表 4-5 「女性～」が外来語と結合した語（延べ語数）

語 例		語 例	
女性ボランティア	67	女性ピアニスト	28
女性パート	32	女性パートタイマー	7
女性リーダー	53	女性ハイカー	3
女性アナ	44		
計			234

上記の表 4-4 と表 4-5 から分かるように、「女性警官」「女性有権者」「女性防火クラブ員」「女性補導員」「女性交通指導員」などの語を除いて、総じて「女性」のつくことばは「婦人」のつくことばより遥かに多い。「婦人～」は外来語との組み合わせがごく少量なのに対して、「女性～」は漢語のほかにも外来語ともよく結合する点で「婦人」と対照的である。また、「女性～」のつくことばは戦後から昭和末期まではあまり出現しないが、平成期になってからは急に増えていき、「婦人～」が「女性～」に置き換えられ、代表的な女性呼称の座が次第に「女性～」へと移っていく。この

点に関しては、すでに第2章で触れている。例(27)～(29)で示す。

(27) 集いには、遠くは秋田県などから約五十人が駆けつけた。町の木のナンテン百本や桜五十本を句碑の周辺に植え、地元の女性ボランティアによるお茶の野だてなどを楽しんだ。(朝日 1994/4/19)

(28) 昔は女性アナウンサー同士でたまに旅行に出かけたり、食事に行ったりした。女性アナ同士でなければ分からない悩みなど話しあえて楽しいものだ。(朝日 1989/12/16)

(29) 生きる目標を見失い、天国にある本屋で働くことになった若いピアニスト(玉山鉄二)と、彼が少年時代にあこがれた理想の女性ピアニスト(竹内結子)が出会う。(朝日 2004/6/9)

ここで、「女性～」が外来語と結合した語の延べ語数を年別に図示すると次の図4-3になる。

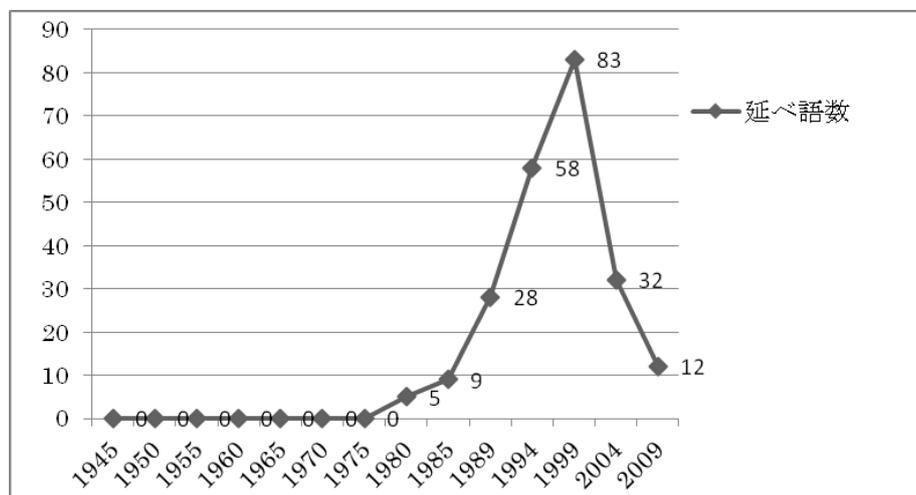


図4-3 「女性～」が外来語と結合した語の年別出現数

図4-3を図4-2と比較してみると、1980年代に入ってから、「婦人～」が外来語と結合した語が「女性～」に置き換えられるようになったことが分かる。これは、本章3節で述べた1980年代の半ばに日本社会で起きた「婦人」を「女子」や「女性」に変更する動向を反映しているものと思われる。

#### 4.5 推移を引き起こす要因

以上、女性標示語「婦人～」の推移と用法を分析してきた。本節では、その推移を引き起こす要因について検討したい。

「婦人～」から「女性～」へ変更されたのは、何に起因するのであろう。その理由としてまず挙げられるのは、「婦」の字形、「婦人」の語義と語感である。

##### 4.5.1 字形、語義、語感

「婦」は女偏に「帚」からなっていることから、「帚を持つ女の人が家のごみを掃除する」というイメージがつきまとっているとされている。許慎等（2007）は、「婦」について、以下のように述べている。

婦：服也。亦以疊韻為訓。婦，主服事人也。《大戴禮・本命》曰：「女子者，言如男子之教而長其義理者也，故謂之婦人。婦人，伏於人也，是故無專制之義，有三從之道<sup>7</sup>。」《曲禮》曰：「士之妃曰婦人。」析言之也。从女持帚灑埽也<sup>ママ</sup>。説会意。房九切<sup>8</sup>。古音在一部。服古音同。 （同 2007:1067）

（「婦」は服なり。疊韻を以って訓とする。「婦」は主に人に仕える人なり。『大戴禮・本命』によれば、「女子は、男子の教えに頼っているため義理に長けるものなり。ゆえに婦人と呼ぶ。婦人は、人に服する人なり。独断専行する権利なく、三従の道がある。」『曲禮』では、「士の妃は婦人なり。分けて言うなり。女の帚を持つに従ふ。灑掃するなり。」会意なり。房九切なり。古い発音は一声なり。古い発音は服と同じなり。）（日本語訳は筆者）

この解釈は 20 世紀に至るまで、長い間支持されてきたものである。日本で漢字の研究に携わっているドイツ人のハルペン、ジャック（1987:140-141）は「婦」につ

<sup>7</sup> 「三従之道」（「三従の道」）の「三従」は「未嫁从父，既嫁从夫，夫死从子（家にあつては父兄に従い、嫁しては夫に従い、夫の死後は子に従う）」のことで、出典は『儀礼・喪服・子夏伝』である。

<sup>8</sup> 「房九切」は反切法の一つである。反切とは中国の伝統的表音法で、ある漢字の字音を示すのに別の漢字 2 字の音をもってする方法である。すなわち、上の字の頭子音（声母）と下の字の頭子音を除いた部分（韻母）とを合わせて 1 音を構成するものである。

いて许慎等（2007）とほぼ同様な説明をしている。

主婦の婦の右側の「帚」は、熊手のようなかっこうをしたほうきママの姿で、これに手へんがついた「掃」は、ほうきを手に持って、ごみを掻き寄せるようにしてはくママことである。掃除、一掃、清掃などと使われる。

「婦」の字は、家事を執り行う女を表すが、家事を“掃除”で代表させたというだけのものではない。婦ということばは、そばに付き添うという意味の「付」や、主たる者に寄り添う者という意味の「副」や、「心服」の「服」なども同系で、夫のそばにぴったりと寄り添って離れない妻—それでこそ男女が共に幸せになるという、伝統的な考え方を示す字なのである。（下線は筆者）

そして、新しい女と男を考える会（1994:7）によって編纂された『知っていますか？女性差別一問一答』という本で「婦」という字を女性差別の漢字として挙げ、下記図 4-4 のように描いている。



図 4-4

「婦」は女性を差別する漢字だという考えと解釈に対して、白川（1976:131）は異なった解説を出している。

婦（三下）は『説文』に「服なり」とし、女子が帚を持つ形で、掃除するものの意であるという。「服なり」とは、いわゆる女子三従の道を説くもので、さき

の妻は夫と斉しきものというのと大いに異なる。それは要するに音の近い語を以て解する音義説にすぎない。帚は掃除の帚ではなく、<sup>ちようそう</sup>苕帚・<sup>たんそう</sup>蓑帚<sup>ママ</sup>といわれる束茅の類で、これに酒をそそぎ祭壇を清めるものである。(下線は筆者)

また、川田(2000:53-56)では、「婦」は古代中国では王の妃を指す文字で、地位の高い女性を意味し、「婦」が手に持つ「帚」は戸外や一般家屋に使われるものではなく、神聖な祭壇を掃き清めるためのものであると指摘している。

白川(1976)と川田(2000)が「婦」の字形に対する解説は許慎等(2007)やハルペン、ジャック(1987)の見解と大いに異なっている。「婦」は女偏に「帚」からなっているが、この「帚」は単純な掃除道具の「帚」なのか、それとも神殿の中を清めるために用いられる重要な道具なのかが、問題の要である。

次に、「婦人～」ということばの意味を見てみる。

日本語の「婦人～」は自由形態素であるため、名詞として単独でも使われる。単独用法の「婦人」は古くは「士の妻」であり、現在では、成人女性一般を表わす。例えば、次のような用例である。

- (30) 私たちのフロアを担当される中年のご婦人に、すれ違うたびに声をかけて、挨拶を心がけておりましたら、最初は戸惑われたようですが、やがてニコニコと笑顔を返してくれるようになりました。(池田香峯子『香峯子抄』)
- (31) 祖母であるはずの老婦人には会えた。けれど、何ひとつ…わからない。ただ、その老婦人が母のことを娘とは思っていないという、そのことがわかっただけで。(ひかわ玲子『惑乱の華』)
- (32) 客の婦人たちは、心安立てに、〈丹子さん、ルビーを見たいのよ、今日は〉などといい、丹子の名を知ったり、呼んだり、することが、上流婦人たちのひそかなステイタスシンボルになっているらしい。(田辺聖子『薔薇の雨』)

「婦人」は、また(33)～(35)で示したように、既婚女性を表わす用法もある。

- (33) 次に、有職者、家庭婦人、生徒・学生に分けて見ると、平日では、家庭婦

人の自由時間が最も多くなっているのに対し、日曜では逆に最も少なくなっている（表 1-8）。（総理府内閣総理大臣官房審議室『観光白書』）

- (34) 伸一は、婦人の話をじっと聞いていた。「…それで私、主人と別れて、日本に帰りたいのです。でも、母の反対を押し切って結婚しましたから、日本に帰っても、誰も迎え入れてはくれません。どうしてよいのか、わからないんです…」婦人はここまで話すと、肩を大きく震わせて泣きじゃくった。  
（池田大作『新・人間革命』）

- (35) このご婦人は金持ちのバツ一男と結婚して、桂木も困っているのだが、しかも様子を見ていると三者合意の上であるらしい。（佐藤亜有子『東京大学殺人事件』）

以上で見てきたように、名詞「婦人」には「成人女性一般」と「既婚女性」との二通りの意味がある。女性標示語「婦人～」は単独用法の「婦人」の影響を受け、「成人女性」「既婚女性」の意味を有している。

最後に、「婦人～」の語感について検討したい。

「婦人」の語感第 2 章においても触れているが、「婦人」は「おばさん」を指す言葉で、既婚女性や年配者のイメージが強い<sup>9</sup>。「婦人」の語は現在では保守的とのイメージをもたれるようになっている（鹿野 1989:10）。鍛冶（1998:4）は、「婦」こそは「家」制度時代の女の在りようを、端的に物語る文字といえる。「婦人」と総称してみても、その古いイメージや内容、そこで形成される意識は変わりようがないと指摘する。また、佐竹久仁子（2001b:163）は、「婦人」の持つ堅苦しい語感が嫌われるようになったのも「婦人」から「女性」への改称の一因だと指摘している。

以上のように、「婦」の字形、「婦人」の成人女性または既婚者の意味と堅苦しく古い語感が「婦人～」から「女性～」への変更を促したのだと思われる。

#### 4.5.2 対語を持たない非対称性

「婦」の字形、「婦人」の語義と語感が、「婦人～」から「女性～」への変更は大

<sup>9</sup> 菊池慶子氏が 1993 年に実施されたアンケート調査の結果による。詳細は、菊池（1995）を参照されたい。

きく関与していることが上述の分析で明らかになった。しかし、「婦人～」から「女性～」へ変更されたのは単なる字形、語義と語感のためだけなのであろうか。

日本語には、男—女、男子—女子、男性—女性のように対になっていることばはあるが、「婦人」に対応することばはない。婦人服—紳士服、婦人靴—紳士靴、婦人用品—紳士用品などのことばがあるように、「紳士」が「婦人」の対語だという見方があるが、「紳士」は「淑女」と対応すると考えるのが一般的である。また、「殿方」が「婦人」の対語だと主張する人もいるが、「殿方」は女性から男性への尊敬語であるため、「婦人」とは上下関係的な語感がある。つまり、日本語には「婦人」に対応する語がない。

菊池（1995）は10代後半から20代前半の女性たちの「婦人」という語に対する認識を調べている。菊池（1995:106）によれば、「婦人」には男と女、男性と女性というような対語がない点で、平等概念に欠ける言葉だという指摘があるという。

「婦人」が対語を持たないという言語上の非対称性は「女性」への変更につながっているもう一つの要因ではないかと思われる。

#### 4.5.3 その他

上述したように、「婦人～」が入れ替えられた要因として、語形、語義、語感と対語のないという非対称性など言語的要因が挙げられる。そのほかに、4.3節で触れてきたように、「婦人～」が「女性～」へ変更された背後には社会的要因、特にフェミニズム運動と切っても切れない関係にあると思われる<sup>10</sup>。

「婦人～」は対応する男性のことばがないことは男女平等の理念にそぐわず、改めるべきだと、フェミニストたちが批判し、変革を要求している。

このように、フェミニズム運動は「婦人～」の推移に大きな影響を与えた社会的要因だと言えよう。

#### 4.6 第4章のまとめ

本章では、1945年から2009年までの『朝日新聞』の記事に現れた女性標示語「婦

<sup>10</sup> フェミニズム運動と言語との関わりは第3章3.4節を参照されたい。

人～」を調査し、考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

戦後から昭和末期にかけては、「婦人～」は多少の増減を繰り返したが、徐々に増加している。平成元年（1989）から現在（2009）までの間では、平成元年にピークを迎え、それ以降は次第に減少していき、「婦人～」が「女性～」に置き換えられる動向が広まってきた。

「婦人～」は漢語と結合した語が圧倒的に多いが、外来語と結合した語も少数ながらある。「婦人～」の使用の縮減と推移には、「婦」の字形、「婦人」の語義、語感と対語がないなどの言語的な要因のほかに、フェミニズム運動がもたらした言語の性差別への批判と変革などの社会的要因も考えられる。

## 第5章 「女（ジョ）～」

---

### 5.1 問題提起

「女～」には拘束形態素の「ジョ・ニョ・メ」と自由形態素の「オンナ」があり、主要な「女性標示語」の一つである<sup>1</sup>。しかし、近年、「女～」の使用が減少し、「女性～」に言い換えられるようになったと言われている（田中・諸橋 1996、佐竹秀雄 2001、田中他 2011 等）。

田中・諸橋（1996:47）は、「“女”が冠につくことばが最も多いが、種類、量ともに約二割減となった」と述べ、佐竹秀雄（2001:78）は、「スパイ・詐欺師・泥棒のような軽んじることのできるものには「女」がつく」と指摘している。

- (1) 恋人と別れさえすれば、私はたぶん、一介の女スパイに戻れるのだ<sup>2</sup>。（江國香織『ウエハースの椅子』）
- (2) 一七八五年に起きた「フランス王妃の首飾り事件」が有名だ。女詐欺師ジャンヌが、マリー＝アントワネットの名をかたり、五百四十個ものダイヤでできた首飾りを盗んで逮捕された。（朝日 2004/10/24）
- (3) 交通事故で視力を失った女性が、かつて愛していた男性の妻から目を奪おうと、悪人を雇って送り込むが、悪人は居合わせた女泥棒を間違えて殺し、目を持ち帰る。（朝日 2008/10/24）
- (4) 卯兵衛はそのお葉という女囚がふと顔を上げた時、思わずハッとした。似ているとした。似ていると思った。菊江にである。（団鬼六『最後の浅右衛門』）

---

<sup>1</sup> 以下の議論では両者を区別する場合は「女（オンナ）～」 「女（ジョ）～」とし、特に区別する必要がない場合は「女～」と表記する。なお、「ジョ」「ニョ」「メ」の三つは「女（ジョ）～」の異形態と考える。

<sup>2</sup> 本章で挙げる例文は一部を除き、全て『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの実例であり、便宜上、『朝日新聞』を『朝日』と略称し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からの例文は出典を明記する。また、用例の下線と翻訳は筆者による。

確かに、上記の（1）～（4）で示したようにいわゆる「軽んじることのできるものに「女～」がつく」用例が見られる。しかし、以下のような用例はどう解釈すればよからうか。

- (5) 娘の友人が韓国の人と結婚するので、せめて「おめでとう」を韓国語で言えたらと思った。見ず知らずの韓国の物産店に入り事情を話したら、女店主は親切丁寧に教えてくれた。（朝日 2012/9/30）
- (6) 「空港に迎えがいるから、安心して行きなさい」女社長は言った。何のために自分をニューヨークに行かせようとしているのか最初は分からなかった。（鎌田敏夫『Body & money』）
- (7) 自分は果たして女帝の地位に値するか。その不安がこの表面は尊大な女帝の胸を凍らせる。（田中澄江『人物日本の女性史』）
- (8) しかし女王に復位してもらうためには、一体どうしたらいいのか。クリーヴランドにとって難問の一つとなったのである。（猿谷要『ハワイ王朝最期の女王』）

(5) と (6) の「女店主・女社長」は「詐欺師・泥棒」のような軽んじることのできるものとは言えないし、(7) と (8) の「女帝・女王」は軽んじることのできるものどころか、一国の最高統治者として、むしろ人々から尊敬されるべき存在であろう。

このように、拘束形態素の「女（ジョ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」を区別せず、一概に「女～」について「軽んじることのできるものには「女」がつく」と指摘するのは必ずしも適切であるとは言えない。同様に、「種類、量ともに約二割減」か否かについても両者を分けて考える必要があると思われる。

そこで、本論文は「女～」を拘束形態素の「女（ジョ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」に分けて議論を進めていく。本章では、まず、拘束形態素の「女（ジョ）～」を取り上げ、主に新聞のデータを用いて、「女（ジョ）～」の使用実態、接

続制約と使用変化を分析し、それらを引き起こす要因について考察する。

## 5.2 データの概要

本章では、『朝日新聞』一年分の記事（2010年1月1日から12月31日まで）を調査し、「女～」の用例を収集した。

検索でヒットした用例のうち、まず人間を表わしていない「女道楽」「女相撲」「女みこし」を除外し、次に「女婿」（男性を表わす）「女衆」「女同士」などを除外した<sup>3</sup>。こうして収集したデータを拘束形態素の「女（ジョ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」に分けてカウントし、延べ語数を降順に表を作成した。

## 5.3 結果と分析

本節では、まず田中他（2011）の調査結果を紹介する。そして、田中他（2011）を踏まえながら、「女（ジョ）～」の接続制約に着目し、「女～」の日本語の女性標示語体系内における位置付けについて検討する。

### 5.3.1 田中他（2011）の調査結果

田中他（2011）は、1985年から五年おきに行った調査のデータをもとに、「女性冠詞」、「性を含み込んだ職業語」と「他者との関係で女男があらわされることば」

<sup>3</sup>「女同士」は全体で女性を表わすが、「女王」「女帝」「女官」「女主人」「女友達」などと性質が異なるため、割愛した。また、「女衆」には「女たち、女性たち」と「下女、女中」といった二通りの意味があるが、今回の調査でヒットした3例は全て「女たち」の意味を表わすため、研究対象から除外した。

- (1) テレビ愛知は、夜の六本木で働く女同士の戦いを描いたドラマの第3弾「嬢王3～Special Edition～」(金曜深夜0・12)が8日から始まった。カリスマキャバクラ嬢を原幹恵が演じる。(朝日 2010/10/15)
- (2) 約50人の観客を前に、浴衣姿の18人が黒帯の男衆、赤帯の女衆に分かれて、「夫婦（みょうと）踊り」など3曲を披露。(朝日 2010/7/15)
- (3) 山仕事で男衆は忙しいから、女衆がそばを打った。姑のそば打ちを嫁が手伝って覚え、次の代の嫁に伝えてきた。だから会津そばは本来食事として発達したそば。(朝日 2010/4/2)
- (4) 冬の保存食を商品化するアイデアが出たのは四半世紀前だ。「女衆の冬仕事になるなら助かる」と下林さんが中心になり、地元の女性25人で「すずしろグループ」という名の会を立ち上げた。(朝日 2010/1/19)

の経年分析をしている。表 5-1 は田中他（2011）による「女（ジョ）～」のつく語の推移を示したものである。

表 5-1 「女（ジョ）～」の推移（延べ語数、三紙合計、半月分）<sup>4</sup>

1985年		1991年		1996年		2001年		2006年	
語例		語例		語例		語例		語例	
女優	111	女優	77	女優	70	女優	67	女兒	143
女王	18	女王	18	女王	28	女王	17	女優	86
女生徒	8	女神	8	女兒	7	女兒	8	女王	15
女教師	5	女兒	8	女生徒	3	女神	6	女神	10
女帝	4	女医	5	女帝	2	女医	3	女学生	7
女神	4	女帝	2	女高生	2	女帝	2	女帝	3
女医	3	女学生	1	女神	2	女生徒	1	女医	1
女学生	2	女生徒	1	女医	1	\	\	\	\
女高生	2	女囚	1	女学生	1				
女兒	1	\	\	女官	1				
女囚	1			女教師	1				
計	159	121	118	104	265				

（田中他（2011:206-207）のデータをもとに作成）

表 5-1 から分かるように、「女（ジョ）～」は 2001 年までは減少傾向にあったが、2006 年は増加した。特に、2001 年まで一桁の頻度だった「女兒」が 2006 年に 143 件に急増している<sup>5</sup>。また、「女（ジョ）～」のつく語は限られ、そのうち「女優」「女王」「女兒」「女神」の使用頻度が高く、一定数を保っていると言える。

田中他（2011:140）は、「これら上位以外の一つひとつの語の推移をみたところでは、ある語が眼にみえて減り、また逆にある語が明らかに増えてきているといった

<sup>4</sup> 田中他（2011）は朝日・毎日・読売の三紙の半月分のデータを取っているため、本章における調査期間とは異なっているが、データとして参考になる。

<sup>5</sup> 田中他（2011）によれば、2006 年に「女兒」が急に増加したのは、調査した時期にある小学校六年生女子がいじめで自殺した事件が各紙で繰り返し報道されたためだという。

ような明確な消長は、確認できなかった」と記述している。

田中他（2011）の指摘を検証するため、本章では、調査範囲を広げ、「女（ジョ）～」のつく語のうち、「女医」「女官」「女中」など出現頻度の低いことばを例として、五年おきに『朝日新聞』一年分の記事を調べ、それらのことばの推移を見てみる<sup>6</sup>。調査の結果は、表 5-2 にまとめた。

表 5-2 「女医」などのことばの推移

語 例	延べ語数						計
	1985年	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	
女医	20	42	39	72	23	22	218
女官	8	17	16	36	81	31	189
女中	10	31	21	42	50	33	187
女給	5	4	2	2	9	4	26
女工	9	19	11	16	11	11	77
女囚	0	5	4	2	7	5	23
女傑	2	3	3	7	2	3	20
女丈夫	0	2	0	1	1	5	9
女帝	10	33	34	56	86	34	253

表 5-2 に示したとおり、「女医」「女官」「女中」など出現頻度の低いことばは調査期間内で増減を繰り返しているが、明確な消長は見られない。つまり、表 5-2 は田中他（2011）の指摘を支持する結果となった。

ただし、これらのことばの延べ語数に明確な増減が見られなかったとしても、「女医」「女高生」「女中」「女工」「女給」などは、現在、「女性医師」「女子高生」「お手伝いさん」「女性従業員」「ウェイトレス」などに言い換えられるようになったこと

<sup>6</sup> 新聞の膨大な量を考慮し、調査は五年おきとした。また、調査年は田中他（2011）と同じく、1985年から2006年までにしたうえで、2011年も調査範囲に入れた。

を指摘しておきたい。下記の表 5-3 と用例 (9) ～ (14) で示す。

表 5-3 言い換えが起きた「女医」などの推移

語 例	延べ語数						計
	1985年	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	
女医	20	42	39	72	23	22	218
女性医師	2	5	10	58	213	102	390
女高生	13	23	41	27	6	3	113
女子高生	31	197	529	896	778	530	2961
女生徒	103	380	207	237	107	54	1088
女子生徒	27	242	654	1613	2116	1169	5821
女学生	15	90	59	69	100	104	437
女子学生	108	237	576	447	524	540	2432
女中	10	31	21	42	50	33	187
お手伝いさん	19	22	15	18	16	15	105
女給	5	4	2	2	9	4	26
ウエートレス	14	39	45	54	38	29	219
女工	9	19	11	16	11	11	77
女性従業員	10	85	131	337	226	165	954

(9) フェミニズム、近ごろはジェンダー（性差）の考えも広がり、「女医」や「女性アナ」などの言い方もやめようという時代になっています。（朝日 2001/2/6）

(10) 「女中」は「お手伝いさん」と言い換えがされている。「お手伝いさん」といくら呼んでも、「女中、女中」とこき使っていた時と実態が変わらなければ、何にもならない。差別語だと抗議されることを、避けようとしているだけでしかない。（朝日 1985/2/4）

- (11) 女性が参政権を得て、社会に声をあげ始めた時代。貧しかった女中さんたちも社会参加に燃えていた。しかし世の中は変わり、「女中さん」は「お手伝いさん」と名を変え、数も減った。（朝日 2001/8/10）
- (12) ビールやラムネ、カルメラ焼きなど懐かしい味も楽しめ、ウエートレス役の“女給”さんたちも和服にかっぽう着姿でハイカラな雰囲気盛り上げる。（朝日 1991/10/24）
- (13) （声）女高生の言葉に落ち込んだ【大阪】おなかがすいてぐずりだした息子を抱え、女子高生が多く乗った発車間際のバスに乗り込もうとしたとき「えー、乗るの」「次にすれば」「信じられない」などの声が聞こえた。（朝日 2011/9/6）
- (14) いじめ自殺の女生徒に黙とう 瑞浪中学校／岐阜県 10月に2年生の女子生徒がいじめを受けて自殺した、瑞浪市土岐町の市立瑞浪中学校では、体育館に集まった全校生徒約450人と教職員が終業式に先立って、女子生徒に黙とうをささげた。（朝日 2006/12/27）

上記の例から分かるように、昔のことについて述べる場合には、当時の雰囲気を反映するために、現在では死語に近い「女中」や「女給」などが使用されている。このような使用は、「女中」「女給」「女医」などのことばに言い換えが起きても、減少傾向が見られず、一定量の使用につながっている一因だと考えられる。

### 5.3.2 「女～」の女性標示語体系内での位置付け

調査の結果、『朝日新聞』から48の語例が抽出された。そのうち、「女（ジョ）～」は21語、「女（オンナ）～」は28語である<sup>7</sup>。調査で抽出したデータをまとめると、表5-4のとおりである。

<sup>7</sup> ヒットした語例のうち、「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるため、両方に加えてある。しかし、異なり語数の上では「女教師」という表記を優先し、一語として計算した。また、調査で「女友だち」「女だるま」の語例もヒットしたが、それぞれ「女友達」「女達磨」として計算した。

「女（ジョ）～」の中に「女医」「女給」「女工」「女神」など縮約された語と「女中」「女将」など最初から当てられた語が混在している。一緒に扱っていいものと一緒に扱ってはいけないものが混在しているため、語の成り立ちなどについて、細かく分析して捉える必要があるが、本論文は、「女（ジョ）～」と「女（オンナ）～」を切り分けることのみを焦点を当てる。よって、自由形態素の「女（オンナ）～」に関しては単なる複合語と同じように分析対象とするが、「女（ジョ）～」に関しては、これ以上の考察は保留とする。さらなる詳細な考察は今後の課題とする。

表 5-4 「女～」(2010 年一年分)

形態的特徴	語 例
ジョ・ニョ・メ <b>【拘束形態素】</b> (21 語)	女兒、女優、女王、女学生、女帝、女生徒、女官、女医、女中、女工、女囚、女傑、女給、女丈夫、女高生、女賊、女将、女神、女孫、女店員、女教師
オンナ <b>【自由形態素】</b> (28 語)	女友達、女主人、女達磨、女芸人、女君、女三四郎、女刑事、女主人公、女社長、女探偵、女船頭、女将軍、女店主、女忍者、女芭蕉、女海賊、女城主、女刑務官、女殺し屋、女相場師、女わらしっこ、女患者、女看守、女作家、女車引、女首領、女囚人、女教師

本論文の第3章では、「女子～」は「教育関連」、「スポーツ関連」のことばの前によくつき、「職業関連」のことばの前にもつく」ことを、また、第6章では、「女流～」は特定の分野で使われ、「芸術・技芸」と「囲碁・将棋」に従事する女性によく使われている」ことを指摘し、その後項要素の特徴について言及している。それらの例を(15)～(20)で示す。

- (15) 野々市町で8日、中学1年の女子生徒(13)が連れ去られた事件は、裁判員によって裁かれることになった。(朝日 2010/12/29)
- (16) 女子大生の一人暮らしにしては、食器が揃いすぎている感もあった。違わってば。(風間九郎『美姉妹狩り』)

- (17) 糸島市の高校1年で女子キックボクシング選手の山田真子(まこ)さん(16)が、東京でプロのデビュー戦に挑む。姉の紗暉(さき)さん(17)も昨年、最年少で女子プロボクサーになったばかり。(朝日 2010/5/29)
- (18) 同神社は全国に約500社ある貴船神社の総本宮として知られる。平安時代の女流歌人・和泉式部が復縁祈願したことから、縁結びの神としても名高い。(朝日 2010/6/2)
- (19) 信楽からの入選は、女性では清子一人だったので、信楽に、神山清子という女流陶芸家がいる。これまでにない魅力的な陶器を作ると、注目を集めた。(岸川悦子・那須田稔『母さん子守歌うたって』)
- (20) しかも、お相手は、超人気の女流棋士・坂東香菜子さん。将棋が分からない人でも、贅沢な気分が味わえるに違いない。想像してみしてほしい。(Tokiyoshi, Otsuka・Yutaka, Akahoshi 『BRUTUS』)

「女～」は「性別の一つ」を表わすため、女性標示語として様々な語に前接することが予想される。しかし、第2章の考察から明らかなように日本語において汎用性の高い女性標示語は「女性～」であり、「女～」ではない。今回の調査では、「女～」には芸術・技芸関連の「画家」「詩人」「小説家」「義太夫」や囲碁・将棋関連の「棋聖」「本因坊」「王将」、スポーツ関連の「選手」「ボクサー」「プロゴルファー」などとの結合の例はなかった。また教育関連では、「女～」は「児童」とは結合せず、「学生」「生徒」との結合も一般的ではないと言える。

表5-4にあるように、「女学生」「女生徒」「女高生」の用例もヒットした。しかし、「女学生」は戦時中の高等女学校の学生のことを指すものが多く(92.5%)、「女子学生」とは意味も用法も違い、置換できない(例(21))。また、「女生徒」と「女高生」はそれぞれ「女子生徒」と「女子高生」とほぼ同義で、置き換えられるが、使用頻度は「女子生徒」と「女子高生」のほうが圧倒的に高い<sup>8</sup>。

- (21) a. 戦時中、私は女学生で、日の丸に必勝と書いた鉢巻き、緋のもんぺ姿。  
(朝日 2010/1/23)

<sup>8</sup> 今回の調査で「女生徒」の78例に対して、2010年の新聞記事に現れた「女子生徒」は「女生徒」の約24.3倍の1896例であった。また、「女高生」の2例に対して、「女子高生」は795例がヒットした。なお、使用頻度の差は表5-3からも分かる。

- b. 女学生時代、学徒動員で工場の寄宿舎生活を送り、一緒に働いた当時の仲間たちの少人数の同窓会があった。（朝日 2010/11/17）
- (22) a. 原爆をテーマにした絵本は作らなかったが、広島で被爆死した女生徒を取り上げた児童書の挿絵を担当した。（朝日 2010/10/2）
- b. この日は夏休み中とあって参加者は少なかったが、1、2年生3人の女生徒と担当の平井明子・教諭に手話を教えているのが、難聴の椿剛史さん。（朝日 2010/8/24）
- (23) a. 女高生を強姦致傷、容疑の消防士を逮捕／栃木県（朝日 2010/6/5）
- b. 女高生は黙ったまま外に目をやった。街からの夕陽が、女高生の横顔を、より憂うつにした。（荒木経惟『センチメンタルエロロマン』）
- c. 女子高生は家族と離れ、このアパートや友人の家を転々としていた。坂本容疑者から金を借りたまま行方がわからなくなっていたところを見つかり、暴行されたという。（朝日 2010/12/27）

以上のように、日本語の「女～」はその抽象度の高い意味に反して、後続する要素には接続制約が見られる。「女～」は「女子～」や「女流～」と同じように女性標示語の体系内で特別な位置付けになっていると考えられる。

「女～」が女性標示語の体系内で特別な位置付けになっている理由として、自由形態素の「女（オンナ）～」が単独用法の「女」の影響を受け、「性の対象物」というマイナスイメージを担ったことが考えられる。この点については、第7章で詳述する。

#### 5.4 「女（ジョ）～」の使われ方

5.3節の表5-1と表5-4に挙げた語例から分かるように、「女（ジョ）～」は「児」「優」「王」「帝」「中」「医」「官」などといった「音読み漢字」の前につくのが一般的である（＝(24)～(26)）。そして、語例が少ないが、「女（ジョ）～」は「神」などという「訓読み漢字」の前にもつく（＝(27)）。

また、「女（オンナ）～」のつく語と違い、「女（ジョ）～」のつく語は単語とし

て定着度が高く、「女優」「女兒」「女王」など固定化している語例が大半である。

- (24) 登場して最初の挨拶をするときには、ただいまご紹介にあずかりました岡田茉莉子です、とさながら興奮した新人女優のように名乗って若々しく、とうてい年輪を重ねた大女優とは思えない。(山根貞男『誰が映画を畏れているか』)
- (25) しかし女王に復位してもらうためには、一体どうしたらいいのか。クリーヴランドにとって難問の一つとなったのである。(猿谷要『ハワイ王朝最期の女王』) (再掲 = (8))
- (26) だから、宮中の女官とおなじなんですね。だから、言葉が女官みたいに「お上」ですね。(司馬遼太郎・山本七平『八人との対話』)
- (27) そして彼は、自分の姉の一人、レイアという女神と結婚する。やがてレイアとの間には何人もの子供が生まれるが、クロノスはこの子供たちが生まれるとすぐ彼女から奪い自分の腹の中に次々と飲み込んでしまった。(吉田敦彦『面白いほどよくわかるギリシャ神話』)

「女（ジョ）～」のつく語には、「女兒・男児」「女優・男優」「女神・男神」「女教師・男教師<sup>9</sup>」のような対になっているものもあるが、「女官」「女帝」「女王」「女将」「女中」など対語のないことばが多い。すなわち、「女（ジョ）」は「男（ダン）」と対になっているにも関わらず、「女（ジョ）～」の平衡表現は少ない。

- (28) プールの排水口では、06年に埼玉県7歳女兒が死亡したほか、今夏にも愛媛県で10歳男児が一時意識不明になった。(朝日 2010/12/29)
- (29) 男神で地下の暗闇の神であるエレポスと、不気味な夜の女神であるニュクス。この二人が愛の神エロスの導きによって結ばれ、結婚し、生まれた子

<sup>9</sup> ただし、「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるが、「男教師」は「オトコキョウシ」しか読めない。そのため、両者は表記においては対応しているが、読みにおいてはずれが生じている。

供は、アイテルとヘメラ。(吉田敦彦『面白いほどよくわかるギリシャ神話』)

- (30) 万年脇役の中年男優が、女優の卵との恋を通して、それぞれの人生の素晴らしさに気づく物語。(朝日 2010/10/23)

「女官／φ」「女帝／φ」「女王／φ」「女将／φ」「女中／φ」などで示されたように、「女（ジョ）～」の使用には性別に関する非対称性が見られる。しかし、「女○○」には、男からの優者によるからかい(寿岳 1979:138-139)が感じられない例がほとんどである。

- (31) だから、宮中の女官とおなじなんですね。だから、言葉が女官みたいに「お上」ですね。(司馬遼太郎・山本七平『八人との対話』)(再掲＝(26))
- (32) 女性医師の増加に伴って労働環境も見直す必要がある。特に小児科の女医は激務に加えて出産や子育てもしなくてはならない。(朝日 2010/3/30)
- (33) ところが、旅館に泊まっているとき、隣の部屋の井上からのメモを、手違いで女中から渡された。(山村美紗『京都婚約旅行殺人事件』)
- (34) 「下山後に入ったお湯の気持ちよさと、女将のお人柄にひかれて、また来ました」――。夏に八ヶ岳登山で立ち寄った横浜市の主婦 4 人グループが、今度は温泉だけを目当てに泊まりに来た。(朝日 2010/12/17)
- (35) 愛用しているジャケットは、十数年前に神戸の三宮の、センター街で買ったものだ。あの時の女店員は感じが良かった。(畠山久米子『ひとりの楽園』)

## 5.5 「女（ジョ）～」の接続制約及び使用変化の要因

5.3 節と 5.4 節で、「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約及び使用変化を見て、「女～」の女性標示語体系内での位置付けを分析した。

分析の結果、「女（ジョ）～」に後続する要素は限られ、「児」「優」「王」「帝」「官」

「医」などといった「音読み漢字」と結合するのが一般的であること、そして、「女（ジョ）～」のつく語は定着度が高く、固定化している語例が大半を占めていることが明らかになった。また、「女（ジョ）～」のつく語は安定性があり、明確な増減は見られないが、「女医」「女中」「女高生」など出現頻度の低いことばは置き換えが起きていることを指摘した。

次節では、なぜ「女（ジョ）～」は上述のような特徴を持つのかを検討したい。

### 5.5.1 「女」の持つ性的ニュアンス

日本語の「女」は「男」の対語として、女性というジェンダーを表わし、「女性、婦人、女の人」の意味で、ふつう成人女性を指す。例えば、次の(36)～(40)のようなものである。

- (36) そして何より、男に生まれず、女でよかったと思う。女として生きてこられたことが、おもしろいと、今も女であることを楽しんでいる。(マダム路子『いま、四十代を生きる女へ』)
- (37) 私はもはやそんな女じゃないわ。虚構と虚飾の世界に生きる女よ。(シドニィ, シェルダン著/天馬龍行・中山和郎訳『明日があるなら』)
- (38) 「英子はかなり気の強い女であったといえます。その鼻っ柱を叩き折ってやろうと、勝彦は考えたのでしょ
- う」米田は胸を張り、身ぶり手ぶりまで交えて話を進めていく。(大倉崇裕『丑三つ時から夜明けまで』)
- (39) 美を求める女の執念と、美を手に入れるための女の忍耐力…すごいわー。  
(Yahoo!ブログ 2008)
- (40) 「あやつは…あの女は人間ではない。—研究すれば、兵器にもなりえる」「なんだって！」洋次は呆然とした。(井上雅彦『ハイドラの吊鐘』)

しかし、「女」は女性というジェンダーを表わすほかに、以下のように特別な意味合いを持つ場合がある。

(41) 真面目な男性に見えても同じ社内で次々と女性を変える人は、いずれ女問題（女性問題／\*婦人問題）で失脚します。

(<http://okwave.jp/qa/q7422603.html> 2013/5/5 参照)

(42) 女狂い（\*女性狂い／\*婦人狂い／\*女子狂い）の息子に困り果てている母親もいるでしょうが、私は逆で、せめて30歳までには人並みにチェリーボーイだけは卒業して欲しいと願っています。（朝日 2011/4/9）

(43) 酒・煙草・博打・女（\*女性／\*女子／\*婦人）！よく、酒・煙草・博打・女(男)、全てやっている人はダメ人間かの代名詞のように言われますが…。

(Yahoo!知恵袋 2010/10/20)

(44) a. 桃子はまだ10歳なのにもう女（\*女性／\*女子／\*婦人）になった。

b. 泰久はずっと刑務所暮らしだったので、女（\*女性／\*女子／\*婦人）をほしがっている。

c. うちの会社にいい女（\*女性／\*女子／\*婦人）がいる。

(Nakamura 1990:155 改)

(41) の「女問題」は「男が女との関係で抱える問題」を指す。そのため、それを包含する「男女関係や女の社会問題」の意味を持つ「女性問題」には置き換えられても、「女が社会で抱えている問題」といった意味の「婦人問題」には置き換えられない。(41)と同様に、(42)の「女狂い」は「女色におぼれること」を指すため、「女性狂い」や「婦人狂い」「女子狂い」に置換できない。

また、(43)の「女」はただ単に「男」の対語として、「女性」という意味を表わすものではない。「酒・煙草・博打」といったものと同列に置かれた(43)の「女」には、「男の欲望の対象物」という意味合いがまとわりついている。そして、(44)の a、b、cの文中の「女」には性的意味合いがある。そのため、(41)～(44)の「女」は同じように女性を表わす「女性」「女子」「婦人」との置換はできない。

ここで、「女」に含まれている意味をさらに探るため、(41)～(44)と対応する中国語の例と比較する。以下、(41')～(44')で示す。

(41') 即使是一位看似认真的男性，但在自己单位频频更换女伴的人迟早会因女人问题 (=作风问题／\*女问题／\*女性问题／\*妇女问题／\*女子问题／\*



言える。

### 5.5.2 「女（ジョ）～」の形態的特徴

単独用法の「女」は性的意味合いが付与されていることが上記の考察で明らかになった。

日本語の「女（ジョ）～」は、拘束形態素であるため、名詞として単独で使われない。よって、「女（ジョ）～」は単独用法の「女」の他の用法における意味変化の影響を受けず、性的ニュアンスを持っていない。この点が端的に表れるのが、年齢制限という接続制約である。例えば、次のようなものである。

- (45) スピードスケートで冬季五輪 5 大会連続出場の岡崎朋美 (39) が 23 日、第 1 子を出産した。2936 グラムの女兒 (\*女子供 / \*女児童)。(朝日 2010/12/25)
- (46) この日は夏休み中とあって参加者は少なかったが、1、2 年生 3 人の女生徒 (ジョ生徒 / \*オンナ生徒) と担当の平井明子・教諭に手話を教えているのが、難聴の椿剛史さん。(朝日 2010/8/24) (再掲 = (22b))
- (47) 「女王 (ジョ王 / \*オンナ王)」とも「天才」とも形容された。親友の女優 (ジョ優 / \*オンナ優) 中村メイコさん (76) は「夫 (神津善行さん) がピアノの伴奏で歌うのを聴いただけで、ほぼ完璧に歌えた」。(朝日 2010/12/25)

(45) ～ (47) に示したように、「女（ジョ）～」には年齢制限がなく、非成年の「女兒」「女生徒」から成人の「女王」「女優」にまで使われている。

「女（ジョ）～」は拘束形態素で単独で使われないため、「性の対象物」という性的ニュアンスを担わず、「性別の一つ」という意味を持つ女性標示語として位置付けられた。

このように、「女（ジョ）～」の「性別の一つ」という意味、拘束形態素という形

態的特徴が「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約と使用変化に影響を与えていると思われる。

また、「女医」「女中」「女高生」など出現頻度の低いことばに置き換えが生じたのはフェミニズム運動との関わりがあると考えられる。なお、フェミニズム運動が「女医」「女教師」「女店員」「女社長」など、「女～」のつく語に与えた影響については第7章で詳述する。

## 5.6 第5章のまとめ

本章では、拘束形態素の「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約、使用変化及びその要因について、先行研究の結果を踏まえながら、『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』などのデータを用いて考察した。その結果、以下のような結論を得た。

「女（ジョ）～」は後続する要素が限られ、「児」「優」「王」「帝」「官」「医」などといった「音読み漢字」と結合するのが一般的である。そして、「女（ジョ）～」のつく語は定着度が高く、固定化している語例が大半を占めている。また、「女（ジョ）～」のつく語は安定性があり、明確な増減は見られないが、「女医」「女中」「女高生」など出現頻度の低いことばには置き換えが起きている。

以上のような結果になったのは、「女（ジョ）～」の「性別の一つ」という意味と拘束形態素という形態的特徴に深く関わっており、フェミニズム運動にも関係していると考えられる。

なお、自由形態素の「女（オンナ）～」と「女～」の使用とフェミニズム運動との関わりは第7章で考察したい。

## 第6章 「女流～」

---

### 6.1 問題提起

「女流～」は「現代では多く女性の芸術家・技術家にいう。」(『精選版 日本国語大辞典』)、「現代語では「女流作家」「女流ピアニスト」など、専門的職業を表わす語と結合した一個の人物を示す複合語を作るもの」(遠藤 1983:19)であり、主要な女性標示語の一つである。

しかし、この「女流～」は、現在は減少しつつあり、あまり使われなくなっているとされる。このような報告は90年代頃から散見されるようになった(田中・諸橋 1996、上野・メディアの中の性差別を考える会 1996、田中他 2009a,2011 等)。田中他(2011:152)は、「この語は歴史的に固有なものをあらわす際に限定的に使用されることはあっても、早晚死語となっていくだろう」と予測している。

しかし、「女流～」が減少傾向を見せ、「早晚死語となっていく」と言われながらも、依然として使われているのはなぜだろう。本章では、新聞のデータベースを利用して、ここ五年間(2006年から2010年まで)の新聞記事に現れている「女流～」の使用実態を観察する。そして、先行研究の結果を踏まえて、「女流～」の使用が減少する要因と、依然として使われている要因について考察する。

### 6.2 調査の概要

本章では、『朝日新聞』の記事(2006年から2010年までの各年(1月1日～12月31日))に出現した女性標示語「女流～」を調査した。

検索でヒットした複数の用例の中から人間を表わしていない「女流文学賞」「女流書道会」「女流陶芸祭」などの用例は除外した。

こうして得られたデータは、「女流棋士」「女流本因坊」「女流作家」「女流画家」「女流俳人」など、使用例が豊富である。本章では、これらを前項要素の「女流」が「女性」に置き換えられるかどうかによって二分した。「女性」に置き換えられるものを「A類」、固有の称号の一部をなして「女性」に置き換えられないものを「B類」

として、分析する<sup>1</sup>。

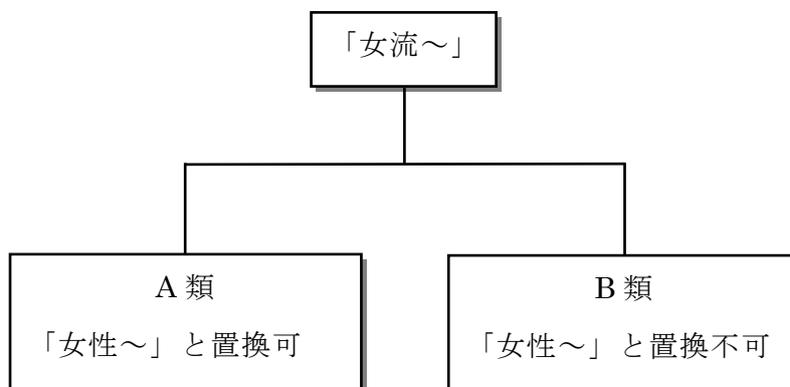


図 6-1 「女流～」の分類

### 6.3 結果と分析

本節では、まず、減少傾向を指摘している田中他（2011）の調査結果を紹介する。そして、本章の調査結果に基づき、「女流～」の出現記事数、タイプ・トークン比（TTR）<sup>2</sup>を明らかにし、「女流～」の使われ方を分析する。

#### 6.3.1 田中他（2011）の調査結果

田中他（2011）は、1985年から五年おきに行った調査のデータをもとに、「女性冠詞」、「性を含み込んだ職業語」と「他者との関係で女男があらわされることば」の経年分析をし、「女流～」は延べ語数、異なり語数ともに、着実に減少してきて、廃語に向かっていると述べている。下記の表 6-1 は田中他（2011）による「女流～」のつく語の推移を示したものである。

<sup>1</sup> B類は、囲碁・将棋の世界における固有の称号であるため、命名者側が「女流」を「女性」などに改称する意向を示すか行動を起こさなければ、「女流～」がそのまま使われていくと思われる。そのため、本章では、B類を「女性」に置き換えられないものとして取り扱う。例えば、次のようなものである。

(1) 女流二冠（\*女性二冠）の謝は1月、梅沢由香里 女流棋聖（\*女性棋聖）を2勝0敗で破り、史上初めて 女流三冠（\*女性三冠）を独占した。（朝日 2010/12/16）

<sup>2</sup> タイプ・トークン（TTR）については、第2章脚注5と第3章脚注5を参照されたい。

表 6-1 「女流～」の推移（延べ語数、三紙合計、半月分）<sup>3</sup>

1985年		1991年		1996年		2001年		2006年	
女流作家	12	女流作家	10	女流棋士	5	女流日本画家	2	女流義太夫	2
女流音楽家	2	女流陶芸家	4	女流作曲家	2	女流棋士	1	女流作家	1
女流陶芸家	1	女流棋士	2	女流詩人	1	女流詩人	1	女流書家	1
女流画家	1	女流画家	1	女流四冠王	1	女流書画家	1	女流俳人	1
女流デザイナー	1	女流かな書道家	1	女流奏者	1				
女流バイオリニスト	1	女流生け花作家	1						
女流演出家	1								
女流建築家	1								
女流史家	1								
女流評論家	1								
女流舞踊家	1								
女流文学者	1								
計	24	19		10		5		5	

（田中他（2011:216）のデータをもとに作成）

### 6.3.2 「女流～」の延べ語数

2006年から2010年までの各年の「女流～」の延べ語数とA類とB類の割合（％）は表6-2のとおりである。

<sup>3</sup> 田中他（2011）は朝日・毎日・読売の三紙の半月分のデータを取っているため、本章における調査期間とは異なっているが、データとしては参考になる。ただし、田中他（2011）では「女流棋聖」「女流王位」「女流二段」など、本論文で言うB類を考察対象から除外しているため、田中他（2011）で論じられている内容は、本論文のA類だけにしか適用できない。

表 6-2 「女流～」の語例<sup>4</sup> (延べ語数、( ) 内はA類とB類の割合)

		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年	
A類	女流棋士	78	女流棋士	107	女流棋士	41	女流棋士	78	女流棋士	95	
	女流作家	11	女流作家	13	女流義太夫	19	女流作家	7	女流義太夫	8	
	女流歌人	6	女流歌人	10	女流作家	11	女流義太夫	7	女流歌人	5	
	女流プロ棋士	6	女流画家	9	女流画家	11	女流歌人	5	女流プロ	5	
	女流俳人	5	女流義太夫	8	女流歌人	9	女流漫画家	4	女流作家	4	
	女流画家	4	女流プロ棋士	4	女流ピアニスト	5	女流プロ	4	女流講談師	4	
	女流講談師	3	女流プロ	3	女流講談師	3	女流プロ棋士	3	\	\	
	女流プロ	3	女流俳人	3	女流プロ	3	\	\			
	女流義太夫	3	\	\	\	\					
その他	10	その他					9	その他			9
小計	129 (34.3%)		166 (31.0%)		111 (27.4%)		125 (25.2%)		126 (25.8%)		
B類	女流名人	42	女流初段	64	女流名人	54	女流二段	58	女流名人	64	
	女流初段	34	女流名人	62	女流本因坊	38	女流初段	51	女流三冠	47	
	女流王将	27	女流棋聖	41	女流初段	34	女流名人	42	女流王将	35	
	女流六段	21	女流王将	26	女流二段	31	女流王位	38	女流二段	30	
	\	女流王位	23	女流棋聖	25	女流王将	25	女流王将	27	女流二冠	29
		女流最強位	22	女流王将	25	女流本因坊	26	女流本因坊	26	女流本因坊	27
		女流本因坊	20	\	\	女流六段	24	女流四段	26		
		女流1級	20			\	\	女流六段	21		
	\	\	女流初段	20							
その他			123	その他	92	その他	87	その他	105	その他	63
小計	247 (65.7%)		370 (69.0%)		294 (72.6%)		371 (74.8%)		362 (74.2%)		
合計	376		536		405		496		488		

<sup>4</sup> 表 6-2 は、A類は延べ語数 3 まで、B類は 20 までの語例を挙げる。その他の語例は、付表 5 に示す。

表 6-2 に示したように、「女流～」のつく語のうち、A 類は B 類より少なく、およそ 3:7 の比率である。A 類の割合は 2006 年は 34.3% であるが、その後は減少傾向にある。

また、A 類の場合は、「女流棋士」「女流作家」「女流歌人」の出現頻度が高く、「作家」「画家」「書家」「義太夫」「陶芸家」「棋士」など芸術や技芸関係のことばの前につけて用いられている。一方、B 類の場合、「名人」「本因坊」「棋聖」「初段」「王将」「王位」などの囲碁・将棋のタイトルや段位を表わすことばの前につく。そこで、A 類を「芸術・技芸」、B 類を「囲碁・将棋のタイトルと段位」と名付ける。

では、なぜ B 類は総数の 7 割ほどを占めているのであろうか。それには、新聞固有の事情と囲碁・将棋の世界の固有の称号の特性とが関わっている。

第 3 章で述べてきたように、「女流～」を含め、「女性標示語」が使われるのは、以下の条件が考えられよう。

- ①男性のものとされる世界に女性が進出してきた場合。
- ②その力が男性に比べて弱く、男性とは一線を画した存在として扱いたいという思いが明確な場合。

「芸術・技芸」の A 類は①の場合に相当すると言える。②の場合はそれほど多くはないが、その数少ない場合が、囲碁・将棋の世界だと思われる。囲碁では少数ながら、古くから女性の棋士がいるが、将棋はかつて男性だけのもので、女性が出てきたのは比較的最近である。女性進出当初から現在まで圧倒的な実力差が存在する。囲碁・将棋にはそれぞれ連盟なるものがあるが、将棋には女性だけの組織がある。囲碁は将棋ほどではないが、やはり相当な実力差がある。

このような状況の中で、女性の棋士は「女流棋士」と名付けられ、そのタイトルも（男性の）「名人」に対して「女流名人」、（男性の）「本因坊」に対して「女流本因坊」といった形で名付けられたのだと考えられる。では、なぜ「女性～」「女～」ではなく、「女流～」であったのだろうか。それは、囲碁・将棋などが技芸に関わるからだと思われる。

また、なぜ B 類の「囲碁・将棋のタイトルと段位」は総数の 7 割ほどを占めているのであろう。それには、囲碁・将棋欄の存在という新聞固有の事情と B 類が固有

の称号であることが関わっている。新聞に囲碁・将棋の棋譜を掲載することは、読者の要望が強く、販売に直接関わるため、新聞社は、各社、紙面に囲碁・将棋欄を設けている。そこに女性の棋士が登場する場合には、必然的に囲碁・将棋界の固有の称号である「女流～」がしばしば用いられることになるのである。

### 6.3.3 「女流～」のトークン比（TTR）と造語力

「女流～」のつく語の豊富さ、多様性と造語力を見るために、A類とB類のトークン比（TTR）を算出し、表6-3にまとめた。

表 6-3 「女流～」のトークン比

年		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	全体
		トークン比					
A類	延べ語数	129	166	111	125	126	657
	異なり語数	17	15	15	20	10	40
	トークン比	0.132	0.090	0.135	0.160	0.079	0.061
B類	延べ語数	247	370	294	371	362	1644
	異なり語数	20	18	21	18	17	28
	トークン比	0.081	0.049	0.071	0.049	0.047	0.017
総延べ語数		376	536	405	496	488	2301
総異なり語数		37	33	36	38	27	68
総トークン比		0.098	0.062	0.089	0.077	0.055	0.030

表6-3から分かるように、A類「芸術・技芸」はB類「囲碁・将棋のタイトルと段位」よりトークン比の値が高いが、延べ語数も異なり語数も少ない。B類の場合、延べ語数は多少の増減はあるが、異なり語数はさほど変わらない。また、総トークン比で見ると、全ての年が0.1以下で、特に全体の総トークン比が非常に低く、限られた語が反復して用いられていることが分かる。

次に、「女流～」がどれぐらい多くの語と結び付くかという造語力を種類別に見て

みる。

表 6-3 の異なり語数で見れば、A 類は 40、B 類は 28 であり、B 類より A 類のほうが造語力が多少大きく見える。しかし、それは、B 類は囲碁・将棋の世界の固有の称号で、自由に造語するわけにはいかないため、当然の結果だと言えよう。また、造語力が多少大きく見える A 類においても新しいことばを生み出すことが難しく、「女流ピアニスト」「女流ギタリスト」などはもちろんのこと、「女流作家」「女流画家」「女流歌人」など固定的に使われてきたものでも、今では「女性作家」「女性画家」「女性歌人」のほうが優勢を占めている。表 6-4 で示す。

表 6-4 「女性～」の語例（延べ語数）

		2006 年		2007 年		2008 年		2009 年		2010 年	
A 類	女性棋士	7	女性棋士	9	女性棋士	12	女性棋士	5	女性棋士	13	
	女性作家	81	女性作家	94	女性作家	55	女性作家	68	女性歌人	14	
	女性歌人	9	女性歌人	5	女性画家	30	女性歌人	5	女性義太夫	0	
	女性俳人	1	女性画家	32	女性義太夫	0	女性漫画家	2	女性作家	73	
	女性プロ棋士	0	女性義太夫	0	女性歌人	6	女性プロ棋士	0	女性講談師	3	
	女性画家	28	女性俳人	5	女性ピアニスト	9	/	/	女性プロ	1	
	女性講談師	6	女性プロ	0	女性講談師	7			/	/	
	女性プロ	1	女性プロ棋士	0	女性プロ	2					
	女性義太夫	0	/	/	/	/					
	その他	98	その他	88	その他	95	その他	75	その他	121	
計	231	233	216	155	225						

表 6-4 は付表 5 の語例の前項要素「女流」を「女性」に入れ替えて調査した後、表 6-2 の「女流～」の調査結果との比較がしやすいように並べたものである。「女性義太夫」「女性トッランナー」「女性絵本画家」などは調査期間内では用例は見つからなかったが、ことばとしては存在する。(1) ～ (3) で示す。なお、B 類の場合、

(4) のような「女性名人」の疑似用例が2例ヒットしたが、囲碁・将棋のタイトルではないため、除外した。

- (1) 女性義太夫の竹本佳之助（三味線・鶴澤津賀栄）が「一谷嫩軍記・須磨ノ浦の段」を初々しく語った後、姉さん格の真打ち、神田すみれが「姐己のお百・桑名屋事件」。（朝日 1996/11/2）
- (2) ルワンダ代表として三回連続オリンピックに出場したアフリカの女性トップランナーが、内戦によってザイールの難民キャンプで暮らしている。ムカムレンジ・マルシアンナさん（三五）。（朝日 1994/11/5）
- (3) 開館5年目を迎え、武蔵野美術大と協力したサマースクールの開催やイタリア人女性絵本画家、キアラ・ラパッチーニさんを招いた公開講座を予定している。（朝日 2002/3/2）
- (4) a. 03年に全日本素人そば打ち名人大会で初の女性名人になった横浜市港北区の主婦寺西恭子さんら3人のそば好きが、うまいそばがあるとの情報を聞きつけてあちこち出かけ、3カ月がかりでまとめた情報を本にした。（朝日 2007/8/21）  
 b. 筑波山ガマロ上保存会 会員数約90人。永井兵助を襲名する名人を、技や人柄など総合的に判断して選定している。現在19代には初の女性名人、吉岡久子さん（83）。（朝日 2006/8/30）

#### 6.3.4 「女流～」の使われ方

6.3.2節の表6-2に挙げた語例からも分かるとおり、「女流～」は「棋士」「作家」「書家」「落語家」「棋聖」「本因坊」「名人」など「芸術・技芸」や「囲碁・将棋のタイトルと段位」など特定分野の職業や身分を表わす語の前によくつく。例えば、次のようなものである。

- (5) 塩入先生は二十分粘ったが、女流棋士の方がシンが強い。三十分以上も問題を眺めている。これをチラと見て五良師がからかった。（中山典之『完本実録囲碁講談』）

- (6) それに、ショパンとその恋人の女流作家ジョルジュ・サンドが同棲していた僧院がある、バルデモーサにも近い。(渡辺淳一『化身』)
- (7) 1月二十六日(土)に原市公民館で「講談の世界」を開催します(二十九ページ参照)。**■■**さんの講話のほかに女流講談師による口演も聞けますのでぜひご参加ください。(広報あげお 2008)
- (8) 16人のトーナメントで、3人が出場した日本勢は、謝依旻女流本因坊が2回戦で、青木喜久代八段、知念かおり四段が1回戦で敗退した。(朝日 2010/9/16)
- (9) 女流二冠の謝は1月、梅沢由香里女流棋聖を2勝0敗で破り、史上初めて女流三冠を独占した。(朝日 2010/12/16)

また、下記の(10)～(12)と表6-5が示すように、A類「芸術・技芸」では「女流作家」「女流歌人」「女流俳人」の使用例のうち、女流作家樋口一葉、女流歌人和泉式部、女流俳人田上菊舎など歴史的人物を指すケースが大半である。「女流～」はその分野で評価を得た女性を示し、「権威」のニュアンスを帯びて用いられていると言えよう。

- (10) a. 「一葉忌」は明治の女流作家、樋口一葉の忌日(11月23日)。彼女は当時、雑誌『都の花』に『うもれ木』を発表。(朝日 2008/12/2)
- b. 物語は後に一葉となる夏子19歳の夏から始まる。「私にとっては学生時代に文学史で学んだ女流作家で、5千円札の人でしたが、台本を読み、心がきれいで優しい人だなと感じました」と田畑。(朝日 2009/5/28)
- (11) a. 引用の和歌「うたゝねに恋しき人を見てしより」(小野小町)にもあるように、和泉式部や小野小町のような平安女流歌人の官能的な恋歌に親炙し、晩唐のデカダンス詩人李長吉(李賀)の詩作品に耽溺した。(泉鏡花・種村季弘『泉鏡花集成』)
- b. 平安時代の女流歌人、和泉式部が立ち寄り、近くの薬師堂にこもったとの伝承も残る。恋多き歌人も、この近くに湯治にやって来ていたのかもしれない。(朝日 2007/8/26)
- (12) a. 江戸時代の女流俳人、田上菊舎(1753～1826)の俳句11句が新たに京

都で見つかった。(朝日 2006/5/7)

- b. 江戸後期の俳人小林一茶は、中年の頃、房総を遊歴して、富津の女流俳人花嬌と親交があったが、木更津へもしばしば立ち寄っている。(西脇隆英『江戸をたずねて街道めぐり』)

表 6-5 歴史的人物に使われる「女流作家」らの記事数／全体の記事数

( ) 内は割合

語 例	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	計
女流作家	3/10	7/13	5/11	3/6	0/3	18/43 (41.9%)
女流歌人	5/5	8/8	7/8	3/5	5/5	28/31 (90.3%)
女流俳人	5/5	3/3	1/2	1/1	0/0	10/11 (90.9%)
計	13/20	18/24	13/21	7/12	5/8	56/85 (65.9%)

朝日新聞社の記者用『取り決め集'94』では、「女流作家、女流画家は特に必要なとき以外は使わない」とある。(13)と(14)のように、無標の形で女性の作家や画家を表現し、「女流作家」「女流画家」を固有名詞のように使う例があるが、(15)のように性別情報が不必要な場合に「女流～」が使われるケースも見られる。

- (13) 大正、昭和期に活躍した作家・吉屋信子の生誕 110 周年を記念し、吉屋が学んだ県立栃木女子高校（当時・栃木高等女学校）の同窓会が、栃木市内を流れる巴波川沿いの公園に記念碑を建立、24日に除幕式があった。女流作家の先駆的存在ながら市民の間でも決して認知度は高くない。(朝日 2006/11/25)
- (14) 画業 75 年になる古賀市在住の洋画家、赤星信子さん (96) =写真=の作品展が 17 日、古賀市中央 2 丁目の「サンフレアこが」2 階ギャラリーで始まった。戦前・戦後にかけて自由な気風で活動した女流画家の一人で、若き日は東京・銀座を歩くモガ（モダン・ガール）だった。(朝日 2010/7/18)
- (15) 朝日新聞北海道支社が主催した「第 25 回らいらっく文学賞」の受賞者で、札幌市在住の主婦喜多由布子さん (46) が、女流作家としてスタートの第

1 作の書き下ろし長編「アイズグリーンの恋人」が、集英社から 5 日、全国発売される。(朝日 2006/4/4)

上記の (15) では、文中に「主婦」という女性を表わすことばがあるため、無標の「作家」だけで主人公の喜多由布子の職業や身分が表せるが、有標の「女流作家」が使用されている。

「女流書家」「女流作家」「女流陶芸家」などはよく展覧会のチラシやポスターに使われる。宣伝のために性別情報が必要な場合もあるかもしれないが、男性の場合には無標の職業名が使用されていることが多い。(16) と (17) を見られたい。

- (16) a. 田中順子ギターコンサート 7月4日14時、奈良市学園南3丁目の学園前ホール。女流ギタリスト田中さんのコンサート。(朝日 2009/6/17)
- b. 元アナウンサーの館野直光さんが「破獄」ほかを朗読。ギタリストの佐藤洋一さんが古典の名曲を演奏。(朝日 2010/11/26)
- (17) a. アメリカの女流画家・レスリー・セイヤーさんが描いた花の油彩画や版画など約40点を展示販売。(朝日 2008/10/16)
- b. 広田和典スケッチ展 4～17日、福山市芦田町上有地のスペース461。同市新市町在住の画家広田さんが、ポルトガルやイタリアなどを旅行した際に描いたスケッチ画約200点を展示販売する。(朝日 2010/12/30)

さらに、下記の (18) ～ (20) が示すように、男女が同じ記事に現れる場合でも、男性は「無標」、女性は「有標」の形式を取ることが珍しくない。

- (18) 1人は古河市出身の歌人・女流作家の若杉鳥子 (1892～1937)。もう1人は、旧石下町出身でアララギ派を代表する歌人・小説家の長塚節 (1879～1915)。(朝日 2007/6/30)
- (19) a. インターネット上で俳句と出会い、それが高じて俳都・松山の句会ライブを体験したいと来県。その会場で知り合った運命の俳人のもとに、2年前、遂に嫁いできた若き女流俳人である。(朝日 2008/12/13)
- b. 江戸後期の俳人小林一茶は、中年の頃、房総を遊歴して、富津の女流俳

人花嬌と親交があったが、木更津へもしばしば立ち寄っている。(西脇隆英『江戸をたずねて街道めぐり』)(再掲＝(12b))

- (20) かつて少なかった女流講談師が今や講談協会の半数を超える中、講談師の田辺一鶴さん(79)が「男性よ頑張れ」との意味を込めて初めて男性だけの一門会を4日、台東区上野1丁目のお江戸上野広小路亭で開く。(朝日2008/7/4)

そこから、「新聞が無意識のうちに想定している人間は、実は男性であり、「暗黙のうちに“標準”と見立てられた男性から女性を区別して描いている」(田中・諸橋1996:39)、「そこに「人間＝男観<sup>5</sup>」が現れているなどの指摘が行われた。

しかし、第1章でも述べたように、このような指摘をするためには、少なくとも、これを言語学的に論証するための根拠が必要である。また、「女性標示語」に「人間＝男観」という想念が見られるならば、「男性標示語」の場合は、「人間＝女観」という想念があるはずであるが、用例を見る限り、そのような想念が見られない。(21)～(24)で示す。

- (21) そして二日目からは、国会内自民党控え室の模様替え、仕切りの設置などを始めた。同時に私の知らぬ間に、親しい男性職員を当時の職務と兼任の形で幹事長室部長代理に任命。ここに至って梶山の真意は明確になった。(奥島貞雄『自民党幹事長室の30年』)
- (22) 専門的な治療が必要な場合は適切な診療科を紹介することになるが、「紹介先が男性医師となるケースもある」(同病院)のが実情という。(北海道新聞2004)
- (23) 端正ながらふっくらとした顔立ち通りに、勉強ができてギスギスしたところがなかったので、男子生徒に限らず女の子にも評判が良かった。(大平健『純愛時代』)
- (24) 江戸の鮓屋は、押し鮓・箱鮓のように時間をかけることなく、客がきたと

<sup>5</sup> 中村(1995:25)は、「男が人間の基準であり、女は基準から逸脱した存在である」という考え方を「人間＝男観」と名付けて、「「人間＝男観」は、「性差別・家父長制・男支配」のイデオロギーを支え正当化する機能を果たしている重要な考え方のひとつである」と述べ、英語にも日本語にも「人間＝男観」による言語現象が多く存在すると指摘している。詳しくは、中村(1995)を参照されたい。

きその場でできる握り鮓（早鮓ともいう）を発明した。立ち喰いの屋台店が流行ったのは、せっかちな男客が多かったからであろう。（北原進『八百八町いきなりくり』）

## 6.4 考察

田中他（2011）のデータでは女性標示語「女流～」が減少傾向を見せているが、今回の調査データでは「女流～」が未だ使用され続けていることが明らかになった。本節では、①なぜ「女流～」の使用が減少するのか、②にもかかわらず、なぜ「女流～」が生き延びているのかの二点を検討したい。

### 6.4.1 なぜ「女流～」の使用が減少するのか

「女性標示語」は性別に関しては非対称的で、後続の名詞句が表わす集合を成す各構成員が基本的に女性が有標、男性が無標という実態を背景にしている。そこから、先行研究において、「男＝人間」、「女性は垂流」の発想が見られるなどの指摘がなされてきた。

中でも、「女流～」は女性が有標であることを明確に示す性標示語として取り上げられてきた。「女流作家」の作品は、作家が「女である」という観点からのみ評価されることになる」（中村 1995:82）、「女流」はあっても「男流」という対語がない、これは言語上の性差別だとしばしば議論される対象となり批判されるのである。

言語上の性差別問題は、1960年代以降欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動によって指摘され、批判されるようになった。英語圏のフェミニストは、性差別的な言語を改革し、性差別のない言語を使おうという言語改革運動を提案した。言語改革運動の目的は、女が差別される社会の構造を反映している言語使用を改善しようというものである。具体的には、①女と男を平等に表現すること、②ステレオタイプを表現しないこと、③あいまいな表現は避けることの三点を要求している。そして、この欧米で起きたフェミニズム運動が1970年代に日本に波及し、1980年代から、日本語の差別表現に関する包括的な研究が行われてきた。

上野・メディアの中の性差別を考える会（1996）では、新聞紙面に現れた性差別

的表現の具体例を採取し、それをもとに「性別情報不問、ジェンダー的公正、(両性の)対称な取り扱い、包括的な表現、脱・固定概念」というジェンダー的公正報道の五原則を提案している。

新聞界では、記者用のハンドブックや用語集が、性差別的表現を批判するフェミニズム運動の高まりを受けて、その主張が一部取り入れられ改定されてきた。

例えば、朝日新聞の『取り決め集'94』では、「女流作家、女流画家」が「性差別語」として挙げられ、特に必要なとき以外は使わないという方針が示され、『毎日新聞用語集 改訂 1992 年版』の「避けたい言葉」でも「女流は表現に気をつける」と注意を促されている。共同通信社 1997 年版の『記者ハンドブック 第 8 版』では、「女流→固有名詞以外は使わない」とされ、2005 年の第 10 版では、「差別語」の項目で「女性を特別視する表現や、男性側に対語のない女性表現は原則として使わない」と前置きしてから「女流→「女流名人」などの固有名詞以外は使わない」と記している。

このように、「男流」ということばがないという言語上の非対称性の問題、フェミニストたちの批判と各種「表現ガイドライン」の実施は女性標示語「女流～」の使用に大きな影響を与えたのである。

#### 6.4.2 なぜ「女流～」が生き延びているのか

上述したような要因で「女流～」の使用が制限され、減少していくことが分かった。しかし、こういう改革運動や変化が起き、ガイドラインが策定されたにも関わらず、「女流～」が未だ消えずに生き延びているのは一体なぜだろうか。

ここでは、「女流～」を A 類と B 類に分けて考察する。

A 類「芸術・技芸」が依然として使われるのは以下の要因が考えられよう。

佐々木恵理 (2001:237-238) は、「ことばに関する小さな問題提起が実りある言語改革運動へとつながりにくいのは、そこに衝突を好まないこうした日本人の文化的精神のようなものがあるのではないかと思う」と述べている。つまり、差別語・差別表現の改革を阻む要因は、「和を重んじ、突出せず、その場を丸くおさめる」という日本の文化的精神だとしている。

このような文化的精神の影響を受けた性差別表現を改善、改革する動向に対して、

これは「文化的遺産としての文学作品や慣用句などを破壊する」「女たちの不平不満表現」「言葉狩り」だと批判し軽んじる人が多く現れたのであろう。すなわち、日本でも欧米と同様、「言葉は問題にするに足らぬ」と見なす傾向が強いようである。

言語改革運動への拒否と批判が、改革の進捗を阻むのは言うまでもないが、改革の効果が直ちに現れないのは、言語改革が提案されてから約30年しか経っていないのも一因だと考えられよう。

れいのるず＝秋葉(1998:227)は、「意識的に変化を促進する言語改革の場合でも、それが社会全体に浸透するのは、やはり世紀単位の時間が必要だろう。特に文化の根底に染み込んでしまった差別的偏見は容易には除去できない」と述べ、言語変化の緩やかさを指摘している。

日本では、1871年(明治4年)に明治政府の「解放令」によって「穢多」「非人」の称が廃止されたが、1983年9月1日の『毎日新聞』の「編集者への手紙」という投書欄で「教育意識革命こそ必要」と題する新潟市の37歳の主婦からの投書の中に「非人」という表現があった。

(25) ……端的に言えば、人らしい味わいが子供たちの中から欠落してきている……人として最も大切な、ゆったりとした情操とか、しっかりした思想とかいうものが入り込むひまがないのである。一例が、小学校では教室に種々の表が張り出されている。百点の数、ドリルの終了ページ数、読書冊数……等々。コンクールや大会なども競争を極めている。教師も生徒もわき目も振らずにこれらに猛進している。その落伍者は非人ということになりかねない……。(高木 1999:62)

また、「気違い」など精神障害者に関する表現と並んで、身体障害者に関する「めくら」「つんぼ」「おし」「びっこ」なども差別的表現とされ、言い換えが起きた。しかし、今でも完全に使用されなくなったとは言えない。次の(26)を見られたい。

(26) 先月の声欄「年を取ったら邪魔者ですか」を読み、バスの中で耳にした老人の嘆きを思い出した。

「もう先見えてるんだから、孫にまで、つんぼだってバカにされるんだ」

と補聴器をつけた老人がぼやいた。「虫けら以下よ。嫁がパートに出かける時、米びつの米を計り、カギをかけていく。公園でパン食べて水を飲む。もう疲れた。いっそのこと……」と、老婦人が手を首に当てた。「お互い長生きしすぎだ。大学まで出して、裏切られた」。男の怒りが続く。私は胸が苦しくなった。(朝日 2001/6/2)

「非人」「つんぼ」などの差別語が容易に消えないのと同様に、差別的だとされている女性標示語「女流～」もすぐには消えずに生き延びるのであろう。

以上のような要因のほかに、「女流～」が性差別性を指摘されながらも依然として使われている理由の一つに、これが芸術や技芸に関する専門的な職業名のようなプラス価値を持つ語につくということがあると思われる。

一方、B類が生き延びているのは、主に「固有の称号の特性」と「新聞固有の事情」に関わるのであろう。つまり、B類は囲碁・将棋のタイトルと段位を表わす固有の称号であるために、命名者側が「女流」を「女性」などに改称する意向と行動を起こさなければ、恐らく「女流～」がそのまま延々と使われるのであろう。そして、新聞は上記の6.3.2で述べたように囲碁・将棋の世界との結び付きがあるため、囲碁・将棋の世界のことはそのまま使わざるをえないのである。

上述した「社会・文化的要素」、「改革時間の不足」、「プラス価値の語につく」、「固有の称号の特性」、「新聞固有の事情」が働いているため、女性標示語「女流～」の問題点が認識され、その使用が減少しつつあるといっても、まだ生き残っているのだと考えられる。

## 6.5 第6章のまとめ

本章では、減少傾向を見せ、「早晚死語となっていく」と言われている「女流～」の使用実態を観察し、「女流～」の使用が減少する要因と、依然として使われている要因について考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

第一に、「女流～」は特定の分野で依然として使われ、「A類 芸術・技芸」と「B類 囲碁・将棋」を生業とする女性によく使われている。「女流～」のつく語は限られており、造語成分としての力を殆ど持っていない。また、「女流～」の使用には男

性が無標、女性が有標という現象が見られはするが、性差別的だと断定することはできない。

第二に、「女流～」の使用が減少しているのは、「言語上の非対称性」、「フェミニズム運動の影響」、「メディア側のガイドラインの公布」の三つの要因が考えられる。

第三に、「女流～」が生き延びているのは、「社会・文化的要素」、「改革時間の不足」、「プラス価値の語につく」、「固有の称号の特性」と「新聞固有の事情」の五要因のためだと思われる。

女性標示語「女流～」の使用は永遠不変ではなく、刻々と変化している。このような使用実態と変化はことば自体のみによるものではなく、その背後に複雑な要素が絡んでいることが上記の考察で明らかになった。「女流～」の使用に現れる非対称性を解消するためには、「女流棋士」「女流作家」など身近なことばに幻惑されずに、積極的に言語を変革し、男女とも「棋士」「作家」で表わす努力が必要であろう。つまり、「男流棋士／女流棋士」「男流作家／女流作家」などの性的公平（ジェンダー・フェア）ではなく、性の「中立化」（ジェンダーフリー）が望ましいと言える。

## 第7章 「女（オンナ）～」

---

### 7.1 第5章で明らかにされたこととその課題

本論文の第5章において、主に『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータを用いて、拘束形態素の「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約と使用変化を分析し、その要因について考察した。その結果、拘束形態素の「女（ジョ）～」に関して、次のような結論を得た。

#### 「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約、使用変化及び要因：

- (1) 「女（ジョ）～」は後続する要素が限られ、「児」「優」「王」「帝」「官」「医」などといった「音読み漢字」と結合するのが一般的である。
- (2) 「女（ジョ）～」のつく語は定着度が高く、固定化している語例が大半を占めている。
- (3) 「女（ジョ）～」のつく語は安定性があり、明確な増減は見られないが、「女医」「女中」「女高生」など出現頻度の低いことばでは置き換えが起きている。
- (4) 以上のような結果になったのは、「女（ジョ）～」の「性別の一つ」という意味と拘束形態素という形態的特徴に深く関わっており、フェミニズム運動にも関係していると考えられる。

第5章では、拘束形態素の「女（ジョ）～」を考察対象にし、「女（ジョ）～」の使用実態、接続制約と使用変化を分析し、女性標示語「女～」が女性標示語の体系内での位置付けについても言及した。しかし、なぜ「女（ジョ）～」のつく語に明確な増減が見られないにもかかわらず、置き換えが生じたのかに関する記述は課題として残された。

また、「女（オンナ）～」が「性の対象物」という性的意味合いを担い、「女～」が女性標示語の体系内で特別な位置付けになっているのはなぜか。その理由も説明する必要がある。

本章では、自由形態素の「女（オンナ）～」を取り上げ、新聞のデータとコーパ

スの実例に基づいて、「女（オンナ）～」の使用実態、接続制約と使用変化を分析し、それらを引き起こす要因について考察する。そして、「女（ジョ）～」に置き換えが生じた理由をフェミニズム運動、「女（オンナ）～」の使用変化を単独用法の「女」の影響とフェミニズム運動を用いて説明する。

## 7.2 データの概要

本章では、『朝日新聞』一年分の記事（2010年1月1日から12月31日まで）を調査し、「女～」の用例を収集した。

検索でヒットした用例のうち、まず全体として女性を表わさない「女みこし」「女形」「女道楽」「女相撲」などを除外し、次に「女衆」「女同士」などを除外した<sup>1</sup>。

## 7.3 調査結果と分析

本節では、田中他（2011）の調査結果と第5章の考察を踏まえながら、「女（オンナ）～」の接続制約と使用変化について分析する。

### 7.3.1 「女（オンナ）～」の使用実態と接続制約

調査の結果、『朝日新聞』から48の語例が抽出された。そのうち、「女（オンナ）～」は28語、「女（ジョ）～」は21語である<sup>2</sup>。調査で抽出したデータをまとめると、表7-1のとおりである<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 考察対象から除外した具体的な理由については第5章脚注3を参照されたい。

<sup>2</sup> ヒットした語例のうち、「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるため、両方に加えてある。しかし、異なり語数の上では「女教師」という表記を優先し、一語として計算した。また、調査で「女友だち」「女だるま」の語例もヒットしたが、それぞれ「女友達」「女達磨」として見なし、計算した。

<sup>3</sup> 「女～」には自由形態素の「オンナ」と拘束形態素の「ジョ」「ニョ」「メ」がある。以下の議論では両者を区別する場合は「女（オンナ）～」 「女（ジョ）～」とし、特に区別する必要がない場合は「女～」と表記する。なお、「ジョ」「ニョ」「メ」の三つは「女（ジョ）～」の異形態と考える。

表 7-1 「女（オンナ）～」の語例（2010 年一年分、延べ語数）

語 例		語 例		語 例	
女友達	42	女探偵	4	女相場師	2
女主人	32	女船頭	4	女わらしっこ	1
女達磨	12	女将軍	3	女患者	1
女芸人	10	女店主	3	女看守	1
女君	9	女忍者	3	女作家	1
女教師	8	女芭蕉	3	女車引	1
女三四郎	6	女海賊	2	女首領	1
女刑事	5	女城主	2	女囚人	1
女主人公	4	女刑務官	2		
女社長	4	女殺し屋	2		
計	169				

第5章では、「女～」はふつう教育関連の「生徒」「学生」「児童」とも、スポーツ関連の「選手」「ボクサー」「プロゴルファー」や芸術・技芸関連の「画家」「詩人」「小説家」「義太夫」、囲碁・将棋関連の「棋聖」「本因坊」「王将」などとも結合しないという考察結果を得た。

そして、第5章では、「女（ジョ）～」には年齢制限がなく、非成人の「女兒」「女生徒」から成人の「女王」「女優」まで使われていると指摘した。

それに対して、自由形態素である「女（オンナ）～」は、(5)のような用例も見られるが、表 7-1 と (6)～(8) から分かるように、後続する要素には年齢制限が見られ、成人を表わす要素に前接するのが一般的である。

- (5) 「蔵から男わらしっこと女わらしっこが手つないで、緋っこ着てちょうちんさげて泣いて出てきたとす。それを見ていたら主人が『忙しいから早く入ってこ』となったとす。あやほんだどもさ、子供たちどこさいくんだべな、と見ていたら、2人は麴屋に入ったとさ」そう聞かされた。ここでは、夫婦でも頭の大きい少年でもない。(朝日 2010/4/14)

- (6) この有能な女探偵は、合鍵で蘭馬の部屋へ入るとき、必ず手渡されたりモコ  
ンで、内部を確認する。職業的本能ともいうべき行動が、間一髪の危機を救  
ったのだ。（菊地秀行『紅蜘蛛男爵』）
- (7) ある夏の日、丘の上の古本屋でバンド少年が妙齡の女主人に一目惚れする場  
面で開幕した物語は、その女主人が一転、殺し屋としての仕事をクールにこ  
なすアクションシーンへ。（朝日 2010/11/7）
- (8) 田堀と呼ばれる水路があり、女船頭が乗った田舟（料金大人 200 円）が約  
200 メートルの区間を行き来した。訪れた人たちは乗船して水郷の雰囲気や  
ハナショウブを楽しんでいた。（朝日 2010/6/14）

遠藤（1983）は、「女」が後接する「薄情女」「尻軽女」などのことばの特徴と「女」  
が品位の低い語と結合する理由について、次のように述べている。

「女」が下につく複合語は、新聞の用例でみるかぎり、和語が多く、身分・行  
為・性情などの面で、好ましくない語と結びついてできたものばかりである。  
このような語は論説文には使われないから『女学雑誌』では採集できなかった  
のである。「女」が、このような傾向の語と結合するということは、「女」とい  
う語そのものにも、軽視・悪意・不潔などと結びつくことを許す性質がある  
ということである。このような和語や、品位の低い語は「婦人」「女子」など他の  
類義語とは結合せず「女」とだけ複合語を作っている。（同 1983:20）

そして、佐竹秀雄（2001:78）は、「スパイ・詐欺師・泥棒のような軽んじること  
のできるものには「女」が、社長・講釈師のようなまともな職業には「女性」がつ  
く」と、「女性標示語」としての「女～」の接続について指摘している。

今回の調査でも「女海賊」「女殺し屋」「女首領」「女囚人」など、いわゆる軽んじ  
ることのできることばが抽出された。例えば、次の（9）～（12）のようなものであ  
る。

- (9) 物語は、日本を脱した石川五右衛門（古田）が地中海で女海賊アンヌ（天海）  
に出会い、政治に巻き込まれた彼女を助ける冒険活劇。（朝日 2010/4/2）

- (10) とにかく登場人物たちの芝居がいい。女殺し屋も、仕事上のパートナーであるデブキャラ〈馬の骨〉も、ハードボイルドな世界に生きながら、どこかユーモラス。(朝日 2010/11/7)
- (11) 劇団☆新感線の 30 周年記念作品「薔薇（ばら）とサムライ」で、海賊の女首領にして女王という、破天荒な役を演じる。(朝日 2010/2/16)
- (12) 6 月からの再演では、相手役の女囚人ベルマを、ブロードウェイとロンドンで「シカゴ」に出演しているアムラ・フェイ・ライトが演じるので、日本語と英語が混在する珍しいミュージカルとなる。(朝日 2010/5/21)

しかし、一方で、「女（オンナ）～」が「社長」「将軍」「店主」「探偵」「作家」「刑務官」「教師」などのようなまともな職業につく場合（＝（13）～（16））や、「女性～」が「スパイ」「詐欺師」「スリ」「泥棒」など軽んじることのできることばと結合する場合（＝（17）～（20））も少なくない。

- (13) 日本の母子家庭の平均年収は 243 万円。搾取され続けるその前途を思えばカンテツに耐え、女社長の道をゆく中山さんには、がんばってもらいたい。(朝日 2010/2/16)
- (14) 瀋陽故宮の近くにある写真館「喜春戯劇撮影」は、本格的な京劇の舞台装束で写真を撮ってもらえることで人気。李さんは京劇「楊家将」の主人公の女将軍、穆桂英を選んだ。専門に学んだ化粧師が 1 時間半もかけてメークアップ。(朝日 2010/7/31)
- (15) 上等な「あんだあ（あぶら）」をつかってとびきりの料理をこしらえる、新宿の小さな沖縄料理屋の女店主との出会い。(朝日 2010/4/11)
- (16) この有能な女探偵は、合鍵で蘭馬の部屋へ入るとき、必ず手渡されたりモコンで、内部を確認する。職業的本能ともいべき行動が、間一髪の危機を救ったのだ。(菊地秀行『紅蜘蛛男爵』) (再掲＝ (6))
- (17) 「第二に、われわれはふたりの女性スパイを湧谷の家に送りこみ、湧谷のゴルフゆきの日程を掌握し、作戦司令部に通報しております。あの通報なしには、有能なコロンブスといえども、誘拐の作戦行動を起し得なかったであります」なにいてやがる、と水田はまた腹を立てた。(深田祐介『暗

闇商人』)

- (18) 『逆転の借金経済学』などの著書がある借金コンサルタントの中島寿一さんは、女性詐欺師の横行について、こう分析する。(朝日 1999/4/26)
- (19) 東京・池袋の東武百貨店で6日午後、買い物客から財布を抜き取ろうとした72歳の女性スリが、警視庁捜査3課にスリ未遂の現行犯で逮捕された。(朝日 1985/12/7)
- (20) 二〇年代のシカゴを舞台に、悪徳弁護士のメディア操作で無罪となり、スターになっていく女性殺人犯たちを乾いた笑いで描いている。(朝日 1998/10/15)

したがって、佐竹秀雄(2001:78)の上記した指摘は必ずしも適切であるとは言えない。また、用例を見る限りでは、遠藤(1983)の指摘も女性標示語「女(オンナ)～」には適用できない。

そして、佐竹秀雄(2001:78)は、「女性社長」「女性講釈師」ではなく、わざわざ「女社長」「女講釈師」と言うときには、からかい、やっかみといった要素が残っている」と述べている。

- (21) a. あの会社は女社長だからね、細かいことを言ってくるんだよ。  
b. あの会社は女性社長だからね、細かいことを言ってくるんだよ。  
c. あの会社の社長は女の人だからね、細かいことを言ってくるんだよ。  
(佐竹秀雄 2001:78-79)
- (22) ハルパーンの幼児時代から始まる父親の豪快な発言が、とにかく面白い。  
(中略) 小学校の個人面談。「あの女教師はお前を好きじゃなさそうだから、俺もあいつが嫌いだよ。お前はいろいろ悪さをしたんだろうが、クソくらえた。お前はいい子だ。バカ女のことは放っておけ」父親のサミュエルさんは米南部の小さな農家出身。医学部へ進学し、研究者として働いてきた。自分勝手なようであり、その言葉は苦労人ならではの説得力と研究者の知性、そして息子への愛情にあふれている。(朝日 2010/8/2)

しかし、この点についても再考の余地があると思われる。(21a) や (22) のよう

な文脈では、「女社長」と「女教師」には女性へのからかい、やっかみの要素が感じられるかもしれないが、以下の(23)～(28)のようなからかい、やっかみといった要素が読み取れない例も少なくない。

- (23) a. 「いい写真よ」エージェントの女社長（女性社長）が、出来上がったものを見て言った。これまでの秋乃は、女社長（女性社長）が仕事の結果を確認しようなんて思わない、使い捨てのモデルだったのだ。（鎌田敏夫『Body & money』）
- b. 趣味を生かすつもりではじめた小さな店が繁盛し、あっという間に数か所に支店を持つ女社長（女性社長）のFさん。（吉沢久子『愉しく老いる女の心支度』）
- (24) a. 新学期から、わたしは二年生の副担任になっていました。わが校の場合女教師（女性教師）は何年たってもクラスを持たせてはもらえません。（原田康子『満月』）
- b. その女教師（女性教師）の中に、今もいろいろ教えを仰いでいる方で、藤田栄という私より六歳年上の女教師（女性教師）がいた。（石本隆一ほか編纂『日本文芸鑑賞事典』）
- (25) a. 転職の多い警察官を中心に、「おふくろの味」を求める単身赴任者や独身者が集まった。彼らの腹を温め続けたのは、母親のような愛情にあふれた女店主（女性店主）たちだった。（朝日 2010/12/28）
- b. 地元商店街の女店主（女性店主）らが、浅草にかつてのにぎわいを取り戻そうと 87 年に始めたフェスティバルも今年で 23 回目。（朝日 2009/8/26）
- (26) a. どうして、女講釈師（女性講釈師）がこのような小説を書くに至ったのか、そこに何があったのか。  
(<http://twilog.org/hirakawamaru/date-130307> 2013/7/4 参照)
- b. 45 歳で前座となった女講釈師（女性講釈師）初体験のあれこれ。男の芸の講談界、女で初の文化庁芸術祭賞受賞！（宝井琴嶺『四十五歳の前座—女講釈師駆歩記』）
- (27) ハンクは地元警察の女刑事（女性刑事）エミリーの協力を得て、事件の真

相を探ろうとするが……。真実が明るみに出るとともに、ハンクは知らなかった息子の素顔も知ることになる。(Yahoo!ブログ 2008)

(28) だから女作家（女性作家）も水割りのグラスを持って、こちらに来た。女作家（女性作家）は私の隣の隣に座ったことになる。女作家（女性作家）は私を完全に無視した。そこにいないものとして処理した。(岩井志麻子『薄暗い花』)

(23) ～ (28) で示されたように、「女社長」「女教師」「女店主」「女講師」「女刑事」「女作家」にはからかい、やっかみが感じられない場合が多い。

そして、「女社長」「女講師」などの表現にからかいややっかみがあるかどうかを正確に把握するために、2013年7月に関東在住の日本人母語話者10名を対象に小規模なアンケート調査を実施した<sup>4</sup>。調査協力者の属性は表7-2のとおりである。

表7-2 調査協力者の属性

協力者番号	JF1	JF2	JF3	JF4	JF5	JM1	JM2	JM3	JM4	JM5
年齢	32	34	34	39	45	22	22	22	25	30
身分	職員	職員	職員	職員	職員	院生	院生	院生	院生	院生
関東在住年数	32	11	34	38	25	22	22	22	25	11
出身地 (都道府県)	群馬	長崎	茨城	茨城	北海道	千葉	茨城	神奈川	群馬	石川

アンケート調査の結果、9割の協力者は「やっかみはない」「からかいややっかみはあまり感じない」「女性へのからかいややっかみの要素は感じられない」などのような答えであった<sup>5</sup>。

<sup>4</sup> 方言の影響やアンケート調査を行う際の地理的な問題を考慮し、本アンケート調査の調査協力者は関東在住の共通語話者であることを基準に依頼した。さらに、性差のことを考慮し、男女半々で、それぞれ5人ずつとした。男性協力者の番号はJM (Japanese Male) 1～JM5で、女性協力者の番号はJF (Japanese Female) 1～JF5である。

<sup>5</sup> 女性の協力者で「女（オンナ）～」に対して「多少、蔑視の要素を感じる時がある」や「からかいややっかみだけでなく、…」といった意識を示した協力者が二人いたのに対し、男性は「からかいややっかみが感じられない」と結果が一致した。この点については、今後さらに「女（オンナ）～」の使用意識を中心とした精査が必要だが、「女（オンナ）～」の使用意識に男女差がある可能性を指摘しておきたい。

加えて、「悪い印象もあるが、文脈によってはバイタリティーを感じさせることもある」、「イキな感じ」、「かっこよさや、いさぎよさを感じる」、「響きのゴロがしっくりくる」などの意見も収集された。

また、「砕けているなら「女～」、整っているなら「女性～」という印象を持つ、「報道など丁寧な言葉を用いる文では「女性～」が現れやすいのではと思う」、「女性～」の場合は広く一般的な感じがする。表現としても「女～」より上品で丁寧な感じ」、「女～」のほうが、「女性であるのにも関わらず…」という含意が出やすい」などの意見も出た。

小規模なアンケート調査であるため、全ての日本人母語話者の評価意識を把握することはできないが、「女（オンナ）～」のような言語表現に対する母語話者の評価意識の傾向がある程度伺えたと思われる。

上記の（23）～（28）のような実例やアンケート調査から、佐竹秀雄（2001）の指摘を支持するような結果は得られなかった。よって、「女（オンナ）～」と「女性～」の間にイメージのよしあしに関する差や文体の差があるとは言えても、わざわざ「女社長」「女講師」と言う場合に、必ずしもからかいややっかみといった要素が読み取れるとは限らないと考えられる。

### 7.3.2 「女（オンナ）～」の使用変化

7.3.1 節で、「女（オンナ）～」の使用実態と接続制約について見た。本節では、まず田中他（2011）の調査結果を紹介する。そして、田中他（2011）を踏まえながら、「女（オンナ）～」の使用変化について考える。

#### 7.3.2.1 田中他（2011）の調査結果

田中他（2011）は、1985年から五年おきに行った調査のデータをもとに、「女性冠詞」、「性を含み込んだ職業語」と「他者との関係で女男があらわされることば」の経年分析をしている。表 7-3 は田中他（2011）による「女（オンナ）～」のつく語の推移を示したものである。

表 7-3 「女（オンナ）～」の推移（三紙合計、半月分、延べ語数）<sup>6</sup>

1985年		1991年		1996年		2001年		2006年			
語例		語例		語例		語例		語例			
女教師	5	女スパイ	4	女座長	6	女主人	3	女友達	2		
女主人	4	女主人	3	女主人公	3	女主人公	2	女警士	2		
女銀行家	4	女講釈師	3	女友達	2	女刑事	1	女主人公	1		
女芸人	1	女主人公	2	女教師	1	女師匠	1	女刑事	1		
女詐欺師	1	女友達	2	女私立探偵	1	女親分	1	女義太夫	1		
女三四郎	1	女伊達	1	女事務員	1	女仙人	1	女戸主	1		
女死刑囚	1	女探偵	1	女杜氏	1	女船頭	1	女主	1		
女狩人	1	女もっこす	1	女漫才師	1	女店主	1	女書生	1		
女水芸人	1	△	△	△	△	女武者	1	女忍者	1		
女狙撃手	1					△	△	△	△	△	△
女渡世人	1										
女闘士	1										
女番長	1										
計	23	17	16	12	11						

（田中他（2011:206-207）のデータをもとに作成）

表 7-3 に示したように、「女（オンナ）～」のつく語の種類は多くなく、その使用に減少傾向が見られる。

### 7.3.2.2 「女（オンナ）～」の使用変化

表 7-4 は、表 7-1 の語例の前項要素の「女」を「女性」に入れ替えて調査した後、表 7-1 と比較しやすいように並べたものである。

田中・諸橋（1996）、佐竹秀雄（2001）などの先行研究では、「女～」は「女性～」に言い換えられるようになったことが指摘されているが、下記の表 7-4 も、先行研

<sup>6</sup> 田中他（2011）は朝日・毎日・読売の三紙の半月分のデータを取っているため、本章における調査期間とは異なっているが、データとして参考になる。

究の結果を支持する結果を示している。

表 7-4 「女（オンナ）～」と「女性～」の語例（2010 年一年分、延べ語数）

女（オンナ）～		女性～		女（オンナ）～		女性～	
女友達	42	女性友達	0	女忍者	3	女性忍者	0
女主人	32	女性主人	0	女芭蕉	3	女性芭蕉	0
女達磨	12	女性達磨	0	女海賊	2	女性海賊	0
女芸人	10	女性芸人	2	女城主	2	女性城主	0
女君	9	女性君	0	女刑務官	2	女性刑務官	1
女教師	8	女性教師	47	女殺し屋	2	女性殺し屋	0
女三四郎	6	女性三四郎	0	女相場師	2	女性相場師	0
女刑事	5	女性刑事	3	女わらしっこ	1	女性わらしっこ	0
女主人公	4	女性主人公	4	女患者	1	女性患者	150
女社長	4	女性社長	50	女看守	1	女性看守	0
女探偵	4	女性探偵	6	女作家	1	女性作家	73
女船頭	4	女性船頭	3	女車引	1	女性車引	0
女将軍	3	女性将軍	1	女首領	1	女性首領	0
女店主	3	女性店主	27	女囚人	1	女性囚人	1
計		「女（オンナ）～」	169			「女性～」	368

表 7-4 で示したように、「女友達」「女主人」「女君」など固定的に用いられてきたことばや「芭蕉」「三四郎」のような固有名詞につく特別な場合を除き、「女（オンナ）～」は「女性～」に言い換えられる傾向が見られる。

(29) 携帯電話のメールが返ってこないことに腹を立てて恋人を殴ってしまう男性や、恋人の携帯電話を取り上げて女友達（?女性友達）のメモリーをすべて消してしまう女性の行動などを、同大の学生が寸劇で紹介。（朝日 2010/10/10）

(30) ある夏の日、丘の上の古本屋でバンド少年が妙齡の女主人（\*女性主人）

に一目惚れする場面で開幕した物語は、その女主人（\*女性主人）が一転、殺し屋としての仕事をクールにこなすアクションシーンへ。（朝日 2010/11/7）（再掲＝（7））

(31) 宇治市菟道丸山の洋画家、矢野喜久男さん（75）が 19 日、源氏物語に登場する女君（\*女性君）を描いた油絵 4 作品を「源氏物語ミュージアム」（同市宇治東内）に寄贈した。（朝日 2010/11/20）

(32) 菊舎は諸国を巡って俳句を作り「女芭蕉」（\*女性芭蕉）と評された。長門国田耕村（今の同町田耕）の生まれで、実家は長府藩士。（朝日 2010/5/29）

(33) 1980 年代は欧州より 20 年遅れといわれた日本女子の競技柔道は、「女三四郎」（\*女性三四郎）山口香さんの活躍で市民権を得て、五輪銀メダリストの田辺陽子さんによって男子並みの立ち技が確立された。（朝日 2010/10/16）

#### 7.4 「女（オンナ）～」の接続制約及び使用変化の要因

7.3 節で、「女（オンナ）～」の使用実態、使用意識、接続制約及び使用変化を見た。本節では、なぜこのような接続制約と使用変化が起きたのかを考察する。

##### 7.4.1 「女（オンナ）～」の形態的特徴

第 5 章で、名詞「女」は女性というジェンダーを表わすほかに、「性の対象物」という性的ニュアンスを持つ場合があると指摘した。例えば、次のようなものである。

(34) 真面目な男性に見えても同じ社内で次々と女性を変える人は、いずれ女問題（女性問題／\*婦人問題）で失脚します。

（<http://okwave.jp/qa/q7422603.html> 2013/5/5 参照）

(35) 酒・煙草・博打・女（\*女性／\*女子／\*婦人）！よく、酒・煙草・博打・女（男）、全てやっている人はダメ人間かの代名詞のように言われますが…。

（Yahoo!知恵袋 2010/10/20）

(36) a. 桃子はまだ 10 歳なのにもう女（\*女性／\*女子／\*婦人）になった。

b. 泰久はずっと刑務所暮らしだったので、女（\*女性/\*女子/\*婦人）をほしがっている。

c. うちの会社にいい女（?女性/\*女子/\*婦人）がいる。

(Nakamura 1990:155 改)

さらに、「女～」が女性標示語の体系内で特別な位置付けになっている理由として、自由形態素の「女（オンナ）～」が単独用法の「女」の影響を受け、「性の対象物」というマイナスイメージを担ったことが考えられると記述した。

では、なぜ拘束形態素の「女（ジョ）～」ではなく、自由形態素の「女（オンナ）～」だけが性的ニュアンスを担うようになったのだろうか。それは「女（オンナ）～」の形態的特徴と関わっていると考えられる。

日本語の「女（オンナ）～」は、自由形態素である。よって、「女（オンナ）～」は名詞として単独でも使われる。

菊池（1995:109）は、単独用法の「女」について次のように言う。

近世後期から、女性のセクシュアリティを露骨に表す言葉としての意味合いが  
つよくなっていったのであり、儒教思想における男尊女卑の観念と相俟って、  
「女」の語感のなかに一種の差別語に近いニュアンスが付与されていったので  
ある。「女」に込められたかかる差別的語感、その後近代社会にも引き継がれ  
て、いっそうそのニュアンスを強めた感さもある。そして今日でも「女」とい  
う語は、一般的な性別用語として使用されながら、公式に呼んだり他称として  
用いるにはある種のためらいを覚えざるを得ない側面を、たしかに引きずって  
いる。

そして、鹿野（1989）は「女」ということばの使用について、次のように述べて  
いる。

（前略）ほとんど差別語に近かった「女」あるいは「おんな」が、もっと生身の、  
あるいはトータルな、解放を担う語として、女性自身によって好んで使わ  
れるようになりました。

ちょうどそのころから、女性史に正面きって向かいあいながら、結局わたくしは、ほぼ「女性」でとおしてきました。異性であるだけに、「女」と呼ぶことに、一種の遠慮、ためらい、おびえがあったからです。「暮し」にかえて「生活」というように、よそよそしさ、タテマエ性があったわけです。無理はすまいと思ってきましたが、この稿にいたってようやく、そんな心理的羈束から自由になりつつあるように感じています。 (同 1989:12 下線は筆者)

上述したように、女性標示語の「女（オンナ）～」は単独用法の「女」の影響を受けて、性的ニュアンスを担い、性の対象物という意味を担ったのだと考えられる。「女」の使用に「遠慮」「ためらい」「おびえ」などが感じられるのと同様に、女性標示語「女（オンナ）～」の使用にもある種の遠慮とためらいが感じられるのではないかと思われる。

#### 7.4.2 フェミニズム運動が「女（オンナ）～」の使用に与えた影響

「女性標示語」は性別に関して非対称的な表現であり、そこに「女性は垂流」「男＝人間」の発想が見られると、しばしば批判される。「女～」に関しては、寿岳（1979）をはじめ、その使用に異議を唱えた学者が数多くいる。

江原由美子氏はしまようこ氏、れいのるず＝秋葉かつえ氏との対談の中で、「日本でも、ことばの性差・性差別についてだれもが気づいてはいるんですね。なんで女性の職業人だけ上に「女」をつけて呼ばれるのかとか。「女医」とか「女流作家」とかね。」（江原・しま・れいのるず＝秋葉 1993:22-23）と、「女医」や「女流作家」などの女性標示語をことばの性差別と見なしている。

中村（1995:82）は、「「女であること」を明示した際に起こる第三の現象は、「女の性」の強調である。テレビドラマの題名に「女弁護士事件簿」と付けたり、ポルノ映画のタイトルに「女教師」を選ぶのは、女を弁護士である以上に「女という性」によって定義付けられた存在とみなす傾向と密接に関係している。」と指摘している。

佐竹久仁子（2001b:168）は、「女の社会進出や活躍をとりあげることは、後に続く多くの女を力づけることになるという大義名分が掲げられるが、これは多分に眉唾モノに思える」とする。

また、れいのるず＝秋葉（1998）では、「女性標示語」の使用について次のようにされている。

女が仕事につくと、「女」「婦人」「女子」「女流」などの女性冠詞がつけられた。このことは、もともとは男性のみの領域であった分野に女性が進出してきたことに対して、「女でありながら」「女であるのに」もっといえば「女のくせに」「女だてらに」と驚きと警戒心を示しながら「特別に例外的に認めましょう。しかし、あくまでも『女』であることを忘れない」という念押しだった。最近では「女性」の冠詞がふつうとなったが、冠詞がつかないのが理想だ。（同 1998:229）

れいのるず＝秋葉（1998）は、「女性標示語」の使用を批判し、ジェンダー・フリーを提案している。

以上のように、先行研究において、「女性標示語」は言語上の性差別だという指摘が行われた。

1960年代に欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動は、「女性標示語」などを含め、性差別的な言語を改革し、性差別のないことばを使おうという言語改革運動を提案した。フェミニズム運動が1970年代に日本に波及し、1980年代から、日本語の差別表現に関する包括的な研究が行われてきた。

メディアの中の性差別を考える会（1991a）は新聞における女と男の取り上げ方の問題点を分析し、上野・メディアの中の性差別を考える会（1996）は、新聞紙面に表れた性差別的表現の具体例を採集し、それをもとに差別のない表現の原則と具体的対案を提示している。

上野・メディアの中の性差別を考える会（1996）はジェンダー的公正報道の五原則を提案し、五原則の一つである「性別情報不問（ジェンダー・フリー）」について、次の内容を記述している。

「男＝標準、女＝例外、下位、特殊」という社会規範が浸透している現状では、必要がない限り性（ジェンダー）情報を含まない。特に職業名は、男性と同一の職業分類で十分である。職業名としての「女流棋士」「女医」「女性宇宙飛行士」などは使わない。どうしても性別が必要であれば「男性〇〇」も積極的に

使おう。

(同 1996:8)

さらに、上野・メディアの中の性差別を考える会（1996）は、「女医」「女優」「女子高生・女高生」など拘束形態素の「女（ジョ）～」のつくことばを取り上げ、新聞の用例を通して、それぞれ「歴史的にふり返っての表現なら女医も仕方がないが、職業名としては、医師で十分。」（同:39）、「男女とも「俳優」に。あるいは、男女共通の「役者」「タレント」もおススメ。」（同:52）、「「女子・女」をどうしてもつけるのなら、「男子・男」もつけてバランスをとるのがよい。」（同:44）と提案している。

新聞業界では、記者用のハンドブックや用語集が、性差別的表現を批判するフェミニズム運動の高まりを受けて、その主張を一部取り入れて改定されてきた。

例えば、共同通信社の『記者ハンドブック 第4版』、『第6版』、『第8版』、『第10版』、『第12版』などは、「女工」「女中」「女給」などのことばを差別語・不快用語として挙げ、その代替案を提示している。2010年の『第12版』では、「差別語・不快用語」の項目で「女性を特別視する表現や、男性側に対語のない女性表現は原則として使わない」と前置きしてから「女傑・女丈夫」など女性を殊更に強調したり特別扱いする表現は使わない」とし、職業（職種）などに関して「女工→女性従業員」「女中→お手伝いさん」「女給→ウエートレス、従業員、ホステス」と記している。そして、注において、「談話などで本人が意識的に使う場合はその通り引用し、なぜそのように表現するのかを文脈で明らかにする」と記述している。

朝日新聞の『取り決め集'98』には、「性差別語」の項目が加わり、「女傑」「女丈夫」などが使わないことばとして挙げられている。2002年10月の『取り決め集』には「ジェンダー」の章を設けて内容を充実させ、11月に「ジェンダーガイドブック」を作って配布し、「男女のいずれかに偏った表現、性別役割分業などに注意する」と性的少数者への配慮を示し、「女教師」「女医」「女社長」などを挙げ、「なるべく使わない」「極力避ける」などとしている。

そして、『朝日』1994年3月26日付け「赤えんぴつ」（校閲部の記者が執筆を担当する欄）に、次のような内容が記載された。

「職業記載の際、女性の側にのみ常に性別を記すのは、社会的職業は男性が独占するもの、という差別意識の表れだと思います」

「人気俳優ウッディ・アレンと女優ミア・ファローの裁判」という表現で、「女優」の言葉をとらえての読者の意見である。

女性を表す言葉について校閲の現場でも、これまで当たり前のように使っていたものに、問題意識を持つようになっていく。……（略）（小泉令子）

上記の記事では「職業記載の際、……」という読者の意見を紹介している。また、「女性を表す言葉について校閲の現場でも、……」という校閲の現場の意識の変化も指摘している。

このように、単独用法の「女」とフェミニズム運動の影響で自由形態素の「女（オンナ）～」と拘束形態素の「女（ジョ）～」の使用変化を引き起こしたのである。

## 7.5 第7章のまとめ

本章では、自由形態素の「女（オンナ）～」を取り上げ、「女（オンナ）～」の使用実態、接続制約と使用変化を観察し、それらを引き起こす要因について考察した。また、拘束形態素の「女（ジョ）～」に置き換えが生じた理由と「女～」が女性標示語の体系内で特別な位置付けになっている理由についても検討した。

「女（オンナ）～」に後続する要素には年齢制限があり、後続できる要素が限られている。「女（オンナ）～」は「教育関連」、「スポーツ関連」、「芸術・技芸関連」及び「囲碁・将棋のタイトルと段位」のことばと結合しないのが一般的である。そして、「女（オンナ）～」の使用が減少し、「女性～」に言い換えられる傾向が見られる。

「女（オンナ）～」の使用実態、接続制約及び使用変化にはその意味的特徴、形態的特徴及びフェミニズム運動が深く関わっている。すなわち、日本語の女性標示語「女（オンナ）～」は単独用法の「女」の影響で性的ニュアンスを担うようになったため、女性標示語の体系内において特別な意味を担うようになり、意味が特化されている。そして、フェミニズム運動の影響を受け、その主張を取り入れた各種「表現ガイドライン」の実施も「女（オンナ～）」と「女（ジョ）～」の置き換えを引き起こしている。

## 第8章 「男性標示語」

---

### 8.1 はじめに

本論文では、従来「女性冠詞」と呼んできた表現形式を再定義し、「女性標示語」という語を用いている。「女性標示語」については、第1章で以下のように定義した。

「女性標示語」とは、人間の女性を表わす合成語の前項要素で、積極的に「女性」であることを明示する言語形式である。例えば、「女性科学者」「女子アナウンサー」「女社長」「婦人警察官」などにおける「女性～」「女子～」「女～」「婦人～」がこれに該当する。

以上の定義に照らして、「女性標示語」の「平衡表現<sup>1</sup>」としての「男～」「男子～」「男性～」などを「男性標示語」と呼び、「①合成語の前項要素、②全体で男性を表わす」表現形式とする。

日本語の「女性標示語」に関する研究成果はいくつか見られるが、「男～」「男子～」「男性～」などの「男性標示語」についての研究はあまり行われていないようである。ジェンダー表現研究の流れとして、女性というジェンダーの表現としての「女性標示語」だけでなく、男性というジェンダーの表現としての「男性標示語」についても研究する必要があると思われる。また、「女性標示語」をより客観的に分析するためにも、「男性標示語」の考察が必要であると考えられる。

本章では、『朝日新聞』のデータベースを利用し、「男性標示語」に関する量的調査を行い、戦後新聞紙面における「男性標示語」の推移と使用状況を分析、考察することを通し、社会の変化が言語に与える影響を考えたい。

---

<sup>1</sup> 「平衡表現」に関しては、本論文第2章脚注6を参照されたい。

## 8.2 先行研究と問題点

### 8.2.1 先行研究

第1章で述べたように、「女性標示語」は1970年代から注目され始め、1984年に田中和子氏によって「女性冠詞」と命名された言語現象である。それに対して、「男性標示語」に目を向けられたのは1990年代になってからのことである。管見の限り、「男性標示語」に関する研究は少なく、田中・諸橋（1996）、岡野雅雄（1996）、田中他（2011）が挙げられる程度である。

以下、これらの先行研究を概観し、問題点を指摘する。

田中和子氏らは1980年代の半ばから2006年まで五年おきに全国主要三紙（朝日、毎日、読売）半月分の記事を調査してきた。調査結果を分析し、逐次『国学院法学』などに発表した。ここでは、発表された論文の中で、本章と関係の深い二本を取り上げる。

田中・諸橋（1996:50-51）は、「男性標示語」は「女性標示語」と比べ、種類が非常に少なかったが、両者の使用頻度は次第に接近していく傾向が見られるとしている。そして、田中他（2011:136-152）は、「男性標示語」の使用頻度は直線的な増加傾向を示し、特に「男性」のつくことばの増加が激しく、また、男女を問わず、記事で言及する人物の性を職業や役職などに冠して明示する傾向が強まってきたと述べている。

岡野雅雄（1996）は、朝日・毎日・読売の主要三紙を対象に、1993年一年分の新聞記事を調査し、女性が政治記事においてどう表現されるかを分析する中で、「男性標示語」にも触れている。岡野雅雄（1996:150）は、「こういう、性別に焦点がある文脈では、男性冠詞が用いられる傾向があり、それ以外の場合の多くは無標の男性が前提されているといえよう」と述べ、「男性標示語」の使われている文脈を挙げている。

### 8.2.2 問題点

8.2.1で述べた先行研究を整理すると、以下のような問題点が指摘できる。①「男性標示語」に触れた研究はそもそも少なく、「男性標示語」に考察を加えた研究に至

っては、管見の限りほとんどない。②「男性標示語」に触れた研究は90年代後半に行われたもので、それ以前、特に80年代以前の使用状況が把握しにくい。③「男性標示語」の使用頻度の変化と社会との関係がほとんど言及されず、変化する社会が言語に与える影響などが不明瞭である。

本章では、以上の先行研究の問題点を踏まえ、主要全国紙の『朝日新聞』における「男性標示語」の推移、特に戦後新聞紙面における「男性標示語」の年代による変化と使用を分析、考察することを通して、社会の変化が言語に与える影響の一端を考えたい。

### 8.3 調査方法

#### 8.3.1 対象

本章の調査における検索対象は、朝日新聞社が発行している『朝日新聞』の朝夕刊とし、記事検索には『朝日新聞』記事検索データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を用いた。対象期間は、1945年1月1日から2009年10月末日までの65年間とした。1945年から1984年までは『朝日新聞』縮刷版を対象にした。

なお、対象期間は65年間としたが、戦後から昭和末期までは、1945年、1955年、1965年、1975年と1985年、10年ごとにそれぞれ一年間の記事を調査し、平成元年（1989）からは、掲載記事の分量を考慮し、1989年、1999年と2009年のそれぞれ10月1日から31日までの一ヶ月分の記事を調べた<sup>2</sup>。

#### 8.3.2 手順

本章では、「男性標示語」を対象としているが、その「平衡表現」の「女性標示語」の「女・女子・女性・女流」との対応で、「少年」「イケメン」を割愛し、「男・男子・男性・男流<sup>3</sup>」の4語だけに絞った。検索のキーワードも「男」「男子」「男性」「男

<sup>2</sup> 本章では、各「男性標示語」のそれぞれの年代における割合を見ることを通して、言語と社会の関係を論じるため、各年代の総記事数を厳密に揃えていない。また、「聞蔵Ⅱビジュアル」の収録記事数は、戦後は220万件で、84年以降（09年1月まで）は580万件である。平成元年以前とそれ以後では年間の記事数が約1:5程度と大幅に異なるため、平成元年以降は一ヶ月にした。

<sup>3</sup> 「男流」ということばは原則として存在しないが、「女流」との対応で、今回の調査対象に取り入れた。「女流棋士」「女流俳人」「女流作家」など「女流」のつくことばは数多くあるのに対し、今回の調

流」とした。

検索結果から、全体で男性を表わしていない「男子更衣室」「男子研修」「男子団体」「男性支配」「男性側」や男性を表わしているが「男子生徒」「男性会社員」などと性質が異なる「男性同士」などは研究対象から除外した。

こうして得られたデータを精査し、年別にその出現記事数と延べ語数をカウントした。

## 8.4 集計と分析

昭和期と平成期における「男性標示語」の推移と内訳をそれぞれ把握するため、本節では、調査期間を戦後～昭和末期（1945～1985）と平成元年～現在（1989～2009）<sup>4</sup>に二分し、「男性標示語」の推移と使用状況を考察していく。

### 8.4.1 戦後～昭和末期（1945～1985）

本調査で抽出したデータをまとめると、戦後から昭和末期までの「男性標示語」のつくことばの推移は表 8-1 のとおりである<sup>5</sup>。

---

査では「男流」のつくことばが 1 件も見られなかったのは、示唆的な事実である。しかし、調査範囲を広げ、1945 年 1 月 1 日から 2009 年 12 月 31 日までの全記事を調べた結果、「男流歌人」「男流作家」など「男流」のつくことばが 6 件あることが分かった。ただし、6 件のうち、「男流歌人」2 件は作品名で、残り 4 件もいずれも一般的な使い方ではない。次の (1) と (2) で示す。

(1) ちなみに、「女流作家」「女医」という言葉はあっても、「男流作家」「男医」はない。かつては作家や医者が高層なのは当たり前で、女性の作家や医者は珍しかったからだ（これも今は昔だが）。（朝日 1999/11/4）

(2) 歌人の道浦母都子さん＝写真＝が、フェミニズムの立場から、明治以来の男性歌人十五人の歌と生涯を紹介した『男流歌人列伝』（岩波書店）が、このほど出版された。（朝日 1994/1/8）

<sup>4</sup> 厳密に言えば、戦後は 1945 年 8 月 15 日以降で、1989 年の年始からの 7 日間は昭和 64 年で、1989 年 1 月 8 日以降の 358 日が平成元年だが、本章では便宜上、1945 年 1 月 1 日からの戦後とし、1989 年 1 月 1 日からの 365 日を平成元年とする。

<sup>5</sup> 「女～」と同様に、「男～」には拘束形態素の「ダン・オ」と自由形態素の「オトコ」があり、形態的特徴によって両者の性質も異なってくると思われる。本章では「男～」の形態的特徴によって引き起こされた性質などへの考察を別稿に譲ることとし、「男性標示語」の推移と使用状況についてのみ触れておきたい。

表 8-1 「男性標示語」の推移<sup>6</sup> (延べ語数、上位3語、( )内は割合)

		1945年		1955年		1965年		1975年		1985年					
男性								男性客	1	男性同性愛者	22				
								男性出席者	1	男性社員	16				
										男性職員	15				
										その他	85				
計	0 (0.0%)		0 (0.0%)		0 (0.0%)		2 (5.4%)		138 (34.7%)						
男子		男子放送員	1	男子最優秀選手	1			男子選手	2 9	男子生徒	68				
		男子中等校生	1					男子警察官	1	男子学生	37				
		男子予科練生	1									男子社員	19		
														その他	52
計	3 (25%)		1 (25%)		0 (0.0%)		30 (81.1%)		176 (44.2%)						
男 ダン・オ オトコ	ダ ン ・ オ オ ト コ	男児	8	男児	2	男優	2	男児	3	男児	52				
						男児	1	男優	1	男優	16				
												男生徒	2		
		男やもめ署員	1	男友達	1							男友達	2	男友達	1
				男客	1					男親	3				
				男やもめ	1									男やもめ	1
計	9 (75%)		3 (75%)		7 (100%)		5 (13.5%)		84 (21.1%)						
男流															
合計	12		4		7		37		398						

<sup>6</sup> 表 8-1 は、「男性標示語」の延べ語数上位3語までの語例を挙げる。その他の語例は付表 6-1 に示す。

表 8-1 から分かるように、「男性標示語」の延べ語数は 85 年を除いて、二桁にとどまっているが、増加傾向を見せている。

「男性標示語」の内訳と推移を見てみると、まず、「男性～」は 65 年までは見られなかったが、85 年には「男性同性愛者」を筆頭に急増した。「男子～」は 65 年までは一桁にとどまっているが、85 年は「男子生徒」をはじめ、計 24 種の語例が抽出された。「男～」は、各年に出現したが、75 年までは一桁にすぎず、85 年は 84 に増え、「男児」「男友達」がよく見られる。「男流～」は一例も見られなかった。

それぞれの「男性標示語」の占める割合を見ると、まず、「男性～」は 65 年までは 0%であるが、その後占める割合が徐々に上がり、85 年は「男子～」に次いで、第二位の 34.7%に上がった。「男子～」は変化が見られるが、85 年は一位の 44.2%の割合で優位を見せた。そして、「男～」の占める割合は高かったが、85 年は第三位の 21.1%に下がった。

#### 8.4.2 平成元年～現在（1989～2009）

平成元年（1989）から現在（2009）まで、「男性標示語」のつくことばの推移と割合を下記の表 8-2 に示した。

表 8-2 に示したとおり、「男性標示語」の使用は増加している。

「男性標示語」の内訳と推移を見ると、まず、「男性～」は増加し、「男性会社員」が 3 年ともトップとなっている。「男子～」は、「男子生徒」の出現頻度が最も高く、3 年とも第一位である。そのほか、「男子学生」「男子高校生」もよく用いられている語である。「男～」は、後続する要素が限られ、「男児」「男優」「男友達」などが上位である。「男流」のつくことばは現れなかった。

それぞれの「男性標示語」の占める割合を見ると、まず、「男性～」は増えてきて、三年とも第一位で、2009 年は 58.3%に上がった。「男子～」は、99 年までは 30%以上であったが、2009 年は第三位の 18.8%に下がった。「男～」の占める割合はあまり変わらず、三年とも 20%強である。

表 8-2 「男性標示語」の推移<sup>7</sup> (延べ語数、上位3語、( )内は割合)

		1989年		1999年		2009年	
男性	男性会社員	4	男性会社員	52	男性会社員	98	
	男性職員	3	男性教諭	33	男性職員	72	
	男性客	3	男性社員	27	男性教諭	70	
	その他	37	その他	197	その他	527	
計	47 (43.1%)		309 (47.6%)		767 (58.3%)		
男子	男子生徒	18	男子生徒	104	男子生徒	140	
	男子学生	6	男子高校生	25	男子学生	28	
	男子中学生	3	男子学生	16	男子高校生	25	
	その他	10	その他	60	その他	55	
計	37 (34.0%)		205 (31.6%)		248 (18.8%)		
男性 ・ オ ト コ	ダン	男優	10	男児	132	男児	281
		男児	8	男優	2	男優	13
		男子生徒	1			男神	2
						その他	1
	オ	男友達	6	男芸者	1	男友達	4
	ト コ	その他	0	その他	0	その他	0
計	25 (22.9%)		135 (20.8%)		301 (22.9%)		
男 流							
合計	109		649		1316		

そして、調査期間内の「男性標示語」の種類別延べ語数をトータルすると以下の表 8-3 のようになる。

<sup>7</sup> 表 8-2 は、「男性標示語」の延べ語数上位 3 語までの語例を挙げる。その他の語例は付表 6-2 に示す。

表 8-3 「男性標示語」の延べ語数と割合

年代	男性標示語	男性	男子	男		男流	総延べ語数
				ダン	オトコ		
戦後～昭和末期		140	210	87	21	0	458
平成元年～現在		1123	490	450	11	0	2074
計		1263	700	569		0	2532
割合（計／総延べ語数）		49.9%	27.6%	22.5%		0.0%	

以上の表 8-3 に示したように、戦後（1945～2009）新聞紙面に現れた「男性標示語」の出現頻度は、「男性～」>「男子～」>「男～」の順である。全体の割合から見てみると、「男性～」は 5 割弱、「男子～」は 3 割弱、「男～」は 2 割強である。

「男性標示語」の年代別割合を見渡した結果は、総じて、「男～」及び「男子～」の割合が減り、「男性～」の割合が増えていると言え、「男性標示語」は「男性～」に収斂しつつあるように見受けられる。

#### 8.4.3 「男性標示語」の使われ方

8.4.2 節で、戦後から現在（2009 年）までの新聞における「男性標示語」の推移を見た。本節では、『朝日新聞』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）の用例を通して、「男性標示語」の使われ方について分析したい。

表 8-1 と表 8-2 の語例から窺えるように、「男性～」に後続する要素は豊富で、「学生、高校生、生徒」などの未成年者を表わすことばを除くと、後項要素に制限があまり見られない。(1)～(5)で示す。

- (1) 50 代の男性会社員は、自宅で息子に「やったね」と言われ、「ぜんぜん『やったね』じゃないよ」。40 代の男性会社員は、新聞で法廷のイラストを見た子どもから「これ、お父さん？」と聞かれ、苦笑したという。(朝日 2009/10/28)
- (2) 議場正面に向かって左側にいた若い男性職員が、議場から七階の私たちの所まで伝令としてとんで来た。(平松伴子『この町が好きだから』)

- (3) 二十九日のこと、愛知県知立市の中学校で卒業生の十八歳の少年が担任だった男性教諭にナイフで切りつけて大けがをさせた事件が起きた。(Yahoo!ブログ 2008)
- (4) こうした感想を語ったのは 28 歳の男性裁判員。殺人罪に問われた被告 (50) に懲役 13 年 (求刑懲役 15 年) を言い渡した直後、他の 3 人の裁判員とともに記者会見に応じた。(朝日 2009/10/30)
- (5) 「何度か会議で行った」という羽曳野市の男性デザイナー (60) は「昼間から人もまばら。このままだと廃虚みたいになる」。(朝日 2009/10/29)

「男子～」は使用域が大きく偏っており、下記 (6) ～ (9) のように、「生徒」や「学生」など教育関連の語や「選手」「ゴルファー」などスポーツ関連のことばに冠するのが一般的である。

- (6) 男子生徒の一人は「きりがないので疲れる」といいながらも楽しそうだった。保育学習は二十九日まで続き、二百三十五人の三年生全員が体験する。(朝日 1999/10/28)
- (7) 先に発表された男子学生の人気企業 1 位は、文科系で東京海上火災保険、理工系は日本電気だった。(朝日 1985/9/20)
- (8) 初めて、その一気飲みをした。「久しぶりに監督らしい飲み方を見ました」元気な姿に、男子選手も胸をなでおろしていた。(浅井えり子『もういちど二人で走りたい』)
- (9) 今年度の日本プロスポーツ大賞に選ばれた高校生男子プロゴルファー石川遼選手が、森元総理 (日本プロスポーツ協会会長) とともに官邸へ。(Yahoo!ブログ 2008)

第 3 章では、「女子～」が職業関連のことばとも結合することを述べたが、「男子～」にも、「女子～」ほどではないが、「男子社員」「男子行員」「男子警察官」「男子労働者」などの用例が見られる。ただし、平成期に入ってから、職業関連のことばと結合する語は減少している。

- (10) ことの性格上、あまり具体的な例はあげられないが、「事務系では職務の違いで差をつけている」(TDK)、「配置場所で給与に差がある」(日本楽器)、「男子社員の補佐的仕事が多い」(丸紅) — — といったところが平均的な男女格差のようだ。(朝日 1985/8/19)
- (11) 男子警察官への応募も急増しており、警視庁では八年ぶりに、現役東大生が受験する“異変”もあった。(朝日 1975/10/13)
- (12) 入口に近い机に女の子が座り、その向かい側に二十代の男子従業員が電子計算機を使っていた。(和久峻三『法廷の魔術師』)
- (13) 特に、男子労働者の場合は年齢に従って賃金が上がってまいりますけれども、女性労働者の場合は年齢にかかわらず低い状況があるということでございます。(『国会会議録』2005)

「男～」の冠されたことばは限られ、「男児」「男優」「男生徒」「男友達」などがよく見られ、「男流～」ということばはそもそもない。(14)～(17)で示す。

- (14) 感度の悪い自動ドアの設置してある小型スーパーに行った時、3～4歳の男児が自動ドアの所で遊んでいました。(Yahoo!知恵袋 2005)
- (15) 素材となったのは、3年前、現実にパリで裁判にかけられたフランスの外交官と中国の京劇俳優とのスパイ事件。外交官が女形の男優を本当の女性と思いこんで20年間も愛人関係を続け、西側の情報を中国に流していたという話である。(朝日 1989/10/18)
- (16) 上野美恵子さんが銀行帰りに会社の金12万を持って行方不明になった事件について上野署は、知り合いの男がつれ出した疑いがあると見て、13日は美恵子さんの男友達を中心に捜査した。(朝日 1955/2/14)
- (17) Sさんのいた事務所は男客、女客と賑わって、一種のサロンのようになっていたのだ。(松本昭夫『精神病棟に生きて』)

8.4.2節で、「男性～」は使用が増加し、占める割合が増え、「男性標示語」として優位を占めていることを指摘した。漆田(1993:135)は、「女性」が優位を占めつつある原因を次のように指摘している。

「女性」という語は、今日「婦人」という語にとってかわり、女の一般呼称となりつつある。この見方に大方異存はないであろう。「婦人」ほどにはかしまってもないし、「女」ほどに性的な生々しさももたない。非性的ではないが、ちょっぴりとりすましたスマートさがある。 (同:135)

また、本論文の第2章で「女性～」の使用が増加傾向を見せているのは、「女性～」の自由形態素という形態的特徴と単独用法の「女性」の「女性というジェンダー」といった意味、「新しい、中立、改まった」といった語感が深く関わっていることを述べた。「女性」の対称語としての「男性」の順位の上昇にも似た理由が考えられるかもしれない。(18)～(22)を見られたい。

- (18) この世代の男女平等は徹底していて、もちろん男性も料理から皿洗いまで、女性と同じ頻度でやっている。(杉本良夫『オーストラリア 6000 日』)
- (19) 女性が女性として、男性が男性としての能力を発揮する相互補完的關係こそが必要なはずである。(神野直彦『「希望の島」への改革』)
- (20) 「どうぞ」と初老の男性に席を勧められて「いえいえ、どうぞお座り下さい」と言ったのですが。「いや私はいいですから、どうぞお座り下さい」と、その初老の男性はニコニコしておっしゃるのです。(Yahoo!ブログ 2008)
- (21) 三日目になって、一人ドイツ人の中年男性をレストランで見かけただけで、ホテル内はがらんとしている。(佐藤碩男『私が歩いた中東の道歴史の旅』)
- (22) 諸見里さんは九月十三日午後三時ごろ、恩納村安富祖の海岸から約二百メートル沖合で遊泳中だった会社員男性ら三人が、高波を受けて転覆したゴムボートから投げ出されて漂流しているのを目撃。(琉球新報 2003)

上記の(18)と(19)は「男性というジェンダー」を表わす用例で、(20)の「初老の男性」、(21)の「中年男性」と(22)の「会社員男性」は「大人の間人」を表わす用例である。

われわれが言語を手がかりに社会を知ろうとしている背景には「言語は社会を反映している」つまり、「ある社会で用いられている言語はその社会の構造・必要性・権力関係をそのまま映し出している」という考えが存在している(中村 1995:3)。

ジェンダー表現形式としての「男性標示語」もその時々<sup>1</sup>の社会背景、動きを如実に反映している。例えば、次の(23)～(26)のようなものである。

- (23) 町選管によると、男性議員が役員の建設会社は町との契約実績があり、男性から役員をやめたという届けはなかった。(朝日 1999/10/16)
- (24) ゼバスティアンと妻の心理戦、肉食系の女性警部に仕える草食系男性警察 宣の慕情、死期の迫るシルフに恋人が言う「あなたは、私の過去をきかなかった。私はあなたの未来をきかない」という取引——謎解きは男女の心模様と泣かせる言葉を織り込んで潤いを増してゆく。(朝日 2009/10/25)
- (25) 県立下呂温泉病院(下呂市)は9日、放射線科の男性医師が道交法違反(酒気帯び運転)の疑いで下呂署に検挙されたと発表した。県が処分を検討している。(朝日 2009/10/10)
- (26) 同課などによると、派遣料は男性労働者が1時間1600円、女性は1100円だったが、同社が男性の場合600円、女性は550円をそれぞれピンハネしていたとみられる。(朝日 1989/10/13)

男性の「議員」「警察官」「画家」「医師」「労働者」を表わすときは、無標の形がふつうであったが、男性ばかりの職場に女性が大量に進出するにつれて、「男性議員」「男性警察官」「男性医師」「男性労働者」など「男性標示語」のつくことばも記事に現れるようになってきた。

## 8.5 考察

以上の分析で分かるように、総じて言えば戦後新聞紙面における「男性標示語」の出現頻度は高くなり、各「男性標示語」の割合も年を追って変化している。「男～」と「男子～」の割合は低下したのに対し、「男性～」の割合は上昇し、「男性標示語」として優勢を示している。「男流～」は皆無である。

上野・メディアの中の性差別を考える会(1996:154)は、家庭内や社会においてこれまで「女性向け、女性の世界」とされてきた分野に男性が入ったときには、少数派である男性に「男性〇〇」と冠をつけ、「男性の世界」と思われてきた分野に女

性が入った場合、その世界で少数派である女性に「女性冠」をつけていると述べている。

確かに、次の(27)～(33)が示すように、これまで女性の領域とされてきた職業に男性が参入すると、「男芸者」「男性ヘルパー」「男性保育士」「男性美容師」「男性秘書」など「男性標示語」をつけて有標化されるのが一般的である。

- (27) これまでいた旅行業界では、客の顔色をうかがってご機嫌をとるのが卑屈な男芸者みたいで、嫌だなと思ったことはある。(上前淳一郎『人・ひと・ヒット』)
- (28) 県立医科大学の男性看護師が牛井店のドライブスルーで女性店員に下半身を見せたとして公然わいせつ容疑で現行犯逮捕された事件が先月あり、大学は14日、この看護師を停職1カ月の懲戒処分にした<sup>8</sup>。(朝日 2009/10/15)
- (29) また女性の職場だった保育園も場所によっては男性保育士さんも働いています。この背景はやはり男女同権の時代になってきたと言う事ではないでしょうか？(Yahoo!知恵袋 2005)
- (30) さらに、付属の重要事項説明書には、利用料金などのほか、ヘルパーの変更はできるか、男性ヘルパーがいるかといった利用者の関心が高い事項も書き込むようになっている。(朝日 1999/10/10)
- (31) 先日、助産師試験合格者の発表を紙上で目にした。昨年初めて子供を出産した私は、その経験から今後も男性助産師には反対である。(朝日 2002/4/7)
- (32) 肉体労働には耐えられぬ体になったことを考えた上で、帰国前にタコマの美容学校で一通りの資格を取得していたから、妻の補助として店に立った。男性美容師の草分けであろう。(上坂冬子『生き残った人びと』)
- (33) 同署によると 29日午前8時半ごろ男性秘書が出勤したところ、事務所内の机が荒らされており、現金が盗まれていた。裏口のドアのガラスが割られていた。(朝日 2011/12/1)

---

<sup>8</sup> 日本では、1948年に公布された『保健婦助産婦看護婦法』が2002年3月1日に『保健師助産師看護師法』に改正された。改正される前は、女性は「看護婦」、男性は「看護士」と呼ばれているが、改正後、男女を問わず、「看護師」と称されるようになった。また、「看護師の資格・仕事ナビサイト」の統計によれば、2006年、日本で、就業看護師の中、男性看護師の占める割合は4.7%、準看護師は6.1%で、増加しているそうである。

しかしながら、これが「男性標示語」の使用頻度増加の理由ならば、「男児」「男優」「男子生徒」などの多用はどう説明すればよいだろうか。田中他(2011:138)は、性別標示語の中で「男性標示語」のウェートが高くなっている理由として以下の五つを挙げている。

1. 性別を記すことが大事な記事上の情報であるという、デスクや記者つまり新聞側の意識が高まっている。
2. 読者をはじめとする一般の人びとが、登場人物の性別を知りたがる傾向が強まっている。
3. かつてよりも「人物」が言及される記事が増えている。
4. 「人物」が言及される際に、性別に付随する職業や属性などの情報が付加されるようになった。
5. 以前のように事件・事故の記事を中心に、「人物」を実名で報道せず匿名にする傾向が強まり、そのために性別およびそれに付随する職業や属性で当事者を表現しようとする記事が増えてきた。

以上の五つの理由は簡単に「新聞の送り手側と受け手側」と「記事内容」にまとめられよう。田中他(2011)が指摘したように、新聞記事の送り手側と受け手側の意識や記事内容の変化は「男性標示語」の増加と大きく関わっていると思われる。しかし、以上のような理由のほかに、「男性標示語」の増加には重要な原因が関与しているのではないか。

以下では、田中他(2011)の研究を踏まえ、「男性標示語」の使用変化の原因を社会運動などの角度から三つ挙げてみる。

まず、考えられる一番大きな原因は1960年代欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動の影響であろう。

フェミニズム運動は、社会改革に大きな成果を上げてきただけでなく、個々の研究分野の研究対象を広げ、学際的研究を促進する要因にもなっている(中村1995:1)。「われわれの生きている社会が性によって人を差別する社会であるのならば、その差別をなくすよう努力していくことがフェミニズム運動の大きな目的である。そのためには社会の中の性差別がどのようなメカニズムを持っているのかを知る必要が

ある。言語は性差別のメカニズムを知る格好の手段である」と中村（1995:2-3）が指摘している。このように、フェミニズム運動は、女性の法的地位の向上のほかに、言語にも注目し、「言語の中の性差別の問題」を研究分野に取り入れ、言語の性差別を指摘して、それらを改革しようという言語改革運動を提案した<sup>9</sup>。

欧米で起きた以上のような動きは、日本にも波及した。日本では、1980年代から、フェミニズムの視点による性差研究が一般化し、辞書の定義や用例の中の差別が指摘されたり、日本語の差別表現に関する包括的研究によりことばの重要性が認識されていたりした。さらに、新聞における男女の取り上げられ方の問題点が分析され、日本語における性差別表現のガイドラインまで出された。

二つ目の要因としては、フェミニズムのうねりを受けて、その主張の一部を取り入れた『記者ハンドブック』、『取り決め集』、『用語集』などの「表現ガイドライン」が果たした役割が考えられよう。

メディアの中の差別を考える会では、1996年に日本初の新聞に関する非性差別表現原則を以下のように提案している。

#### 1. 性別情報不問（ジェンダー・フリー）

「男＝標準、女＝例外、下位、特殊」という社会規範が浸透している現状では、必要がない限り性（ジェンダー）情報を含まない。特に、職業名は、男性と同一の職業分類で十分である。職業名としての「女流棋士」「女医」「女性宇宙飛行士」などは使わない。どうしても性別が必要であれば「男性〇〇」も積極的に使おう。

#### 2. ジェンダー的公正（ジェンダー・フェア）

ジェンダーに関する情報が不可欠な場合には、表現方法、表記順、回数などにおいて公平・公正な取り扱いをする。

#### 3. （両性の）対称な取り扱い（パラレル・トリートメント）

両性の職業名、肩書、敬称などは取り扱い、不均衡（差別）にならないようにする。

#### 4. 包括的な表現（インクルーシブネス）

特定のグループや性を排除する言語や形式でなく、多様な集団を包括する言

<sup>9</sup> 言語改革運動については、カメロン（1990）、中村（1995）を参照されたい。

語や形式を使う。

5. 脱・固定概念 (バイアス・フリー)

性別役割分業観や、「男らしさ」、「女らしさ」など、特性が性に固有なものとする伝統的な価値観は差別につながる。

(上野・メディアの中の差別を考える会 (1996:8-9) 下線は筆者)

朝日新聞社も 1994 年に『取り決め集'94』という小冊子を作成した。同書冒頭には「人種、民族、身分・地位、地域、職業（職種）、性別、病気・障害などについて、差別することは、人種を侵害するので厳に慎むべきである。」との文言が見られる。その中の「差別」の項には、差別用語や差別的表現の言い換え例、使わないことばが列挙されている。

加えて、新聞記事の送り手側に起きた変化が関わっていると考えられる。送り手側に起きた変化は、一つは送り手側のジェンダーへの関心の高まり、もう一つは組織におけるジェンダー的構造の変化に分けることができる。後者は、つまり、女性が新聞業界に参入し、新聞の送り手や管理職になり、新聞業界の男女比を変えたことである。表 8-4 を見られたい。

田中他 (2011:198) は、ジェンダー表現の場合でも、ガイドラインを作成してあるべき姿を明確に提示するとともに、メディアの送り手をはじめとする言語使用者に指針が周知され、実際に使用されるようにする手段を講じることが望ましいと述べ、送り手側からの性差別解消への重要性を指摘している。

表 8-4 新聞・通信社記者数の推移

年	記者数	うち女性記者数	女性記者の割合 (%)
2011	20,305	3,235	15.9
2010	20,406	3,180	15.6
2009	21,103	3,129	14.8
2008	21,093	3,108	14.7
2007	19,124	2,631	13.8
2006	20,773	2,642	12.7
2005	20,315	2,436	12.0
2004	20,979	2,450	11.7
2003	21,311	2,458	11.5
2002	20,851	2,384	11.4
2001	20,679	2,200	10.6
2000	19,434	1,976	10.2

(日本新聞協会の調査データをもとに作成)

## 8.6 第8章のまとめ

本章では、戦後新聞紙面における「男性標示語」の推移を通して、言語と社会の関係を論じ、社会の変化が言語の変化に与えた影響を考察した。本章の考察で明らかになったのは、戦後新聞紙面における「男性標示語」では、「男～」と「男子～」の割合は低下したが、「男性～」の割合が上昇し、「男性標示語」として優位を占めつつあることである。その推移を引き起こした要因として、主に「フェミニズム運動」と「表現ガイドライン」、「新聞の送り手側の変化」の三つを挙げた。

## 第9章 まとめと今後の課題

---

### 9.1 まとめ

本章では、第1章で提起した研究課題の答えを提示して、本論文全体のまとめと今後の課題について述べる。

第1章で述べたように、女性標示語に関する研究蓄積はそう多くないが、そのほとんどが性差別の観点からの研究である。その限られた先行研究は、言語現象の指摘にとどまり、具体的なデータを見ないものが多い（寿岳 1979、中村 1995、れいのるず=秋葉 1998、佐竹秀雄 2001 等）。また、一方で、新聞のデータは大量に調査するが、数値の議論に偏り、女性標示語に関する詳細な考察が不足している研究も多くある（田中和子 1984、田中他 2006,2009a,2011 等）。女性標示語はどのような言語環境で、またはどういった状況下で使われているのか、なぜ使われているのか、なぜ使用変化が見られたのかについてはさらなる考察を行う必要がある。

本論文は、第1章で述べた以上のような研究背景と先行研究の問題点を踏まえて、三つの研究課題を設定した。以下に第1章で提起した研究課題を再掲する。(p.18)

- (1) a. 基本的には新聞のデータを用いて、主要な「女性標示語」の使用実態を明らかにする。
- b. その使用実態と各「女性標示語」の意味、社会的背景との関連について考察する。
- c. 現代日本語の「女性標示語」の意味特徴による分布を考察する。

以上の三つの研究課題に対して、本論文は、データの多様性を考慮し、新聞以外のジャンルでの使用を見るために、『朝日新聞』のデータベースと『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を併用し、性差別に主眼を置いた分析から離れて、ニュートラルな視点に立ち、データから得られる事実をもとに言語的側面と社会的側面から女性標示語を分析した。

- (1) について、女性標示語の使用実態を明らかにすること及びそのような使用実

態になっている要因を究明することを通して、現代日本語の「女性標示語」の意味特徴による分布が明らかになった。女性標示語は、先行研究において、使用分布が言及されたものの、その分布が十分に究明されたとは言い難い状況にあったが、本研究が「女性～」「女子～」「婦人～」「女～」「女流～」など女性というジェンダーを表現する言語形式を体系的に記述したことで言語とジェンダー研究のみならず、語彙研究や日本語教育分野にも貢献できる成果を残せたものと考えている。

また、本研究で得られた知見は、社会に還元できる。言語使用者がいかにかに正しく言語を使用するのか、実際の言語生活においてどのように表現したら言語使用者の男性性、女性性、両性性（ジェンダー・アイデンティティ）<sup>1</sup>が保たれるのかに理論的根拠を提供する。

本論文のこれまでの議論で、日本語の女性標示語についての記述的研究の一環として、女性標示語の中核を成す表現形式について、その使用実態、接続制約、使用変化、社会的背景との関連を記述し、その一端を明らかにした。

まず、主要な女性標示語の使用実態に関してであるが、現代日本語では、汎用性の高い順に「女性～」>「女子～」>「女～」である。「婦人～」はかつては汎用性が高かったが、現在では使用が減少している。また、「女流～」は使用が減少しつつあり、固有の称号のほかにはあまり使われなくなっている。女性標示語の使用が全体的に減少し、「女性～」に収斂していく傾向がある一方で、平衡表現としての「男性標示語」は使用が増加する傾向が見られる。そして、女性標示語の使用には非対称性は見られるが、差別的だとは言い切れない。なぜなら、性別情報が必要な場合の使用が多くあるためである。各表現形式の使い分けから言えば、「女性～」は、後項要素の接続制約が緩く、結合できる語が多い。「女子～」は、「教育関連」「スポーツ関連」を表わすことばによくつき、「職業関連」を表わすことばの前にも現れる。

「婦人～」は、女性標示語としての汎用性が低く、結合する語が限られ、外来語とはほとんど結合しない。「女～」は独立形態素の「女（ジョ）～」と自由形態素の「女（オンナ）～」の二つのタイプがあり、「女（ジョ）～」は音読みの漢字とよく結合し、「女兒」「女優」「女王」などは出現頻度が高く、「女（オンナ）～」は単独用法の「女」の影響を受け、性的ニュアンスを帯び、結合した語には置き換えが起きて

---

<sup>1</sup> 男性性、女性性、両性性（ジェンダー・アイデンティティ）に関しては、第1章脚注7を参照されたい。

いる。「女流～」は、「芸術・技芸」「囲碁・将棋のタイトルと段位」を表わすことばと結合するのがふつうであるが、「芸術・技芸」と結合する語は現在では置き換えられるようになり、その使用が減少している。

第2章以降の議論で分かるように、主要な女性標示語の使用実態は各女性標示語の意味（知的な側面と情意的な側面）と深く関わっており、1960年代以降欧米を中心に盛り上がりを見せたフェミニズム運動<sup>2</sup>などの社会的背景とも関係している。

本論文では、女性標示語の各表現形式を全て考察することはできなかったが、本論文の研究を通して、主要な女性標示語の意味特徴による分布が明らかになった。

女性標示語の表現形式とその意味の一覧を表9-1に示す。

表9-1 主要女性標示語一覧

女性標示語	意味
女性～	「成人した女の人」の意味を表わす。改まった表現、ふつう、いいイメージも悪いイメージも感じられない表現である。ほかの女性標示語と比べて、新しく現れた形式である。
女子～	「女の子」と「成人した若い女性」という二通りの意味がある。若さを強調する柔らかい形式である。
婦人～	「成人女性」と「既婚女性」という二通りの意味がある。既婚者や年配者などのイメージがする古くて硬い形式である。
女（ジョ）～	「女性というジェンダー」の意味を表わす。0歳の女の赤ん坊から100歳以上の高齢の女性までを表現する形式である。
女流～	「芸術・技芸に従事する女性」と「囲碁・将棋の女性の棋士」という二通りの意味を表わす。流儀やスタイルが感じられる改まった形式である。
女（オンナ）～	「成人女性」という意味を表わす。「バイタリティー」や性的ニュアンスなどが感じられる柔らかい形式である。

<sup>2</sup> フェミニズム運動に関しては、第1章脚注3を参照されたい。

表 9-1 から分かるように、女性標示語は「女性というジェンダー」という共通の意味のほかに、それぞれ、「成人女性」「既婚女性」「女の子」「若年女性」「芸術・技芸に従事する女性」などの意味を表わす。また、以上のような知的な側面における意味を除き、新しいか古いか、若いかわからないか、砕けた表現なのか改まった表現なのか、俗っぽい表現か否かなど、いわゆる情意的な側面に関する意味もある。そこで、本論文は、以上で見た各女性標示語の意味を知的な側面と情意的な側面に分けて、それぞれ「成人」「既婚」「流儀」「新旧」「老若」「硬軟」という五つの素性を抽出し、主要な女性標示語の意味特徴を下記の表 9-2 にまとめる。

表 9-2 主要女性標示語の意味特徴<sup>3</sup>

女性標示語 \ 意味特徴	知的な側面			情意的な側面		
	成人	既婚	流儀	新旧	老若	硬軟
女性～	+	±	-	+	±	+
女子～ <sub>1</sub>	-	-	-	-	-	+
女子～ <sub>2</sub>	+	±	-	-	-	-
婦人～	+	±	-	-	+	+
女流～	+	±	+	-	±	+
女（オンナ）～	+	±	-	-	±	-

上に見られるとおり、女性標示語<sup>4</sup>は「女子～<sub>1</sub>」以外は全て「成人」「未婚と既婚両方ありうること」を表わし、「女流～」以外は全て「流儀」（スタイル）を表わさなく、「女性～」以外は全て古くからある形式である。そして、「婦人～」は若い女性を表わすが、「女性～」、「女流～」と「女（オンナ）～」は「若年女性」も「年配女性」も表わし、「女子～<sub>1</sub>」と「女子～<sub>2</sub>」は「若年女性」を表現し、「女子～<sub>1</sub>」は若年女性のうちの「低年齢の女性」を表わす。さらに、「女子～<sub>2</sub>」と「女（オン

<sup>3</sup> 女性標示語の欄では、分析の便宜上、「女子～」を「女子～<sub>1</sub>」（教育関連）と「女子～<sub>2</sub>」（スポーツ関連と職業関連）に分け意味特徴を見る。そして、「女（ジョ）～」は形態論的に単位が違うため、除外する。また、情意的な側面の欄においては、「新旧」の欄の「+」は「新」、「-」は「旧」を示す。「老若」の欄の「+」は「老」、「-」は「若」を示す。「硬軟」の欄の「+」は「硬」、「-」は「軟」を示す。

<sup>4</sup> ここで言う女性標示語は「女（ジョ）～」を除外したあとの「女性～」「女子～」「婦人～」「女流～」「女（オンナ）～」のことを指す。

ナ) ~」は「柔らかい表現」「砕けた表現」であり、ほかの形式は、「硬い表現」「改まった表現」である。

上掲の表 9-1 と表 9-2 で見た意味特徴をさらに年齢制限に注目して図示すると、下記の図 9-1 のようになる。

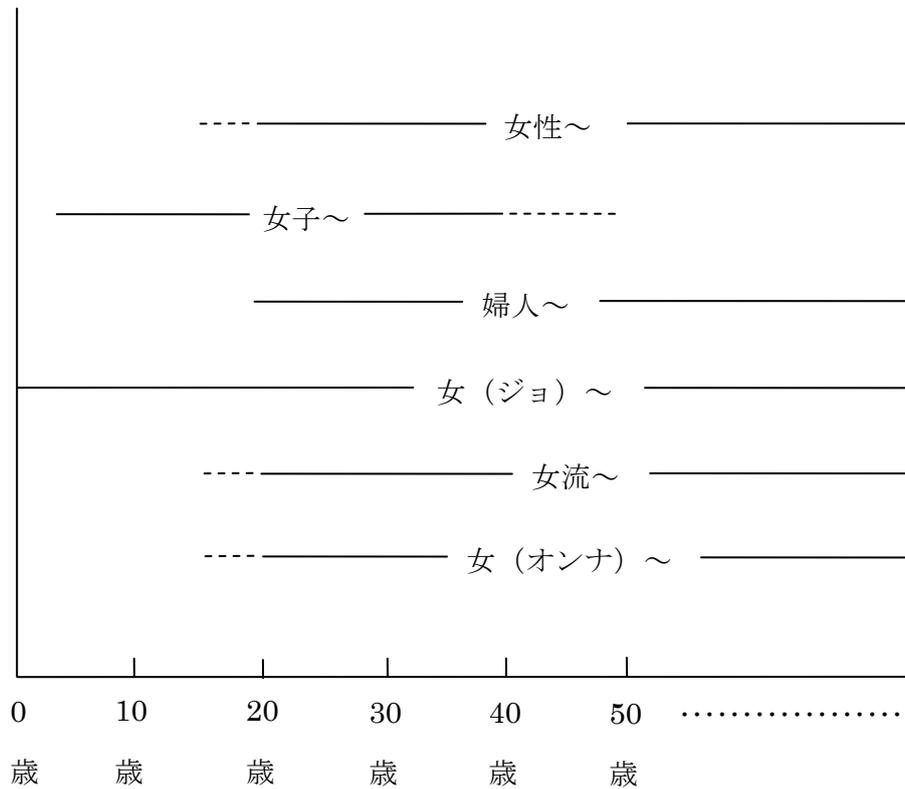


図 9-1 主要女性標示語の年齢制限<sup>5</sup>

図 9-1 から分かるように、「女性~」は 20 代からの成人女性を、「女子~」は 3 歳ぐらいの幼い女の子から 40 代前後の成人女性を、「婦人~」は 20 代からの成人女性や既婚女性を表わす。そして、「女(ジョ)~」は年齢制限が見られず、0 歳の「女児」から 100 歳以上の高齢の女性、つまり、年齢を問わず一生を通じての女性を示す。「女流~」は「女性~」と「女(オンナ)~」の表わす年齢層とほぼ同様である

<sup>5</sup> 「女(ジョ)~」を除き、各表現形式に関して年齢の低いほうの限界は、第 2 章以降の分析結果からははっきりしないが、日本民法で定められた 20 歳という成年年齢に基づき、「女性~」「婦人~」「女流~」「女(オンナ)~」は 20 歳から線を引き、「女子~」は「女子園児」「女子児童」「女子小学生」等の用例から年齢を類推して 3 歳から線を引いた。なお、「女性~」「女流~」「女(オンナ)~」の左側の点線は 15 歳ぐらいから 20 歳までの「女性~」「女流~」「女(オンナ)~」が使用される可能性、「女子~」の右側の点線は 40 代以上の女性に「女子~」が使用される可能性を示す。

が、芸術・技芸や囲碁・将棋などに従事する女性を表わし、「女（オンナ）～」は「女わらしっこ」のような用例もあるものの、20代からの成人女性を表わす。ただし、「女（オンナ）～」は単独用法の「女」の影響を受け、性的ニュアンスが感じられるため、「女性～」にとって替わられるようになっている。

上記の図表と各章の議論から分かるように、各女性標示語は意味上、異なっているところもあれば、重なるところもあり、部分的に互換性を持っている。日本語では汎用性が最も高い女性標示語は「女性～」であり、「女子～」「女（ジョ）～」「女流～」「女（オンナ）～」は女性標示語の体系内で特別な位置付けになっており、その一部は「女性～」と置き換えられる。「婦人～」はほぼ全部「女性～」と置き換えられる。

もちろん、下記の(2)～(6)の「女教師⇔女性教師⇔婦人教師」「女作家⇔女流作家」「女子店員⇔女店員⇔ママさん店員」「婦人職員⇔女子職員⇔女性職員」「美人スパイ⇔女スパイ⇔女性スパイ」が示すように、「女～・女性～・婦人～」、「女～・女流～」、「女子～・女～・ママさん」、「婦人～・女子～」、「美人～・女～・女性～」の間でも一定の互換性が見られる。ただし、各表現形式が持つ意味によって、置換できても置換された後に、文の意味とニュアンスが変わったりする場合もある。

- (2) a. その女教師の中に、今もいろいろ教えを仰いでいる方で、藤田栄という私より六歳年上の女教師がいた。(石本隆一ほか編纂『日本文芸鑑賞事典』)
- b. モランの本で、私がとくに皆さん方に注意していただきたいことは、オレアン的女子生徒の通う学校の、一部の女性教師たちが「うわさ」に影響され、「うわさ」がひろまることを助けた、という事実です。(大江健三郎『「自分の木」の下で』)
- c. 参院議員となつての初仕事は、出産する婦人教師が授業の心配もなく休める、いわゆる産休法の立法だ。(朝日 1985/11/2)
- (3) a. だから女作家も水割りのグラスを持って、こちらに来た。女作家は私の隣の隣に座ったことになる。(岩井志麻子『薄暗い花園』)
- b. この街には女流作家の蕭紅(千九百十一～千九百四十二)の故居がある。(立松和平『アジア偏愛日記』)

- (4) a. 僕も、三上部長も、女子店員たちも派遣の販売員も、メーカーの担当者たちもみんな、椿山課長が大好きだったんだ。(浅田次郎『椿山課長の七日間』)
- b. いや、パートの女店員です。女店員と言っても、市内の奥さんなんですね。ご亭主は農協で事務をやっており、奥さんの方は、頼まれたときだけ、守井洋品店を手伝っていたということです。(佐野洋『巡查失踪』)
- c. 甲府市内のコンビニエンスストアに今秋、ママさん店員向けの託児所ができた。コンビニ内の保育施設は珍しく、求人には応募が殺到した。(朝日 2010/11/30)
- (5) a. また、婦人警察官、婦人交通巡視員、婦人補導員等の婦人職員は、交通安全教育、駐車違反の取締り、少年補導、要人警護、犯罪捜査等多方面の業務に従事している。(警察庁『警察白書』)
- b. 朝倉町長は、庁舎玄関に出迎えた町職員の拍手の中、女子職員からの花束を受け取った。(朝日 2010/2/2)
- c. 入口に簡単な受付があり、ポニーテールの若い女性職員が、浚介に資料のパンフレットを渡した。(天童荒太『家族狩り』)
- (6) a. インタファクス通信によると、元「美人スパイ」の出現に、ロシア連邦宇宙局は「私的な訪問。我々とは一切関係ない」と説明、迷惑顔だ。(朝日 2010/10/10)
- b. 恋人と別れさえすれば、私はたぶん、一介の女スパイに戻れるのだ。四十七大学院生は、カメラを持参していた。(江國香織『ウエハースの椅子』)
- c. 「第二に、われわれはふたりの女性スパイを湧谷の家に送りこみ、湧谷のゴルフゆきの日程を掌握し、作戦司令部に通報しております。(深田祐介『暗闇商人』)

(2) の「女教師」、「女性教師」と「婦人教師」の間にはイメージの差があり、(3) の「女作家」と「女流作家」は「流儀・スタイル・権威」の有無が問われ、(4) の「女子店員」、「女店員」と「ママさん店員」の間には、「老若・既婚未婚・出産未出産」の違いが見られる。そして、(5) の「婦人職員」、「女子職員」と「女性職員」は年齢に関する違いなどがあり、(6) の「美人スパイ」、「女スパイ」と「女性スパイ」

イ」は文体の差や容姿の優劣に関する違いが見られる。なお、各形式の互換性と置換後に生じた文の意味、ニュアンスの違いに関する詳細な考察は今後の課題とする。

## 9.2 今後の課題

9.1 節が本論文の考察の内容であるが、女性標示語に関して重要な問題である、女性標示語が文の中でどのような働きを果たしているのかについては十分な考察ができなかった。また、「ママさん～」「美人～」「主婦～」「美女～」等の女性標示語についても詳しく考察できなかった。これらについては、全て課題とし、別稿に譲る。

さらに、「女性標示」という観点から考えれば、今後次の方向で研究を深める必要がある。

### 1) 広義の「女性標示語」等の研究

本論文は、女性というジェンダーがどのように表現されているのかを見るため、「女性雑誌」「女子大学」「女目線」「婦人用品」など全体で人間を表わさない語を研究対象から除外した。人間を表わす女性標示語と人間を表わさない「女性雑誌」「女子大学」「女目線」「婦人用品」の前項要素の「女性～」「女子～」「女～」「婦人～」などの異同を押さえ、現代日本語における「女性標示」の全容を考える必要がある。また、本論文は、人間の女性を表わす合成語の前項要素としての「女性～」「女子～」「女～」等を見たが、「会社員女性」「パート女性」「職員女子」など女性標示語と同じような機能を果たす語群の後項要素としての「～女性」「～女子」等との異同についても考察する必要がある。

### 2) 女性標示語の歴史的研究

女性標示語は、先述したとおり、その使用に変化が見られる。本論文は、「婦人～」と「男性標示語」については1945年から2009年までの65年間というスパンでその推移を見たが、その他の女性標示語については共時的な方法で考察した。しかしながら、女性標示語の全容を正確に捉えるためには、各表現形式の歴史的な変遷過程そのものを体系的に考察、記述することも必要となる。

## 3) 他言語との対照研究

日本語の女性標示語と類似の意味、機能を担う語は、中国語、英語、フランス語等、他の言語にもある。日本語の女性標示語は他言語と比べ、表現形式が豊富であること、使用頻度が高いこと等から、日本語との対照が、他言語の研究に多くの示唆を与えるものと期待される。逆に、こうした対照研究は日本語の「女性標示語」の特徴と使用分布を浮き彫りにすることにもなる。

## 4) 形態規則からの接続制約の研究

本論文は、各女性標示語の接続制約をそれぞれの女性標示語が持つ意味とフェミニズム運動の影響から分析したが、語形成に課される一般的条件に関する考察が不足している。日本語には、語形成に課される一般的条件が満たされているにも関わらず、「女性芭蕉」「女性君」「女園児」「女子供（女兒の意味の女子供）」「女流学生」など容認されない語が存在する。このような現象を、形態規則から説明する必要があると思われる。すなわち、これらの語が自由に形成されないのは、阻止 (blocking) によって制限される要因が考えられる。阻止 (blocking) は Aronoff (1976) によって提出された概念で、ほかの形式がすでに存在しているため、一定の形態規則の出力が容認不可能となり、すでに存在している語が新しく加わろうとする語を阻止するということである。阻止 (blocking) には音韻的阻止、形態的阻止と意味的阻止があるとされている。女性標示語の接続制約に阻止 (blocking) 現象があるかどうか、どのような阻止 (blocking) が働いているのかを研究する必要がある。

## 5) 互換性という観点からの研究

本論文の議論で明らかになったように、各女性標示語は意味上互換性を持っている。本論文は、置き換えられない場合の意味の違いを中心に見たが、置き換えられる場合の意味やニュアンスの相違については深く考察できなかった。今後は、「置き換え」テストで各女性標示語の「互換性」を確認し、置き換えられる場合の相違やその相違が生じる要因を各表現形式の意味特性と関連付けて総合的に考察する必要がある。

6) 男性標示語の研究

本論文は、女性標示語と対照するために男性標示語を取り上げ、戦後の新聞紙面における推移を中心に概観した。女性標示語を客観的に分析するために、男性標示語を取り上げたが、主要な男性標示語の「男性～」「男子～」「男～」の使用実態、接続制約、使われ方などについて、女性標示語と同じレベルまで踏み込んで論じることができなかった。男性というジェンダーを表現する言語形式としての男性標示語を詳しく考察することは、女性標示語研究のみではなく、ジェンダー表現研究ないし言語とジェンダー研究においても大きな意義があるものと思われる。

これらについても、今後、さらに研究を進めていきたい。

## 参考文献

---

### 日本語：

- 青木恵理子（1991）「男と女—ジェンダー—」『文化人類学を学ぶ人のために』，  
pp.152-166，世界思想社.
- 朝日新聞社（1994）「「取り決め集」朝日新聞、1994年版」『差別用語の基礎知識'99』，  
pp.296-302，土曜美術社.
- 朝日新聞社（1998）『取り決め集'98』朝日新聞社.
- 朝日新聞社（2002）『取り決め集'02』朝日新聞社.
- 朝日新聞社（2002）『ジェンダーがわかる』朝日新聞社.
- 新しい女と男を考える会（1994）『知っていますか？女性差別一問一答』解放出版社.
- 阿部圭子（1992）「言語と性差研究における理論の回顧と展望」『ことばのモザイク—奥田夏子教授古希論文集—』， pp.306-321，目白言語学会.
- 阿部圭子（1993）「フェミニスト人類学から見た異文化における女性語」『日本語学』第12巻第6号， pp.244-249.
- 阿部圭子（1998）「最も性差のある言語—言語の性差の多重構造—」『月刊言語』第27巻第5号， pp.72-76.
- 阿部圭子（2003）「フェミニズムと言語研究（feminism and linguistics）」『応用言語学事典』， pp.194-195，研究社.
- 阿部圭子（2005）「言語におけるジェンダー・イデオロギー」『講座社会言語学第5巻 社会・行動システム』， pp.18-38，ひつじ書房.
- 井谷恵子・田原淳子・来田享子（2001）『目でみる女性スポーツ白書』大修館書店.
- 井出祥子（1979）『女のことば男のことば（NKT ブックス）』日本経済通信社.
- 井出祥子（1982）「言語と性差」『月刊言語』第11巻第10号， pp.40-48.
- 井出祥子（1993）『日本語学—世界の女性語・日本の女性語—』第12巻第5号.明治書院.
- 井出祥子（1997）『女性語の世界』明治書院.
- 井出里咲子（2008）「スモールトーク」『開放系言語学への招待—文化・認知・コミュニケーション—』， pp.171-192，慶應義塾大学出版会.

- 糸魚川美樹（1998）「フェミニズムと言語差別—中村桃子（1994）『ことばとフェミニズム』（勁草書房）を中心に—」『不老町だより』第3号，pp.1-9.
- 糸魚川美樹（2002）「性差別をかたることば—社会言語学からみた「女性学」—」『社会言語学Ⅱ』第2号，pp.21-35.
- 伊藤公雄（1999）「スポーツとジェンダー」『スポーツ文化を学ぶ人のために』，pp.114-131，世界思想社.
- 伊藤雅光（2002）『計量言語学入門』大修館書店.
- 上野千鶴子・メディアの中の性差別を考える会（1996）『きっと変えられる性差別語—私たちのガイドライン—』三省堂.
- 宇佐美まゆみ（2004）『言葉は社会を変えられる—21世紀の多文化共生社会に向けて—』明石書店.
- 氏家洋子（2006）『言語文化学の視点—「言わない」社会と言葉の力—』おうふう.
- 漆田和代（1993）「「婦人」「女」「女性」……—女の一般呼称考—」『おんなと日本語』，pp.123-158，有信堂.
- 江原由美子（1990）『フェミニズム論争—70年代から90年代へ—』勁草書房.
- 江原由美子（1992）『フェミニズムの主張』勁草書房.
- 江原由美子・しまようこ・れいのるず=秋葉かつえ（1993）「座談：女とことばと日本語文化」『おんなと日本語』，pp.4-30，有信堂.
- 遠藤織枝（1981）『国語辞書にみる女性差別』三一書房.
- 遠藤織枝（1982）「辞書と新聞にみる男性と女性」『ことば』第3号，pp.1-20.
- 遠藤織枝（1983）「女性を表すことば（2）—明治20年代を中心に—」『ことば』第4号，pp.1-27.
- 遠藤織枝（1987）『気になる言葉—日本語再検討—』南雲堂.
- 遠藤織枝（1992）『女性の呼び方大研究—ギャルからオバサンまで—』三省堂.
- 遠藤織枝（1997a）『女のことばの文化史』学陽書房.
- 遠藤織枝（1997b）「女性を表す語句と表現—新聞の人物紹介と雑誌広告の欄から—」『女性語の世界』，pp.94-113，明治書院.
- 遠藤織枝（1998）『気になります、この「ことば」』小学館.
- 遠藤織枝（2001）『女とことば—女は変わったか、日本語は変わったか—』明石書店.
- 遠藤織枝（2005）「志を貫いた、寿岳さん—研究と実践を見事に一致させながら—」

- 『ことば』第26号, pp.1-33.
- 遠藤織枝 (2007) 『ことばとジェンダーの未来図—ジェンダー・バッシングに立ち向かうために—』明石書店.
- 遠藤織枝 (2012) 『昭和が生んだ日本語—戦前戦中の庶民のことば—』大修館書店.
- 大石強 (1989) 『現代の英語学シリーズ4 形態論』開拓社.
- 岡野進 (2010) 『概説スポーツ—スポーツ理論を学び、考える—』創文企画.
- 岡野雅雄 (1996) 「政治面におけるジェンダー・バイアス」『ジェンダーから見た新聞のうら・おもて「新聞女性学入門」』, pp.131-157, 現代書館.
- 尾崎雄二郎 (1992) 『角川大辞源』角川書店.
- 影山太郎 (1999) 『日英語対照による英語学演習シリーズ2 形態論と意味』くろしお出版.
- 影山太郎・由本陽子 (1997) 『日英語比較選書8 語形成と概念構造』研究社出版.
- 鍛冶千鶴子 (1998) 「ことばにこだわるということ」『「ことば」に見る女性—ちょっと待って、その「ことば」—』, pp.4-7, クレヨンハウス.
- 加藤夏希 (2010) 「差別語規制とメディア—『ちびくろサンボ』問題を中心に」『リテラシ史研究』第3号, pp.41-54.
- 鹿野政直 (1989) 『婦人・女性・おんな』岩波書店.
- カメロン, デボラ著/中村桃子訳 (1990) 『フェミニズムと言語理論』勁草書房.
- 川崎晶子 (2003) 「位相語」『応用言語学事典』, pp.198, 研究社.
- 川田文子 (2000) 『女という字、おんなということば』明石書店.
- 川成美香 (2003) 「ジェンダーによるバラエティ (gender-based variability)」『応用言語学事典』, pp.188-189, 研究社.
- 河原和枝 (1999) 「スポーツ・ヒロイン—女性近代スポーツ100年—」『スポーツ文化を学ぶ人のために』, pp.132-149, 世界思想社.
- 菊沢季生 (1929) 「婦人の言葉の特徴に就いて」『国語教育』第14巻第3号, pp.66-75.
- 菊沢季生 (1933) 『国語位相論』明治書院.
- 菊池慶子 (1995) 「女性名称の歴史的変遷—「婦人」「女性」「女」についての覚書—」『聖和学園短期大学紀要』第32号, pp.105-119.
- 北沢方邦 (2007) 「性差とジェンダーの構造」『日本語とジェンダー』第8号,  
[http://www.gender.jp/journal/no8/01\\_kitazawa.html](http://www.gender.jp/journal/no8/01_kitazawa.html).

- 木村護郎クリストフ (2009) 「書評 中村桃子『〈性〉と日本語—ことばがつくる女と男—』『社会言語学』第 9 号, pp.323-325.
- 京極興一 (1994) 「「女性」の語誌—明治初期から中期に至る—」『上田女子短期大学紀要』第 17 号, pp.21-29.
- 京極興一 (1998) 『近代日本語の研究—表記と表現—』東宛社.
- 共同通信社 (1981) 『記者ハンドブック用字用語の正しい知識 第 4 版』共同通信社.
- 共同通信社 (1992) 『記者ハンドブック用字用語の正しい知識 第 6 版』共同通信社.
- 共同通信社 (1997) 『記者ハンドブック 第 8 版—新聞用字用語集—』共同通信社.
- 共同通信社 (2005) 『記者ハンドブック 第 10 版—新聞用字用語集—』共同通信社.
- 共同通信社 (2010) 『記者ハンドブック 第 12 版—新聞用字用語集—』共同通信社.
- 熊谷滋子 (2009) 「ジェンダー認識の変化—新聞投書を利用して—」『ことば』第 30 号, pp.51-63.
- 熊谷滋子 (2010) 「書評 『ジェンダーで学ぶ言語学』[中村桃子編著]」『ことば』第 31 号, pp.127-131.
- 熊抱ゆかり (2006) 「言語とジェンダー—日英語に表れる性差—」『福岡大学人文論叢』第 38 巻第 1 号, pp.215-229.
- 現代日本語研究会 (1997) 『女性のことば・職場編』ひつじ書房.
- 現代日本語研究会 (2002) 『男性のことば・職場編』ひつじ書房.
- 現代日本語研究会 (2011) 『合本 女性のことば・男性のことば (職場編)』ひつじ書房.
- 国立国語研究所 (1965) 『国立国語研究所報告 28 類義語の研究』, pp.96-98, 秀英出版.
- ことばと女を考える会 (1985) 『国語辞書に見る女性差別』三一書房.
- 小矢野哲夫 (1999) 「言語社会におけるジェンダーの流動化」『日本ジェンダー研究』第 2 号, pp.31-42.
- 斉藤正美 (1995) 「ジェンダー的公正報道のガイドライン」『図書館とメディアの本ず・ぼん』第 2 号, pp.57-58, 新泉社.
- 斉藤正美 (1998) 「クリティカル・ディスコース・アナリシス— ニュースの知/権力を読み解く方法論—新聞の「ウーマン・リブ運動」(一九七〇)を事例として—」『マス・コミュニケーション研究』第 52 号, pp.88-103.

- 斉藤正美 (2003) 「「ジェンダーに敏感な」情報発信のために—ジェンダー・ガイドライン運動—」『月刊社会教育』第 47 巻第 12 号, pp.18-24.
- 斉藤正美 (2009) 「女性学は何のためにカタカナ語「ジェンダー」を守るのか—社会言語学的アプローチによる「ジェンダー」受容過程の再検討—」『社会言語学』第 9 号, pp.138-173.
- 斉藤正美 (2010) 「差別表現とガイドライン—差別をつくる/変えることば—」『ジェンダーで学ぶ言語学』, pp.183-196, 世界思想社.
- 佐々木恵理 (2001) 「非差別語への言語改革に今必要なこと」『女とことば—女は変わったか、日本語は変わったか—』, pp.228-240, 明石書店.
- 佐々木恵理 (2007a) 「「ジェンダー・フリー」の言語領域からの分析—“gender-free”の誤用と「ジェンダー・フリー」の混乱—」『ことばとジェンダーの未来図—ジェンダー・バッシングに立ち向かうために—』, pp.228-262, 明石書店.
- 佐々木恵理 (2007b) 「「ジェンダー・フリー」ということばは必要なのか—ことばと概念の混乱を探る—」『ことば』第 28 号, pp.53-67.
- 佐々木瑞枝 (1996) 『日本語ってどんな言葉?』筑摩書房.
- 佐々木瑞枝 (1999) 『女の日本語 男の日本語』筑摩書房.
- 佐竹久仁子 (1997) 「女と男はどう描かれるか—そのステレオタイプ表現—」『日本語学』第 16 巻第 7 号, pp.48-55.
- 佐竹久仁子 (2000) 「「差別語」考」『ことば』第 21 号, pp.75-87.
- 佐竹久仁子 (2001a) 「国語辞書と性差別イデオロギー」『ことば』第 22 号, pp.43-54.
- 佐竹久仁子 (2001b) 「新聞は性差別にどれだけ敏感になったか」『女とことば—女は変わったか、日本語は変わったか—』, pp.162-170, 明石書店.
- 佐竹久仁子 (2008) 「ことばとジェンダー」『メディアとことば③ 社会を構築することば』, pp.172-173, ひつじ書房.
- 佐竹久仁子 (2009) 「書評 中村桃子著『「女ことば」はつくられる』」『日本語の研究』第 5 巻第 2 号, pp.80-85.
- 佐竹久仁子 (2011) 「フェミニズムと語彙」『これからの語彙論』, pp.189-200, ひつじ書房.
- 佐竹久仁子 (2012) 「<女性語>の形成と衰退」『日本語学』第 31 巻第 7 号, pp.44-45, 明治書院.

- 佐竹秀雄（2001）「女性冠詞の根本問題は解決していない」『女とことば—女は変わったか、日本語は変わったか—』, pp.73-79, 明石書店.
- 真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹（1992）『社会言語学』おうふう.
- 真田信治（2006）『社会言語学の展望』くろしお出版.
- 塩沢美代子（1973）「女・女子・女性・婦人」『言語生活』第 261 号, pp.84-87, 明石書店.
- 塩見鮮一郎（1990）『新編 言語と差別』新泉社.
- シバモト, スミスジャネット（2010）「いま、ことばとジェンダー研究の意義」『世界をつなぐことば—ことばとジェンダー/日本語教育/中国女文字—』, pp.11-30, 三元社.
- 白川静（1976）『漢字の世界 2—中国文化の原点—』平凡社.
- ジェニファー, コーツ著／吉田正治訳（1990）『女と男とことば—女性語の社会言語学的研究法—』研究社.
- 寿岳章子（1979）『日本語と女』岩波書店.
- 徐微潔（2011）「戦後新聞紙面における「男性標示語」の推移」『筑波応用言語学研究』第 18 号, pp.139-151.
- 徐微潔（2012）「新聞記事からみた女性標示語「女流～」の現在」『ことば』第 33 号, pp.50-68.
- 徐微潔（2013）「日本語における女性標示語「女子～」」『日本語と日本文学』第 55 号, pp.22-37.
- 徐微潔・房極哲（2010）「日中両言語の語彙に現れる性差について」『日本語教育』第 52 輯, pp.81-94.
- 小学館国語辞典編集部（2006）『精選版 日本国語大辞典』小学館.
- 杉本つとむ（1997）『女とことば今昔』雄山閣.
- スザーン, ロメイン著／土田滋・高橋留美訳（1997）『社会のなかの言語』三省堂.
- 鈴木英一（1978）『資料 教育基本法 30 年』学陽書房.
- 高木正幸（1999）『差別用語の基礎知識' 99』土曜美術社.
- 竹村和子（2000）『思考のフロンティア フェミニズム』岩波書店.
- 田中和子（1984）「新聞にみる構造化された性差別表現」『マスコミと差別語問題』, pp.179-201, 明石書店.

- 田中和子・女性と新聞メディア研究会（1990）「新聞紙面にあらわれたジェンダー—性差別表現の量的分析を中心に—」『国学院法学』第 28 巻第 1 号，pp.87-119.
- 田中和子・女性と新聞メディア研究会（2006）「新聞において女性はどのように表現されているか—「新聞紙面にあらわれたジェンダー」第四回調査を中心に—」『国学院法学』第 43 巻第 4 号，pp.69-162.
- 田中和子・女性と新聞メディア研究会（2009a）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在—「新聞紙面にあらわれたジェンダー」第五回調査を中心に—」『国学院法学』第 46 巻第 4 号，pp.55-134.
- 田中和子・女性と新聞メディア研究会（2009b）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在（その 2）—第五回調査データの多変量解析と投書欄、テレビ面・ラジオ面、「少年」の用法分析を中心に—」『国学院法学』第 47 巻第 3 号，pp.1-83.
- 田中和子・女性と新聞メディア研究会（2011）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在（その 3）—「延べ語数」と「異なり語数」の経年分析および「言語計画」の観点から—」『国学院法学』第 48 巻第 4 号，pp.127-231.
- 田中和子・諸橋泰樹（1996）「新聞は女性をどう表現しているか」『ジェンダーから見た新聞のうらとおもて「新聞女性学入門」』，pp.38-80，現代書館.
- 田中克彦（2001）「「オンナ」で考える—サベツ語と語彙の体系性—」『差別語から見る言語学入門』，pp.56-62，明石書店.
- 田中春美・田中幸子（1996）『社会言語学への招待：社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.
- 寺田智美（1993）「日本における女性語研究史」『日本語学』第 12 巻第 6 号，pp.262-268.
- 東京女性財団（1998）『「ことば」に見る女性—ちょっと待って、その「ことば」—』東京女性財団.
- 十返千鶴子（1980）「婦人公論読書室『日本語と女』」『婦人公論』第 3 号，pp.373-374.
- 中村桃子（1993）「フェミニズムと言語研究—客観的科学からイデオロギー研究へ—」『日本語学』第 12 巻第 6 号，pp.235-243.
- 中村桃子（1995）『ことばとフェミニズム』勁草書房.
- 中村桃子（1998）「「ことば」の力」『「ことば」に見る女性—ちょっと待って、その「ことば」—』，pp.41-82，東京女性財団.

- 中村桃子 (2001) 『ことばとジェンダー』 勁草書房.
- 中村桃子 (2002a) 「言語とジェンダー研究」の理論『月刊言語』第 31 巻第 2 号, pp.24-31.
- 中村桃子 (2002b) 「言語とジェンダー研究」『日本語とジェンダー』第 3 号, [http://www.gender.jp/journal/no3/No3\\_1.html](http://www.gender.jp/journal/no3/No3_1.html).
- 中村桃子 (2003) 「言語とジェンダー研究—イデオロギーと言語行為のダイナミックな関係—」『現代言語学の潮流』, pp.196-210, 勁草書房.
- 中村桃子 (2007a) 『「女ことば」はつくられる』 ひつじ書房.
- 中村桃子 (2007b) 『<性>と日本語—ことばがつくる女と男—』 日本放送出版協会.
- 中村桃子 (2012) 『女ことばと日本語』 岩波書店.
- 日本語ジェンダー学会 (2006) 『日本語とジェンダー』 ひつじ書房.
- 日本大辞典刊行会 (2006) 『精選版 日本国語大辞典』第 2 巻, 小学館.
- 任利 (2005) 「言語研究における《女性性・男性性》という概念について—現代日本語の言語使用実態に基づく概念規定の試み—」『ことば』第 26 号, pp.96-105.
- 任利 (2008) 「現代中国語の漢字に潜むジェンダー」『ことば』第 29 号, pp.83-91.
- 任利 (2010) 「現代中国語とジェンダー」『世界をつなぐことば—ことばとジェンダー/日本語教育/中国女文字—』, pp.199-216, 三元社.
- 林四郎 (1982) 「臨時一語の構造」『国語学』第 131 号, pp.15-26.
- 林礼子 (2009) 「ジェンダーシステムジェンダーイデオロギーの言語化プロセス」『講座社会言語科学第 1 巻 異文化コミュニケーション』, pp.84-103, ひつじ書房.
- 原田邦博 (2010) 「現代マスコミのジェンダー意識」『日本語とジェンダー』第 10 号, [http://www.gender.jp/journal/no10/09\\_harada.html](http://www.gender.jp/journal/no10/09_harada.html).
- ハルペン, ジャック (1987) 『漢字の再発見—外人の目が拓いたこの驚くべき世界—』 祥伝社.
- 広井多鶴子 (1999) 「「婦人」と「女性」—ことばの歴史社会学—」『群馬女子短期大学紀要』第 25 号, pp.121-136.
- 藤田知子・藤村逸子 (2002) 「ジェンダーと言語研究」『フランス語学研究』第 36 号, pp.53-67.
- 藤村逸子 (2002) 「フランス語における職業名詞女性化の通時的記述—政治の分野の名詞を中心に—」『言語文化論集』第 24 号, pp.235-250.

- 藤村逸子・糸魚川美樹 (2001) 「フランス語における職業名詞の女性化—カステイ  
リャ語との比較—」『言語文化論集』第 23 号, pp.141-156.
- ポール, ワイス著/片岡暁夫訳 (1985) 『スポーツとはなにか』不昧堂出版.
- 毎日新聞社 (1992) 『毎日新聞用語集 改訂 1992 年版』毎日新聞社.
- 松沢明広 (2012) 「朝日新聞の用語に見るジェンダー意識の変化」『日本語とジェン  
ダー』第 13 号, <http://www.gender.jp/journal/no13/02matsuzawa.html>.
- 水谷静夫 (1983) 『朝倉日本語新講座 2 語彙』朝倉書店.
- 南雅彦 (2009) 『言語と文化—言語学から読み解くことばのバリエーション—』くろ  
しお出版.
- メディアの中の性差別を考える会 (1991a) 『メディアに描かれる女性像—新聞をめ  
ぐって—』桂書房.
- メディアの中の性差別を考える会 (1991b) 『メディアに描かれる女性像—新聞をめ  
ぐって、増補・反響編付—』桂書房.
- 諸橋泰樹 (1996) 「フェミニズムからの言語研究書 10 冊」『月刊言語』第 25 巻第 10  
号, pp.76-79.
- 八木晃介 (1994) 『差別表現の社会学』法政出版株式会社.
- 山田小枝 (2004) 「「文法的性」と「社会・文化的ジェンダー」」『日本語学』第 23  
巻第 7 号, pp.76-82.
- 山本侑乃 (2006) 「「女性」を表すことばの変遷」『東京女子大学言語文化研究』第  
15 号, pp.128-133.
- 湯浅俊彦・武田春子 (1997) 『多文化社会と表現の自由—すすむガイドライン作り—』  
明石書店.
- 湯川純幸・斉藤正美 (2002) 「イデオロギー研究としての「日本語とジェンダー」研  
究」『月刊言語』第 31 巻第 2 号, pp.32-37.
- 李奇楠 (2007) 「中国語における女性差別的表現」『ことば』第 28 号, pp.68-80.
- 林玉恵 (2005) 「日中語彙における女性を表す語彙の比較研究—プラス表現とマイナ  
ス表現を中心に—」『台湾日本語文学報』第 20 号, pp.265-290.
- 林玉恵 (2006) 「日中語彙にみる性差別語」『台湾日本語文学報』第 21 号, pp.291-315.
- 林玉恵 (2009) 「女性の一般呼称を表す日中同形語の意味分析—「女子」「女性」「婦  
女」「婦人」を中心に—」『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』第 16 号,

pp.73-94.

れいのるず=秋葉かつえ (1993a) 「ロビン・レイコフに聞く 女であること, 言語学者であること」『日本語学』第 12 卷第 6 号, pp.250-261.

れいのるず=秋葉かつえ (1993b) 『おんなと日本語』有信堂.

れいのるず=秋葉かつえ (1998) 「日本語の性差別」『「ことば」に見る女性—ちょっと待って、その「ことば」—』, pp.213-231, 東京女性財団.

れいのるず=秋葉かつえ (2001) 「日本語の中の性差のゆくえ」『月刊言語』第 30 卷第 1 号, pp.30-35.

れいのるず=秋葉かつえ (2007) 「書評 中村桃子『「女ことば」はつくられる』」『女性学』第 15 号, pp.111-117.

れいのるず=秋葉かつえ (2011) 「My Journey of Gender and Language Study—Auto/Biographical Approach to the History of Women’s Movement」『日本語とジェンダー』第 11 号, [http://www.gender.jp/journal/no11/02\\_akiba.html](http://www.gender.jp/journal/no11/02_akiba.html).

れいのるず=秋葉かつえ・永原浩行 (2004) 『ジェンダーの言語学』明石書店.

渡辺友左 (1991) 「差別語と女性」『国文学解釈と鑑賞』第 56 卷第 7 号, pp.64-69.

#### 中国語 :

孔庆成 (1993) 〈语言中的“性别歧视”两面观—兼议语义贬降规律和语言的从属性〉

《外国语》总第 87 期, pp.15-19.

李海霞 (2011) 〈浅析现代汉语常用性别词“男-女”构词词语及不对称现象〉《重庆科技学院学报》第 8 期, pp.98-99.

林丹娅 (2010) 〈作为性别的符号: 从“女人”说起〉《南开学报》第 6 期, pp.1-7.

盛林 (2001a) 〈可以说“女情人”吗?〉《语文月刊》第 8 期, pp.17-18.

盛林 (2001b) 〈区别词“男”, “女”与中心词语的搭配〉《南京大学学报》第 2 期, pp.124-130.

孙汝建 (2010) 《汉语的性别歧视与性别差异》华中科技大学出版社.

许慎撰, 段玉裁注, 许惟贤整理 (2007) 《说文解字注 上下》凤凰出版社.

徐微洁 (2012) 〈日语中“女性标示语”使用现状考察—以『朝日新闻』的报道为例〉《日语学习与研究》第 1 期, pp.37-43.

- 徐微洁 (2013) 〈日语女性标示语“妇人~”的流变及用法考察〉《外语研究》第 2 期, pp.41-47.
- 杨春 (2010) 《性别语言研究》光明日报出版社.
- 杨晓黎 (2003) 〈以性别词素“男, 女”构成的词语及其类推问题〉《语言文字应用》第 4 期, pp.89-95.
- 杨永林 (2004) 《社会语言学研究: 功能·称谓·性别篇》上海外语教育出版社.
- 王显志 (2010) 《英汉语性别歧视现象的对比研究》中央民族大学博士学位论文.

## 英語 :

- Aronoff, M. (1976) Word Formation in Generative Grammar. Cambridge: MIT Press.
- Blakar, R.M, & Pedersen, T.B. (1980) Sex-bound Patterns of Control in Verbal Communication. Paper presented at the conference Language and Power at Bellagio, Italy, April 4-8, pp.19-80.
- Bodine, A. (1975) Androcentrism in Prescriptive Grammar: Singular “They”, Sex-indefinite “He”, and “He or She”. Language in Society, 4, pp.129-46.
- Cameron, D. (1985) Feminism and Linguistic Theory. London: Macmillan.
- Cameron, D. (1990) The Feminist Critique of Language. London: Routledge.
- Edelsky, C. (1977) Acquisition of an Aspect of Communicative Competence: Learning What It Means to Talk Like a Lady in S. Ervin-Tripp and C. Mitchell-Kernan, eds., Child Discourse. N. Y.: Academic Press.
- Hymes, D. (1972) On Communicative Competence in J.B, Pride and J.Holmes, eds., Sociolinguistics. Harmondsworth: Penguin, pp. 269-293.
- Jespersen, O. (1922) Language: Its Nature, Development and Origin. London: George Allen and Unwin.
- Kuhn, E. (1982) Sex-related Differences in the Use of Speech Acts. Paper presented at the section of Language and Sexes in Sociolinguistics Program of the 10th World Congress of Sociology at Mexico City, Mexico, August. pp. 23-28.

- Labov, W. (1972a) Language in the Inner City. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Labov, W. (1972b) Sociolinguistic Patterns. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Lakoff, R. (1973) Language and Woman's Place. *Language in Society*, 2, pp.45-79.
- Lakoff, R. (1975) Language and Woman's Place. N.Y.: Harper & Row.
- Nakamura, M (1990) Woman's Sexuality in Japanese Female Terms in I. Satiko, and N. Hanaoka-McGloin, eds., *Aspects of Japanese Women's Language*. Tokyo: Kuroshio Publishers, pp.147-163.
- Spender, D. (1980) Man made Language. 2nd ed.. London: Routledge & Kegan Paul.
- Tannen, D. (1990) You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation. N.Y.: Morrow.
- Thorne, B., & Henley, N. (1975) Language and Sex: Difference and Dominance. N. Y.: Newbury House Publishers.
- Thorne, B., Kramarae, C., & Henley, N. (1983) Language, Gender and Society: Opening a Second Decade of Research in B. Thorne, C. Kramarae and N. Henley, eds., *Language, Gender and Society*. N.Y.: Newbury House, pp. 7-24.
- Trudgill, P. (1972) Sex, Covert Prestige, and Linguistic Change in the Urban British English of Norwich. *Language in Society*, 1, pp.179-195.
- Wardhaugh, R. (1992) An Introduction to Sociolinguistics. Oxford: Blackwell Publisher Ltd.
- Yukawa, S., & Saito, M. (2004) Cultural Ideologies in Japanese Language and Gender Studies in S. Okamoto and J. S. Shibamoto-Smith, eds., *Japanese Language, Gender, and Ideology Cultural Models and Real People(Studies in language and Gender)*. N.Y.: Oxford University Press, pp. 23-37.

資料

『朝日新聞』（聞蔵Ⅱビジュアル）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）（中納言）

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

《人民日报》〈人民网搜索〉（『人民日報』（人民網搜索））

<http://search.people.com.cn/>

《中国国家語委現代漢語通用平衡語料庫》〈語料庫在綫〉（『中国国家語委現代漢語通用平衡コーパス』（語料庫在綫））

<http://www.cncorpus.org/>

《北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料庫》（『北京大学中国言語学研究センター CCL コーパス』）

[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)

参考ウェブサイト

日本 ABC 協会

<http://adv.yomiuri.co.jp/yomiuri/busu/busu01a.html> 2011/10/16 参照

丸善のライブラリアン向け情報

[http://kw.maruzen.co.jp/ln/ec/ec\\_asahi\\_shinbun03.html](http://kw.maruzen.co.jp/ln/ec/ec_asahi_shinbun03.html) 2011/10/16 参照

日本新聞協会調査

<http://www.pressnet.or.jp/data/employment/employment03.html> 2011/10/16 参照

電子政府の総合窓口イーガブ

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23HO203.html> 2011/10/16 参照

看護師の資格・仕事ナビ

<http://www.aka-iwa.com/003/ent636.html> 2011/10/16 参照

## 各章と既発表論文との関連

### 第1章

新規執筆

### 第2章

- ・徐微洁（2012）〈日语中“女性标示语”使用现状考察—以『朝日新闻』的报道为例〉《日语学习与研究》第1期，pp.37-43. 《日语学习与研究》杂志社

### 第3章

- ・徐微潔（2013）「日本語における女性標示語「女子～」」『日本語と日本文学』第5号，pp.22-37. 筑波大学日本語日本文学会

### 第4章

- ・徐微洁（2013）〈日语女性标示语“婦人～”的流变及用法考察〉《外语研究》第2期，pp.41-47. 《外语研究》杂志社

### 第5章

- ・徐微潔（近刊）「女性標示語としての「女～」と“女（nv）～”—日中対照研究の試み—」『ことば』第34号，現代日本語研究会

### 第6章

- ・徐微潔（2012）「新聞記事からみた女性標示語「女流～」の現在」『ことば』第33号，pp.50-68. 現代日本語研究会

## 第7章

- ・徐微潔・房極哲（2010）「日中両言語の語彙に現れる性差について」『日本語教育』第52輯，pp.81-94. 韓国日本語教育学会
- ・徐微潔（近刊）「女性標示語としての「女～」と“女（nv）～”—日中対照研究の試み—」『ことば』第34号，現代日本語研究会

## 第8章

- ・徐微潔（2011）「戦後新聞紙面における「男性標示語」の推移」『筑波応用言語学研究』第18号，pp.139-151. 筑波大学人文社会科学研究科 文芸・言語専攻応用言語学領域

## 第9章

新規執筆

(※すべての既発表論文に加筆・修正を施している)

## 付表

付表1 「女性～」の語例（2010年一年分）

語 例	延べ語数	語 例	延べ語数
女性職員	496	女性専門学校生	3
女性客	394	女性最高齢	3
女性会社員	318	女性カウンセラー	3
女性店員	305	女性コンパニオン	3
女性教諭	234	女性当選者	3
女性裁判員	233	女性剣士	3
女性従業員	188	女性舞踊手	3
女性患者	150	女性刑事	3
女性社員	119	女性支援員	3
女性医師	107	女性作曲家	3
女性看護師	106	女性剣道教師	3
女性管理職	94	女性JR駅長	2
女性警察官	79	女性オーナー	2
女性議員	78	女性コーチ	2
女性候補	73	女性ゴルファー	2
女性作家	73	女性コンサートマスター	2
女性経営者	69	女性ジャズシンガー	2
女性社長	63	女性スター	2
女性スタッフ	61	女性パート職員	2
女性歌手	56	女性プロデューサー	2
女性研究者	54	女性ミュージシャン	2
女性部長	47	女性報道写真家	2
女性教師	47	女性参院議員	2
女性ファン	44	女性歯科医師	2
女性アイドル	38	女性村長	2
女性運転士	38	女性党首	2

女性被告	37	女性彫刻家	2
女性教員	35	女性調理師	2
女性監督	34	女性法務事務官	2
女性会員	33	女性非常勤職員	2
女性局員	32	女性副校長	2
女性市長	32	女性副主幹	2
女性記者	31	女性高齢者	2
女性役員	31	女性管理人	2
女性騎手	30	女性活動家	2
女性保育士	29	女性技師	2
女性行員	29	女性検察官	2
女性講師	29	女性客室乗務員	2
女性店主	27	女性利用者	2
女性画家	27	女性臨時社員	2
女性店長	25	女性留学生	2
女性警備員	24	女性美術家	2
女性弁護士	24	女性俳優	2
女性部員	24	女性企業家	2
女性モデル	23	女性契約社員	2
女性飛行士	22	女性勧誘員	2
女性落語家	22	女性日本画家	2
女性受刑者	22	女性栄養教諭	2
女性大統領	21	女性入居者	2
女性メンバー	20	女性施設長	2
女性事務員	19	女性実業家	2
女性アナウンサー	18	女性事務主幹	2
女性臨時職員	18	女性獣医師	2
女性起業家	18	女性書記次長	2
女性アナ	18	女性書記官	2
女性読者	16	女性司書	2
女性首相	16	女性添乗員	2
女性校長	16	女性投手	2

女性事務官	16	女性委員長	2
女性委員	16	女性消費者	2
女性市議	15	女性新聞記者	2
女性議長	15	女性学長	2
女性隊員	15	女性音楽教師	2
女性歌人	14	女性踊り	2
女性警官	14	女性漁師	2
女性団員	14	女性芸人	2
女性入所者	14	女性整備士	2
女性運転手	14	女性指導員	2
女性事務職員	13	女性衆院議員	2
女性棋士	13	女性総督	2
女性ボランティア	13	女性皇太子	2
女性県議	13	女性将校	2
女性アーティスト	12	女性交流員	2
女性候補者	12	女性警察職員	2
女性知事	12	女性劇画家	2
女性介護士	12	女性力士	2
女性閣僚	12	女性貿易商	2
女性写真家	11	女性判事	2
女性詩人	11	女性曲芸飛行家	2
女性運動員	11	女性実習助手	2
女性登山者	11	女性士官	2
女性登山家	11	女性捜査員	2
女性大臣	11	女性所長	2
女性保安員	10	女性外国人	2
女性参加者	10	女性文学者	2
女性俳人	10	女性主査	2
女性選手	10	女性駐在所員	2
女性編集者	10	女性アマチュア落語家	1
女性首長	10	女性コーラストリオ	1
女性新顔	10	女性コメンテータ	1

女性消防士	10	女性ジャズ歌手	1
女性シンガー	9	女性ストアマネージャー	1
女性被害者	9	女性プリンター	1
女性調査員	9	女性スポーツインストラクター	1
女性支持者	9	女性スポーツ選手	1
女性裁判官	9	女性セラピスト	1
女性消防団員	9	女性ディレクター・リポーター	1
女性研究員	9	女性ナビゲーター	1
女性警部	9	女性パート店員	1
女性新幹線運転士	9	女性パート社員	1
女性駅長	9	女性バンドマスター	1
女性検事	9	女性ファイナンシャルプランナー	1
女性シンガー・ソングライター	8	女性プレーヤー	1
女性デザイナー	8	女性プロ歌手	1
女性会社役員	8	女性プロ棋士	1
女性課長	8	女性マッドレーナ	1
女性信者	8	女性リピーター	1
女性洋画家	8	女性ロールモデル	1
女性幹部	8	女性ロック歌手	1
女性秘書	8	女性愛煙家	1
女性副市長	8	女性宝石商	1
女性陶芸家	8	女性保健師	1
女性自衛官	8	女性報道官	1
女性教授	8	女性被験者	1
女性職人	8	女性泊まり客	1
女性アスリート	7	女性査察官	1
女性旅芸人	7	女性長官	1
女性入院患者	7	女性常連客	1

女性リーダー	7	女性歯科医	1
女性教職員	7	女性打楽器奏者	1
女性科学者	7	女性大使館員	1
女性嘱託職員	7	女性大尉	1
女性国会議員	7	女性代議士	1
女性係長	7	女性当主	1
女性演出家	7	女性彫刻師	1
女性機長	7	女性調教師	1
女性支店長	7	女性動物学者	1
女性車掌	7	女性闘士	1
女性アルバイト	6	女性非正社員	1
女性ジャーナリスト	6	女性服飾デザイナー	1
女性建築家	6	女性副首相	1
女性労働者	6	女性副議長	1
女性通訳	6	女性富豪	1
女性原告	6	女性歌舞伎役者	1
女性党员	6	女性工作員	1
女性地方議員	6	女性管理栄養士	1
女性将棋ファン	6	女性館長	1
女性軍属	6	女性国税局査察官	1
女性派遣社員	6	女性国王	1
女性総合職	6	女性海上保安官	1
女性兵士	6	女性候補生	1
女性署員	6	女性紀行作家	1
女性探偵	6	女性検査技師	1
女性鵜匠	6	女性将軍	1
女性組合員	6	女性交換手	1
女性ガイド	5	女性教官	1
女性パート従業員	5	女性教育者	1
女性マネジャー	5	女性経済学者	1
女性調理員	5	女性経験者	1
女性杜氏	5	女性警部補	1

女性副委員長	5	女性競技者	1
女性観光客	5	女性競艇選手	1
女性劇作家	5	女性就農者	1
女性旅行家	5	女性看護師長	1
女性美容師	5	女性利用客	1
女性民生委員	5	女性練習生	1
女性農業者	5	女性旅客機長	1
女性清掃員	5	女性美容家	1
女性宇宙飛行士	5	女性米兵	1
女性准教授	5	女性麵点師	1
女性准看護師	5	女性内視鏡医	1
女性ブロガー	5	女性南部杜氏	1
女性電話交換手	5	女性難民	1
女性農業士	5	女性醸造家	1
女性書家	5	女性農業経営者	1
女性養護教諭	5	女性欧州委員	1
女性駅員	5	女性起業者	1
女性主事	5	女性勤王家	1
女性乗務員	5	女性囚人	1
女性法律家	5	女性区民	1
女性最年少	5	女性権力者	1
女性アルバイト店員	4	女性人材派遣会社長	1
女性ゲスト	4	女性人気作家	1
女性ピアニスト	4	女性人形師	1
女性リポーター	4	女性入浴客	1
女性乗客	4	女性僧侶	1
女性幹部職員	4	女性審判員	1
女性公務員	4	女性生産者	1
女性取締役	4	女性聖人	1
女性栄養士	4	女性実習生	1
女性宿泊客	4	女性士官要員	1
女性相談員	4	女性市長候補	1

女性飲食店員	4	女性視聴者	1
女性映画監督	4	女性書道家	1
女性有志	4	女性税理士	1
女性芸術家	4	女性司会者	1
女性支援者	4	女性飼育係	1
女性作業員	4	女性所属長	1
女性能楽師	4	女性天皇	1
女性外来	4	女性天文学者	1
女性巡查長	4	女性鉄道ファン	1
女性研修医	4	女性町議	1
女性薬剤師	4	女性団長	1
女性音楽家	4	女性外交官	1
女性教育学部長	4	女性外交員	1
女性正社員	4	女性外来担当医師	1
女性アテンダント	3	女性舞踊家	1
女性キャスター	3	女性県議長	1
女性キャリア官僚	3	女性県職員	1
女性ドライバー	3	女性相談担当者	1
女性ボーカリスト	3	女性相談所長	1
女性補充裁判員	3	女性刑務官	1
女性船頭	3	女性宣伝プロデューサー	1
女性担当者	3	女性学生	1
女性登山客	3	女性学者	1
女性販売員	3	女性研究生	1
女性非常勤講師	3	女性銀行家	1
女性副知事	3	女性営業職員	1
女性工員	3	女性映画脚本家	1
女性技術者	3	女性映像作家	1
女性建築士	3	女性郵便局員	1
女性講談師	3	女性預金者	1
女性脚本家	3	女性元市議	1
女性介護職員	3	女性元係長	1

女性劇団員	3	女性運動家	1
女性労働力	3	女性運転者	1
女性漫画家	3	女性遭難者	1
女性区長	3	女性詐欺師	1
女性人質	3	女性占師	1
女性係員	3	女性真打ち	1
女性県会議長	3	女性指導助手	1
女性信徒	3	女性中国人実習生	1
女性宣教師	3	女性主任保育士	1
女性巡査部長	3	女性住職	1
女性有権者	3	女性助産師	1
女性園長	3	女性助手	1
女性指導者	3	女性資産家	1
女性指揮者	3	女性最高位	1
女性主人公	3	女性作業療法士	1
計	5823		

表注：延べ語数を降順に並べている。

付表2 「女子～」の語例

種類	語例	2006	2007	2008	2009	2010	計	
A 類 ス ポ ー ツ 関 連 職 業 関 連	女子マネージャー	0	0	0	0	83	83	
	女子選手	10	7	12	8	23	60	
	A 1 女子プロレスラー	0	1	3	1	1	6	
	女子ゴルファー	0	2	0	2	1	5	
	女子主将	2	0	0	1	1	4	
	ス ポ ー ツ 関 連	女子プロボクサー	0	0	2	1	0	3
	女子ボクサー	0	0	2	1	0	3	
	女子プロ	3	0	0	0	0	3	
	女子マラソン選手	0	0	0	0	2	2	
	女子マネージャー	0	0	2	0	0	2	
	女子プロ選手	0	1	0	1	0	2	
	女子最長身選手	2	0	0	0	0	2	
	女子野球選手	0	0	0	0	2	2	
	女子水泳選手	1	0	0	0	0	1	
	女子レスラー	0	0	0	1	0	1	
	女子ボクシング選手	0	0	0	1	0	1	
	女子プロゴルファー	1	0	0	0	0	1	
	女子フィギュアスケート選手	0	0	0	0	1	1	
	女子コーチ	1	0	0	0	0	1	
	女子プロボウラー	0	0	0	0	1	1	
女子キックボクサー	0	0	0	1	0	1		
計		20	11	21	18	115	185	
A 2 職 業	女子アナ	2	13	1	9	2	27	
	女子職員	3	3	2	4	3	15	
	女子社員	2	1	0	1	2	6	
	女子行員	1	0	1	5	0	7	
	女子従業員	1	1	0	1	1	4	
	女子刑事	0	2	0	0	0	2	

關 連	女子店員	2	0	0	0	0	2
	女子アナウンサー	0	1	0	1	0	2
	女子労働者	0	0	0	1	0	1
	女子工員	1	0	0	0	0	1
	女子読者	0	0	1	0	0	1
計		12	21	5	22	8	68
小計		32	32	26	40	123	253
B 類 教 育 関 連	女子生徒	373	40	295	194	276	1178
	女子高生	145	111	99	116	115	586
	女子高校生	93	90	76	71	115	445
	女子学生	84	96	77	91	99	447
	女子中学生	72	74	88	56	93	383
	女子大生	54	78	37	49	58	276
	女子児童	37	23	39	31	27	157
	女子大学生	13	18	23	14	28	96
	女子部員	7	10	14	6	6	43
	女子中高生	5	5	6	5	8	29
	女子短大生	1	3	2	3	3	12
	女子小学生	2	1	6	0	1	10
	女子大学院生	1	1	2	2	3	9
	女子専門学校生	1	3	1	2	1	8
	女子留学生	0	0	2	3	3	8
	女子中生	0	1	2	2	0	5
	女子小中学生	0	1	2	0	1	4
	女子医学生	1	0	2	0	0	3
	女子入所者	0	0	0	0	2	2
	女子卒業生	0	1	0	0	0	1
	女子専門学生	0	1	0	0	0	1
	女子中学1年生	0	0	0	1	0	1
	女子園児	1	0	0	0	0	1
女子医大生	0	0	0	1	0	1	
女子学徒	0	0	0	0	1	1	

	女子小中生	0	0	1	0	0	1
	女子合格者	0	0	0	1	0	1
	女子部長	0	0	0	1	0	1
	女子1年生	0	0	1	0	0	1
	小計	890	557	775	649	840	3711
	合計	922	589	801	689	963	3964

表注：総延べ語数を降順に並べている。

付表 3-1 「婦人～」の語例（戦後～昭和初期）

語 例	1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	計
婦人有権者	0	0	0	0	2	6	1	5	32	46
婦人議員	0	0	7	6	3	1	2	0	9	28
婦人警官	0	0	0	3	2	1	4	3	12	25
婦人記者	1	2	1	13	1	1	0	0	0	19
婦人代表	0	3	4	0	6	0	0	0	1	14
婦人部長	0	0	1	0	0	0	0	0	13	14
婦人自衛官	0	0	1	0	1	0	0	0	12	14
婦人候補	0	0	0	0	1	0	1	1	3	6
婦人労働者	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
婦人首相	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
婦人客	0	0	0	1	1	1	0	1	0	4
婦人会長	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
婦人研究者	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
婦人代議士	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
婦人教員	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
婦人法律家	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
婦人国会議員	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
婦人会員	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
婦人大臣	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
婦人校長	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
婦人パート	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
婦人教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
婦人部隊長	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人手芸家	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人連絡員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人アナ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
婦人刑事	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
婦人閣僚	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

婦人相談員	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人大使	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人飛行士	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人副議長	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人県議会 副議長	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人主任	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
婦人将軍	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
婦人職場指 導者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
婦人職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人発明家	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人出席者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人政治家	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人町長	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人政治犯	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人パート タイマ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
婦人消防官	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
婦人皇居護 衛官	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
婦人司書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
婦人科学者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
婦人所長	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人警備隊 長	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人委員長	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人読者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人候補者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人教師	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人警察官	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

婦人兵	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人リーダー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	3	7	17	34	24	12	21	14	112	244

表注：総延べ語数を降順に並べている。

付表 3-2 「婦人～」の語例（平成元年～現在）

語例	1989	1994	1999	2004	2009	計
婦人部長	123	32	51	11	5	222
婦人会長	20	28	81	33	23	185
婦人警官	38	102	30	4	3	177
婦人警察官	9	99	33	0	1	142
婦人有権者	76	29	18	12	2	137
婦人会員	13	10	16	5	6	50
婦人補導員	5	14	7	0	0	26
婦人議員	22	0	0	0	0	22
婦人交通指導員	1	18	2	0	0	21
婦人部員	4	2	12	0	0	18
婦人相談員	3	0	14	1	0	18
婦人委員	12	0	1	0	0	13
婦人発明家	0	2	6	5	0	13
婦人教職員	7	1	4	0	0	12
婦人ボランティア	3	5	1	3	0	12
婦人代表	10	0	1	0	0	11
婦人防火クラブ員	2	2	3	3	1	11
婦人自衛官	5	2	0	1	0	8
婦人係	7	0	0	0	0	7
婦人警察補導員	0	0	7	0	0	7
婦人副部長	5	0	0	0	0	5
婦人候補	4	0	1	0	0	5
婦人党员	5	0	0	0	0	5

婦人税理士	1	4	0	0	0	5
婦人放送者	4	0	0	0	0	4
婦人消防隊員	0	1	3	0	0	4
婦人客	0	0	3	1	0	4
婦人法律家	3	0	0	0	0	3
婦人労働者	3	0	0	0	0	3
婦人職員	0	3	0	0	0	3
婦人農業士	0	3	0	0	0	3
婦人科学者	0	2	0	0	1	3
婦人記者	0	0	3	0	0	3
婦人伝道師	0	0	3	0	0	3
婦人消防官	2	0	0	0	0	2
婦人患者	2	0	0	0	0	2
婦人幹部	2	0	0	0	0	2
婦人県委員	2	0	0	0	0	2
婦人経営者	2	0	0	0	0	2
婦人代議士	0	1	1	0	0	2
婦人中央委員	0	0	2	0	0	2
婦人補導官	0	0	2	0	0	2
婦人社員	1	0	0	0	0	1
婦人指導者	1	0	0	0	0	1
婦人市長	1	0	0	0	0	1
婦人交通整理員	1	0	0	0	0	1
婦人教員	1	0	0	0	0	1
婦人刑事部長	1	0	0	0	0	1
婦人退職教職員	1	0	0	0	0	1
婦人政治家	1	0	0	0	0	1
婦人消防士	1	0	0	0	0	1
婦人候補者	1	0	0	0	0	1
婦人代表者	1	0	0	0	0	1
婦人医師	1	0	0	0	0	1
婦人ハイカー	1	0	0	0	0	1

婦人新聞編集長	1	0	0	0	0	1
婦人教育課長	1	0	0	0	0	1
婦人防火員	0	1	0	0	0	1
婦人消防団員	0	1	0	0	0	1
婦人就業相談員	0	1	0	0	0	1
婦人体験者	0	1	0	0	0	1
婦人農業者	0	1	0	0	0	1
婦人航空隊員	0	1	0	0	0	1
婦人宣教師	0	1	0	0	0	1
婦人作曲家	0	1	0	0	0	1
婦人消防隊長	0	0	1	0	0	1
婦人指導員	0	0	1	0	0	1
婦人補導職員	0	0	1	0	0	1
婦人ピアニスト	0	0	0	1	0	1
婦人奉仕者	0	0	0	0	1	1
計	410	368	308	80	43	1209

表注：総延べ語数を降順に並べている。

付表4 「女～」の語例（2010年一年分）

形態的特徴	語 例	延べ語数
拘束形態素 「女（ジョ）～」	女兒	2384
	女優	1316
	女王	950
	女将	352
	女神	323
	女学生	160
	女帝	81
	女生徒	78
	女官	29
	女医	26
	女中	26
	女工	26
	女囚	13
	女教師	8
	女傑	7
	女給	7
	女丈夫	4
	女孫	4
	女高生	2
	女賊	1
女店員	1	
計		5798
自由形態素 「女（オンナ）～」	女主人	32
	女友達	42
	女達磨	12
	女芸人	10
	女君	9
	女教師	8
	女三四郎	6
	女刑事	5

女主人公	4
女社長	4
女探偵	4
女船頭	4
女将軍	3
女店主	3
女忍者	3
女芭蕉	3
女海賊	2
女城主	2
女刑務官	2
女殺し屋	2
女相場師	2
女わらしっこ	1
女患者	1
女看守	1
女作家	1
女車引	1
女首領	1
女囚人	1
計	169
合計	5967

表注：延べ語数を降順に並べている。「女教師」は「ジョキョウシ」とも「オンナキョウシ」とも読めるため、両方に加えてある。したがって、延べ語数は 5967 になっているが、5959 のほうが正確である。

付表5 「女流～」の語例

	語 例	2006	2007	2008	2009	2010	計
A 類  芸 術 ・ 技 芸	女流棋士	78	107	41	78	95	399
	女流作家	11	13	11	7	4	46
	女流義太夫	3	8	19	7	8	45
	女流歌人	6	10	9	5	5	35
	女流画家	4	9	11	2	2	28
	女流プロ	3	3	3	4	5	18
	女流プロ棋士	6	4	2	3	0	15
	女流講談師	3	1	3	1	4	12
	女流俳人	5	3	2	1	0	11
	女流ピアニスト	0	0	5	0	0	5
	女流漫画家	0	0	0	4	0	4
	女流書家	2	0	0	0	0	2
	女流陶芸家	0	2	0	0	0	2
	女流浪曲師	0	0	0	2	0	2
	女流旅作家	0	0	0	2	0	2
	女流演奏家	1	0	0	1	0	2
	女流詩人	1	0	0	1	0	2
	女流文学者	0	0	1	1	0	2
	女流絵本画家	2	0	0	0	0	2
	女流南画家	0	0	0	2	0	2
	女流日本画家	0	2	0	0	0	2
	女流アマ	0	0	0	1	0	1
	女流人形師	1	0	0	0	0	1
	女流小説家	1	0	0	0	0	1
	女流脚本家	1	0	0	0	0	1
	女流作曲家	1	0	0	0	0	1
女流落語家	0	1	0	0	0	1	
女流新進舞踊家	0	1	0	0	0	1	
女流噺家	0	1	0	0	0	1	
女流トップランナー	0	1	0	0	0	1	

	女流能楽師	0	0	1	0	0	1
	女流写真家	0	0	1	0	0	1
	女流美術家	0	0	1	0	0	1
	女流上方落語家	0	0	1	0	0	1
	女流三味線漫談家	0	0	0	1	0	1
	女流義太夫三味線奏者	0	0	0	1	0	1
	女流ギタリスト	0	0	0	1	0	1
	女流文士	0	0	0	0	1	1
	女流工芸作家	0	0	0	0	1	1
	女流水墨画家	0	0	0	0	1	1
	計	129	166	111	125	126	657
B 類 囲 碁 ・ 将 棋	女流名人	42	62	54	42	64	264
	女流初段	34	64	34	51	20	203
	女流王将	27	26	25	27	35	140
	女流二段	6	5	31	58	30	130
	女流本因坊	16	20	38	26	27	127
	女流棋聖	17	41	25	25	13	121
	女流王位	9	23	13	38	16	99
	女流六段	21	19	6	24	21	91
	女流二冠	9	17	19	14	29	88
	女流四段	19	24	2	13	26	84
	女流1級	11	20	5	11	15	62
	女流最強位	2	22	19	11	0	54
	女流三段	8	15	9	10	7	49
	女流三冠	0	1	1	0	47	49
	女流2級	9	6	6	8	4	33
	女流最強	12	0	0	0	0	12
	女流アマ名人	0	0	3	4	4	11
	女流3級	0	0	0	6	3	9
	女流五段	0	3	1	0	0	4
女流プロ2級	1	0	1	2	0	4	
女流プロ初段	0	1	1	0	0	2	

女流アマ選手権者	1	0	0	1	0	2
女流タイトル保持者	1	0	0	0	0	1
女流タイトル経験者	1	0	0	0	0	1
女流囲碁名人	1	0	0	0	0	1
女流タイトル者	0	0	1	0	0	1
女流四冠	0	1	0	0	0	1
女流五冠	0	0	0	0	1	1
計	247	370	294	371	362	1644
合計	376	536	405	496	488	2301

表注：総延べ語数を降順に並べている。

付表 6-1 「男性標示語」の語例（戦後～昭和初期）

種類	語例	1945	1955	1965	1975	1985	計
男性	男性同性愛者	0	0	0	0	22	22
	男性社員	0	0	0	0	16	16
	男性職員	0	0	0	0	15	15
	男性客	0	0	0	1	13	14
	男性患者	0	0	0	0	11	11
	男性教師	0	0	0	0	8	8
	男性会社員	0	0	0	0	4	4
	男性会員	0	0	0	0	3	3
	男性サラリーマン	0	0	0	0	3	3
	男性記者	0	0	0	0	2	2
	男性教諭	0	0	0	0	2	2
	男性従業員	0	0	0	0	2	2
	男性孤児	0	0	0	0	2	2
	男性隊員	0	0	0	0	2	2
	男性モデル	0	0	0	0	2	2
	男性ヒラ社員	0	0	0	0	1	1
	男性研究員	0	0	0	0	1	1
	男性運転手	0	0	0	0	1	1
	男性観光客	0	0	0	0	1	1
	男性団員	0	0	0	0	1	1
	男性乗務員	0	0	0	0	1	1
	男性応募者	0	0	0	0	1	1
	男性技術者	0	0	0	0	1	1
	男性信者	0	0	0	0	1	1
男性旅行者	0	0	0	0	1	1	
男性加入者	0	0	0	0	1	1	
男性登山者	0	0	0	0	1	1	
男性読者	0	0	0	0	1	1	
男性工場労働者	0	0	0	0	1	1	

	男性幹部	0	0	0	0	1	1
	男性管理職	0	0	0	0	1	1
	男性演奏家	0	0	0	0	1	1
	男性芸術家	0	0	0	0	1	1
	男性観客	0	0	0	0	1	1
	男性貿易商	0	0	0	0	1	1
	男性店長	0	0	0	0	1	1
	男性副団長	0	0	0	0	1	1
	男性総務部長	0	0	0	0	1	1
	男性踊り手	0	0	0	0	1	1
	男性株主	0	0	0	0	1	1
	男性店主	0	0	0	0	1	1
	男性被告	0	0	0	0	1	1
	男性技師	0	0	0	0	1	1
	男性難民	0	0	0	0	1	1
	男性博士	0	0	0	0	1	1
	男性行員	0	0	0	0	1	1
	男性出席者	0	0	0	1	0	1
	計	0	0	0	2	138	140
男子	男子生徒	0	0	0	0	68	68
	男子学生	0	0	0	0	37	37
	男子選手	0	0	0		1	30
	男子社員	0	0	0	0	19	19
	男子中学生	0	0	0	0	11	11
	男子行員	0	0	0	0	6	6
	男子大学生	0	0	0	0	4	4
	男子労働者	0	0	0	0	4	4
	男子職員	0	0	0	0	4	4
	男子児童	0	0	0	0	4	4
	男子中、高生	0	0	0	0	3	3
	男子部員	0	0	0	0	2	2
男子新入社員	0	0	0	0	2	2	

	男子教師	0	0	0	0	1	1
	男子正社員	0	0	0	0	1	1
	男子工員	0	0	0	0	1	1
	男子高校二年生	0	0	0	0	1	1
	男子高校生	0	0	0	0	1	1
	男子中学1年生	0	0	0	0	1	1
	男子中学3年生	0	0	0	0	1	1
	男子兵士	0	0	0	0	1	1
	男子青少年	0	0	0	0	1	1
	男子チャンピオン	0	0	0	0	1	1
	男子漁業就業者	0	0	0	0	1	1
	男子警察官	0	0	0	1	0	1
	男子最優秀選手	0	1	0	0	0	1
	男子放送員	1	0	0	0	0	1
	男子中等校生	1	0	0	0	0	1
	男子予科練生	1	0	0	0	0	1
	計	3	1	0	30	176	210
男	男児	8	2	1	3	52	66
	男優	0	0	2	1	16	19
	男生徒	0	0	0	0	2	2
	男友達	0	1	2	1	8	12
	男親	0	0	0	0	3	3
	男メカケ	0	0	0	0	1	1
	男客	0	0	1	0	0	1
	男教師	0	0	0	0	1	1
	男やもめ署員	1	0	0	0	0	1
	男やもめ	0	0	1	0	1	2
	計	9	3	7	5	84	108
	合計	12	4	7	37	398	458

表注：総延べ語数を降順に並べている。

付表 6-2 「男性標示語」の語例（平成元年～現在）

種類	語 例	1989	1999	2009	計
男 性	男性会社員	4	52	98	154
	男性教諭	2	33	70	105
	男性職員	3	26	72	101
	男性店員	0	8	48	56
	男性裁判員	0	0	54	54
	男性社員	1	27	24	52
	男性従業員	2	18	23	43
	男性客	3	12	21	36
	男性受刑者	0	0	36	36
	男性患者	3	16	9	28
	男性被告	0	1	25	26
	男性作業員	0	12	10	22
	男性信徒	0	18	0	18
	男性運転手	0	1	17	18
	男性店長	0	3	12	15
	男性医師	2	1	11	14
	男性教授	0	2	11	13
	男性教員	0	4	7	11
	男性警部補	0	0	11	11
	男性主事	0	0	11	11
	男性教師	3	4	2	9
	男性隊員	0	1	8	9
	男性刑務官	0	0	9	9
	男性運転士	0	0	9	9
	男性公務員	3	0	4	7
	男性経営者	1	2	4	7
	男性警察官	0	1	6	7
男性主査	0	0	7	7	
男性係長	0	0	7	7	

男性会員	3	2	1	6
男性容疑者	0	4	2	6
男性巡査部長	0	0	6	6
男性弁護士	0	0	6	6
男性行員	0	5	0	5
男性議員	0	4	1	5
男性巡査	0	0	5	5
男性巡査長	0	0	5	5
男性警備員	0	3	1	4
男性ヘルパー	0	3	1	4
男性空士長	0	0	4	4
男性団員	3	0	0	3
男性乗務員	1	2	0	3
男性利用者	0	3	0	3
男性住民	0	2	1	3
男性コーチ	0	2	1	3
男性ダンサー	0	1	2	3
男性メンバー	0	1	2	3
男性主任	0	0	3	3
男性局長	0	0	3	3
男性店主	0	0	3	3
男性市議	0	0	3	3
男性技師	0	0	3	3
男性違反者	2	0	0	2
男性役員	1	1	0	2
男性ドライバー	1	0	1	2
男性モデル	0	2	0	2
男性工員	0	2	0	2
男性アナウンサー	0	2	0	2
男性読者	0	1	1	2
男性技術職員	0	1	1	2
男性選手	0	1	1	2

男性講師	0	1	1	2
男性サラリーマン	0	0	2	2
男性駅員	0	0	2	2
男性嘱託職員	0	0	2	2
男性消防士	0	0	2	2
男性運動員	0	0	2	2
男性社長	0	0	2	2
男性陸曹	0	0	2	2
男性アルバイト店員	0	0	2	2
男性補充裁判員	0	0	2	2
男性農家	0	0	2	2
男性検察官	0	0	2	2
男性用務員	0	0	2	2
男性主事補	0	0	2	2
男性市議候補	0	0	2	2
男性事務職員	0	0	2	2
男性整備士	0	0	2	2
男性看護師	0	0	2	2
男性画家	1	0	0	1
男性有権者	1	0	0	1
男性指導者	1	0	0	1
男性哲学者	1	0	0	1
男性労働者	1	0	0	1
男性未婚者	1	0	0	1
男性トラック運転手	1	0	0	1
男性局員	1	0	0	1
男性パート	1	0	0	1
男性会社役員	0	1	0	1
男性会社役員	0	1	0	1
男性署員	0	1	0	1
男性公務員	0	1	0	1
男性コンビニ店員	0	1	0	1

男性観客	0	1	0	1
男性ボクサー	0	1	0	1
男性祭官	0	1	0	1
男性奏者	0	1	0	1
男性受験者	0	1	0	1
男性演歌歌手	0	1	0	1
男性料理人	0	1	0	1
男性参加者	0	1	0	1
男性同性愛者	0	1	0	1
男性受講生	0	1	0	1
男性教頭	0	1	0	1
男性幹部	0	1	0	1
男性保育士	0	1	0	1
男性正社員	0	1	0	1
男性運転者	0	1	0	1
男性ファン	0	1	0	1
男性モニター	0	1	0	1
男性キノコ採り	0	1	0	1
男性記者	0	0	1	1
男性筆者	0	0	1	1
男性解説者	0	0	1	1
男性入所者	0	0	1	1
男性入居者	0	0	1	1
男性元候補者	0	0	1	1
男性技術者	0	0	1	1
男性行員	0	0	1	1
男性技術員	0	0	1	1
男性派遣社員	0	0	1	1
男性配達員	0	0	1	1
男性パート職員	0	0	1	1
男性歌手	0	0	1	1
男性添乗員	0	0	1	1

男性料金徴収員	0	0	1	1
男性行政書士	0	0	1	1
男性棋士	0	0	1	1
男性秘書	0	0	1	1
男性声優	0	0	1	1
男性事務官	0	0	1	1
男性警部	0	0	1	1
男性担当係長	0	0	1	1
男性指導員	0	0	1	1
男性社会人	0	0	1	1
男性通訳人	0	0	1	1
男性検事	0	0	1	1
男性漁師	0	0	1	1
男性車掌	0	0	1	1
男性酪農家	0	0	1	1
男性船長	0	0	1	1
男性理事	0	0	1	1
男性候補	0	0	1	1
男性町議	0	0	1	1
男性区長	0	0	1	1
男性顧客	0	0	1	1
男性副主幹	0	0	1	1
男性投資家	0	0	1	1
男性消防司令	0	0	1	1
男性歯科医	0	0	1	1
男性研修医	0	0	1	1
男性最高齢者	0	0	1	1
男性臨時講師	0	0	1	1
男性保護司	0	0	1	1
男性役人	0	0	1	1
男性負傷者	0	0	1	1
男性タクシー運転手	0	0	1	1

	男性ディレクター	0	0	1	1
	男性デザイナー	0	0	1	1
	男性マネジャー	0	0	1	1
	男性シンガー	0	0	1	1
計		47	308	768	1123
男子	男子生徒	18	104	140	262
	男子高校生	0	25	25	50
	男子学生	6	16	28	50
	男子中学生	3	11	15	29
	男子大学生	0	10	15	25
	男子児童	2	5	8	15
	男子部員	0	5	6	11
	男子園児	0	6	0	6
	男子専門学校生	2	3	0	5
	男子選手	0	5	0	5
	男子ゴルファー	0	0	4	4
	男子高生	1	1	0	2
	男子主将	1	0	1	2
	男子作業員	1	0	0	1
	男子工員	1	0	0	1
	男子上級生	1	0	0	1
	男子大学院生	1	0	0	1
	男子剣道部員	0	1	0	1
	男子職員	0	1	0	1
	男子労働者	0	1	0	1
	男子小学生	0	1	0	1
	男子園生	0	1	0	1
	男子四年生	0	1	0	1
	男子一年生	0	1	0	1
男子中学三年生	0	1	0	1	
男子入所生	0	1	0	1	
男子テニス選手	0	1	0	1	

	男子プロ選手	0	1	0	1
	男子競技者	0	1	0	1
	男子ビギナー	0	1	0	1
	男子技術委員長	0	1	0	1
	男子予備校生	0	0	1	1
	男子小中学生	0	0	1	1
	男子門下生	0	0	1	1
	男子部長	0	0	1	1
	男子高校2年生	0	0	1	1
	男子ミニバス主将	0	0	1	1
	計	37	205	248	490
男	男児	8	132	281	421
	男優	10	2	13	25
	男生徒	1	0	0	1
	男娼	0	0	1	1
	男神	0	0	2	2
	男友達	6	0	4	10
	男芸者	0	1	0	1
	計	25	135	301	461
	合計	109	648	1317	2074

表注：総延べ語数を降順に並べている。

## アンケート用紙

### 1) 第7章で用いたアンケート(2013年7月実施)

---

#### アンケート

年齢、性別、出身地などは言語使用と密接な関係があります。以下の情報を教えていただければありがたいです。なお、不都合のあるものについては、記入なさらなくても結構です。宜しくお願い致します。

- ①年齢：19 年生まれ \_\_\_\_\_ 歳                      ②性別： 男・女
- ③出身地： \_\_\_\_\_ (都・道・府・県) \_\_\_\_\_ 市
- ④現住所： \_\_\_\_\_ (都・道・府・県) \_\_\_\_\_ 市
- ⑤関東在住年数： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ か月
- ⑥職業： \_\_\_\_\_

問 I . 次の \_\_\_\_\_ に入れるものを A、B から選びなさい(二つでも OK)。

- (1) あの会社は \_\_\_\_\_ だからね、細かいことを言うてるんだよ。  
A. 女社長                      B. 女性社長
- (2) 「いい写真よ」エージェントの \_\_\_\_\_ が、出来上がったものを見て言った。  
A. 女社長                      B. 女性社長
- (3) 趣味を生かすつもりではじめた小さな店が繁盛し、あっという間に数か所に支店を持つ \_\_\_\_\_ になった F さん。

- A. 女社長                      B. 女性社長
- (4) わが校の場合、\_\_\_\_\_は何年たってもクラスを持たせてはもらえません。
- A. 女教師                      B. 女性教師
- (5) その\_\_\_\_\_の中に、今もいろいろ教えを仰いでいる方で、藤田栄という私より六歳年上の\_\_\_\_\_がいた。
- A. 女教師                      B. 女性教師
- (6) どうして、\_\_\_\_\_がこのような小説を書くに至ったのか、そこに何があったのか。
- A. 女講師                      B. 女性講師
- (7) 転勤の多い警察官を中心に、「おふくろの味」を求める単身赴任者や独身者が集った。彼らの腹を温め続けたのは、母親のような愛情にあふれた\_\_\_\_\_たちだった。
- A. 女店主                      B. 女性店主
- (8) 地元商店街の\_\_\_\_\_らが、浅草にかつてのにぎわいを取り戻そうと 87 年に始めたフェスティバルも今年で 23 回目。
- A. 女店主                      B. 女性店主
- (9) ハンクは地元警察の\_\_\_\_\_エミリーの協力を得て、事件の真相を探ろうとするが.....。
- A. 女刑事                      B. 女性刑事
- (10) \_\_\_\_\_は私の隣の隣に座ったことになる。\_\_\_\_\_は私を完全に無視した。そこにいないものとして処理した。
- A. 女作家                      B. 女性作家

## 問Ⅱ

A と B の間に違いはありますか。違いがあるならば、どんな違いですか。A を選択した場合、「女性へのからかい、やっかみの要素」などが感じられますか。また、他に、何か感じたことがあれば、ご自由にご記入ください。



ご協力ありがとうございました。